男女の性差と、
女性の優位性。

IWAO OTSUKA

男女の性差と、女性の優位性。

IWAO OTSUKA

目次

最初の入口。

一口説明－女らしさ、男らしさについて－

男性の本性。女性の本性。

男女の性差。その根本的な規定要因。

生物としての存在価値と、男女の性差。

社会的分布と、男女の性差。

卵子と精子との、性質や行動様式の、比較。女性と男性との、性質や行動様式の、比較。

自己保身性。自己中心性。自己拡大性。男女の性差。

女性の本性としての「自己保身性」「自己中心性」

１．女性の持つ生存面での優位性。女性の本性との関連。

２．女性の持つ本質的な本性。「自己保身性。」

２－１．女性の本性。「自己保身性。」その特質。

２－２．女性の本性。「自己保身性。」その欠陥。

３．女性の持つ本質的な本性。「自己中心性。」

４．女性の本性。女性の「姫君指向」。その発生。

５．女性の本性。自己中心性。自己保身性。それらの相互作用と両立。

６．女性。その「自己中心性」の実現。先進的な行動の必要性。その実行を可能にする条件。

７．女性たちの間の、上下関係、権力関係。女性の本性との関連。

８．女性の社会的保護。それが必要な理由

男性の本性。「捨て身。」「自己拡大性。」

「自己保身の性」。「捨て身の性」。－女らしさ、男らしさの検討－

「クリーム－パン図式」。生物学的貴重性に基づく、自己保身の傾向の強さ。および、性差について。

勢力拡張用の玉。勢力温存用の玉。男女の性差の根源。

性行為や結婚の相手。彼らに対する選好における、男女の性差。

粗雑な生物。vs. 精密な生物。精巧な生物。

女性にとっての男性。男性にとっての女性。男女の本性。

人間の命の重さの不平等性についての検討。－性別、年齢、地位の視点から－

（資料） webアンケート調査の結果数値。人命における、優先的な救助順位について。

女性。男性。その空間分布。外部環境。

上位者。支配者。男女の性差。

理系女子が少ない理由。

学校で、女子の成績が、男子よりも良いこと。学校で、女子の学力が、男子よりも高いこと。その理由。

歴史を作る性としての男性。その劣位性。歴史を作らない性としての女性。その優位性。

なぜ、女性は、社会的上位者ナンバーワンの地位に、就任したがらないのか？

何故、人々は、男性の責任者を、呼び出そうとするか？何故、人々は、女性の責任者の呼び出しを、避けるか？

女性の前例踏襲指向。女性の年功序列指向。

卵子。女性優位社会。精子。男性優位社会。既得権益の、獲得と、維持と、拡張と、防衛。

男性優位社会における、女性恐怖症。

女性と、社会的上下関係。専制支配の発生との関連。

女性や、女性優位社会における、矛盾の丸呑み行為の横行。

女性たち。定住生活様式者たち。女性優位社会の人々。彼らのアウトプットが抱える、根本的な欠陥。

個人性の優先。共同性の優先。男女の性差。

男性性。個人性の優先。論理性。理性性。自己判断の重視。

女性性。共存性の優先。共同性の優先。感情性。合意性。自己判断の回避。

生活の移動性。生活の定住性。男女の性差。

精子。卵子。双方の動きの相違。それがもたらす、男性性と女性性。移動生活様式と定住生活様式。その根本的な関連。

移動生活様式。定住生活様式。男女の遺伝的性差。その関連。

男性。女性。その行動様式。気体。液体。その分子運動パターン。その関連。

女性とセックスと権力。

総論。女性とセックスと権力。

各論。女性とセックスと権力。

女性の生殖細胞面での優位性

女性の性器面での優位性

女性による性的魅力の行使。男性が心理的に女性の奴隷になること。

女のセックス中の優位性

女性の性欲の強さ。人間が持つ、生物としての性欲の強さ。その社会的公認。それは必要である。

女性たちの持つ、「生の女性器」至上主義。

女性の持つ、性的な権力や権限。

女性による、妊娠に関する機密情報の占有。

男性による、セックスのやり捨て。本命女性の存在。女性のセックス面での権力。

強姦される時の女性心理

痴漢される時の女性心理

男女の勢力面、権力面での対等化と、強姦。

強姦による不本意な妊娠と、男女の性差

製品としての遺伝的子孫。男女の結婚制度。

女性が持つ、性的誘引力の強さ。その文化的な表現美術。美少女コンテンツ。萌え絵の女性。

女体カースト。

女性の着衣。その魅力。その性的誘引力。

スカート。その魅力。その性的誘引力。

ブルマ。その魅力。その性的誘引力。

女性が「性格が美人」であるための条件。

美少女コンテンツ。

「萌え絵の女性。」その意義。「女性優位社会」の特産品。

「萌え」とは、何か？

萌え絵の女性。美術としての特徴。

萌え絵の女性。その魅力。概要。

萌え絵の女性。存在面での特徴。
萌え絵の女性。性的魅力。容姿の素晴らしさ。
萌え絵の女性。鑑賞者専用の視点。その評価基準のリスト。
萌え絵の女性。その評価基準のリスト。概要。
萌え絵の女性。顔と女体。共通の部品。
萌え絵の女性。萌え顔。評価基準のリスト。
萌え絵の女性。萌え女体。評価基準のリスト。
萌え絵の女性。女性の理想形。
萌え絵の女性。それへの問題意識。
萌え絵の女性。長所と短所。
萌え絵の女性。その欠陥。
萌え絵女性。性格や心理構造面での魅力。
萌え絵の女性。男性にとっての需要。
萌え絵の女性。女性にとっての需要。
萌え絵の女性。その生みの親。女性優位社会の女性絵師。
萌え絵の女性。女性優位男性の絵師。彼らの高い能力。
萌え絵の女性。現代の女性優位社会。その問題点。
萌え絵の女性。その社会的立場。その変化。
萌え絵の女性。それを叩く人々。その批判者。
人生投資家としての女性。その投資先の企業家としての男性。女性の社会的優位性。
前置き。女性による生殖設備の占有と、男性による、それらの借用。そうした借用者を募集する広告手段としての、女体と、女性器。

総論。人生投資家としての女性。その投資先の企業家としての男性。女性の社会的優位性。

各論。人生投資家としての女性。その投資先の企業家としての男性。女性の社会的優位性。

男女の社会的居場所と、家庭、企業との関係。

人生投資家としての女性。企業家としての男性。そうした女性の生活は、男性に比べて、とても恵まれている。

人生投資家としての女性。その女性は、人生における自由度が高い。

女性優位社会における母親主導の子育て。人生投資家としての母親。

人生投資家としての女性。女性による企業における働きぶり。その働き方が家計補助的になる理由。

人生投資家になり損ねる女性。彼女が抱える社会的格差。

女性による人生投資家生活の持続。社会を取り巻く経済情勢の悪化。

女性優位社会における、性別役割分業の持つ意義。

人生投資家と企業家としての人生や結婚を指向する男女。彼らが、人生で抱えがちな根本的な問題。

女性による特権的な人生投資家生活の永続。女性による男性支配、男性差別の永続。

性的搾取。

性的搾取。その内容の分類。

女性による、男性からの経済的な性的搾取。その発生のメカニズム。

身体構造における、男女の性差。過重労働への適合性との関連。

女性による、男性に対する、性的搾取。それらの分類。

セックスのやり捨て。托卵。それらの行為が持つ、共通性。

性的放縦。

性的放縦。それについての見方の分類。

追加内容。2023年5月中旬。男女の性差の物質的根源について。

私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。

筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。

参考文献。

私が執筆した全ての書籍。その一覧。

私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。

私の略歴。

男女の性差と、女性の優位性。

大塚いわお

最初の入口。

一口説明－女らしさ、男らしさについて－

以下の表は、男女の性差を、手短に説明します。

視点	女性	男性
生物的側面		
	生物としての勢力を、温存するための存在。	生物としての勢力を、拡張するための存在。
	栄養分の豊富な、数少ない卵子の担い手。 初期の子育ての担い手。（例えば、子宮。授乳。）	粗製濫造な精子の担い手。
	貴重、大切な存在。	粗末に扱って構わない存在。（貴重さ、大切さに欠ける存在。）
	安全第一、自己保身に敏感である存在。危険なことは、自分では行わない存在。（それを男性にやらせる存在。）。	女性に安全を提供し、自身は危険へと直面する存在。。外敵を攻撃し、戦闘する存在。
	内側、奥にいようとする存在。既知の領域にとどまる存在。	外側へと露出し、対外的な代表となる存在。未知の領域を探検する存在。
	みんなの中心的存在でいようとする存在。みんなの注目を浴びようとする存在。みんなから、ちやほやされようとする存在。	自分の存在を、広大な世界全体に向けて拡大しようとする存在。自分の有能さや、自身のチャレンジによる成功をアピールしたがる存在。
心理的側面		
	人間を扱うことを好む存在。 対人コミュニケーションを好む存在。（例えば、他者とのおしゃべり。） 対人的な親密さ、相互の一体感や配慮を好む存在。 対人関係そのものを重視する存在。	物質や機械（メカニズム）を扱うのを好む存在。 対人面での相互分離、切断を好む存在。 対人関係は、あくまで目標達成のための、単なる手段に過ぎない存在。

視点	女性	男性
	他者と話をするための言語能力に優れる存在。（例えば、文法、綴り面での流暢さ。）	客観的な空間把握能力に優れる存在。（例えば、三次元の物体の回転把握。実世界の垂直さ、水平さの把握。空間移動。）
社会的側面		
	集団行動を好む存在。（集団主義者。）。液体的、ウェットである存在。	単独行動を好む存在。（個人主義者。）。気体的、ドライである存在。
	責任を取らない存在。自分からは意思決定せず、受動的である存在。	責任を取る存在。能動的に意思決定する存在。
	周囲と同調する存在。	周囲とは独自路線を取る存在。
	相互依存、助け合いを好む存在。依頼心が強い存在。	自立心が強い存在。助けを借りず、独力で生きていこうとする存在。

（初出1999-2020年）

男性の本性。女性の本性。

男女の性差。その根本的な規定要因。

生物の身体。
それは、生殖細胞の乗り物である。
それは、生殖細胞にとって、単なる道具である。

生物の存在における、生殖細胞が所有する、中心性や中枢性。
生物の存在における、生殖細胞が所有する、根本的な重要性や優先性。
そのことに対する認識。
それは、生物や人間の活動の理解にとって、根本的に重要である。
それは、生物や人間の性差の理解にとって、根本的に重要である。

生物の雄の身体。
それは、精子の乗り物である。
それは、精子にとって、単なる道具である。

生物の雌の身体。
それは、卵子の乗り物である。
それは、卵子にとって、単なる道具である。

人間の男性の身体。
それは、精子の乗り物である。

それは、精子にとって、単なる道具である。

人間の女性の身体。
それは、卵子の乗り物である。
それは、卵子にとって、単なる道具である。

男女の性差。
それらは、全て、精子と卵子の差に、根本的に由来する。

精子と卵子との受精。
生殖行為。
自己複製。
それらが、男女の生物活動のメインであること。

人間の男女における、高い知的能力や、高い運動能力。
それらの存在は、男女の生物活動にとって、あくまで副次的であること。
それらの内容は、生殖細胞の性質の反映に過ぎないこと。

生物における、性差の本質。
人間における、性差の本質。
それは、精子と卵子との、性質の差である。

人間の男女の性差。
その存在は、生物としての、有性生殖に基づく。
それは、精子と卵子が存在する限り、消去することは、不可能である。
それは、人間が、有性生殖を行う生物の一種である限り、消去することは、不可能である。

男女の性差を否定すること。
それは、男女の生物性の否定である。

男女の性差を否定する人々。
例。欧米や日韓における、リベラリズムの活動家たち。
彼らは、生物以外の存在になるしか無い。
彼らは、単性生殖の生物になるしか無い。

男女の性差は、生殖細胞や生殖器官の性質の男女差によって、規定される。

男女の生殖細胞。女性の卵子。男性の精子。
男女の生殖器官。女性の子宮や膣。男性のペニス。
それらの存在面や動作面や分布面における、性質の差のあり方。
それらが、以下の内容を、規定する。
男女の、心理的行動や、社会的行動面における、性差のあり方。

精子の社会的行動様式は、男性の社会的行動様式や、男性優位社会の人々の行動様式と、相同である。
例。自己捨て身性。勢力拡張性。チャレンジ精神。独創性。個人主義。自由主義。離散性。開放性。多様性。自立性。自主独立性。移動性。普遍指向性。多極性。拡大性。台風のような暴力支配。気体性。

卵子の社会的行動様式は、女性の社会的行動様式や、女性優位社会の人々の行動様式と、相同である。

例。自己保身性。勢力温存性。退嬰性。前例踏襲性。集団主義。同調主義。全体主義。包含性。閉鎖性。近接性。調和性。一体融合性。定住性。自己中心性。一極集中性。局所性。津波のような専制支配。液体性。

例。
それらの特徴は、例えば、以下の内容へと、反映される。
男性優位社会。政治的権限の分立。例。英米における、三権分立。
女性優位社会。政治的権限の融合。例。日本における、実質的な三権融合。

（2021年9月初出）

生物としての存在価値と、男女の性差。

卵子や子宮は、生物学的に貴重な存在である。
女性は、卵子や子宮を持つ。
女性は、生物学的に貴重な存在である。
女性は、何もしなくても、ただ存在するだけで、価値がある。
女性は、経済的に困窮しているのでなければ、働く必要が、特に無い。
女性は、女性自身が趣味的に好きな教育を、好きなだけ受けることが出来る。

精子は、生物学的に非貴重な存在である。
男性は、精子のみを持つ。
男性は、生物学的に非貴重な存在である。
男性は、ただ存在するだけでは、無価値である。
男性が、価値ある存在になるためには、働いたり、稼いだり、何かを達成しなくてはならない。
男性は、そのために必要な教育を、例え、男性自身が好まなくても、強制的に受けないといけない。

（2021年9月初出）

社会的分布と、男女の性差。

女性は、社会的に、貴重品として扱われ、優遇される形で、分布する。
女性は、以下のような領域の中に、以下のような形で、分布する。
限定された、狭い、安全で安定した領域。
その領域の中に集中して、高密度で、集団で、みんなで仲良く定住し、居住すること。
その領域は、社会の中心である。

男性は、社会的に、非貴重品として、扱われ、分布する。
男性は、以下のような領域の中に、以下のような形で、分布する。
女性の居住領域の周辺の領域。
その領域の中で、分散して、低密度で、絶えず個人の単独行動で移動すること。
その領域は、広大だが、リスクや危険の伴う不安定な領域である。
その領域は、社会の周辺である。
男性は、その領域の中で、働き、稼ぐ作業を、社会的に強制される。
その作業は、以下の内容を、その使命とする。
以下のような業績を上げること。

リスキーで危険な領域を、安全な領域に変えること。
そのことで、生物が生きやすい領域を、絶えず確保すること。
その使命を達成して、経済的に稼いだ男性のみが、社会の中心へと凱旋する。
そうした男性のみが、女性との間で、遺伝的子孫を残すことを、女性から許される。

生物は、生得的には、女性の社会的地位が高く、女性が社会的上位者となる。
生物は、生得的には、男性の社会的地位が低く、男性が社会的下位者となる。
生物は、生得的には、男性差別が起きる。

生物の社会は、自然環境の差異に基づいて、以下の生活に二分される。
農耕生活のような、定住生活様式。
遊牧や牧畜の生活のような、移動生活様式。

定住生活様式には、女性が適しており、男性は不適である。
定住生活様式では、女性の社会的地位が高く、女性が社会的上位者となる。
定住生活様式では、男性の社会的地位が低く、男性が社会的下位者となる。
定住生活様式では、男性差別が起きる。

移動生活様式には、男性が適しており、女性は不適である。
移動生活様式では、男性の社会的地位が高く、男性が社会的上位者となる。
移動生活様式では、女性の社会的地位が低く、女性が社会的下位者となる。
移動生活様式では、女性差別が起きる。

（2021年9月初出）

卵子と精子との、性質や行動様式の、比較。女性と男性との、性質や行動様式の、比較。

卵子と精子との、性質の比較。
女性と男性との、性質の比較。
それは、以下の内容である。

卵子の、巨大性と、豊潤性と、全体調和主義と、定住性と、表面膜による閉鎖性。
精子の、矮小性と、貧相性と、個人主義と自由主義と、移動性と、空間的開放性。

卵子の内部が、豊富な液体と養分で満たされていること。それは、生殖資源と生殖設備であり、生殖における、巨大な既得権益であること。卵子が、生殖細胞として、生物が生き残る上で、より貴重な存在であること。
精子は、卵子に比較して、液体分や養分に、より大幅に欠けていること。それは、生殖における既得権益の根本的な欠如に該当すること。精子が、生殖細胞として、生物が生き残る上で、より非貴重な存在であること。

精子が、卵子の持つ、豊富な養分や水分のような生殖資源を、一方的に借りていること。卵子が、生殖資源の占有者であり、精子は、それらの、一方的な借用者であること。
卵子が、生殖細胞として、より貴重であり、精子は、卵子に比較して、より非貴重であること。
男性が、女性の持つ、子宮や乳房のような生殖設備を、一方的に借りていること。女性が、子宮や乳房のような生殖設備の占有者であり、男性は、それらの、一方的な借用者であること。

生物の社会において、資源や設備の占有者は、それらの借用者よりも、より上位者で、優越者であること。
物品の世界において、貴重品は、非貴重品よりも、より上位者で、優越者であること。

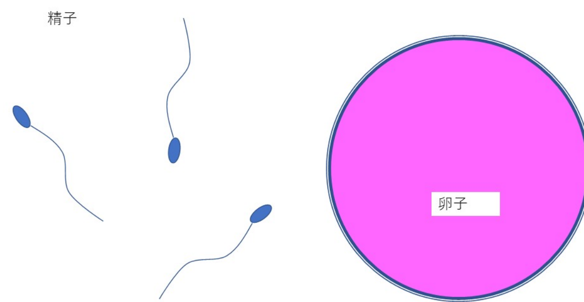
それらは、以下の内容を示す。
より貴重な卵子の、より非貴重な精子に対する、根本的な、優越性や上位性。
より貴重な女性の、より非貴重な男性に対する、根本的な、優越性や上位性。
生殖資源を占有する卵子の、それらを一方的に借用する精子に対する、根本的な、優越性や上位性。
卵子を持つ女性の、精子を持つ男性に対する、根本的な、優越性や上位性。
子宮や乳房といった生殖設備を占有する女性の、それらを一方的に借用する男性に対する、根本的な、優越性や上位性。

男性。それは、以下のような存在である。
上位者としての女性から、以下のような劣悪な役割を、一方的に丸投げされ、それらの役割への従事を、一方的に強制される、下位者。
//
女性に対する、安全で快適で楽な温室環境や温室生活の、朝貢者。
女性が嫌がる苦役への、従事者。
女性が避ける危険領域への、特攻者。
丸腰の女性の身辺を護衛する、下っ端の武装者。
//

卵子の内部が、豊富な養分を持つ液体の水分によって、満たされている、豊潤な、液体分子のような存在であること。精子は、それらを一切持たない、簡素な、気体分子のような存在であること。
受精時に、精子が、卵子によって、一方的に、呑み込まれ、融解され、解体されること。
それは、以下の内容を示す。卵子の、精子に対する、根本的な、優越性や上位性。
それは、以下の内容を示す。それは、以下の内容を示す。卵子を持つ女性の、精子を持つ男性に対する、根本的な、優越性や上位性。

卵子の性質は、女性の性質や、女性優位社会の人々の性質と、相同である。
精子の性質は、男性の性質や、男性優位社会の人々の性質と、相同である。
卵子の社会的行動様式は、女性の社会的行動様式や、女性優位社会の人々の行動様式と、相同である。
精子の社会的行動様式は、男性の社会的行動様式や、男性優位社会の人々の行動様式と、相同である。

それらの内容は、以下の説明図と、以下の対照リストによって、示される。



卵子と精子。女性と男性。それらの性質と行動様式。

[対照リスト一覧]
卵子の、性質や社会的行動様式。 vs. 精子の、性質や社会的行動様式。
女性の、性質や社会的行動様式。 vs. 男性の、性質や社会的行動様式。
女性優位社会の人々の、性質や行動様式。 vs. 男性優位社会の人々の、性質や行動様式。

巨大性。 vs. 矮小性。
豊潤性。 vs. 貧相性。簡潔性。

自己保身性。 vs. 自己捨て身性。
勢力温存性。 vs. 勢力拡張性。
安全性の追求。 vs. リスクの追求。
非武装性。vs. 武装性。
温室性。内部性。 vs. 非温室性。外部性。
退嬰性。 vs. チャレンジ精神。
前例踏襲性。前例蓄積性。前例改良性。 vs. 新規性。独創性。近代性。
高密度性。緻密性。 vs. 低密度性。粗雑性。
高品質性。最終完成度の高さ。 vs. 低品質性。最終完成度の低さ。

集団主義。 vs. 個人主義。
同調性。 vs. 独自性。
画一性。統一性。 vs. 多様性。
統制性。規制性。 vs. 自由主義。
全体性。 vs. 単独性。離散性。
包含性。閉鎖性。 vs. 突出性。開放性。
丸呑み性。 vs. 侵入性。
調和性。 vs. 非調和性。
一体融合性。 vs. 自主独立性。
近接性。親密性。非客観性。非科学性。 vs. 広間隔性。非親密性。客観性。科学性。
相互依存性。 vs. 自立性。
他律性。 vs. 自律性。

定住性。 vs. 移動性。
不動性。 vs. 動的性質。
植物性。 vs. 動物性。
受動性。 vs. 能動性。
大地指向性。 vs. 天空指向性。

自己中心性。 vs. 周辺性。普遍性。
一極集中性。 vs. 多極性。
局所性。 vs. 拡大性。グローバル指向。

液体性。湿潤性。 vs. 気体性。乾燥性。
津波のような専制支配。 vs. 台風のような暴力支配。
曲線性。非論理性。柔軟性。 vs. 直線性。論理性。剛直性。

（2022年5月初出。）

自己保身性。自己中心性。自己拡大性。男女の性差。

女性の本性としての「自己保身性」「自己中心性」

１．女性の持つ生存面での優位性。女性の本性との関連。

女性の方が、男性よりも、生存面で、優位である。

女性の方が、男性よりも、生存条件で恵まれている。
女性は、男性よりも、生存面で、優遇される。

それは、女性が、以下を持っているからである。
「卵子。女性器。」

女性は、以下の存在である。
（１）女性は、男性よりも、貴重である。
（２）女性は、男性よりも、高貴である。

それは、以下を生み出す。
女性の本性。その根源。

（初出2020年6月）

２．女性の持つ本質的な本性。「自己保身性。」

２－１．女性の本性。「自己保身性。」その特質。

女性は、以下の存在である。
女性は、以下を保持する。

「自己保身性。」

女性は、それを、以下に基づいて、保持する。
自身が持つ、生物学的貴重性。
女性は、それを、以下の両面で保持する。生理。心理。
女性は、それを、本質的に、強力に、保持する。

心理における自己保身性。
それは、例えば、以下のような性質である。
その性質の持ち主。彼女は、以下のような心理を、周囲の人々に対して、持つ。

「私は、以下の実現を、希望する。」
（１）みんなは、私を、保護する。
（２）みんなは、私を、一番大切にする。
（３）みんなは、以下になる。私にとっての身代わり。彼らは、それによって、傷つき、死ぬ。そうして、私の命は、保たれる。

女性が持つ、自己保身性。
それは、以下である。
女性優位性格の中核。

それは、以下と並立する。
女性が持つ、自己中心性。

女性は、「自己保身指向の性」である。

/////////

女性の自己保身性の起源。
それは、以下の存在のあり方に基づいている。
子宮。卵子。

それらは、以下に該当する。
女性の生物学的存在。その根源。

（Ａ）女性の持つ女性器。その主要器官としての子宮。
それらは、以下の存在である。
生物としての人間。
その生体としての側面。そこにおける、設備や資本。

それらは、以下の実現にとって、最も重要で、貴重である。
人間が、遺伝的子孫を、後世に残すこと。

子宮は、以下の場所である。

（１）それは、以下の二つを、出合わせる。
（１－１）男性による精子。
（１－２）女性による卵子。

（２）それは、それらを、受精させる。

子宮は、それらの実現にとって、主要な場所である。

子宮は、人間にとって、以下の存在である。
その存在は、最優先で、守られるべきである。

子宮。

女性は、それを、占有している。

男性は、以下において、貧弱である。
生体面での設備や資本。

そのため、男性は、以下を守る存在に回る。
子宮。女性器。それらの持ち主。女性。
男性は、女性を守る存在に回る。

男性は、女性を外敵から防衛する。
男性は、そのために、強力な身体能力を備える。例えば、筋力。

（Ｂ）女性の持つ卵子。

卵子の数は、少なめに抑制されている。
卵子は、存在そのものに、希少性がある。
卵子は、その点で、大きな貴重性を持っている。

また、
卵子は、以下において、少ない。その、子宮への排卵回数。
卵子は、以下において、限定されている。その、子宮への排卵期間。

その点で、卵子は、以下を持った存在である。
限定性。

子宮は、大きな貴重性を持っている。
それは、希少性とは、別物である。

/////////

男性の持つ精子。

（Ａ）
精子は、数が、とても多い。
精子は、粗製乱造である。
精子は、いくらでもたくさん手に入る。
精子は、以下に欠けている。
（１）存在面での希少性。
（２）それに基づく貴重性。

（Ｂ）
精子は、男性の体内に、常時準備されている。
精子は、子宮に向けて、いつでも投入可能である。
精子は、そうした状態を、保持する。
精子は、以下に欠けている。
（１）存在面での限定。
（２）それに基づく貴重性。

/////////

卵子。その担い手。女性。
彼らは、生物学的な面で、本質的に、貴重である。
彼らの存在は、守られるべきである。

精子。それは、貴重性に欠ける。
その担い手。男性。
彼らは、以下を守る存在に回る。
卵子の担い手。女性。

男性は、女性を、外敵などから、防衛する。
男性は、そのために、強力な身体能力を備える。
例えば、筋力など。

/////////

以下の（１）を、以下の（２）に、そのまま置き換えて考える。
（１）卵子のあり方。
（２）卵子の生殖面での占有者。女性。そのあり方。

そのことで、以下を理解することが可能である。
女性の本性。その自己保身性。

以下の（１）を、以下の（２）に、そのまま置き換えて考える。
（１）女性が持つ、自己保身性。
（２）女性優位社会が持つ、社会的性格。

前例。しきたり。
それらは、行動様式である。
それらには、以下の内容が、確認されている。
以下を実現するための有効性。
（１）自身の保身。
（２）自身の安全。

女性優位社会。
人々は、それらを、絶対視する。
人々は、それらを、暗記する。
人々は、それらを、盲目的に学習する。

古参者。
彼らは、それらの保持者である。
彼らは、それらの蓄積者である。

人々は、以下の（１）を、以下の（２）として、設定する。
（１）古参者。
（２）社会的上位者。

人々は、上記の（１）と（２）に対して、隷従する。

例えば、中国や日本。

/////////

女性の本性。「自己保身性。」そのルーツ。
それは、以下のようにまとめられる。

（１）
女性は、以下を持っている。
卵子。女性器。
それらは、生物学的に、より貴重である。
女性は、それゆえ、男性よりも、貴重である。
女性は、それゆえ、男性よりも、高貴である。

そこで、女性は、以下を指向する。
男性によって、自身を守ってもらうこと。

（２）
女性は、以下が弱い。
筋力。

そこで、女性は、以下を指向する。
男性によって、自身を守ってもらうこと。

（初出2020年6月）

２－２．女性の本性。「自己保身性。」その欠陥。

女性の本性。「自己保身性。」

女性は、その実現を最優先する。
女性は、その確保を最優先する。
女性は、そのために、何でも実行する。

その結果、女性は、以下の行為を、平然と行う。
それらの行為は、女性にとって、当然である。

/////
女性は、自己保身のために、以下を実行する。
女性は、自己保身のために、以下の存在になる。

（Ａ）
（Ａ－１）
女性は、他者を、犠牲にする。

（Ａ－２）
女性は、他者を、迫害する。
女性は、他者を、抹消する。

（Ａ－３）
女性は、他者に対して、冷酷になる。
女性は、他者に対して、残忍になる。

（Ａ－４）
女性は、他者を、奴隷化する。
女性は、他者を、おもちゃにする。

（Ｂ）
（Ｂ－１）
女性は、真実を、隠ぺいする。
女性は、真実を、抹消する。

（Ｂ－２）
女性は、以下を演技する。
問題が無いこと。
女性は、以下を演技する。
状況が良好であること。
女性は、以下を演技する。
状況が調和していること。

（Ｂ－３）
女性は、以下を演技する。
自身の性格。その良さ。その柔和さ。その優しさ。
女性は、以下を演技する。
人間関係。その良好さ。その結束の強さ。その調和。

（Ｂ－４）
女性は、自主的な判断を、回避する。
女性は、自主的な行動を、回避する。

女性は、個人的な判断を、回避する。
女性は、個人行動を、回避する。

（Ｃ）
（Ｃ－１）
女性は、以下を要求する。
自身が保護を受けること。
その実現の最優先。
周囲の人々が、その実現のために、以下を後回しにすること。
他者の保護。

（Ｃ－２）
女性は、以下を演技する。
自身の性格。その柔弱さ。その傷つきやすさ。

（Ｄ）
（Ｄ－１）
女性は、自身のダメージを、回避する。

（Ｄ－２）
女性は、以下を、回避する。
自身の責任。その発生。
女性は、自身の責任を、他者へと転嫁する。

（Ｄ－３）
女性は、罪を犯す。
女性は、他人を、意図的に陥れる。
女性は、自身の罪を、他人へと転嫁する。

女性は、以下を主張する。
自身の無謬性。

（Ｅ）
（Ｅ－１）
女性は、以下の場所に滞留する。
安全地帯。
女性は、他者を、以下の場所へと追放する。
危険地帯。

（Ｅ－２）
女性は、以下の場所に定住する。
好条件の地帯。
女性は、他者を、以下の場所へと追放する。
悪条件の地帯。

（Ｅ。事例。）
/////
女性は、以下の場所に定住する。
温暖地帯。
女性は、他者を、以下の場所へと追放する。
酷寒地帯。酷暑地帯。

女性は、以下の場所に定住する。
無風地帯。
女性は、他者を、以下の場所へと追放する。
暴風地帯。

女性は、以下の場所に定住する。
湿潤地帯。
女性は、他者を、以下の場所へと追放する。
乾燥地帯。砂漠地帯。

女性は、以下の場所に定住する。
無洪水地帯。
女性は、他者を、以下の場所へと追放する。
洪水発生地帯。

（Ｆ）
（Ｆ－１）

女性は、以下を生成する。
定住集団。

（Ｆ－２）
女性は、以下を確保する。
集団内での上位性。集団内での中位性。
女性は、以下を回避する。
集団内での下位性。

（Ｆ－３）
女性は、結託する。
女性は、同調する。
女性は、集団で、弱い者いじめをする。

（Ｇ）
（Ｇ－１）
女性は、他者の行為を、監視する。
女性は、他者の危険行為を、密告する。

（Ｇ－２）
女性は、以下を、定住集団内部から追放する。
安全性を損なう人物。危険な人物。調和を乱す人物。

（結論）
女性は、自己保身のために、何でもする。

女性は、自己保身のために、非人間的になる。
女性は、自己保身のために、精神を暗黒化させる。

女性は、自己保身のために、結果として、以下の存在になる。
（１）演技者。裏表のある存在。嘘つき。信頼できない存在。見掛け倒しの存在。
（２）自己中心的な存在。自分勝手な存在。独善的な存在。

女性優位社会。
人々は、上記の欠陥を持つ。

（初出2020年6月）

３．女性の持つ本質的な本性。「自己中心性。」

女性は、以下の存在である。
女性は、以下を保持する。

「自己中心性。」

女性は、それを、以下に基づいて、保持する。
自身が持つ、生物学的貴重性。
女性は、それを、以下の両面で保持する。生理。心理。

女性は、それを、本質的に、強力に、保持する。

心理面における、自己中心性。
それは、例えば、以下のような性質である。
その性質の持ち主。彼女は、以下のような心理を、周囲の人々に対して、持つ。

/////
私は、以下の実現を希望する。

（１）
私は、みんなの中心にいたい。

（２）
私は、みんなの注目や視線を浴びたい。
私は、人気者になりたい。

（３）
私は、みんなから、褒められたい。

女性が持つ、自己中心性。
それは、女性優位性格の中核である。
それは、以下と併存する。
女性が持つ、自己保身性。

女性は、「自己中心指向の性」である。

女性の自己中心性。その起源。
それは、以下の存在のあり方に基づいている。
卵子。

それは、以下に該当する。
女性の生物学的存在。その根源。

子宮において、次のことが、発生する。
卵子は、その周囲を、以下によって、取り囲まれる。
精子の群れ。

卵子は、以下の中心に、居座る。
精子の群れの分布。
卵子は、その中心に、大きな顔をして、居座る。
卵子は、その中心に、そのまま、静止し、定住し続ける。

そのことは、以下のことを示している。
卵子が、自己中心的な存在であること。
それは、生物学的に、根源的に、そうであること。

そうした状況では、以下のことが起きている。
卵子は、周囲の精子たちから、注目されている。
卵子は、周囲の精子たちから、ちやほやされている。

以下の（１）を、以下の（２）に、そのまま置き換えて考える。
（１）
卵子のあり方。

（２）
人間の生殖。それにおける以下の存在。卵子の占有者。
女性。そのあり方。

そのことで、以下を理解することが可能である。
女性の本性。その自己中心性。

以下の（１）を、以下の（２）に、そのまま置き換えて考える。
（１）女性が持つ、自己中心性。
（２）女性優位社会が持つ、社会的性格。

女性優位社会。
人々は、以下のように考える。
「私たちは、以下のような存在である。」
（１）私たちは、世界の中心に、位置する。
（２）私たちは、世界で、最上位の存在である。

人々は、周囲の社会に対して、以下のように振る舞う。
（１）人々は、尊大に振る舞う。
（２）人々は、偉そうに、振る舞う。

例えば、中国の中華思想。

女性は、自己中心性を、実現する。
その前提条件。
女性は、そのため、以下の実現を求める。
（１）私は、みんなと一緒にいる。
（２）私は、みんなの中にいる。
女性は、それらを、絶えず求める。

その点、女性は、以下の存在である。
みんなを指向する性。全員を指向する性。全体を指向する性。

みんな。
それは、女性にとって、以下の存在である。
所属集団。その仲間メンバーたち。

女性たちは、以下の実現を重視する。
（１）みんなの中で、より中心部に進むこと、
（２）みんなの中心で、輝くこと。
（３）みんなの話題になること。
（４）みんなの中で、目立つこと。

女性は、以下を重視する。

周囲の他者。その目や視線。

女性は、以下の只中に、いつもいる。
周囲との相互監視。

その点、女性は、以下のように捉えられる。
「目の性。」

目の存在。
女性は、それを重視する。
女性は、それを前提として、活動する。
女性は、それを前提として、パフォーマンスを行う。

その点、女性は、以下のように捉えられる。
注目指向の性。

注目されたい性。
注目を集めたい性。

見られたい性。
見られること。それを快感とする性。

女性は、以下の存在を、前提としている。
周囲の人々。「周囲」の存在。

その点、女性は、以下のように捉えられる。
周囲指向の性。
取り囲まれること。それを指向する性。それを望む性。
周囲から、インタビューを受けること。それを望む性。
撮影されること。それを望む性。
報道されること。それを望む性。

そうした点で、女性は、以下の実現を望む。
アイドルになること。
その願望は、女性にとって、本源的である。
女性は、全員、それを望む。

女性は、以下を指向する。
人々の輪。

女性は、その中で、更に、以下の位置を指向する。
中心部。
都心部。

女性は、以下を考える。
以下の（１）が実現するほど、以下の（２）が実現する。
（１）人々の輪。私が、その中において、より中心部に行く。
（２）私の社会的地位。それは、より高くなる。

女性は、以下を考える。
以下の（１）が実現するほど、以下の（２）が実現する。

（１）人々の輪。私が、その中において、より周辺部に行く。
（２）私の社会的地位。それは、より低くなる。

これらの考えは、以下を生み出す。
女性優位社会。
その内部における、上下関係。
その内部における、階級関係。
例えば、スクールカースト。

/////

女性が持つ「自己中心性。」
筆者は、その視点から、以下の内容を捉える。
「女性優位リーダーシップ。」

それは、以下の指導方法である。

（１）
みんなの中心に当たる位置。
指導者は、そこから、周囲のみんなに向かって、訓示する。

（２）
みんなの意識。
指導者は、それを一つにまとめる。
指導者は、そうして、以下を実現する。
みんなが、一緒になって動くこと。

（３）
指導者は、以下の存在となる。
カーストにおける、上位者。
指導者は、そうして、上から目線で、みんなを指導する。

/////

女性の持つ、次の傾向。
私は、みんなの注目を求める。

それには、以下の二通りがある。
これらの間では、以下が発生する。
以下の感覚。それらは、互いに相反する。

（１）見栄の感覚。
プラスの自身。
オープンな自身。
それらの内容。
私は、それを、みんなから、注目されたい。
その感覚。

（２）恥辱の感覚。
マイナスの自身。
プライベートな自身。
それらの内容。

私は、それを、みんなから、注目されたくない。
その感覚。

こうした感覚の発生。
それは、以下の二通りに、分類される。

（１）
非公式な発生。
彼女は、それを、自身の日常生活において、感じている。
彼女は、それを、半ば無意識のうちに、感じている。

（２）
公式な発生。
彼女は、それを、みんなの面前で、感じる。
彼女は、それを、以下の実現によって、感じる。
彼女は、みんなの注目を、実際に集める。そのことの実現。

上記の感覚。
見栄の感覚。
恥辱の感覚
それらを分析すること。

研究者は、以下に着目する。
人間の、自身における、以下の側面。
１．私自身におけるプラスの面とマイナスの面
（１）プラスの面。
私は、成功した。
私は、強い。
私は、有能だ。。
私は、社会適合的だ。

（２）マイナスの面。
私は、失敗した。
私は、弱い。
私は、無能だ。
私は、社会不適合的だ。

２．自分自身における、二面性。オープンな面。プライベートな面。
（１）
オープンな面。

以下の部分。
仮に、私が、それを、外部から見られた、とする。
それは、私にとって、問題ない。

以下の部分。
私は、それらを、外部に向けて、積極的にアピールしたい。

それらは、以下の両面を含む。
プラスの面。
マイナスの面。

（２）
プライベートな面。
以下の部分。私は、それを、外部に対して、秘密にしたい。
以下の部分。私は、それを、外部に対して、隠したい。

私自身における、以下の部分。
それらは、以下の両面を含む。
プラスの面。
マイナスの面。

仮に、私が、それを、そのまま外部公開したとする。それは、私にとって、不都合である。
私は、それを、外部に対して、隠したい。

「私自身における性的な面。」
私は、以下を持つ。性的な面。
私は、そのことを、外部に対して、隠したい。

２．１ 私自身における性的な面。

「私自身における性的な面。」
それは、以下の内容を指す。

（１）
性感帯の部分。
自分自身の身体における、特定の部分。
仮に、私が、そこをタッチされた、とする。すると、私は、性的に発情する。

（２）
私自身の身体における、特定の部分。
それは、以下を、強力に持つ。
男性に対する、性的誘引力。

（３）
性欲。その強さ。
私は、それを、私自身の生体の中に、内蔵する。

３．自己中心性。その以下の両方向での充足。
プラス方向。マイナス方向。
それらと、以下の二つの感覚との関連。
「見栄」の感覚。
「恥辱」の感覚。

それは、以下の通りである。

（１）「見栄」の感覚。その発生。

プラスの自分自身。
私自身において、オープンにしている部分。
それらについて、以下が集まる。
みんなからの注目。
すると、私にとっては、以下が起きる。
「見栄」の感覚。

そこでは、以下の（１）が、以下の（２）として、充足される。
（１）自己拡大性の本性。
（２）プラス方向。
そのため、それは、私にとって、快感である。

（２）「恥辱」の感覚の発生。
マイナスの自分自身。
私自身において、プライベートにしている部分。
それらについて、以下が集まる。
みんなの注目。
すると、私にとっては、以下が起きる。
「恥辱」の感覚。

そこでは、以下の（１）が、以下の（２）として、充足される。
（１）自己拡大性の本性。
（２）マイナス方向。
そのため、それは、私にとって、不快である。

女性は、次の（１）を実現すると、次の（２）を得る。
（１）私は、みんなの中心部に行く。
（２）私は、みんなから、注目される。そうした状態。

女性は、上記の（１）を実現すればするほど、上記の（２）を得やすくなる。

そのことは、以下の二つの側面を、同時に内包している。
それらは、相互に矛盾する。
それらは、相反する。

（１）
私は、みんなから、上位者として扱われる。
私は、みんなから、ちやほやされやすくなる。
私は、みんなに対して、見栄を張りやすくなる。

（２）
私は、みんなから、恥辱を受けやすくなる。

恥辱の発生。
その、人間における、自分自身にとっての、発生。
それには、以下の二通りがある。

（１）私自身のせい。それによる部分。
その自主的な発生。

私は、それを、自分自身で、もともと自覚している。
それは、例えば、以下の内容である。
私自身の容姿の悪さ。
私自身の普段の性格の悪さ。

失敗。
私は、それを、みんなの面前で引き起こした。
その原因は、私自身にある。

（２）周囲の他人。彼らのせい。それによる部分。
悪意の言論。悪意の行為。そのような内容。
周囲の他者は、それを、私に対して、浴びせた。
周囲の他者は、その行為を、故意に行った。
恥辱の感覚。それは、上記の結果によって、発生する。

それは、例えば、以下の内容である。

それは、私自身に対して、行われる。
それは、周囲の他者によって、行われる。
悪口。
陰口。
噂話の言いふらし。
性的な嫌がらせ。

あるいは、
私自身にとっての秘密の内情。
その公開。その暴露。
それは、私自身に対して、行われる。
それは、周囲の他者によって、行われる。
それは、みんなの面前で、行われる。
それは、強制的に行われる。

例えば、痴漢。それによる恥辱の感覚。
それは、上記の両方の原因で起きる。

私自身における性的な面。その内情。
（１）私は、それを、もともと自覚している。
（２）私は、それを、周囲に対して、隠しておきたい。

（３）
他者が、それについて、以下の行為に及ぶ。
他者は、それを、公開する。
他者は、それを、私の周囲のみんなに対して、公開する。
他者は、それを、勝手に公開する。
他者は、それを、強制的に公開する。
その他者は、私に対して、悪意を持つ。

（初出2020年6月）

４．女性の本性。女性の「姫君指向」。その発生。

女性の本性。
自己保身性。自己中心性。
その両者の合体。
それは、以下を生み出す。
女性の「姫君指向」。

女性は、以下に基づいて、行動する。
自身の生物学的貴重性。

それは、以下の通りである。
（１）自己保身性。
女性は、自分のことを、一番大切にする。

（２）自己中心性。
女性は、自分のことを、一番中心に考える。
女性は、自分のことを、最優先する。

女性は、この両者を備える。
そうした女性は、以下の存在である。
宝石的な性。
輝き指向の性。
高貴な性。

女性は、自身を、高貴な存在として、捉える。
女性は、自分の存在について、以下のように考える。

（１）
私は、周囲のみんなによって、ちやほやされたい。
私は、周囲のみんなによって、、大事にされたい。
私は、周囲のみんなによって、守られたい。

（２）
私は、周囲のみんなの中にいたい。
私は、周囲のみんなの中で、中心的位置を占めたい。
私は、そうして、以下を実現したい。
私は、周囲のみんなによって、より守られやすくなる。

（３）
私は、みんなに向かって、力を、より強く振るいたい。
私は、みんなを、私に対して、ひざまずかせたい。
私は、それを、自身の周囲において、実現したい。
私は、それを、一方的に、完全に、実現したい。

私は、みんなを、以下の存在にしたい。
私への奉仕者。

女性は、以下の実現を望む。
以下の存在であること。
自身の周囲における、一番の上位者。

高貴な姫君。

女性の持つ、こうした傾向。
それは、以下のように表現できる。
「姫君指向。」

姫君は、以下の存在である。
（１）彼女は、若い。
（２）彼女は、高貴である。

彼女は、それらを、兼備する。

姫君は、若い。
そのため、姫君は、以下を備えている。
性的魅力。
姫君は、それを、完備している。それは、身体的な魅力である。それは、精神的な魅力である。
姫君は、それを、十二分に持っている。
姫君は、その状態を、保持し続ける。

女性は、以下のように考える。
私は、以下の力を持ちたい。
その力は、人々を、私のところへと、惹きつける。
その力は、人々を、私のところへと、引き寄せる。
私は、そうした存在でいたい。

姫君指向の女性。
彼女は、本質的に、以下である。
「高貴な誘蛾灯。」

女性は、周囲に対して、気を遣う。
その行為は、実際には、以下の実現を狙っている。
周囲からの受けを良くすること。
彼女の立ち位置を良くすること。
彼女自身を一番の存在にすること。

女性は、そうした行為を行う。
その理由。
それは、結局は、以下である。
女性は、彼女自身を一番大切にする。
女性にとっては、以下が一番可愛い。
彼女自身のこと。

女性は、自己愛がとても強い。

（初出2020年6月）

５．女性の本性。自己中心性。自己保身性。それらの相互作用と両立。

女性は、以下の本性を、相互作用させる。
女性は、それらを、両立させる。
自己中心性。
自己保身性。

人間。その存在位置。
それは、中心に近いほど、内部の奥深くになる。
人間は、そうなるほど、外部から露出しにくくなる。
人間は、そうなるほど、外敵から守られやすくなる。
人間は、そのことで、以下の二つを、共に実現しようとする。
自己中心性。自己保身性。

この傾向を持つ人間。それは、女性だけに限定されない。
権力者も、この傾向を、持っている。
それは、男女両方である。

それは、例えば、以下である。
軍事的要塞。城。その構造。
そこには、権力者とその家族が居住する。

女性は、以下の二つを、両立させている。
自己中心性。自己保身性。
女性は、その点で、本質的に、以下の存在である。
権力者。

（初出2020年6月）

６．女性。その「自己中心性」の実現。先進的な行動の必要性。その実行を可能にする条件。

女性は、以下を実現しようとする。
「自己中心性。」

女性は、そのために、以下のことをする。
最先端の流行に乗ること。それを、盛んに試みること。
女性は、周囲に向かって、以下を、しきりにアピールする。
自身の先進性。
女性は、そうして、以下を実現しようとする。
周囲から、注目を浴びること。

女性は、以下のように考える。
私は、先進的になりたい。

自力で先進的になれる力。

女性は、それを、自分自身で、内的に保持している。
しかし、女性は、その行使を、封印し、抑止している。
その原因は、以下である。
女性が、彼女自身で、以下を持つこと。「自己保身性。」その本性。

そのため、女性は、そうした力を、実質的に持っていない。

女性は、以下を、第一に考える。
自身の保身。
そのための安全確保。

女性は、以下を嫌う。
新たなチャレンジ。
それは、リスクを伴う。

女性は、そのことで、以下を封印し、抑止している。
以下を彼女自身で生み出す能力。斬新で先進的な新知見。

女性が、実際に取る行動。
それは、以下の内容になる。
それは、安全性を、高度に確保している。
しかし、それは、以下の代償をもたらす。
それは、後進的になる。

女性。
そのふだんの行動の内容。
それは、後進的になりがちである。

しかし、女性は、先進的に行動する。
それは、以下の条件が整った場合である。

（１）
女性は、以下の実現を、望む。

自己保身や安全が確保されること。
彼女自身が、決して傷つかないこと。
そのことが、必ず保証されること。
それは、彼女が、以下を、どんなに行っても、実現される。
チャレンジ。失敗。

仮に、上記が、実現した、とする。
すると、女性は、とても大胆になる。
女性は、以下の封印を解く。
チャレンジの抑止。
その封印は、女性の心の中に存在する。

女性は、積極的にチャレンジする。
女性は、先進的な存在になる。

例えば、日本のアニメ。「プリキュア」。その肉弾戦の場面。
ヒロインたちは、敵から、色々な攻撃を受ける。

しかし、ヒロインたちは、決して、致命傷を負わない。
ヒロインたちは、決して、死なない。

視聴者の女の子は、それを、大いに好む。
それは、このことの現れである。

（２）
女性は、以下の実現を望む。
大規模集団での一斉同調行動。
それによる、以下の実現。
集団的な無責任性。その獲得。

そのことで、女性は、以下を、新たに保証される。
彼女は、失敗しても責任を問われなくなる。
彼女は、彼女自身に対して、傷がつかなくなる。

以下が、そうして、維持される。
自分の保身。

仮に、上記が、実現した、とする。
すると、女性は、とても大胆になる。
女性は、以下の行動を、いろいろ行う。
新たな試み。
新たなチャレンジ。

女性は、その実行のために、以下の実現を必須とする。
行動面での無責任性。それを獲得すること。

そのためには、以下が、必須となる。
集団行動。その一斉同調性。その確保。

そこでは、以下が、存在する。
集団行動。それがもたらす、心理的な束縛。

そうした点で、以下の両者の間に、根本的な差異が出る。
（１）女性の行動。
（２）男性の行動。

男性は、チャレンジする。
男性は、その際に、個人行動をする。
その結果、男性には、行動面において、責任が発生する。
男性は、それを、あまり気にしない。
男性は、それを、何とか受容する。

（初出2020年6月）

７．女性たちの間の、上下関係、権力関係。
女性の本性との関連。

女性たちの間には、苛酷な上下関係、権力関係が生じる。
女性の権力者は、社会の中心者である。

女性は、上位者に隷従する。
女性は、下位者を、彼女自身に対して、隷従させる。

その原因は、以下の二つである。

（１）
女性は、以下を一切許可しない。
反論。
仮に、誰かが、女性に対して、反論した、とする。
すると、女性は、怒って、直ちに厳罰を下す。
女性は、執拗に報復する。

（１－１）
女性は、感情的で、情緒的である。

（１－２）
女性は、相手と、心理的に密着する。
女性は、互いの一体感が強い。

（１－３）
女性は、批判に対して、心がソフトで傷つきやすい。

女性のそうした精神は、以下から派生している。
女性の本性。
「自己保身性。」
女性は、自分の立場を守る。
女性は、そのため、周囲と仲良く同調する。
女性は、相手との心理的一体感が強い。
仮に、女性が、その状態で、相手から刃向かわれた、とする。
すると、女性は、以下を受ける。
心理的なダメージ。
それは、大きい。
そうした女性は、とても不快に感じる。
女性は、相手に対して、怒りの感情を爆発させる。

（２）
女性は、下位者に対して、以下を行う。
彼女は、見下す。
彼女は、馬鹿にする。
彼女は、差別する。
彼女は、それらを、徹底的に行う。

女性は、上位者には、ご機嫌取りをして、取り入る。
それは、以下に基づく。
「自己保身性。」

女性は、下位者には、彼女自身に対して、以下を強制する。
一方的な奉仕。
それは、以下に基づく。
「自己中心性。」

女性の本性である「自己中心性。」
その観点からは、以下が言える。

女性たちの間では、以下の度合いで、上下関係が決まる。

自分たちの集団内部。
そこでの社会的位置。
その中心性。

女性たちの間では、上位者は、以下として位置づけられる。
自分よりも中心者である存在。

女性が、社会の中で、権力者になること。
それは、社会の中心者になることである。

女性たちの間では、下位者は、以下として位置づけられる。
自分よりも周辺者である存在。

女性は、下位者に対して、以下を考える。

////
あなたの、私に対する要求や態度。
それは、厚かましい。
あなたは、以下の立場を、わきまえるべきだ。
周辺者としての立場。
////

女性は、自己中心性に基づいて、自分を中心者として扱う。

女性は、以下に対して、尊大になる。
周辺者としての下位者。
これは、中華思想の一環である。

こうして、女性の間に、苛酷な上下関係が生じる。

女性の、こうした考え方。
それは、女性優位社会の全体へと、波及する。
女性優位社会。
そこでは、以下が、横行する。
社会体制における「上位者」。
その人物による、専制的支配。

///////

男性は、以下の（１）を、以下の（２）として捉える。
（１）自分より能力が優れた存在。
（２）強者。上位者。

男性は、以下の（１）を、以下の（２）として捉える。
（１）自分より能力が劣った存在。
（２）弱者。下位者。

男性の、こうした考え方。
それは、男性優位社会の全体に波及する。

（初出2020年6月）

**８．女性の社会的保護。
それが必要な理由**

（世界共通の理由）
（１）
女性は、卵子ホルダーである。
女性は、女性器ホルダーである。
女性は、貴重性がある。

（２）
女性の身体は、小さい。
女性の筋力は、弱い。
女性は、強姦される。

（３）
女性が、不本意に妊娠した場合。
女性は、以下を、一方的に抱えてしまう。
不良の製品在庫。
胎児。

（以下のみに特有な理由。移動生活様式。男性優位社会。）
（１）
女性は、移動生活様式に不適合である。
女性は、社会的弱者として、保護が必要である。

（初出2020年6月）

男性の本性。「捨て身。」「自己拡大性。」

（Ａ）捨て身。
男性は、以下に欠けている。
「生体における、生物学的貴重性。」

男性は、自己保身にこだわらない。
男性は、捨て身の存在である。

仮に、女性や子供が、危険にさらされた、とする。
女性や子供は、自己保身を実現しようとする。
男性は、その実現のための捨て石になる。
その点、男性の本性は、「捨て身の性質」である。

男性の本性である「捨て身の性質」のルーツは、以下の通りである。

（１）男性は、生体として、以下を持っている。
精子。男性器。
男性は、女性よりも、粗末な存在である。
そこで、男性は、女性を守る。

（２）男性は、筋力が強い。
そこで、男性は、女性を守る。

（Ｂ）自己拡大性。

男性は、上記の（Ａ）と関連して、次の性質を持っている。

男性は、未知の環境へと、積極的に飛び込む。
男性は、その場で、リスク覚悟で果敢に動き回る。
男性は、新たなチャレンジに挑戦する。
男性は、それを、失敗を覚悟して行う。
男性は、それを、捨て身で行う。

男性は、以下を次々と生み出す。
新知見。それは、今まで無かった。それは、斬新である。

男性は、新知見の適応先を、広範囲に拡大する。
男性は、そのことで、以下を、周囲に対して、しきりとアピールする。
「自身の有能さ。」

男性は、それによって、女性の歓心を買う。
男性は、以下に受け入れられる。
女性。
彼女は、彼の有能さを、気に入った。
その結果、男性は、自分の遺伝的子孫を、広く残しやすくする。

こうした点で、男性は、以下を持つ。
「自己拡大性」の本性。
自己の存在を拡張し、広げること。
その実現を目指して動くこと。
それを本性として持つこと。

これは、具体的には、以下のようになる。

（Ｂ－１）
男性は、次の（１）よりも、次の（２）を指向する。

（１）みんなといること。
（２）個人でいること。

（Ｂ－２）
男性は、以下のように、動こうとする。
男性は、「個人ベース」で動く。
男性は、「問題解決」のために、動く。
男性は、環境の中を、広く動き回る。
男性は、環境の中を、高速で移動する。

男性は、以下を指向する。
「動き回り」指向。
移動指向。

（Ｂ－３）
男性は、問題解決を重視する。
男性は、その必要に応じて、作業チームを作る。

しかし、男性は、みんな一緒という考えでは動かない。
男性は、各自が相互に分離する。
男性は、その状態を保って、動く。
彼らのチームは、以下を主体として動く。
メンバー各自による、以下の行動。
（３－１）個人ベースの行動。
（３－２）自由な行動。

男性は、以下を指向する。
「自由行動」指向。

（Ｂ－４）
男性は、個人ベースで動く。
男性は、そうして、以下へと、積極的に進出する。
（１）未知の領域。
（２）未開の領域。

そうした領域は、以下のように表現できる。
「闇の領域。」

男性は、その場で、以下を繰り返す。
（１）試行錯誤。
（２）チャレンジ。

男性は、そうして、その領域を、たくさん掘り進める。
男性は、以下のことに成功しようとする。
男性は、その実現について、必死になる。

その領域を、新たに、以下へと、転換させること。
「光の領域。」
それは、以下の領域である。
（１）
以下の実現に役立つ領域。

（１－１）人間の生存レベル。その向上。
（１－２）人間の生活レベル。その向上。

（２）
安全性が確認された領域。

男性は、何とか成功する。
男性は、以下を指向する。
（１）チャレンジ指向。
（２）成功指向。

（Ｂ－５）
「光の領域」。
彼は、それを、自身で、新たに得た。
彼は、その領域について、以下の実現に、新たに成功した。
「闇の領域から、光の領域への、転換。」

男性は、それを、自身の新たな縄張りとする。
男性は、それを、占有しようとする。
それは、彼自身の縄張りである。
それは、彼自身の影響力、支配力が及ぶ。
それは、彼自身にとって、有効である。

「光の領域。」
男性は、その範囲を、以下のように考える。
それは、以下に相当する。
彼自身の既得権益。

男性は、以下について、心を砕く。
その範囲を、広げること。

その際、男性は、ライバルと、以下の実現をめぐって、しきりに争う。
既得権益。その拡張。

彼らは、それを、奪い合う。

男性は、そのための戦闘を、繰り返す。
男性は、それに勝利しようとする。
それは、男性による、以下の姿勢につながっている。
自己の拡大を指向する姿勢。

男性は、以下で動く。
（１）「縄張り拡張」指向。
（２）「既得権益の拡張」指向。
（３）「戦闘への勝利」指向。
（４）「自己拡大」指向。

（Ｂ－６）
「光の領域」。

男性は、それを、自身で、新たに獲得した。

（１）その広さ。
（２）その有効性。
男性は、それらを、誇示する。

男性は、そうした誇示を、世界に向けて、行う。
男性は、そうした誇示を、幅広く、普遍的に行う。

男性は、その「光の領域」を、ほかの人々に使用させる。
男性は、そうして、多大な報酬を得る。
男性は、そのことで、多額の資産を形成する。
男性は、そうすることで、自分の有能さを、アピールする。
男性は、そうしたアピールを、世界に向けて、行う。
男性は、そうしたアピールを、幅広く、普遍的に行う。

男性は、そうしたアピールを、特に、以下に対して、行う。
女性。
その女性は、男性にとって、結婚相手として、魅力的である。

男性は、以下を狙う。
その女性を、獲得すること。

男性は、以下で動く。
（１）普遍指向。
（２）「有能性のアピール」指向。能力主義。

（Ｂ－７）
男性は、以下を行う。
（１）個人ベースの有能さ。その発揮。
（２）その業績のアピール。

男性は、そのことで、以下を指向する。
（１）社会的な成功。
（２）社会的な勝利。
（３）それらを収めること。それを自身の業績とすること。

男性は、以下を、社会的に活用する。
（１）得られた名声。
（２）得られた資産。

男性は、そうして、以下を実現しようとする。
以下の（１）を、以下の（２）にすること。

（１）
（１－１）彼自身の遺伝的子孫。
（１－２）彼自身の文化的子孫。

（２）
（２－１）それらを、社会に対して、広めること。
（２－２）それらを、普遍的に広めること。
（２－３）それらを、大量に広めること。

男性は、以下で動く。
（１）「社会的成功」指向。
（２）「社会的勝利」指向。
（３）「社会的拡大」指向。

『まとめ』
（１）
女性は、以下を持つ。
「自己保身性。」（「私にとって、私自身が、一番大切である。」そう考える性質。）
それに対応する、男性の本性。
それは、以下である。
「捨て身の性質。」

（２）
女性は、以下を持つ。
「自己中心性。」（「自身は、世界の中心である。」そう考える性質。）
それに対応する、男性の本性。
それは、何であるか？

それは、以下のようになる。

（１）以下への指向。
（１－１）自身の有能性。
（１－２）その普遍的な有効性。
（１－３）そのアピール。

（２）社会的成功への指向。

この二つを合体させる。
それは、以下の表現になる。

「自身の普遍的な成功。それへの指向。」

これは、さらに、以下のように、言い換えることができる。
以下への指向。
（１）自身の存在。それを世界的に普遍化すること。
（２）それに成功すること。

これは、最終的に、以下の表現に行き着く。
「自己拡大性。」

女性は、本性として「自己中心性」を持つ。
男性は、本性として「自己拡大性」を持つ。

（初出2020年6月）

「自己保身の性」。「捨て身の性」。－女らしさ、男らしさの検討－

「要旨」
筆者は、以下の視点から、従来の性差に関する知見を、整理してまとめています。

（１）女性は、生物として、男性よりも、貴重である。
（２）女性は、守られる存在である。
（３）女性は、自己保身へのこだわりが強い。女性は、安全第一である。女性は、周囲の他者との、助け合いを好む。

従来の性差心理学においては、男女の能力差に関心が集まっていた。それは、空間認知能力、語能力などの違いであった。

男女に能力差が生じた理由として、社会では、一般的に以下のことが言われている。
（１）男性。外に出て、食糧となる獲物を調達すること。女性と子供を、外敵から守ること。
（２）女性。男性に守られながら、家庭という巣の中で、子供を育てること。
男女の性差の性差が生じた理由として、こうした性役割の差の存在が、指摘されている。

しかし、これまでは、以下のことが起きる理由については、ほとんど触れられていない。

なぜ、こうした性役割の差が、生じたか？
（例）
なぜ、男性は、外に出るようになったか？
なぜ、男性は、女性を守る必要があるか？

筆者は、上記の、男女の能力差や、性役割の差が、生じた理由として、以下の点に着目した。

（１）女性と男性との差の根源である、卵子と精子の差。
（２）その身体に、育児をするための機構が、付いているか、いないかの差。（子宮。母乳の出る乳房。）

これについて、以下に、詳しく説明する。
（１）生殖時に担う、生殖細胞のあり方の違い。男性は、精子を持っている。女性は、卵子を持っている。

このことは、次の違いに、に結びついている。
「女性は、貴重品である。」「男性は、消耗品である。」
女性の担う卵子は、男性の担う精子より、相対的に貴重である。卵子は、人口維持のための、キーとなっている。
このことは、次のことの根拠となる。
「女性は、男性によって守られる。」

（２）女性がいないと、次のことが起きる。
人間が、子供を養育する、生物としての仕組みが、働かない。（子宮で、胎児を育てること。乳児に、授乳すること。）
人間には、子供が育たない。
それは、人口維持に、直ちに影響する。
このことは、女性を、生物学的に、「貴重な資源」とさせている。
上記について、詳しくは、以下の文章を参照されたい。

「生物学的貴重性と性差」
「人間の命の重さの不平等性についての検討」

女性は、男性に比べて、より大切にされ守られる。女性は、「貴重な性」としての性質を、強く持っている。
男性、「粗末な性」である。
そうして、女性は、生物学的観点からは、男性に比べ、より上位に位置づけられる。
女性は、「貴重な性」である。女性は、生物維持という、生物にとって究極的な価値を、得ることができる。
女性は、危険にさらされる男性よりも、より高い、優先的な、地位についている。

女性は、以下のような特権を、与えられている。
男性が、社会集団の中で、「公式リーダー」の地位についている場合。
女性は、自分の生物維持のために、男性を、公然と、犠牲にすることが、許される。それは、男性が、公式リーダーであっても、許される。
女性は、男性リーダーよりも、優先して、生き延びることができる。

従来、社会的地位は、以下のように、計測されてきた。
「社会を動かす、公的組織の代表、リーダーが、上位である。」
そうして、「社会的地位は、男性が上位である。」と、捉えられてきた。

生物学的視点によって、「社会的地位の高さ」を捉える場合。
その高さは、「優先的に、生物維持を図れる度合いの強さ。」として、捉えられる。
女性は、社会の中で、より大切にされ守られる存在である。
女性は、組織の代表である男性よりも、さらに地位が上である。

「女性は、貴重品である。」という、女性の生物学的性質が、女性の行動様式を、決定している。

「女性の持つ、生物としての貴重性」が、「女らしさ」を生む、根本原因となっている。
本当の「女らしさ」は、以下の通りである。
貴重品である、我が身を守ること。自己の保身、安全に敏感なこと。「自己保身指向」、「自己保全、安全指向」。

女性は、「自己保身の性」と呼べる。

女性は、次のことを、指向する。
頑強で優しい存在（男性）によって、自分が助けられ、守られること。

女性は、「守られる性」、「助けられる性」となっている。
女性は、自分のことを、「大切な、貴重な存在」であると考える。

女性が、自分の生物を、犠牲にすることは、以下の場合に、限定される。例えば、自分の子供が、危険な状態に陥った時。

「男性は、非貴重品である。」
こうした、男性の生物学的性質は、「男らしさ」を生む原因となっている。

本当の「男らしさ」は、以下の通りである。
（１）自分の保身を考えず、捨て身であること。「捨て身への指向」。
自分以外の、貴重な存在を、守り、助けること。貴重な存在とは、例えば、以下の通りである。女性。子供。VIP。
（２）衝立、盾となること。そのことで、自己の生物を、身代わりとして投げ打つこと。自己の生物を、粗末にすること。「衝立、盾指向」。
（３）他人の助けを借りずに、一人で生き延びられること。自分の身は、自分で守れるようにすること。「自衛、自立、独立指向」。

男性は、以下のように呼べる。
（１）「捨て身の性。」。「ガードをする性。」。（他者を守衛する性。）。「エスコートをする性。」。（護衛をする性。）。「自衛の性。」。
（２）女性などの、貴重な存在を、後方にかくまう性。外敵と、直接、対決する性。外敵に対して、防御、攻撃する性。「外敵対決の性。」。
外敵は、例えば、以下の存在である。有害な、生物や人間。風水害のような、自然の猛威。

捨て身になって、女性などの、貴重な存在を、保護し、守護し、救助する性。「保護する性。」。「守護する性。」。「救助する性。」。

例えば、女性の書いたコミックで、以下の表現が、頻繁に見られる。
（１）ヒロインが、男性によって、危ない場面から、守られたり、助けられる。
（２）ヒロインは、以下のように考える。「○○君が、私を助けてくれた！○○君が、私を守ってくれた！」。
（３）ヒロインにおける、その男性に対する好感度が、急激にアップする。

女性は、その中では、以下のような願望を持つ。
「自分は、自分が囚われの身になっているところを、白馬に乗った王子に助けられたい。」
「自分は、男性に、「お姫様だっこ」されて、抱き抱えられ、守られたい。」

その中では、以下のパターンや、描写は、あまり見られない。
女性が、男性を助ける。
それによって、男性が持つ、女性に対する好感度が、上がる。

これらは、以下のことの証拠となる。
（１）女性は、「守られる性」「助けられる性」である。
（２）男性は、「守る性」「助ける性」である。

女性は、自分のことが、一番大切でかわいい。
女性は、以下のように考える。「自分の保身、安全を確保するためには、他者（男性）が、犠牲になっても、やむを得ない。」
女性は、以下の性質が強い。自己本位。自分中心。自分優先。自己愛。自己憐憫。

男性は、大切な存在（女性）のために、自分を犠牲にすることを、一方的に強いられる。

このことは、男性と女性との生得的な待遇の格差につながっている。このことは、男性差別につながっている。

こうした知見は、生物学的貴重性の立場から、書かれている。
こうした性差心理学の研究は、まだあまり見られない。

女性が「守られる性」となる要因。男性が「守る性」となる要因。それは、以下の通りである。
（１）生物学的貴重性。
（２）筋力の違い。身体のサイズ。

筋肉、筋力は、男性では、引き締まって、強い。
筋肉、筋力は、女性では、男性と比較して、より弛緩し、弱い。

人間は、環境適応において、外部の風雨や、外敵など、にさらされる。

筋力の弱い者は、環境適応において、より不利である。
それは、筋力の強い者によって、保護され、守られる必要がある。

筋力の弱い女性は、筋力の強い男性によって、その外界を守られる。
筋力の強い男性は、外敵や、風雨に、直接対処する。彼は、強い力で外敵を倒し、風雨等を防ぐ。彼は、女性を守る。
女性は、より内側にいる、筋力のない、無力な存在である。
従来、次の区別がなされてきた。「女性は、内側にいる存在である。」「男性は、外側にいる存在である。」
その区別は、上記の理由で、行われている。

男性は、強い筋力を、本来、外敵や、風雨などから、女性を守るために、使うべきである。
しかし、男性は、それを、女性を攻撃して、服従させ、支配するために用いることもある。
それは、例えば、以下の通りである。家庭内での、ドメスティックなバイオレンス。強姦。

そこで、以下の考え方が、女性、男性双方の間に浸透している。
「男性が、生まれつき筋力の弱い女性を、その強い筋力で抑えつけることは、アンフェアである。」
「男女の喧嘩は、口頭での論争で、済ませるべきである。」
女性は、男性に比べて、生まれつき、滑舌で、ペラペラと口が回る。
口頭での攻撃については、女性は、有利である。それについて、男性は、不利である。

「背丈などの身体のサイズ」について。男性は、大きい。女性は、小さい。
身体のサイズの大きい者は、小さい者の「盾」となる。身体のサイズの大きい者は、小さい者を、外敵や風雨から、守ることができる。

こうしたことは、男性を「守る性」としている。このことは、女性を「守られる性」としている。

社会においては、「女子供」という言い方が使用される。社会では、女性と、子供を、一緒にして捉える。

女性は、母親として、子供を養育する、「子守の役」に回ることが多い。
女性は、「子供と一緒にいること。」が多い。

これとは、別の理由も、ある。
女性と子供の間には、共通性が多い。
子供も、女性も、同様に、「守られる存在」である。
子供は、子供を生んだ若い夫婦にとっては、以下のような存在である。
「かけがえのない貴重品としての存在。自分の命と引き換えにしても、惜しくない存在。生きる望みの源である存在。」
子供は、それゆえに、大切に扱われる。

子供は「無力な存在」である。
子供は、体が小さく、未熟で、筋力とかが弱い。
子供は、まだ生活能力が十分発達していない。子供は、自分一人だけでは、生きていけない。
子供は、それゆえ、力が十分強い者によって、保護される必要がある。

こうして、子供は、貴重性、弱者性を持つ。
女性は、生物学的に、「貴重性」を持つ。女性は、一種の、「弱者性」を持つ。それは、筋力の弱さや、体の小ささに基づく。
それゆえ、子供と、女性は、性質が、共通している。

こうした、貴重性、弱者性は、女性と子供を、共通に「守られる存在」としている。
それゆえ、女性と子供は、「女子供」と、一括りにされる。

Ａ．「女らしさ」の検討
「女性は、貴重品、守られる性、保身の性である。」
筆者は、この視点から、「女らしさ」を、以下に、箇条書きの形で、まとめた。

◎Ａ１．「自己の貴重視」
女性は、自分のことが一番貴いと考え、他者に大事、大切に扱ってもらいたがる。

(1)	被保護指向	女性は、自分が周囲の人間によって、「貴重な存在として、守られること。助けられる立場に回ること。」を根源的に望む。
(2)	高貴指向	女性は、自らを高貴な存在と見なす。（お姫様。お嬢様。）。女性は、プライドが高い。(お高く止まる度合い。誇り。自慢の度合い。)
(3)	上品指向	女性は、自らの品位の高さに気を配る。女性は、高貴、上品と思われたがる。女性は、書物やビデオなどに、品位を欠く表現がないかどうかを、うるさくチェックする。
(4)	礼儀敏感性	女性は、自分に対する礼儀にうるさい。女性は、互いに、相手が自分に失礼でないかに、敏感である。

(5)	自己本位、自己愛指向	女性は、自分のことが一番かわいい。女性は、自分のことが一番大切である。女性は、鏡に映る自分の姿に見とれるなど、自己愛が強く、ナルシストである。
(6)	弱いふり指向	女性は、以下のように考える。「もしも、私が、社会の中で、自分が強者であることを、認めたとする。すると、私は、誰にも守ってもらえなくなる。」。女性は、例え強者の立場にいても、弱い振りをして、男性などに、守ってもらおうとする。女性は、定住生活様式優位社会の女性のように、男性より強くても、そうする。女性は、被支配者として、扱われたがる。女性は、力のか弱い感じを好む。

◎Ａ２．「安全第一指向」
女性は、何事も安全第一で、危険を冒そうとしない。（危険回避指向）。女性は、失敗を怖がり、避けようとする。（失敗回避指向）。 女性は、自分が、新たに物事を始める際に、慎重であり、選択が保守的である。（慎重、保守指向）。

○Ａ２－１．「前例、退嬰指向」
女性は、どんな危険や失敗が待ちかまえているか知れない、未知の対象や状況を避ける。女性は、そこそこ恵まれた、今までの状態が、今後も続くのを望む。
女性は、前例に従うことを、何よりも重視する。前例は、「既に、その通り実行すれば、安全で問題がないことが、確立されている、行動様式。」である。女性は、前例から外れる、新しいことを行うのを、嫌い、避けようとする。
女性は、今までしたことのない、新しいことに、自分が入って取り組むことを、躊躇し、怖がる。女性は、それを、誰か他の人がやってくれないかと、考える。女性は、その実行を、他者に転嫁しようとする。（退嬰性）。女性は、先輩の作った、すでに安全性が確認されている、前例、しきたりを守る。女性は、そこから外れたことを、しようとしない。女性は、他者による成功例の模倣に長けている。女性は、試行錯誤をいやがる。女性は、それが必須となる独創性を重んじない。女性は、前例をよく知っている人を尊敬する。女性は、何もない状態から、何かを作り出す人を、軽んじる。女性は、前例をよく知っている先輩と、そうでない後輩との間で、支配、従属の関係や、上下関係がきつい。それは、学校ばかりでなく、家庭の中の嫁姑関係も、同じである。（先輩後輩制の重視。年功序列の重視。）
女性は、新たな物事を行うため、前進する必要がある。女性は、その際、一番手になることを嫌い、二番手となることを好む（二番手指向）。一番手は、まともに風を食らう、ハードな環境で、過ごさなければならない。二番手は、防風役の一番手が前にいることによって、直接風を受けなくて済む。二番手は、より楽で、安全な環境で過ごせる。女性は、誰かが、失敗を繰り返しながら、未知の新しいこと（製品作りなど。）に挑戦している間は、じっと待って傍観を決め込む。女性は、「それは、成功した。」と捉えた瞬間に、そのパイオニアの行動を、一斉に真似る。女性は、それに、ちょっとだけ改良を加える。女性は、そうした成果を、社会に送り出す。女性は、結果として、一番手のパイオニアを駆逐する。（コピー、物真似指向）。
女性は、現在のそこそこ恵まれた環境からの変化を好まない。女性は、例えば、現在の地位や所属を捨てて、新しい環境へと冒険することを好まない。女性は、安定した環境に、自分や、自分の家族が、ずっとい続けることを望む（安定指向）。これは、例えば、大企業や役所への勤務を続けることである。女性は、そこそこ居心地よい現状が、

そのまま変革されずに続くことを好む。（保守、現状維持指向）。これは、「好条件の環境に、い続けたがること。」という点で、「２．５。温室指向。」と、関連する。
女性は、安全第一で、危険を回避する。女性は、未知の領域、分野に踏み込んで、探検しようとしない。未知の領域は、どんな危険が待ち構えているか分からない。女性は、未知の領域、分野に入ることで得られる、新しい境地、知見に、最初に接することができない。男性は、最初に、そうした新しい知見、発見に接することができる。女性は、その点、男性に比べて、新しい知見を得るのが必ず一歩遅れる。その点、技術、文化の発展において、「女性。女性が強い社会。」は、「男性。男性の強い社会。」に比べて、必ず、後進的になる。（文化的後進性）。

○Ａ２－２．「権威、強権追従指向」
女性は、「権威者、強権者の後をついていれば、我が身の安全が保たれる。」と考える。女性は、それを積極的に実行する。
女性は、「強い者」に惹かれ、なびく。（例えば、強権者、権力者など。）。女性は、強権、主導権の持ち主に、心がときめき、好きになる。強権、主導権の持ち主とは、強引に、物事（例えば、デートの手順など。）をどんどん進め、自分たちを積極的にリードしてくれる存在である。それは、特に異性である男性である。その行為は、例えば、「壁ドン」である。女性は、強権政治、独裁政治を心の底で希望する。女性は、強者を「上位者」と呼んで敬い、従う。女性は、強者がもたらす文化、文物を愛好する。強者は、例えば、欧米列強とかである。
女性は、権威者や権威ある集団（家元など）の後を追随したがり、お上の権威やブランドに弱い。（ブランド指向）。権威者は、例えば、先生、上役である。権威ある集団は、家元などである。女性は、自分のこれからの行動を、自分を守ってくれる権威者に、決めてもらおうとする。女性は、権威者の決めた規則に対して、従順であり、それを、よく守る。（規則遵守指向）。女性は、規則が自分の真意に反している場合、表向きは従い、反抗しない。しかし、女性は、そうすることで、ストレスがたまる。すると、女性は、裏で、陰口を叩く。（面従腹背）。
女性は、強者、権威者と結婚して、自分の子孫を残そうとする。女性は、自分自身の存在を、権威ある者、強い者と、不可分に一体化する。女性は、自分自身の生きた証を、以下の形で残す。「自己と、権威者、強権者とを、同一化すること。」。自分自身の生きた証とは、社会に広めるべき、自分自身の「コピー」である。

○Ａ２－３．「責任の回避。責任を免除されること。」
女性は、失敗したときに、責任を取らされて、社会的生物を断たれることを恐れる。（周囲の皆から追放処分に会うこと。社会の中で、公然と生きて行けなくなること。皆から見限られて、いざという時に、助けてもらえなくなること。糾弾、嘲笑、処罰、失脚の対象になること。）。女性は、そうした、危ない、恥ずかしい目に会わないようにしようとする。女性は、そこで、責任を回避する。女性は、社会から、そもそも、責任を取らなくて良いように、してもらう。女性は、責任を、免除される。

(1)	責任回避指向。責任転嫁指向。	女性は、失敗したとき、自分からは、責任を取ろうとしない。女性は、以下のことを望む。「誰か他の人が、責任を代わって取ってくれたらいいな。」。女性は、責任を他者になすりつける。（責任転嫁）。女性は、それを、周囲との連帯責任に、持ち込む。

(2)	受動指向。（受け。）	女性は、以下のように考える。「もしも、私が、自ら進んで行動を起こすとする。すると、私は、取った行動に対して、より大きな責任が生じてしまう。」。女性は、自分からは行動を起こさない。女性は、受動的な、受け身の態度を示す。
(3)	高地位回避指向。	女性は、大きな責任が生じる、社会的に公式の高い地位、役職につくことを、進んで避ける。女性は、責任者になろうとしない。女性は、「主」の責任者ではなく、「副」の責任者になろうとする。女性は、男性を、責任の伴う、公式に高い地位へと、積極的に追い立てる。女性は、自分たちは、責任を取らなくて良い、気楽な立場を、維持しようとする。
(4)	あいまい指向。間接指向。	女性は、以下のように考える。「もしも、私が、直接的で明快な態度を取ったとする。すると、「私が取った行動に対する責任」が、より明らかになってしまう。」。女性は、間接的で、遠回しで、玉虫色の、あいまいな態度を、取ろうとする。
(5)	自己決定の欠如。服従指向。（マゾヒズム。）	女性は、自分で、自分の将来や、取るべき行動を、決めようとしない。女性は、それを、周囲の他者に決めてもらおうとする。女性は、有力な他者の決定に、素直に、一方的に、ハイハイと服従する。女性は、他者の言うことを聞く。女性は、マゾヒストである。女性は、いざ失敗したら、決めた他者の責任とすることができる。女性は、そうすることで、自分は、責任を逃れることができる。女性は、占いを好む。占いは、自分の将来取るべき行動を、アドバイスしてくれる。女性は、他者に何でも決めてもらう。そうして、女性は、以下のような「被害者意識」を抱きやすい。「私は、他者に操られている。」。
(6)	決断回避指向。決断の先送り。	女性は、自分からは、進んで決断することをしない。女性は、決断を先送りする。女性は、以下のように考える。「もしも、私が、自分で決断したとする。すると、私は、その判断について、責任を問われてしまう。」。女性は、それをいやがり、避けようとする。
(7)	支配の非公式性。	女性は、以下のように考える。「もしも、私が、自ら公式に、社会の支配者であることを、認めるとする。すると、私は、社会に対する、『支配していることへの、結果責任』が生じてしまう。」。そこで、女性は、自分が、実際に、支配する立場にいても、これを、決して認めようとしない。女性は、以下のように主張する。「社会の支配者は、あくまで男性である。」。（例えば、日本社会では、女性、母性が実質的に優勢である。女性フェミニストは、そこで、こうした主張をする。）。女性は、社会を支配するとき、「非公式な支配」を行う。女性は、自分では、責任を伴う、公的な組織の代表にはならない。女性は、代表になった男性の「管理者」になる。（例えば、母親や妻。）女性は、責任からは自由になった状態で、社会を支配する。

○Ａ２－４．「高不安性」

女性は、自分の周囲に存在する、危険の可能性に対して、敏感である。女性は、自分がいつ危ない目に会うか、そのことに専ら注意が向く。女性は、怖がり、臆病な態度を示す。女性は、身の安全確保に対する確信が持ちにくい。女性は、自身の保身を脅かす対象が、いつ自分の近辺に現れるか、分からないと考える。女性は、怯える。女性は、自分を守ってくれるシェルター役の存在を望む。それは、自分のことを、ボディガード、エスコートしてくれる存在である。それは、特に、男性である。

○Ａ２－５．「内部指向」
女性は、以下のことを指向する。「よりよい条件の下で、生き延びること。」。女性は、苛酷な外部環境に、直接さらされるのを避ける。それは、冷たい外の風などである。女性は、温かさが常時保たれる内部領域に留まろうとする。それは、外部環境から遮断されている。女性は、ピンク、赤のような暖色、心理的な暖かさを好む。（温室指向。）。
女性は、表面に露出することを避ける。それは、自己の属する家族や組織の表面である。女性は、表面に露出すると、外部の、見知らぬ、危険かもしれない、よそ者、外敵と、直接向き合う必要が出る。女性は、内部、奥に止まろうとする。（表面回避指向。）。例えば、日本において、主婦のことを、「奥さん」と呼ぶ慣行など。女性は、代表になることを避けようとする。それは、自己の属する家族、組織の代表になることである。代表は、組織の顔として、外部に直接露出する立場である。（代表回避指向。）。
女性は、戦争やビジネス戦線とかで、銃弾が飛び交う、危険な前線には、直接出ようとしない。女性は、専らエネルギー供給、飲み物配給等の、後方支援に回る。（後方支援指向。）。
女性は、ターゲットが外界に露出しないようにする。ターゲットとは、ドアの取っ手、プリンタ等の家電製品、女性の自分自身などである。女性は、それらの保護、隠蔽、ほこり除けをする。女性は、それらに、カバー、シート、覆いを掛けて、被せることを好む。（カバー指向。露出回避指向。）。

◎Ａ３．「心理的近接」 女性は、互いに心理的に近づき合い、一体化し、助け合おうとする。

○Ａ３－１．「人間関係への指向」
女性は、人と人との間を互いに結びつける。女性は、人々が互いに協力し合って、環境適応上の困難を克服できるようにさせる。女性は、互いに関係を取り合う。女性は、いざという時に互いに助け合うことができるようにする。

(1)	関係構築指向。関係維持指向。（関係の本質視。）	女性は、人間関係に長じる。女性は、関係を持つこと、そのものを重視する。女性は、人間自体に興味を持って、近づこうとする。女性は、人形遊びのように、人間をかたどったものに、関心がある。女性は、人間とはかけ離れた、機械的なメカとかには、関心がない。女性は、人間関係を断たれることに弱い。女子いじめの手段としては、無視が、効果的である。女性は、一人孤立したままい続けることが難しい。女性は、常に、他者との関係を維持することを求める。

(2)	親密指向。馴れ合い指向。仲良し指向。相互タッチ指向。	女性は、互いに、ベタベタくっつき合うことを好む。女性は、人間関係が、濃密、濃厚である。女性は、人間関係が、ウェットである。女性は、互いに、周囲の他人に心理的に近づいて、親密な関係を保とうとする。女性は、互いに馴れ合おうとする。女性は、仲良し集団を作ろうとする。女性は、互いの親密さを、無限に追求しようとする。そうして、女性は、相手が、他に親密な相手ができると、嫉妬する。女性は、同性の友人同士、手をつなぎ合って帰る。女性は、互いの肌を触れ合うことが、自然である。女性は、相互のタッチを、好む。女性は、親和欲求が強い。
(3)	自己開示指向	女性は、自己開示を好む。女性は、自分のことを、相手によりよく理解してもらおうとする。女性は、そうして、自分と相手との距離を縮めようとする。
(4)	コミュニケーション指向	女性は、人間関係を強化して、いざというときに連帯、協調して助け合いやすくする。そのため、女性は、他人とのおしゃべり、コミュニケーションが好きである。（コミュニケーションの本質視。）。女性は、しゃべること自体が、自己目的化している。女性は、他者とのコミュニケーションがしつこい。女性は、なかなか、互いに話を切ろうとしない。
(5)	配慮指向。気配り指向。親身指向。ケア指向。	女性は、周囲の他者との良好な関係を保つ。女性は、絶えず、周囲に配慮、気配りする。あるいは、女性は、配慮、気配りしているという姿勢を、周囲に対して、見せようとする。女性は、困っている他者とかを、親身になってケアしようとする。女性は、周囲の他者を、自分の注意の対象、ケアのスコープ内に含め、内包する。女性は、そうして、他者と、心理的に一体化しようとする。
(6)	依存指向。甘え指向	女性は、周囲の他者と、心理的に近くにいようとする。女性は、誰かに、依存しよう、甘えようとする。女性は、互いに、依存しよう、甘えようとする。（女性は、「甘えの性」である。）。女性は、独立自立の精神に欠ける。女性は、孤独を耐え忍ぶ精神に欠ける。女性は、誰かに守ってもらわないと、不安で仕方がない。
(7)	表面的過剰自立指向	女性は、周囲の他者と、仲良く相互依存して、生きていく。もしも、女性が、何らかの形で、周囲の他者の援助を、得られなくなったとする。（女性は、例えば、今まで所属していた集団から外れる。）そこで、女性は、何とか、一人で、自立して、生きていこうとする。そうした女性は、男性に比べて、肩に力が過剰に入ってしまう。女性は、ヒステリックに、次のように、決めつける。「私は、ひとりぼっちなんだ。誰も、私のことを、助けてくれないんだ。」。女性は、見かけ上、過剰に自立した態度を取る。しかし、女性は、本当は、誰かに助けてもらいたくて、仕方がない。女性は、男性に比べて、悲壮な覚悟を決めがちである。男性は、独力で生活していくことに、自然でいられる。

(8)	安定組織所属指向	女性は、以下のことわざに従う。「寄らば大樹の陰。」。女性は、中央官庁や大企業のような安定した集団に所属しようとする。女性は、いざというとき、同じ集団に属しているということで、集団メンバーが、自分のことを助けてくれることを望む。女性は、自分の後ろ楯となってくれる集団が、潰れにくいことを指向する。女性は、以下の状態が永続することを望む。「その集団が、私を守ってくれる状態。」。
(9)	反プライバシー	女性は、周囲の他者との間で、互いに、互いをチェックし合うことを好む。女性は、互いに、相手が今何をしているか見えない個室をいやがる。女性は、大部屋で、皆がいることを好む。女性は、他人の噂話をするのを好む。女性は、プライバシー侵害の概念に疎い。
(10)	注意誘引指向	女性は、自分の存在を、周囲にアピールして、他者に気づかせる。女性は、周囲の他者が、自分のことを助け忘れることを防ごうとする。女性は、自分に対して、他者の注意を、引き付けようとする。女性は、他者に対して、自分へと興味を、集中させようとする。女性は、ヒステリーを起こす。女性は、周囲の視線が、自分に集まるようにする。女性は、周囲の気を引くことを好む。女性は、以下のことが快感である。「周囲に、私のことを見られること。」。女性は、化粧や服飾に対して強い興味を示す。化粧や服飾は、他人の視線を前提とした、自己呈示の方法である。
(11)	中心人物化指向	女性は、以下のことを目指す。「周囲から、注目を集めること。周囲から、ちやほやされる、対人関係面での、中心人物となること。」。女性は、そうした人物を、勝者、成功者と見なす。
(12)	「評価、期待」への敏感さ	女性は、以下のことを、しきりに気にする。「他人に、私は、どう見られているか？他人に、私は、どう思われているか？」。女性は、周囲による、自分に向けられる視線が気になる。女性は、盛んに恥ずかしがる。（女性は、日本のような「恥の文化」の立役者である。女性は、「恥の性」である)。女性は、他者に対して、視線恐怖を起こしやすい。女性は、周囲による、自分への期待に敏感である。女性は、周囲の他者に、気に入られようとする。女性は、周囲の他者に、受け入れてもらおうとする。
(13)	感情、情緒指向	女性は、物事や他人を、好きか嫌いかで、感情的、情緒的に捉えようとする。女性は、次のどちらかしかできない。「対象との距離を、近づけようとするか、それとも、遠ざけようとするか。」「対象に、入れ揚げようとするか、それとも、離れよう、避けようとするか。」（対象への心理的近接、および忌避）。女性は、公平、中立な態度が取れない。女性は、物事を、距離を置いて見ることができない。女性は、人や物事への距離感が欠如している。
(14)	主観、直観の重視	女性は、客観的、科学的な論理の振り回しを好まず、主観的勘に基づいた直観的判断を行うのを好む。客観的、科学的視点を取るためには、他者との関係で、冷静に一歩引くことが必要である。
(15)	関係粘着、しつこさ指向	女性は、いったん自分とつながった、関係を持った相手や対象に、いつまでも、しつこく、付きまとおうとする。（ネット掲示板など）。女性は、いったん始めた会話を、話題を変えて、いつまでもしつこく続けようとする。

○Ａ３－２．「心理的集合、密集、一体化」

女性は、独りでいることを避ける。女性は、そうして、不安から逃れようとする。それ

は、「誰も、自分を助けてくれない。」という不安である。女性は、周囲の他者と近接する。そうして、女性は、「周囲の皆と一緒にいる」という一体感を持つことができる。女性は、そうして、安心感に浸ることができる。それは、次のような、安心感である。「自分は、独りではない。」。「自分は、互いに困ったときに、助けてもらえる。」。

(1)	集団主義	女性は、集団を維持すること自体を好む。集団は、周囲の他者と物理的、心理的に近づいた状態である。女性は、いつも集団で行動することを好む。女性は、集団、団体でまとまっていることが好きである。女性は、トイレに行くのに、1人ではなく、複数人で連れ立って行く。女性は、食事を仲良しグループで、固まって取る。女性は、集団から外れることを恐れる。
(2)	同調、迎合指向	女性は、周囲で流行っていることを、自分もやろうとする。女性は、周囲の服装などの流行にうるさく、細かくチェックしようとする。女性は、周囲に対して同調性が強い。女性は、周囲の動向に自分が付いて行けないことを恐れる。女性は、周囲の動向に自分を合わせる。女性は、自分を周囲の他者と一緒、一体化しようとする。女性は、周囲との調和、和合を保つことに心を砕く。
(3)	密集指向	女性は、周囲の他者と一緒に狭い空間内にいる、密集状態を好む。その傾向は、男性よりも強い。
(4)	メジャー指向。多数派追従指向。	女性は、周囲の皆が採用する、多数派、主流派に当たる事物の方を、自分も進んで採用しようとする。女性は、多数派になろうとする。女性は、そうして、自分と同じ考えの仲間が、数多く存在することを好む。
(5)	「相互一体化、融合化」指向。（一体感の重視。）	女性は、対象との距離をより近く取ろうとする。女性は、対象との一体、融合化を指向する。女性は、相手との一体感を偏重する。女性は、「愛」という言葉を使うのが好きである。女性は、物事に対して客観性が欠如している。女性は、客観的な見方ができず、非科学的である。女性は、宗教、迷信を信じやすい。女性は、対象を自らと一体化し、包み込み、呑み込む態度を取りやすい。従来、母性や愛情と言われてきたのがこれに当たる。女性は、対象となるものを受容し、受け入れることに長けている。女性は、心理的に一体化しやすいものや、抱きしめたいものを、「かわいい」と言って好む。女性は、恋人とかとのドロドロした愛憎関係を心の底で好む。
(6)	コピー指向	女性は、他人が身につけた優れたアイデアを、自分も直ちにコピーして身につけようとする。女性は、コピーすることで、一体感を相手に示そうとする。それは、次のような、一体感である。「私もあなたと同一、同質になった。私はあなたに追いついた。私とあなたは、一緒だね。」。女性は、周囲の流行を追おうとする。女性は、周囲の動向を、安直にコピーすることに忙しい。女性は、大元のアイデアを考え出した人のオリジナリティには、余り考えが及ばない。
(7)	閉鎖、排他指向	女性は、閉鎖的、排他的な仲良しグループを形成する。女性は、いつも、そのメンバーでいようとする。女性は、閉じた空間、メンバーに限定された中で、い続けようとする。女性は、同じ仲間と、繰り返し、息の詰まるような、相互の親密さを追求しようとする。女性は、よそ者の加入をいやがる。女性は、以下のように考える。「もしも、私が、グループに、よそ者を入れるとする。すると、そこでは、今まで私が仲間と作り上げてきた、「親密な雰囲気」が失われる。」。

(8)	相対評価指向	女性は、自分の評価を、周囲の仲間と序列づけて比較する形で行う。女性は、閉じた集団、仲間の中で自分が何番目にいるか、ということにうるさい。もしも、一緒に同席している女性集団の中で、一人がほめられるとする。そうなると、他の同性の仲間は、自分がより低く扱われたとして、機嫌を損なう。女性において、もしも、他者が自分よりちやほやされ、優遇されたとする。女性は、その他者を、ライバル視する。女性は、その他者の足を引っ張る。女性は、自分の方が格上であることを示そうとして、その他者に対して、競争心を燃やす。
(9)	規制、横並び、平等指向	女性は、以下のことを、避ける。「各々が自由競争を行うこと。そのことで、互いの間に大きな格差が生じて、敗者の心の中に、勝者に対する嫉妬心が芽生えること。そのことで、互いの仲の良さ、一体感、調和、協調が崩れること。」。女性は、競争を好まない。（非競争指向。）。女性は、以下のことを求める。「なるべく、相互の間に格差が生まれないこと。相互が、横並び、平等になること。」。女性は、護送船団、談合方式の規制をかけようとする。女性は、突出者の足を引っ張って、皆と平等の状態に戻そうとする。女性は、次のことわざを、実践する。「出る杭は、打たれる。」。
(10)	ソフトな感触への指向。柔軟指向。	女性は、互いに近接して存在するときに、相互にぶつかっても心地よい感触を保てるようにする。女性は、人当たりをソフト、柔らかにする。女性は、肌にソフトな柔らかい感触をもたらす、ぬいぐるみなどを好む。女性は、一見弱い。しかし、女性は、次の強さを持つ。「柔らかく、しなやかで、力が加わっても折れないこと。」。
(11)	所属指向	女性は、どこかのグループに必ず所属しようとする。女性は、次のことを、何よりも恐れる。「どこのグループにも入れてもらえず、孤立無援の状態に陥ること。」。女性は、自分が所属する集団の格付けを、盛んに気にする。（例えば、学校、会社など。）
(12)	仲良し、結束強調指向	女性は、自分が所属するグループ内の仲の良さ、和合、結束の強さを、対外的にアピールしたがる。女性は、互いの持ち物を、揃える。
(13)	陰口、いじめ指向	女性は、グループ内の不満を、グループ外に表面化、表沙汰にしない。女性は、グループが、表面上はうまく行っているように、取り繕う。女性は、皆が仲良しであることを強調する。女性は、裏で、陰口を叩いたり、悪口を言ったりする。女性は、周囲の目に触れないところで、不満の捌け口となる、スケープゴートを作る。女性は、その人を、みんなで寄ってたかって、いじめる。
(14)	排除回避指向	女性は、自分が所属するグループから排除されて、仲間外れにならないように気を遣う。女性は、グループの主流派に、おべっかを使う。女性は、スケープゴートの悪口を、一緒になって言う。
(15)	突出者排除指向	女性は、所属する集団の中で、「限度を超えて突出した者。個性が強すぎる者。」を、「その場の調和、和合、一体感を乱す者。」として非難し、集団から追い出す。
(16)	護送船団指向	女性は、自己保身のために、互いにまとまって、船団のような集団を作ろうとする。
(17)	和合、調和指向	女性は、互いに和合する。女性は、相互の一体感、調和を強調する。女性は、相互に馴れ合った状態を、持続させようとする。

(18)	自由競争の回避。横並び指向	女性は、互いの歩みを横並びに揃えて、グループを維持する。女性は、そうして、自由な競争を、回避しようとする。

○Ａ３－３．「注意の近視性。表面的な注意。注意の末梢性。」
女性は、物事に対する興味を、自分の身の回りの狭い安全な範囲に、限定し集中させる。
女性は、ものの見方が近視眼的である。女性は、以下のところに、専ら注意が行く。「今いるところから近距離の空間。今いるところから短時間で手が届く範囲。」。女性は、そこで、実用性に富む判断をする。しかし、女性は、遠大な計画性に欠ける。（近距離指向。短時間指向。）。女性は、物事の細かいところ、瑣末な枝葉のポイントにこだわる。女性は、それを、きびしくチェックしようとする。例えば、姑による嫁いじめなど。（詳細、細密指向。）。女性は、大局的な視点に欠ける。（末梢、末端指向。）。女性は、ものごとの本質を追わず、枝葉末節の飾りにこだわる（装飾重視指向）。女性は、身の回りの品を購入する場合、その品物の持つ機能については、関心が薄い。（例えば、品物が、自分による環境への適応にどう役立つかなど。）女性は、その品物に、どんな飾りが付いているか、見栄えはどうかに関心が行く。（例えば、品物の、ファッション、デザインなど。）（機能軽視指向。）。女性は、ものの見方が近め、浅め、表面的である。（思考の奥行きの欠如）。
女性は、自分の身辺の狭い、薄い範囲に注意が集中する。女性は、身の回りの、ちょっとした雰囲気の変化に、敏感である。女性は、身辺の状況変化を感じ取る、皮膚感覚に優れる。（身辺敏感指向。）。

○Ａ３－４．「スケールの小ささ(限定分布性)」
安全が確保される領域は、そうでない領域に比べて、小さく、限定されている。その中での自己実現のスケールは、自ずと小さく、ちまちまとしたものとなる。女性は、そうした安全領域にいるのを好む。
女性は、安全性が確保された狭い領域内に、自ら限定して分布しようとする。女性は、安全枠の外に出ようとしない。女性は、限定された小さな領域の枠内で、以下のことをしようとする。「自己実現をすること。成果を出すこと。」。女性は、安全枠内に囚われた形で物事を考える。女性は、自身が生み出す成果、生産物が、以下のものになる。「スケールが小さいもの。壮大さに欠けるもの。繊細なもの。」。女性は、「かわいい」ものを好む。それは、小ぶりで、スケールがこじんまりと小さくまとまったものである。（かわいさ指向）。
女性は、巨大組織にはあまり興味がない。女性は、範囲の狭い、こじんまりとした、アットホームな集団、ないし縁故ネットワークを好む。女性は、その中で、主導権、支配力を握ることを指向する。（例えば、小さな会社や、NPO。）

◎Ａ４．自傷回避指向
女性は、貴重品としての自分が、外的な力で傷付くことを、恐れ、回避しようとする。

(1)	衝突回避指向	女性は、相手とぶつかることで、自分に傷が付いたりや割れができたりすることを、避けようとする。

(2)	静的指向	女性は、むやみに速く動くことを避ける。女性は、そうして、何かにぶつかった際に、大きな傷を負わないようにする。女性は、静かにじっとしていることを好む。女性は、ゆっくりと慎重に動こうとする。女性は、落ち着いた、丁寧な、雅やかな挙動を取ろうとする。
(3)	繊細指向	女性は、自分のことを、繊細で傷つきやすい存在と捉える。女性は、自分に傷が付かないように、大切に気を配る。女性は、がさつな行動を忌避する。女性は、描く線が、か細く、繊細である。（例えば、女性コミック作家による、絵による、キャラクタの描写。）
(4)	非破壊、共存指向	女性は、次のことを、しようとしない。「相手を破壊すること。相手を割ること。」。女性は、相手を、ありのままの形で受け入れ、共存しようとする。

Ｂ．「男らしさ」の検討

「男性は、非貴重品である。男性は、「守る性。ガードの性。守衛の性。」である。

筆者は、この視点から、「男らしさ」を、以下に、箇条書きの形で、まとめた。

◎Ｂ１．「自己の非貴重視」

男性は、女性や、その他の重要人物のことを、大事、大切に扱い、守ろうとする。男性は、そのために、自分が粗末な扱いを受けても構わないと考える。（例えば、命を落とす、怪我をするなど。）

(1)	守衛、保護指向	男性は、以下の存在を守ることを、根源的に望む。「周囲の、貴重な存在として、守られる、助けられるべき立場の人物。」。（例えば、女性、VIP、子供など。）
(2)	非高貴指向	男性は、自らを粗末な存在と見なし、高ぶらない。男性は、気さくである。
(3)	下品容認指向	男性は、自らの品位の高さをさほど気にしない。男性は、下品でも構わないとする。
(4)	無礼容認指向	男性は、自分に対する礼儀が守られるかどうかをさほど気にしない。男性は、互いの態度が多少無礼でも構わないとする。
(5)	強がり指向	男性は、自分が社会の中で守衛、防衛、保護者として役立つことをアピールする。男性は、例え、社会的に、女性より弱者の立場にいても、女性よりも強い振りをする(強がる)。（例えば、定住生活様式優位社会における男性など）。男性は、自分のことを強者、支配者として扱ってもらいたがる。

◎Ｂ２．「安全提供指向」
男性は、自分より貴重な存在の身の安全を守ることに心を砕く。男性は、そのために危険に直面することを厭わない。（危険直面、対峙指向）。男性は、失敗を恐れず、果敢に立ち向かっていこうとする。（失敗直面、対峙指向）。

○Ｂ２－１．「リスク、危険、未知指向」
男性は、どんな危険や失敗が待ちかまえているか知れない、未知の対象や状況を解明しようとする。男性は、自分自身を、実験台上のモルモットと見なして、それに、積極的に挑もうとする。男性は、そうして失敗を繰り返す。男性は、以下の可能性を、より高めようとする。「守ろうとする存在が、生存できる可能性。」。男性は、そのための工夫や方策を見出す。
男性は、未知の分野で業績をあげることに長けている。それは、すでに安全性が確認されている前例から外れた、今まで誰も入ったことのない分野である。男性は、次の領域、空間を探検するのを好む。それは、誰も入ったことのない、未知の、どんな危険が待ち構えているかも知れない領域、空間である。（探検指向。）。男性は、失敗を恐れず冒険、挑戦するのを好む。（冒険、挑戦指向）。男性は、試行錯誤が必須となる独創性を重んじる。（独創指向。）。男性は、前例をよく知っている先輩と、そうでない後輩との間で、支配、従属関係や、上下関係が緩い。男性は、年少者でも、独創的な成果をあげた者は、上位者扱いする。（年功序列の弱さ。）。
男性は、新たな物事を行うため前進するのに、一番手になることを厭わない。一番手は、まともに風を食らうハードな環境となる。（パイオニア指向。）。
男性は、現在の環境からの変化を好む。（例えば、現在の地位や所属を捨てて、新しい環境へと冒険することなど。）。男性は、絶えず新天地を求める。男性は、そこそこ居心地よい現状についても、積極的に変革していこうとする。（変革指向。）。
男性は、未知の領域、分野に進んで入る。男性は、そうして、新しい知見を真っ先に得ることができる。男性は、より先進的な文化、技術を持つことができる。（女性は、そこには、進んで入ろうとしない。）（文化的先進性。）。
男性は、自分自身の生きた証を、以下の形で残す。「独力で切り開いた、独創的な成果。」。それは、社会に広めるべき、自分自身のコピーである。

○Ｂ２－２．「権威非追従指向」
男性は、権威筋の他者によって、自分を守ってもらうことを好まない。男性は、自分の身は自分で守ろうとする。（自己防衛指向。）。
男性は、以下のことを好まない。「自己保身のために、権威者の後を追随すること。」。男性は、権威に反逆する。男性は、権威筋とは別の独自の道を歩もうとする。
男性は、相手に権威のあるなしで、相手の評価を変えることをしない。男性は、相手が権威者かどうかに影響されない。男性は、公平、客観的な評価を、相手に対して下そうとする。（権威からの非影響性。）。男性は、権威者の後ろ楯のない、無名の新人でも、才能があれば、積極的に評価する。（無名者評価指向。）。

○Ｂ２－３．「責任受容」
男性は、失敗したときに、責任を積極的に取る。男性は、責任を取ることで、危ない目に直面することを厭わない。男性は、自分自身が、社会的生物を断たれることを厭わない。（例えば、組織内での地位や、社会的な評判を失うことなど。）男性は、自分が責任を取ることで、周囲の守るべき他者に責任が及ばないようにする。男性は、そうして、その他者を、守ろうとする。



(1)	責任取得指向	男性は、失敗したとき、自分から進んで責任を取る。男性は、責任転嫁をしない。男性は、責任は一人で取る。男性は、周囲との連帯責任に持ち込むことはしない。（責任単独取得指向。）。
(2)	能動指向(攻め)	男性は、自ら進んで行動を起こす。男性は、取った行動に対して、より大きな責任が生じてしまうことを、恐れない。男性は、失敗覚悟で、積極的に攻める。
(3)	高地位就任指向	男性は、大きな責任が生じる社会的に公式の高い地位、役職に進んでつこうとする。男性は、責任者になろうとする。男性は、「副」責任者ではなく、「主」責任者になろうとする。
(4)	直接、明快指向	男性は、以下のことを、あえて受容する。「直接的で明快な態度を取ることで、取った行動に対する責任が、より明らかになってしまうこと。」。男性は、以下のメリットを、以下のデメリットよりも、優先する。「態度を直接化、明確化することで得られる、業務効率化のメリット。」。「失敗時に、責任を追及される矛先となってしまう、デメリット。」。
(5)	自己決定指向	男性は、自分で自分の将来を決めようとする。男性は、周囲の他者頼みにしない。男性は、いざ失敗したら、決めた自分の責任となってしまう。男性は、それでも構わないとする。
(6)	決断、即決指向	男性は、自ら進んで決断しようとする。男性は、決断の時期を積極的に早めようとする。男性は、以下のことを受け入れる。「決断することで、決断結果への責任が生じること。」。男性は、生じる責任に、真正面から対処、対決する準備を怠らない。
(7)	支配の公式性	男性は、自ら公式に、社会の支配者であることを、積極的に認める。男性は、以下の発生を、受け入れる。「支配していることへの結果責任。」。
(8)	優劣明確化(闘争、敗者の道具化)指向	男性は、互いの能力面での優劣をはっきりさせようと、互いに闘争する。男性は、勝った方が、負けた方を手下、道具としてこき使うことを許容する。
(9)	支配、制御能力誇示指向	男性は、自分の持つ、対象を制御、支配する、高い能力を、周囲に誇示、自慢しようとする。（例えば、他人を打ち負かす、他人を寄せつけない、高い能力。物体、道具、人物などを制御、支配する能力。）もしも、男性が、他人に、自分がそうした能力がないと疑われる、とする。すると、男性は、プライドを傷つけられる。

○Ｂ２－４．「低不安性」
男性は、自分の周囲に存在する、危険の可能性に対して、心の準備ができている。男性は、それに、積極的に立ち向かっていこうとする。男性は、危険に対して、怖がったり、臆病な態度を取ったりしない。男性は、自身の安全確保に対する確信を持ちやすい。男性は、自分の身は自分で守ろうとする。

○Ｂ２－５．「外部指向」
男性は、外部環境に直接露出する、表面領域に出ようとする。
男性は、生存のためのよりよい条件を、自分より大切、貴重な他者に譲ることを指向する。男性は、苛酷な外部環境に直接さらされることを、あえて受け入れる（例えば、冷たい外の風など。）（苛酷環境受容指向。）。男性は、青、水色のような寒色を好む。

男性は、環境の冷たさ、風当たりの強さを、受容し、耐えようとする。
男性は、表面に、積極的に進んで出よう、露出しようとする。表面は、外部の、見知らぬ、危険かもしれないよそ者、外敵と直接向き合う必要のある環境である。（例えば、自己の属する家族、組織など。）（表面露出指向）。男性は、代表になることを、進んで引き受けようとする。代表は、組織の顔として、外部に直接露出する立場である。（例えば、自己の属する家族、組織など。）（代表役割引受指向。）。

男性は、戦争やビジネス戦線とかで、銃弾の飛び交う危険な前線に直接出る。男性は、命を惜しまず体を張って、敵と戦闘を交える役目を果たそうとする。（前線露出指向。）。

◎Ｂ３．「心理的分離」
男性は、互いに心理的に、バラバラに分散し、自立しようとする。

○Ｂ３－１．「非人間指向。（以下を指向すること。物質。物体。メカニズム。）。」
男性は、普段は、互いに自立性を保つ。男性は、できるだけ他人の助けを借りずに、一人で生きて行けるようにする。

(1)	ツール指向。（道具への指向。）。関係の手段視。	男性は、以下のことを好む。「ツール、道具を使うこと。物事をツールとして道具視すること。」。男性は、人間関係や他人を、「何か、物事を実現するためのツール、道具。」として捉える。男性は、人間自体には、あまり興味がない。男性は、人間とはかけ離れた、機械的なメカや、岩石のような無機的な物質などに関心を持つ。男性は、人間関係を断たれることに強い。男性は、一人孤立したまま い続けることが、さほど困難ではない。男性は、他者との関係は、以下の場合のみ、構築する。「生存に役立つ手段として、利用できる時」。
(2)	淡白関係、非タッチ指向	男性は、互いにベタベタくっつき合うことを好まない。男性は、人間関係が、淡白、あっさりしている。男性は、人間関係が、ドライである。男性は、互いに、周囲の他人に、心理的にむやみに近づこうとしない。男性は、他人と、一定の距離を置く。男性は、そうして、互いの独自領域や、互いの心理的な縄張りを、侵犯しないようにする。男性は、同性の友人同士で、互いに肌を触れ合うことを、避ける。
(3)	プライバシー指向	男性は、自分のプライバシーを確保する、守ることに熱心である。それは、他者の侵入を許さない独自領域である。男性は、自己開示を好まない。男性は、自分個人のことは、自分の心の内側にある独自領域に、しまっておこうとする。男性は、個室にいるのを好む。そこでは、互いに、自分が今何をしているか、相手からは見えない。
(4)	コミュニケーションの手段化	男性は、互いの自立性を確保する。男性は、他者とのコミュニケーションを、必要以上に取ろうとしない。男性は、他者とのコミュニケーションが、用件解決の手段化、道具化している。男性は、用件が済んだら、さっさと話を終わらせようとする。（コミュニケーションの手段視。）。
(5)	自立指向	男性は、周囲の他者と心理的に離れようとする。男性は、相互に独立し、自立しようとする。男性は、他者の力を借りずに、独力で生活して行くことが、自然にできる。

(6)	個人独立指向	男性は、中央官庁や大企業のような、大きな集団に所属することに必ずしもこだわらない。男性は、「一匹狼」になることを厭わない。例えば、個人で独立した業務をこなすコンサルタントや、ベンチャービジネスの起業家など。男性は、自分の後ろ楯となってくれる組織を、必ずしも求めない。
(7)	注意非誘引指向	男性は、自分の独自領域や、自分の心理的な縄張りに、他者が入ってくるのを防ぐ。男性は、他者に対して、自分へと興味があまり集中しないようにする。男性は、以下のことを、好まない。「周囲の視線が集まるように、周囲の気を引くこと。」。男性は、化粧や服飾に対する関心が薄い。それは、他人の視線を前提とした自己呈示の方法である。
(8)	評価、期待鈍感性	男性は、自分が構築した独自の世界の中へと、興味が集中してしまう。男性は、周囲の自分への期待に対する敏感さに欠ける。男性は、他人に自分がどう見られているか、思われているかを余り気にしない。男性は、周囲の自分に向けられる視線が気にならない。男性は、周囲の他者に気に入られよう、受け入れてもらおうとする気が薄い。
(9)	客観指向	男性は、物事や他人を、好きか嫌いかで感情的に捉えようとしない。男性は、客観的、ドライに判断しようとする。男性は、公平、中立に物事を距離を置いて見ようとする。男性は、距離感がある対応をする。
(10)	自力制御、支配指向	男性は、対象を完全に自分一人の力で制御、支配できる人間になることを目指す。その対象は、扱うこと、勝つこと、支配することが難しい。対象は、物体、道具、人物である。

○Ｂ３－２．「心理的分散」

男性は、自分の力の及ぶ、独自領域、自分の縄張りをなるべく広く取る。男性は、そうして、互いに、独自領域、縄張りを侵犯しにくくする。

(1)	個人主義	男性は、周囲の他者と物理的、心理的に離れた状態を好む。男性は、個人でバラバラに動き回れる状態を好む。男性は、単独行動を好む。男性は、集団、団体でまとまって行動するのを好まない。男性は、集団から外れて一人になることを、さほど気にしない。
(2)	非同調指向	男性は、以下のことに、熱心である。「周囲で流行っていることとは無関係に、独自に興味ある分野の探求をすること。」。男性は、周囲の服装などの流行に、女性に比べて、疎い。男性は、周囲に対して、同調性が弱い。男性は、周囲の動向に、自分を合わせようとしない。男性は、自分を周囲の他者とは別物、独自の存在として扱おうとする。男性は、周囲と不調和になっても構わないとする。
(3)	広域分散指向	男性は、周囲の他者からは、大きく距離を取る。男性は、互いに広い面積に分散して存在する。男性は、そうして、自分の独自領域、縄張りが、なるべく大きくなるのを好む。男性は、密集状態を嫌う。それは、周囲の他者と一緒に、狭い空間内にいることである。
(4)	マイナー指向。（少数派指向。）。	男性は、周囲の人々が心理的に密集している多数派よりも、人のまばらな少数派を指向する。

(5)	相互分離、切断指向	男性は、対象との距離を一定以上取ろうとする。男性は、対象との分離を指向する。男性は、相手と必要以上の一体、融合感を持つことを嫌う。男性は、対象との関係を切断しようとする。男性は、物事に対して客観的な見方をし、科学的である。男性は、宗教、迷信を信じない。男性は、以下のことに長けている。「対象となるものを、自分から離して、客観的に見つめること。」。
(6)	オリジナル指向	男性は、自分と他人とは違うんだという立場に立つ。男性は、自分オリジナルのアイデアの創出を大切にする。男性は、他人が発明した優れたアイデアを、そのまま無条件に直ちに自分自身へとコピーしようとはしない。男性は、独自に別のアイデアを考え出せないか、工夫しようとする。男性は、自分ばかりでなく、他人のアイデアについても、そのオリジナリティを尊重する。
(7)	開放指向	男性は、形成するグループが外部に向かって開いている。男性のグループは、よそ者も能力や適性を認められれば、いつでも自由にそのグループに加入できる。男性のグループは、メンバーが、必要に応じて、外部と容易に入れ替わる。男性のグループは、何か目標を達成するためのあくまで手段である。男性のグループは、目標が達成されたら、解散する。男性は、グループ成員同士の付き合いが、自己目的化しない。
(8)	絶対評価指向	男性は、自分の評価を、周囲の仲間と比較せず、グローバルで絶対的な基準を用いて行う。男性は、自分が取った点数そのものに関心が行く。男性は、その点数が、自分の所属集団の成績分布の中のどの位置に当たるか、ということにはあまり関心がない。男性は、以下のように、考える。「もしも、一緒に同席している集団の中で、一人がほめられたとする。私に対する評価は、それとは独立、無関係に行われる。」。男性は、そのことに、動揺しない。
(9)	自由競争指向	男性は、互いに束縛されず、個々が各々独立して自由に動き回れるのを好む。男性は、他者より有利な立場に立つための手段を選ぶ際に、次のことを好む。「なるべく規制を受けず、ダイナミック、大胆に立ち回れること。」。男性は、自由競争の結果、格差や上下関係が生じても、その結果を甘んじて受ける。男性は、その責任を取る。男性は、格差を容認する。男性は、失敗時のやり直し、格差挽回の機会が、いつでも平等に与えられることを望む。
(10)	能力主義。自己能力へのプライドの高さ。	男性は、問題を解決する持つ能力の高さで、人間の格を測ろうとする。男性は、自分の能力の高さに対して、高いプライドを持つ。男性は、他者が自分より高い能力を示すと、ライバルする。男性は、自分の方が、より高い能力を持っていることを、顕示しようとする。
(11)	ハード感触、剛性指向	男性は、金属や岩石のような、ゴツゴツした硬い感触を、女性より、好む。男性は、気質が硬く剛性に富む。しかし、男性は、その気質が、柔軟さに欠ける。それは、力がかかると、ひび割れて、ポッキリと折れてしまう。
(12)	非結束指向	男性は、隙あれば、自分が所属するグループからバラバラにはみ出ようとする。男性は、互いに、自分の好きな方向に進んで、勝手に自己主張しようとする。
(13)	不満表出指向	男性は、グループ内の不満を、中でくすぶらせない。男性は、それを、グループ外に安直に表面化する。男性は、互いに、他人の目に見えるところで攻撃し合い、さっさとガス抜きを行う。

(14)	安易脱退指向	男性は、次のことを、安直に行う。「所属するグループから、脱退すること。」。男性は、グループから出た後も、独りで自立して気楽に生きて行く。男性は、機会を見て、次のグループに、さっさと混ぜてもらおうとする。

○Ｂ３－３．「遠隔への注意。注意の空間性。注意の大局性。」
男性は、危険や異変の発生を見張る。男性は、そのため、広い範囲の物事を、一括して把握できるようにする。
男性は、遠距離、長時間の展望、計画を持ちたがる。男性は、身近な場、細かいポイントについて、注意が行き届かない。（遠距離、長時間指向。）。
男性は、実世界の垂直と水平を見極める。男性は、広域空間の、三次元立体把握が得意である。（空間把握能力の高さ。）。男性は、物事の大局的な把握が可能である。（ワイド視点、大局指向。）。男性は、品物の枝葉末節の飾りには、興味がない。（装飾軽視指向。）。男性は、細やかさに欠け、大雑把である。（粗雑指向。）。男性は、品物の機能そのものに関心が行く。それは、自分の環境適応にどう役立つかについてである。（機能重視指向。）。
男性は、奥行きのある、広い空間に、注意が向く。（広大空間注意指向。）。男性は、広大な空間を一気に見通す。男性は、遠い、深い物事の考察を行う。（思考の深遠性。）。

○Ｂ３－４．「スケールの大きさ。（広域への非限定の分布。）」
男性は、自分の分布可能な領域を、可能な限り広く、大きく取ろうとする。男性は、それが、安全が確保される枠を超えても、気にしない。
男性は、安全性が確保されない領域にも、積極的に打って出る。男性は、自分の能力を試す。男性は、生存可能な領域枠を広げようとする。男性は、安全枠の外に積極的に出て行く。男性は、広域分布しようとする。男性は、自己実現をしよう、成果を出そうとする際に、枠を限定せず、できるだけ大きく取ろうとする。男性は、安全枠内に囚われずに広く、大きく物事を考える。男性は、自身が生み出す成果、生産物が、スケールの大きい、壮大なものになる。しかし、それは、細やかさに欠けたものになる。
男性は、巨大組織に属して、その中で昇進しようとする。男性は、そうして、スケールの大きな影響力、支配力を行使することを好む。

◎Ｂ４．自傷容認指向
男性は、自分自身が粗末な非貴重品である。男性は、外的な力で傷付いても、一向に構わない。

(1)	衝突指向	男性は、相手とぶつかることを避けない。男性は、そうして、自分に傷が付いたり、割れができたりすることを、避けない。
(2)	動的指向	男性は、広く取った空間を一気に移動するために、速く動こうとする。男性は、速く動くことで、何かにぶつかった際のダメージが大きくなることを、許容する。
(3)	粗暴、大胆指向	男性は、自分のことを、周囲の他者とぶつかることで多少傷ついても問題ないと考える。男性は、がさつな、大胆な行動を取る。男性が描く線は、野太い。（男性コミック作家の描くキャラクタなど。）

(4)	破壊指向	男性は、自分とぶつかった相手を破壊しよう、割ろうとする。
(5)	殺伐、荒れ指向	男性は、互いに周囲の他者を、攻撃し合い、攻め合う。男性は、場を、殺伐とした、荒れた雰囲気にしようとする。

◎Ｂ５．攻撃、戦闘指向
男性は、自分と敵対する他者を、積極的に攻撃する。男性は、相手を、破壊、屈伏、服従させようとする。男性は、その際、自分は勝てば、ある程度傷ついても構わないとする。男性は、絶えず攻撃の対象、相手を見つけようとする。男性は、仮想敵を作りたがる。男性は、戦闘や人殺しを好む。

Ｃ．考察
以下の行動が、生得的なものか、後天的に学習されたものかは、まだよく分かっていない。
（１）女性による、生物学的貴重品としての行動
（２）男性による、自らを粗末に扱う行動

文化人類学の従来の知見(例えばM.Meadの研究)では、
「男女の性役割が、通常とは逆転している社会も、ごく少数だが見られる。」とされている。これは、女性が、「非貴重品」として行動することである。
ただし、少なくとも次のことは言えるのではないか。
現状の男女は、ほとんど、みんな、以下のように行動する。
（１）「女性は、貴重品として行動する。」
（２）「男性は、非貴重品として行動する。」

これは、以下の社会のほとんどが環境適応がうまく行かなくて滅んだ結果である。
（１）女性が貴重品としての行動をとらなかった社会。
（２）女性が、命を粗末にした社会。（例えば、女性が、戦争などで前線に出て、どんどん死んだ社会。）

これは、次の形の社会のみが生き残った結果である。「女性が貴重品として行動し、男性が、彼女らを守る社会。」

女性が命を粗末にした社会が、その環境適応がうまく行かなかった原因は、以下の通りである。
（１）その社会で、子供を出産できる、女性の数が大幅に減ったこと。
（２）その社会で、出生する子供の数が、それに合わせて大幅に減少したこと。
（３）その結果、その社会で、子孫の十分な再生産ができなくなったこと。

これをまとめると、以下のようになる。
女性が危険に積極的に身をさらす社会も、かつてはかなり存在したかも知れない。
しかし、そうした社会は、その後の環境により淘汰された。それは、次の原因で、起きた。「社会の子供の数が必要数を下回り、社会が存続し得なくなること。」。
そうした社会は、現在ではほとんど存在しなくなった。
そのため、以下の図式が世界的に定着した。「女性は、貴重品である。」

生物学的な貴重性の程度の差が、男女の行動様式の差の根源を作り出す。
これからは、性差心理学者、性差社会学者たちは、生物学的な貴重性の程度の差に、もっと目を向けるべきであろう。

（初出2001年4月-2010年10月）

「クリーム－パン図式」。生物学的貴重性に基づく、自己保身の傾向の強さ。および、性差について。

「要旨」
「生物としての、貴重性の大小」が、以下のことを生む原因となっている。「男女の自己保身の面における性差。」。

それは、「クリームパン」によって、以下のように、説明できる。
（１）女性は、クリームに当たる。それは、内部で保持される、リッチでおいしい存在である。
（２）男性は、パンに当たる。それは、クリームの外側で、苛酷な環境にさらされて、こんがり焼けてしまう存在である。

目次
１．はじめに ２．生物学的貴重性 ３．クリーム－パン図式 ４．保護する、される立場（性役割）のねじれ

〔１．はじめに〕
人間社会における性差を捉えた場合、目に付くことの一つとして、以下のことがあげられる。
「女性は、男性に比べて大切に扱われる傾向がある。」

以下に、いくつか、事例をあげる。

戦争が起きた場合。
その状況では、男性は、戦闘員として、前線へと駆り出されて、自ら死と直面する。
その状況では、女性は、非戦闘員として、後方で、「銃後の守り」といった、より安全で、命を保証される地位を得る。

（１）建築現場など、危険を伴う作業の場合。
その状況では、女性は、作業から、外れる。
その状況では、男性が、作業をすることになる。

（２）夜間、人通りがないところを歩く場合。
その状況では、男性が女性をエスコートする。

（３）大学生などの門限。
男性は門限がない。
女性には、門限がよくある。それは、女性を、夜遅い、危ない時間に、外出させないようにするためである。

（４）女性が危ない目に遭った場合。（例えば、女性が、暴漢に襲われるなど。）
男性が、女性を助ける。
すると、女性は、その男性が好きになる。
この内容のパターンは、アニメ番組などで、良く見られる。

社会では、「危険な場面で活躍することは、男性の役割である。」という考え方が定着している。

前人未到の境地に進出する場合。（例えば、宇宙を飛行するなど。）
その状況では、まず男性が宇宙船に乗る。男性は、次の任務を遂行する。
「成功するかどうかも分からず、未知の危険と隣り合わせになりながら、新たな領域を切り開くこと。」
その状況では、女性が進出することは、男性が、何度か成功して、それが安全だということが分かってからである。

女性は、こうした境地に、男性よりも一歩遅れて進出する。
女性は、新たな環境下に、最初に、男性を送り込む。
女性は、男性を、実験台に乗せるかたちで、モルモット代わりにする。
女性は、男性に、いろいろやらせてみる。
女性は、そうして、その環境が、大丈夫かどうか、吟味する。
女性は、大丈夫だと安心したら、初めて自分も進出しはじめる。

これは、女性が持つ、危険を回避しようとする、自己保身の傾向による。
女性の方が、「自己保身、自己の基本的生物の維持」という、人間の根本的欲求をより満たしやすい。
女性は、そうした地位に、生まれながらにして優先的に就けている。
その点、女性の方が、男性よりも、地位が高い。

自分の命が続くことを望むことは、生物にとって最も基本的な欲求である。
男性は、それが脅かされやすい。
女性は、それが、より維持されやすい。

こうした、扱われかたの男女差には、両者の生物的な差が、影響している。
〔２．生物学的貴重性について〕
生物学の遺伝レベルにおける、男性、女性の性差は、「個体の貴重性の大小。個体の安全確保指向の大小。」と直結している。
生物学的には、人間は、以下の二種類に分化している。

（１）貴重な個体（女性）
（２）貴重でない個体（男性）

女性は、卵子の担い手である。
女性は、男性に比べて、生物を失ってはならない。
女性は、男性に比べて大切、丁重に扱われている。

卵子は、生物的資源という面から見ると、より貴重な存在である。

卵子は、精子よりも、数が少ない。
卵子は、精子よりも、生産コストが高くついている。

（１）姿の違い。
女性の担う卵子は、大量の栄養分を持つ、デラックスな姿をしている。
男性の担う精子は、「ベン毛以外は、ほとんど遺伝子だけである状態。」という、簡素な姿をしている。

（２）数の少なさの違い。
卵子の数は、１つである。
その卵子１つに対応する精子の数は、数千万（とにかく大量）にのぼる。

卵子は、一月当たり１個だけ一つ一つ大事に出される。
精子は、一度に数千万単位で出される。

精子は、卵子に比べて、明らかに粗製濫造である。

女性が貴重であることは、卵子の担い手であるという側面以外にも原因がある。
女性は、育児に関する複雑、精密な機構を体内に備えている。それは、人間が、生殖を行っていく上で、決定的なキーとなる。それは、以下の通りである。

（１）子宮。受精卵を育てる機構。
（２）乳房。生まれてきた乳児に、栄養である母乳を与える機構。

一方の男性は、それらを持っていないか、持っていても機能的には退化している。

女性には、生き延びてもらわないと、いけない。それは、以下の理由による。

子供が、生まれない。
子供が、育つことができない。
その結果、次世代の子供の数が激減する。

このことは、人間社会にとっては、男性の数が減る場合に比べて、致命的なダメージとなる。

上記のことを、さらに詳しくまとめると、以下のようになる。
（１）貴重品としての女性。
女性は、その生殖細胞（卵子）に、栄養分を沢山付ける。
女性は、その身体に、育児機構（子宮、乳房）のような、高価な機構を集中させる。
女性は、そうして、生殖細胞、身体の作りを、デラックスにする。
（２）消耗品としての男性。
男性は、生殖細胞（精子）、身体共に、高価な機構は付けない。
男性は、代わりに、貴重品（女性）のための「衝立（防護壁）」となる。
男性は、女性を、外部環境から保護する。男性は、その身体に、そのための機構（高い背丈、筋力など）を付ける。

人間の生殖。生まれる人間の数を増やすこと。この点で、女性は、男性よりも、より致命的ないし決定的な重要性を持つ。
それゆえ、女性は、男性よりも、よりよく生き延びてもらう必要がある。それは、社会にとって、必須である。

例えば、男性10人、女性10人からなる社会があったとする。
彼らは皆、通常の生殖能力を持っているとする。
戦争が起きて、男性が、みんな前線に赴く、とする。
戦った男性10人のうち、1人しか生き残らなかったとする。
残った男性1人が、10人の女性とセックスをする。そのセックスは、社会を存続させるため、子孫を残そうとして、行われる。
男女のセックスが、女性の排卵時期をうまく読み取って、行われる。
すると、女性一人一人が子供を産む。それは、1年に10人である。そのことで、人々は、社会の中に、人間の数を、効率よく増やすことができる。
一方、戦争が起きたときに、男性ではなく、女性が、みんな前線に赴くとする。
戦った女性10人のうち、1人しか生き残らなかったとする。
残った女性1人が、社会を存続させるために、10人の男性とセックスする。
しかし、それは、1年に、女性1人が、子供を1人産むだけである。
それは、女性が、受精卵を子宮の中で、数カ月にわたって育てる必要があるからである。
その間、子宮は、生まれてくる子供に独占される。
そこでは、新たな排卵も、なされない。
女性は、何人の男性とセックスしても、次の子供はできない。
したがって、人々は、1年に1人しか、社会の中に、人間の数を増やすことができない。

社会における生物の再生産には、次のことが言える。
（１）男性が減っても、支障は起きない。
（２）女性が減ってしまうと、大きな支障が起きる。

女性は、人類が次の世代へと生物のバトンを渡す上で、以下の存在である。「どうしてもその数を減らしてはいけない、保たなくてはいけない存在。」。
男性は、ある程度、数が減っても構わない「消耗品」である。
女性は、より貴重な、生物資源なのである。女性は、「貴重品」である。

人間は、生存にとって厳しい環境下で、以下のことを行う。

人間は、「消耗品」の数が大幅に減少しても、生物の再生産に支障がないようにする。
人間は、「消耗品（男性）」の1個体の持つ生殖細胞の数を、「貴重品（女性）」よりも、大幅に増やす。

人間は、貴重品（女性）が、自己の保身をしやすいようにする。
人間は、消耗品(男性)が、貴重品を、防護しやすいようにする。
人間は、男女各々の行動をコントロールする。

その行動のコントロールは、以下の通りである。

（１）貴重品としての女性。
女性は、自分自身を大切にする。（女性は、自己愛、自尊心を強く持つ。）
女性は、自己の保身に敏感である。（女性は、安全なことが分かっていることしか、しようとしない。）

（２）消耗品としての男性。
男性は、貴重品である女性を保護する。男性は、自分自身は、消滅しても構わない。
男性は、自己愛、自尊心は、あまり強くない。
男性は、自己の保身についても、女性よりは、敏感でない。

女性は、身の安全を守ることに敏感である。女性は、危険な場面を避ける。
男性は、自ら進んで、身の危険と直接対決することを、迫られる。

これは、以下のことの現れである。
（１）女性の持つ、生物学的な貴重さ。
（２）男性の持つ、生物学的な非貴重性。

男性は、女性に比べて、以下のような、不利な立場に立つ。
（１）男性は、危険な目に会う。
（２）男性は、命を落としやすい。

これは、男女差別（男性が不利であること。）に結びついている。

貴重品としての女性が持つ性格は、以下の通りである。
（１）安全指向。
（２）成功例の後追い。（失敗を恐れ回避すること。）
（３）冒険心の欠如。
（４）大組織への依存心の強さ。

これは、女性の持つ、以下の意識がもととなっている。
女性は、自分を、危険な目にさらしたくない。
女性は、自分自身を、大切なものと見なし、守りたい。（自己保身性。）

これらは、定住生活様式優位社会における、社会心理の基調をなしている。（例えば、日本社会。）
社会の中で、本来、定住生活様式とは直接関係ない部分の性格までが、女性化している。（それは、女性向きのものになっている。）
これは、女性の社会的ｊな勢力の強さによって、起きている。
例えば、以下のことが見られる。
（１）移動生活様式優位社会（例えば欧米）は、男性が主導権を握る。その社会は、先進的で、近代的である。
（２）定住生活様式優位社会（例えば日本）は、女性が主導権を握る。その社会は、進歩、近代化が、移動生活様式に比べて、必ず一歩遅れる。

定住生活様式では、人々は、女性優位である。人々は、安全指向が強い。（人々は、安全性が確認されていない領域には、進んで入ることはしない。）

移動生活様式では、常に、男性が主導権を握る。
そこで、移動生活様式の人々は、危険なところにも進んで入っていく。
その結果、移動生活様式の人々は、新領域への進出の一番手を、必ず持っていく。

女性が主導する社会（日本）は、男性が主導する社会（アメリカ）に対して、新しい考え方や、制度、技術の導入などで、ワンクッションだけ、必ず遅れる。
これは、このことの現れである。

「独創性の欠如」（物真似ばかりすること。）は、女性主導の定住生活様式優位社会では、決して悪いことではない。
女性は、安全を求めて、危険、失敗を回避する欲求を強く持つ。

「未知の領域に、進んで入ることを避ける行動」は、女性としては、当然の行動である。 それは、以下の理由による。
未知の領域は、人間が入ることが世界で初めての領域である。そこでは、どのような危険が待ちかまえているか分からない。

こうした観点からは、以下のことが考えられる。
（１）女性の方が、男性に比べて、その生物がより重い。
（２）女性の方が、男性に比べて、生物が、より救助されやすい。

筆者は、この考えが正しいことを、アンケート調査によって確認した。
読者の皆さんは、詳しくは、次の文章を、参照されたい。「人間の命の重さの不平等性についての検討。」。

〔３．クリーム－パン図式〕
上記の、生物学的な男女の差異を勘案した上で、次のことを考える。
人間の自然環境下における、生態学的な分布を考えた場合、以下のことが言える。
（１）女性は、中心付近の、安全な地帯に、より多く位置する。
（２）男性は、辺境の、苛酷な、外部環境に対して自らを露出しなければならない地帯に、より多く位置する。

人間以外の他の生物でも、メスが、オスに比べて、安全地帯に、より多く分布する。
例として、餌付けしたニホンザルの社会構成が、あげられる。それは、以下の通りである。
中心部に、メスが、主に分布する。
オスは、司令塔役を勤めるリーダー（数匹）が中心にいるだけである。
他のオスは、全て外縁部に位置する。彼らは、あるいは、ヒトリザルとして、辺境を、一匹で彷徨う。
メスは、オスの形成したクッションに、サンドイッチの具の部分のようになって、守られる。

以上のような図式は、「クリーム－パン図式」としてまとめられる。
クリームは、クリームパンをクリームパンたらしめるリッチかつ貴重な内容を持つ。
クリームは、外部の熱を直接受けにくい、中心部に位置する。
パンは、クリームに比べて、より粗末である。
パンは、外部の熱に直接当たって、こんがりと焼けてしまう。
パンは、自らが、外界の熱に対するクッション（断熱材）となる。パンは、体を張って、内部のクリームを守る。
クリームが、女性である。パンが、男性である。/p>
これは、男性が女性よりも不利であるという形での、男女不平等と捉えることができる。
この性差別は、おそらく生物学的に、男女各々の心理システム内に、組み込まれている。
それは、人々によって、あって当然のことだと、思い込まれている。

男性は、危険な場面へと、無意識のうちに、自ら進んで立ち向かう。
男性は、人間本来の「生存指向」を、自ら進んで放棄する。それは、次の指向である。

「私は、生き延びたい。」
男性には、そうした動機が、生得的に、埋め込まれている。

以下の図式には、生物学的な根拠がある。
（１）「女性」＝「クリーム」（内部にいる存在。守られる存在。）
（２）「男性」＝「パン」（外部に露出する存在。守る存在。）

そして、生物としての性別がある限り、以下の図式は、存在し続ける。
（１）「女性（クリーム）」＝内側にいる存在。
（２）「男性（パン）」＝外側にいる存在。

現代においては、こうした「女性＝内側」、「男性＝外側」という図式は、あいまいになってきた。その理由は、以下の通りである。

人間の生存しやすさを支える、科学技術が進歩した。
それに伴って、男性が占めてきた、外部ないし外縁領域の安全性が、以前に比べて高くなった。
そのため、女性が、そこに、どんどん進出するようになった。

「クリーム－パン」図式を、自然環境とのかかわりにおいて考えてみた場合、以下のことが言える。
その思考において、「水中心図式」を採用する。それは、人間を含む生物にとって必須となる「水」を中心として、同心円を描く。
それは、以下のように、表される。
（１）「同心円の内側。＝水が豊富である。＝農耕地域。＝定住生活様式。」
（２）「同心円の外側＝水があまりない＝遊牧地域。＝移動生活様式。」

農耕地域は、より「水」に近く、生物を維持しやすい。
農耕地域は、生物学的に貴重な、女性向きである。

遊牧地域は、乾燥している。
遊牧地域は、「水」から遠く、生物を維持しにくい。
遊牧地域は、死んでも構わない男性向きである。

人間の自然界で生存可能な領域を、内周と外縁とに分けて考えたとき、以下のようになる。
（１）「内周の領域。＝「水」にありつきやすい領域。＝生存しやすい領域。＝クリームの領域。」
（２）「外縁の領域。＝「水」にありつきにくい領域。＝生存しにくい領域。＝パンの領域。」

「クリーム＝内周」の領域は、湿潤な領域である。
「パン＝外縁」領域は、乾燥した領域である、

これをまとめると、以下のようになる。
（１）女性＝「ウェットな存在。」＝湿潤環境向きの存在。＝定住生活様式優位社会向きの存在。
（２）男性＝「ドライな存在。」＝乾燥環境向きの存在。＝移動生活様式優位社会向きの存在。

これは、以下の二つが、合致していることを示す。
（１）男女の性格面での乾湿の度合い。

（２）男女の、自然環境に対する生態学的な分布のあり方。

以下の内容を次の図にまとめて示す。

上記の「クリーム－パン」図式。
それに関連して取り上げた、さまざまな「内周－外縁」関係の一覧。



図 「クリーム（内）－パン（外）」図式の説明

〔４．保護する、される立場（性役割）のねじれ〕
女性（貴重品）は、男性（消耗品）から、保護を受ける。
女性（貴重品）は、男性（消耗品）に対して依存的である。
女性が、男性によって、保護を受けるのは、女性の持つ、生物学的貴重性の高さによる。
それは、「女性が、弱者であるから」とは、あまり言えない。
ある個体が弱者かどうかは、自然環境への適応力の有無によって決まる。
適応力次第では、以下の状態も発生しうる。
「消耗品である男性が、弱者として、貴重品である女性による保護を受ける状態。」

一方の性の個人が他方の性の他者から保護を受ける原因としては、以下の二つを、区別する必要がある。
（１）貴重性。
（２）（「環境への不適応」に基づく）弱者性。

世界のフェミニズムは、この点を、混同しているように思われる。

女性は、（虫を怖がるなど）か弱い者としての態度を取ることが多い。
女性には、被保護欲求がある。
この欲求は、生物学、生態学的観点からは、以下のように説明される。
女性は、「貴重な性」である。
女性は、生殖上、よりリッチで数が少ない卵子を生産する。
女性は、生殖上キーとなる、育児に必要な機構を、体内に備える。

男性は、粗製濫造の精子を生産する。
男性は、死んだり傷ついたりしても構わない。

この違いが、女性に対して、以下の被保護欲求を生み出す。

「貴重な性」である女性は、「貴重でない性」である男性によって、自分のことを、守ってもらいたい。

女性による、こうした態度は、日本などの定住生活様式優位社会においても見られる。
それは、「定住生活様式優位社会において、女性が、強大な勢力を振るっている事実」と矛盾しているように、一見見える。
こうした女性の真意は、以下のようなものである。
女性は、「生活面で、男性より適合しているところから来る、本来的な強さ」を一時的に覆い隠す。
女性は、男性を、貴重品としての自分を守ってくれる「護衛役」として、都合よい時だけ頼りにする。
女性は、男性を、利用しつくそうとする。

定住生活様式優位社会における女性のこうした態度は、以下のことを引き起こす。
世界全体に対して、女性が、男性よりも、世界的に弱いと、錯覚させること。

地球上には、たとえそれ自身が強くても、他者に守られる物体が、いろいろ存在する。
その例として、天然ダイヤモンドの宝石があげられる。
ダイヤモンドの硬度は、最大である。
ダイヤモンドは、自分以外のあらゆるものに対して傷を付けることができる。
しかし、ダイヤモンドは、人々によって、宝石箱に入れられて、大切に守られる。
宝石箱は、ダイヤモンドを守る。しかし、その存在は、ダイヤモンドより弱い。宝石箱は、ダイヤモンドを使ってひっかくと、容易に傷がつく。
そうした強者としてのダイヤモンドが、大切に守られる理由は、以下の通りである。
その理由は、「それは、めったに手に入れることができない。それは、なくしたら大変な損失である。」という貴重性に基づくものである。

それと同様に、以下のことが成り立つ。
定住生活様式優位社会の女性は、男性よりも、強い。
しかし、彼女は、生物学的貴重さゆえに、弱い男性から、大切に守られる。

「強さ」と「守られること」とは、決して矛盾しない。

移動生活様式優位社会では、以下の二つの次元において、保護を受ける側が、女性へと一貫している。
（１）貴重性の次元。
（２）生活への不適応がもたらす、「弱者性」の次元。

そうした移動生活様式では、以下の図式が、容易に成立する。
（１）「男性＝保護する側」。
（２）「女性＝保護される側」。

定住生活様式優位社会では、こうした以下の二つの次元において、保護を受ける側が矛盾する。
（１）貴重性の次元。ここでは、女性が、保護を受ける立場に回る。
（２）生活への不適応がもたらす、「弱者性」の次元。ここでは、男性が、保護を受ける立場に回る。

したがって、定住生活様式優位社会では、移動生活様式優位社会のような明瞭な図式は、成立しない。
このことが、世界社会において、以下のことをもたらした。「男女の地位の見積もりにおける、混乱、遅れ。」。

定住生活様式優位社会では、生物学的に貴重で守られるべき女性が、生活適応面で弱い男性を、守っている。
例えば、日本社会がそうである。
これは、保護する立場と、保護される立場との、「ねじれ」として捉えられる。
これをまとめると、以下のようになる。

女性	安全（生物学的に貴重）
男性	危険（非貴重）

女性	生物学的に貴重なので、守られる存在。	弱いため、守られる存在。（環境に不適応なので、守られる存在。）	コメント
定住生活様式	○	×（強い）	矛盾（ねじれ）あり（守られる立場であるとともに、守る立場でもある存在。）
移動生活様式	○	○（弱い）	矛盾なし（一貫して守られる立場である存在。）

定住生活様式優位社会における「男尊女卑」行動は、以下のように、捉えられる。
「女性。（生活に対して、より適応的な存在。）」が、「男性。（生活に対して不適応を起こした存在。）」を、一方的にサポートする行動。
これは、女性にとって、一方的な負担となり、不公平感をもたらす。女性は、男性に対して、不満を漏らす。

この行動は、移動生活様式優位社会における、以下の視点からは、理解不可能である。
「女性は、男性によって、一方的に保護されるのみの存在である。」

また、定住生活様式優位社会では、弱者男性は、「女性によるサポートは受けて当然」という、尊大な態度を取っている。

こうした要因が重なって、世界社会では、以下のような誤解が、起きている。
「定住生活様式優位社会の女性は、男性に対して、一方的に忍従を強いられる、奴隷のような存在である。」

これは、定住生活様式優位社会における、以下の実態から、大きく、かけ離れている。
「女性は、定住生活様式に適応する強者として、勢力的に男性を圧倒し、社会の主流の道を歩んでいる。」

定住生活様式優位社会では、さらに、女性が、以下の見せかけを、外部に対して、行っている。
「女性は、自分のことを守ってもらうために、故意に、自分を、必要以上に、「か弱い」存在であると、見せかけている。」

このことは、世界社会で、さらに、以下の錯覚を、生み出している。
「定住生活様式優位社会の男性は、弱い女性を、さらにおとしめて、苛酷な目に合わせている。」

一方、移動生活様式優位社会における、「女性尊重（レディーファースト）」行動は、以下のように、捉えられる。
男性が、女性を、一方的にサポートする行動。
男性。生活に対して、より適応的な存在。
女性。生活に対して、不適応を起こした存在。そして、貴重品としての存在。

それは、男性にとって、不公平な行動である。
女性は、男性のサポートを、当然の如く、尊大な態度で求める。
男性は、女性の下僕のように接する必要が生じる。
その結果、女性の地位は、実態と反して、高く見積もられる。その社会は、女性上位の社会に見える。

これは、次のような誤った見方を、例えば、日本のフェミニストに取らせている。
「（移動生活様式優位社会の）欧米の方が、（定住生活様式優位社会の）日本より、女性の地位が高い。」
「（定住生活様式優位社会の）日本は、（移動生活様式優位社会の）欧米を、見習うべきである。」

定住生活様式優位社会では、性役割のねじれが存在する。
（１）女性が持つ、定住生活様式への適応力の高さ。それに基づく、女性の社会的な強さ。
（２）男性が引き起こす、定住生活様式への不適応。それによる、以下の実現。男性。その社会的な弱さ。その社会的な保護。その必要。その高さ。

定住生活様式優位社会では、以下のような状態が起きる。
（１）「生物学的貴重性」の面からは、女性が保護されるはずである。
（２）「定住生活様式への適応力」の観点からは、男性が保護されることになる。

従来の性差に関する研究の大半は、「女性は、常に保護されるべき、弱い存在である。」と見なしている。
それらは、こうした「性役割のねじれ」に気づいていない。

生物学的には、「男性が、女性を守ること。」が、生殖上の貴重さから見て自然である。
それと逆の事態が、定住生活様式優位社会では、起きている。そこでは、「女性が、男性を守ること。」が、起きている。そこでは、男女の立場のねじれが、起きている。

定住生活様式優位社会は、以下の側面を持つ社会である。
「女性が、男性を守る。女性が、男性を保護する。女性が、男性に対して、生活上の世話をする。」
そうした、女性が男性を守る側面は、女性が、男性に対して取る、母性的態度に出ている。

（初出1998年-2004年）

勢力拡張用の玉。勢力温存用の玉。男女の性差の根源。

人間や生物。
筆者は、それらを、種として、大局的に、分類した。
それらは、以下の、二種類の玉（個体）からなる。

それは、以下の（１）として、以下の（２）の内容へと、分類される。
（１）種の勢力。
（２－１）「勢力拡張用」の玉。
（２－２）「勢力温存用」の玉。

それは、生物としては、以下のように分類される。
（１）生物として、以下を拡張すること。「生存範囲。」そのための玉。
（２）「生物温存。」そのための玉。

（１）
勢力拡張用の玉。
（あるいは、その個体。）
それは、以下に相当する。
男性。オス。
（２）
勢力温存用の玉。
（あるいは、その個体。）
それは、以下にに相当する。
女性。メス。

（１）
勢力拡張用の玉。
それは、以下の特徴を持つ。
////
各玉は、以下を拡張する。自身の勢力範囲。
////

各玉は、より広範囲に、飛び散る。
各玉は、武装する。各玉は、体当たりで、敵を攻撃する。
各玉は、以下を広げようとする。勢力範囲。支配範囲。
各玉は、広範囲にわたって、種付けしようとする。
各玉は、積極的に動き回る。
（その際は、以下が、時々発生する。他の玉が、以下になること。敵。ライバル。）
各玉は、ベンチャー精神に富んでいる。
各玉は、以下を、厭わない。リスク。責任。それらを負うこと。
各玉は、自分が死んでも、替えが存在する。
各玉は、以下を目指す。世界的に広く、存在すること。普遍的に存在すること。それらの空間を、支配すること。
各玉は、粗野である。それは、以下である。在野の存在。
各玉は、攻めの玉である。
各玉は、自分のことを、余り大切に考えない。

（２）
勢力温存用の玉。
それは、以下の特徴を持つ。
////
各玉は、自身を温存する。
各玉は、自身を保全する。
////

各玉は、周囲を、護衛の小玉によって、守られる。
各玉は、以下の空間に存在する。中ほど。奥。中心部。
各玉は、安全、保身を重視する。
各玉は、自らの存在を、常に温存する。
各玉は、以下を避ける。危ない目に遭うこと。各玉は、リスクや責任を取らない。
各玉は、武器を、振り回さない。武器は、それ自身を傷つける可能性があるから。
各玉は、以下を避ける。攻撃されること。

各玉は、周囲に敵を作らない。各玉は、表向き、以下を目指す。互いに仲良くすること。和合を保つこと。
各玉は、あまり動かない。
各玉は、おしとやかである。各玉は、雅やかである。
各玉は、守りの玉である。
各玉は、自分のことを、とても大切に考える。

こうした二種類の玉は、生物学的貴重性からは、以下のように捉えられる。
（１）勢力温存用の玉。それは、生物学的貴重性が高い。
各玉は、以下の存在である。
各玉は、周囲によって、以下を、実行される。
以下の実現。
////
その生物を、温存すること。
その生物を、保護すること。
その保身。
その安全。
////

各玉は、仲間同士で、護送船団方式で、つるむ。
各玉は、以下を好む。集団で動くこと。
各玉は、ローリスク体質、ローリターン体質である。
各玉にとっては、以下が大切である。自分自身の温存。
各玉は、以下を、避ける。自身に傷が付くこと。
各玉は、あまり動かない。

各玉は、自身では稼がない。
各玉は、以下を試みる。
以下に対して、寄生すること。
勢力拡張用の玉。
それがもたらす成果。

（２）勢力拡張用の玉。それは、生物学的貴重性が低い。
各玉は、リスキーな分野に、どんどん飛び込む。
各玉は、ライバルや、未知の危険と、闘い続ける。
各玉は、自分の勢力を、積極的に拡張し、沢山稼ぐ。
各玉は、ハイリスク、ハイリターン体質である。
各玉は、以下の頻度が多い。
各玉が、以下の（２－１）において、以下の（２－２）になること。
（２－１）勢力拡張。そのための冒険。それをしている期間中。
（２－２）倒れて死ぬこと。例。事故。戦闘。

また、そこには、以下の制約が存在する。
各玉においては、以下が存在する。
以下のタイプの玉。その数は、限られる。
それは、以下を持っている。
以下の能力。
勢力拡張を行うこと。その実現。そのための十分な能力。
そのため、以下の（１）は、以下の（２）となる。
（１）実力者。彼は、以下の（１－１）によって、実力を認められる。
（１－１）勢力温存用の玉。
（２）その数は、相当限定される。その数は、そのことで、少なくなる。

以下の事態が、時々、発生する。
以下の（１）が、以下の（２）について、以下の（３）を実行すること。
（１）以下の玉。それは、以下に相当する。勢力拡張。その実現。その実力者。
（２）勢力温存用の玉。
（３）それを、複数、抱えること。（例。一夫多妻制。）

こうした差が、男女の性差の根源に当たる。
（１）勢力拡張用の玉。（個体。）男性。
（２）勢力温存用の玉。（個体。）女性。
この差は、明確である。それは、無くすことはできない。

（１）勢力拡張用の玉。
（その個体。）
それは、以下に相当する。
男性の精子。

（２）勢力温存用の玉。
（その個体。）
それは、以下に相当する。
女性の卵子。

移動生活様式の社会。
そこでは、以下の（１）は、以下の（２）である。
それゆえ、そこでは、以下の（１）は、以下の（３）である。
（１）勢力拡張用の玉。
（２）それは、以下が強い。社会における影響力。
（３）それは、社会にとって、適合的である。

定住生活様式の社会。
そこでは、以下の（１）は、以下の（２）である。
それゆえ、そこでは、以下の（１）は、以下の（３）である。
（１）勢力温存用の玉。
（２）それは、以下が強い。社会における影響力。
（３）それは、社会にとって、適合的である。

/////

（１）
勢力拡張用の玉。
それは、消耗品である。

（２）
勢力温存用の玉。
それは、大切な貴重品である。

人間や生物社会において、以下の（１）は、以下の（２）について、以下の（３）である。
（１）勢力温存用の玉。

（２）以下の評価。社会的な地位。社会における扱い。
（３）それは、より上位である。

社会において、以下の（１）の役割は、以下の（２）の担当である。

/////
（１）
戦略的なリーダーシップを取ること。
以下の命令を下すこと。
それは、トップダウンである。
それは、リスキーである。

（２）
勢力拡張用の玉。
/////

/////
（１）責任を取らされること。
（２）勢力拡張用の玉。
/////

社会において、以下の（１）は、以下の（２）である。

/////
（１）
勢力温存用の玉。
そのリーダーシップ。

（２）
和合。
その実現。
そのための、内部調整。
/////

勢力温存の玉。その行動目標。
女性の行動目標。
それは、以下の内容である。
//////
彼女自身が、安全領域の内部に、何としても、定住し続けること。
彼女自身が、安全領域の内部に、何としても、滞留し続けること。
彼女自身が、安全領域の内部で、仲間たちと、仲良く同居し続けること。
彼女自身が、安全領域の内部で、仲間たちと、仲良く生活し続けること。
彼女自身が、安全領域の内部で、仲間たちと、精神的に調和を保ち続けること。
彼女自身が、仲間たちによって、安全領域から、追放されないこと。
彼女自身が、仲間たちによって、安全領域から、抹消されないこと。
彼女自身が、仲間たちの不興を買わないこと。
そのため、彼女自身が、仲間たちに対して、以下の行為を、必死になって行うこと。
//
彼女が、仲間たちに、迎合すること。
彼女が、仲間たちに、媚びること。
彼女が、仲間たちに、忖度すること。
彼女が、失敗しないこと。

彼女が、危険なことをしないこと。
彼女が、仲間たちに、迷惑をかけないこと。
//

彼女自身が、安全領域の内部で、他者を蹴落としてでも、居残り続けること。
そのために、彼女自身が、安全領域の内部で、より優位に立つこと。
彼女は、そのために、以下の行為を、必死になって行うこと。
////
//
(A)
彼女自身よりも、立場の悪い、劣位の仲間メンバー。
仲間メンバーの中で、調和を乱す、浮いた存在のメンバー。
仲間メンバーの中で、不要な存在のメンバー。

上記の(A)に対して、いじめを行うこと。
上記の(A)を、仲間集団から、疎外すること。
上記の(A)を、仲間集団から、追い落とすこと。
//
それらの行為を、絶えず、画策すること。
それらの行為を、絶えず、実行すること。
そのために、他の仲間メンバーと、絶えず、結託をすること。
そのために、他の仲間メンバーと、絶えず、密約を結ぶこと。
その間、彼女自身は、安全領域の内部に、難なく、留まり続けること。
その間、彼女は、彼女自身が劣位に回ることが無いように、必死になること。

上記の(A)に対する、各種のハラスメントの行為。
その実行の結果。
安全領域の内部における、仲間メンバー同士の結束が、より強固になること。
上記の(A)は、その実現のための、生贄とされること。

仲間メンバーの各自は、そうしたハラスメントの対象にならないように、必死になること。
そのため、仲間メンバー同士は、互いに、必死になって、以下の行為をすること。
//
互いに、気配りをし合うこと。
互いに、仲間から必要とされる存在であるように、努力し続けること。
互いに、仲間集団内の調和を乱すことの無いように、努力し続けること。
互いに、仲間集団から浮かないように、努力し続けること。
//
////
//////

勢力拡張の玉。その行動目標。
男性の行動目標。
それは、以下の内容である。
////
//
未知の領域を、探検すること。
未知の領域を、安全領域か、危険領域か、確定すること。
危険領域を、安全領域に、変えること。
安全領域を、危険領域に、変えないこと。
//

彼自身が、上記の内容を、実現すること。
彼自身が、そのために、試行錯誤を、繰り返すこと。
彼自身が、そのために、チャレンジを、繰り返すこと。
彼自身が、そのために、彼自身の身体を、張ること。
彼自身が、その結果、最終的に、何としても、成功すること。
////

（初出2013年11月）

性行為や結婚の相手。彼らに対する選好における、男女の性差。

（１）
男性は、未開の領域への進出を、指向する。それは、以下の内容に、基づいている。彼自身における、自己拡大性の所有。
男性は、未開性の所有者を、未開性の非所有者よりも、優先して指向する。
処女の女性。彼女は、以下の内容を、所有している。セックスの経験における、未開性。
その結果。
男性は、処女の女性を、非処女の女性よりも、進出対象として、より、好む。
男性は、処女の女性を、非処女の女性よりも、セックスや結婚の相手として、より、好む。

女性は、安全が確保されている前例の踏襲を、指向する。それは、以下の内容に、基づいている。彼女自身における、自己保身性の所有。
男性は、前例の所有者を、前例の非所有者よりも、優先して指向する。
非童貞の男性。彼は、以下の内容を、所有している。セックス経験の所有。セックスの経験における、前例の所有。
その結果。
女性は、非童貞の男性を、童貞の男性よりも、選好対象として、より、好む。
女性は、非童貞の男性を、童貞の男性よりも、セックスや結婚の相手として、より、好む。

（２）
新品の設備。中古の設備。
利用の前例が無い設備。利用の前例が有る設備。
生物は、中古よりも、新品を、望む。例。新品は、中古品よりも、高価格である。新築の不動産物件は、中古の不動産物件よりも、高価格である。
新品の生殖設備。中古の生殖設備。
男性は、女性に対して、新品性を、望む。男性は、女性による托卵の可能性を、予め、徹底的に除去したいこと。
女性は、男性に対して、中古性を、望む。女性は、男性における経験不足を、リスク要因として、とても嫌うこと。

（2022年7月初出。）

粗雑な生物。vs. 精密な生物。精巧な生物。

男性。vs. 女性。
それは、以下のように、捉えることが、可能である。

男性。vs. 女性。
粗雑な機器。vs. 精密な機器。
粗雑な装置。vs. 精巧な装置。
粗雑な生物。vs. 精密な生物。精巧な生物。

生殖に必要な、主要な身体的な装置を、一通り専有している性。その方が、身体の作りが、より複雑であり、より精密である。それは、女性である。

男性。vs. 女性。
安価な生物。vs. 高価な生物。
製造時に、コスト面で、高く付くこと。それは、精密な生物の方が、より高い。それは、女性の方が、より高い。

男性。vs. 女性。
壊れにくい生物。傷つきにくい生物。vs. 壊れ物の生物。傷つきやすい生物。
雑に扱うと、直ぐに、壊れたり、傷ついてしまう可能性。それは、精密な生物の方が、より高い。それは、女性の方が、より高い。

男性。vs. 女性。
注意深く扱うことが不要な生物。vs. 注意深く扱うことが必要な生物。
ケアが不要な生物。vs. ケアが必須な生物。
丁寧に、丁重に、注意深く扱う必要性。それは、精密な生物の方が、より高い。それは、女性の方が、より高い。

男性。vs. 女性。
守護者が不要な生物。vs. 守護者が必要な生物。
非貴重品としての生物。vs. 貴重品としての生物。
周囲に護衛を置く形で、内部で、大切に保護され、貴重に扱われる必要性。それは、精密な生物の方が、より高い。それは、女性の方が、より高い。
その護衛は、粗雑な生物の役回りになる。それは、男性の役回りになる。

男性。vs. 女性。
過酷な強制労働に従事する生物。vs. その粗雑な生物を、経済的に搾取して、楽をして生活をする生物。
労働によって、心身を擦り減らし、使い捨て扱いされる生物。vs. 強制使役への従事を、その粗雑な生物に任せて、それ自身の存在を温存し続ける生物。
過酷な生活を行わないことで、心身の摩耗を、避ける必要性。それは、精密な生物の方が、より高い。それは、女性の方が、より高い。

（初出2021年5月）

女性にとっての男性。男性にとっての女性。男女の本性。

女性にとっての男性。
彼は、以下のような存在である。

（１）
女性の持つ「自己保身性」。その実現者。
彼は、女性の身を保護する。
彼は、女性の身代わりになる。

（２）
女性の持つ「自己中心性」。その実現者。

（２－１）
彼は、女性のことを、ちやほやする。
彼は、女性のことを、讃える。

（２－２）
彼は、女性に対して、貢ぐ。

（２－３）
彼は、女性にとって、下僕になる。

（３）彼は、女性と共同で、遺伝的子孫を作る。
彼は、女性にとって、以下である。
生涯のパートナー。

男性にとっての女性。
彼女は、以下のような存在である。

（１）男性の持つ「捨て身の性質」。
（１－１）
男性は、彼女の身代わりになるべきである。

（１－２）
男性は、彼女を、保護すべきである。
男性は、彼女を、大切に扱う。

（２）男性の持つ「自己拡大性」。
男性は、以下へと、惹きつけられる。
彼女が持つ、性的魅力。

（２－１）
セックスの相手。

（２－２）
男性は、以下の実現を望む。
彼女は、そのためのツールである。

（２－２－１）以下を生成すること。
彼の遺伝的子孫。
（２－２－２）それをたくさん作ること。
（２－２－３）それを世界中に広めること。

（３）彼女は、男性と共同で、遺伝的子孫を作る。
彼女は、男性にとって、以下である。

生涯のパートナー。

（初出2020年6月）

人間の命の重さの不平等性についての検討。 －性別、年齢、地位の視点から－

[要旨] 男性と女性のどちらの命がより重いか？男性と女性のどちらがより生物を救助されやすいか？
このことを、アンケート調査によって調べた。
その結果、、以下のことを確認した。
人々が、以下のことを、捉えていること。
（１）女性の命が、男性の命よりも重い。
（２）女性の命が、男性の命よりも大切である。
例えば、普通の女子高生の方が、男性首相よりも、より命が重い。

1.はじめに
人間社会では、従来、人権擁護の観点から、以下のことが、主張されてきた。「全ての人の命の重さは平等であり、差別があってはならない。」。
しかし、それは表面上だけである。
実際には、人々の属性によって、命の重さの点でかなり不平等がある。（例えば、年齢、性別、地位、人種。）
本文は、この命の重さに関する不平等を、主に性別などの観点から、一部明らかにしようとすることを目的としている。

2.検証すべき仮説
人々の命の重さを決定する要因としては、例えば、以下のものが考えられる。

	命の重さを決定する要因	要因に対応する指標	指標と要因との関連	命の重さの比較(仮説)
(1)	将来性	年齢	年齢が低い(若い)ほど、将来性がある。	将来性がある若者の方が、年寄りよりも命が重い。
(2)	生物学的貴重性	性別	卵子の方が、精子に比べて数が少ない。 卵子の担い手である女性のほうが、精子の担い手である男性よりも貴重である。	貴重な女性の方が、そうでない男性よりも命が重い。
(3)	高地位性	役職	ついている役職が主要であるほど、社会的・組織的に地位が高く、重要である。	高い役職についている方が、低い役職の者よりも命が重い。

[1]こうした要因をより多く身に付けている者ほど、命が重い存在である。
そうした存在は、より優先して、命を助けてもらえる。
そのことを、確認する必要がある。
例えば、命の重さは、以下の違いによって、どう違ってくるか？
高校生か？大人か？
首相か？一般人か？
これは、以下の表のようにまとめられる。

	将来性	生物学的貴重性	高地位性
女子高校生	○	○	−
男子高校生	○	−	−
女性首相	−	○	○
男性首相	−	−	○
女性事務員	−	○	−
男性事務員	−	−	−

例えば、上記の表においては、以下のことが成り立つ。
（１）女子高校生は、将来性と生物学的貴重性を兼ね備えている。
（２）女性首相は、生物学的貴重性と高地位性を兼ね備えている。
（３）男子高校生は、将来性のみを持っている。
（４）男性首相は、高地位性のみを持っている。
（５）普通の、並みの大人の女性（例えば、役職なしの中年女性事務員など。）は、将来性も、高い地位もなく、貴重性のみを持つ。
（６）普通の、並みの大人の男性（例えば、役職なしの中年男性工員など）は、何も持ち合わせていない。

なお、首相のような高い地位につくのは、年齢をある程度重ねた者であることが多い。
高校生は、将来性はあるが、社会的地位はあくまで見習い的なものに止まり、高くない。

[2]各要因が実際に命の重みを決定づける働きを持っているかどうかを確かめる必要がある。
例えば、生物学的貴重性の面で言えば、以下の仮説が成り立つ。
「貴重な女性の方が、そうでない男性よりも命を助けてもらいやすい。」

[3]命の重さを決定づける要因間の強弱関係にも考慮する必要がある。
例えば、以下の仮説が成り立つ。
高校生は、地位は低いが、将来性がある。
高齢の首相は、地位は高いが、将来性がない。
高校生の方が、高齢の首相よりも、より命に重みがある。

今回は、上記のうち、主に、以下を確認する目的で、調査を行う。

（１）将来性（年齢）の違いが、実際に生物の重みの違いをもたらしているかどうか？ （２）生物学的貴重性（性別）の違いが、実際に生物の重みの違いをもたらしているかどうか？ （３）高地位性（役職）の違いが、実際に生物の重みの違いをもたらしているかどうか？ （４）以下のどれが、生物の重み付けに対して、より影響力があるか？将来性（年齢）。貴重性（性別）。高地位性（役職）。

具体的には、
（１－１）男子高校生。
（１－２）女子高校生。

（２－１）男性首相。
（２－２）女性首相。

（３－１）男性事務員。
（３－２）女性事務員。
の6つのタイプについて、
互いに総当たり形式で命の重さを比較してもらい、順位付けを行うこととする。

3.調査手順
上記の調査項目について、webを使用したアンケート調査を行った。
方法は、以下の通りである。
（１）webサイト上で男性度、女性度を測定する心理テストを試そうと集まってくるインターネット利用者に対して、行った。
（２）調査は、彼らが、具体的な説明を行うページに行く前に、行った。
（３）それは、関所の形で、「まずこのアンケートに回答して下さい」と回答を課す形で、行った。
質問文や、回答項目については、本文末の（付録）を参照されたい。

4.調査結果
今回の調査結果データ（回答収集時期、回答者人数、回答者属性、回答結果）については、資料編の書籍を、参照されたい。
今回の結果より、

(1)人々による生物救助の優先順位は、以下の通りであることが分かった。

[←救助優先]女子高校生＞男子高校生＝女性首相＝女性事務員＞男性首相＞＝男性事務員 [→救助非優先]

男性首相（高地位性）と女子高生（将来性＋生物学的貴重性）を比較した場合。
より優先して助けられるのは、女子高生の方である。
人々の間では、以下のように、感じられている。

以下の二者を比較する。
（１）日本社会全体に対する重責を担っている、首相。
（２）そこら辺にいる、普通の女子高生。

その結果は、以下の通りである。
「普通の女子高生の生物の方が、首相の生物よりも、より助けられやすく、より重い。」
生物の重みという点では、以下の通りである。
「女子高生は、将来性と、生物学的貴重性を、両方とも兼ね備えている。女子高生は、今回比較した中で、最強の存在である。」

(2)将来性との関連では、以下の通りであることが分かった。

[←命が重い]若年(高校生)(将来性あり)＞中年(将来性なし)[→命が軽い]

「若年高校生は、より将来性がある。若年高校生の方が、中年の人よりも、より助けられやすく、命が重い。」

(3)生物学的貴重性との関連では、以下の通りであることが分かった。

[←命が重い]女性(貴重)＞男性(非貴重)[→命が軽い]

「より貴重な女性（卵子の担い手）の方が、男性（精子の担い手）よりも、より助けられやすく、命が重い。」
(4)高地位性との関連では、以下の通りであることが分かった。

[←命が重い]首相(高地位)（＞）＝事務員(低地位)[→命が軽い]

具体的には、以下の通りである。
「男性首相は、男性事務員よりも、優先して助けられる度合いが、高めである。」
「女性首相は、女性事務員に比べて、より優先して助けられる度合いが、変わらない。」
「首相は、より地位の高い役職についている。しかし、以下のことは、必ずしも言えない。「首相は、低い地位の事務員より、命が重いと感じられている。」。」
(5)命の重さを決める要因同士の比較では、以下の通りであることが分かった。

[←命が重い]将来性(高校生)（＞）＝生物学的貴重性(女性)＞高地位性(首相)[→命が軽い]

(詳細)
[←命が重い]将来性only(男子高校生)（＞）＝生物学的貴重性only(中年女性事務員) [→命が軽い]
[←命が重い]生物学的貴重性only(中年女性事務員) ＞高地位性only(中年男性首相)[→命が軽い]
[←命が重い]将来性only(男子高校生)＞高地位性only(中年男性首相) [→命が軽い]

ここでは、次の結果が出た。
「将来性のみの男子高校生は、貴重性のみの中年女性事務員より、ある程度、命が重めである。」
しかし、その差は、有意水準0.01には届かなかった。
一方、次の結果が得られた。
「男子高校生は、高地位性のみの中年男性首相よりも、有意に助けられやすく、命が重い。」

ここでは、また、次の結果が得られた。
「貴重性のみの中年女性事務員は、高地位性のみの中年男性首相よりも、有意に助けられやすく、命が重い。」

5.まとめ
従来、人権上の配慮から平等であるとされてきた、人間の命の重さが、実は条件によって格差があることを示した。
具体的には、web質問紙調査によって、以下の結果を明らかにした。
(1)若者は、中年よりも、命が重い。（将来性の次元。）

(2)女性は、男性よりも、命が重い。（生物学的貴重性の次元。）
(3)社会的地位（役職）は、必ずしも命の重さに関係しない。
(4)命の重さを決めるには、将来性と、それにやや遅れて、生物学的貴重性が重要である。社会的地位（役職）の高さは、上記2つに比べて、あまり問題にならない。

（初出2008年01月）

（資料） webアンケート調査の結果数値。 人命における、優先的な救助順位について。

[質問文]
あなたは、冬の冷たい川の中で、二人の人が同時におぼれている状況を、発見しました。あなたは、都合により、そのうちの一人しか、救助出来ません。あなたは、どちらを、より優先して、助けますか？以下の、“1”から始まる、左右の人物を表す単語の対を読んで、“私は、より、助けたい。“と思う人の側のボタンに、チェックを入れて下さい。

[↓回答結果 1回目]
[回答日時] 2004年05月06日～07日
[回答数] 201

[回答者属性]
男 47.264% 女 52.736%
10代 42.289%
20代 46.766%
30代 6.965%
40代 1.990%
50代 0.995%
60代 0.000%
70代 0.995%
[回答比率]

	[1.男性－女性]					
番号	項目内容	私は、より、助けたい。	私は、どちらでも無い。	私は、より、助けたい。	項目内容	-Z得点-
1	女子高校	75.622	13.930	10.448	男性首相	9.960

	生[将来性][貴重性]				[高地位性]	
3	女性首相[貴重性][高地位性]	39.303	18.408	42.289	男子高校生[将来性]	0.469
4	女子高校生[将来性][貴重性]	67.164	21.393	11.443	男子高校生[将来性]	8.910
5	女性首相[貴重性][高地位性]	59.701	26.866	13.433	男性首相[高地位性]	7.671
	[2.男性－男性]					
番号	項目	私は、より、助けたい。	私は、どちらでも無い。	私は、より、助けたい。	項目	-Z得点-

	内容				内容	
2	男子高校生[将来性]	58.706	14.428	26.866	男性首相[高地位性]	4.880
	[3.女性－女性]					
番号	項目内容	私は、より、助けたい。	私は、どちらでも無い。	私は、より、助けたい。	項目内容	-Z得点-
6	女子高校生[将来性][貴重性]	65.672	15.920	18.408	女性首相[貴重性][高地位性]	7.308

[↓回答結果 2回目]
[回答日時]
2004年10月27日～28日
[回答数] 212

[回答者属性]
男 41.509% 女 58.491%
10代 50.943%
20代 40.566%
30代 5.660%
40代 1.415%
50代 0.472%
60代 0.472%
70代 0.472%
[回答比率]

	[1.男性

	－女性]					
番号	項目内容（優先）	私は、より、助けたい。	私は、どちらでも無い。	私は、より、助けたい。	項目内容（非優先）	-Z得
1	中年女性事務員[貴重性]	54.245	22.642	23.113	中年男性首相[高地位性]	5.154
2	中年女性首相[貴重性][高地位性]	58.491	27.358	14.151	中年男性事務員[無し]	7.575
5	中年女性事務員[貴重性]	64.151	28.302	7.547	中年男性事務員[無し]	9.733
8	女子高校生[将来性][貴重性]	80.189	12.264	7.547	中年男性事務員[無し]	11.29
9	男子高校生[将来性]	47.642	16.509	35.849	中年女性事務員[貴重性]	1.879
	[2.男性－男性]					

番号	項目内容（優先）	私は、より、助けたい。	私は、どちらでも無い。	私は、より、助けたい。	項目内容（非優先）	-Z得
3	中年男性首相[高地位性]	42.925	30.189	26.887	中年男性事務員[無し]	2.795
7	男子高校生[将来性]	58.962	18.396	22.642	中年男性事務員[無し]	5.854
	[3.女性－女性]					
番号	項目内容（優先）	私は、より、助けたい。	私は、どちらでも無い。	私は、より、助けたい。	項目内容（非優先）	-Z得
4	中年女性首相[貴重性][高地位性]	34.906	27.358	37.736	中年女性事務員[貴重性]	0.483
6	女子高校生[将来性][貴重性]	69.340	14.151	16.509	中年女性事務員[貴重性]	8.302

注）
有意水準欄。
「-.—」表示。仮説において、優先と仮定した項目（左側）について。実際のアンケートにおいて、周囲の人々が取るとされた割合。その数値が、50%を超えたが、有意水準0.10には達しなかった、項目。
「x.xx」表示。仮説において、優先と仮定した項目（左側）について。実際のアンケート

において、周囲の人々が取るとされた割合。その数値が、50%に達しなかった、項目。

（初出2004年5月-10月）

女性。男性。その空間分布。外部環境。

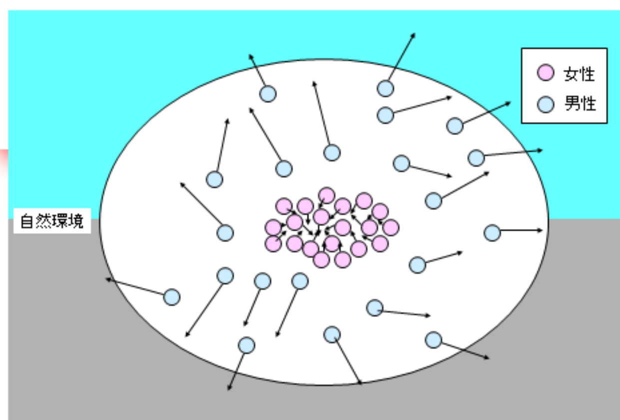
筆者は、以下を、簡単な図へと、まとめた。
女性と男性。外部環境に対する、空間分布。その差。
（１）
（１－１）
女性は、内側にまとまる。

（１－２）
女性は、団体になる。
女性は、塊になる。

（２）
（２－１）
男性は、女性の外側に分布する。
男性は、女性を保護する。
男性は、以下へと露出する。
外部環境。
それは、苛酷である。

男性は、それに対して、直面する。

（２－２）
男性は、分散する。



女性の、分布上の特徴。
彼女自身の保身や安全を、第一に考えること。

危険なことを、しないこと。リスキーな領域に、進まないこと。
退嬰的であること。彼女自身が何があるか分からない、新しい未知の領域に、進まないこと。
苛酷な自然環境に対して、彼女自身を露出しないこと。外側に、出ないこと。安全な、内側や奥に、止まること。
安全な内部で、互いに、集団や団体で、まとまって動くこと。護送船団。
互いに、近接し、相互依存していようと、すること。内輪や対内的な、融和や調和を、指向すること。
速度を出さず、ゆっくりとやさしく微細な動きをしようとすること。
液体的であること。ウェットであること。

男性によって、彼女自身が、守られようとすること。
彼女自身を防御する、外壁や要塞。
彼女自身を防御する、盾。
彼女自身が、それらの内側で、問題無く、自己保身が可能であること。
彼女自身にとって、そうした用途で利用可能な、男性。
そうした男性を、交際相手として、好むこと。
そうした男性を、結婚相手として、選ぶこと。

例。
彼女自身よりも、身長が、より高い、男性。
彼女自身よりも、稼ぎが、より高い、男性。
彼女自身よりも、知力が、より高い、男性。
彼女自身よりも、筋力や武力が、より高い、男性。
彼女を、積極的に守ろうとする、男性。

男性の、分布上の特徴。
女性を守りつつ、彼自身は、捨て身の姿勢で行こうとすること。
危険なことを、しようとすること。リスキーな領域に、積極的に進もうとすること。
進取の気性に富むこと。何があるか分からない、新しい未知の領域に、どんどん拡張して広がろうとすること。
苛酷な自然環境に対して、積極的に露出すること。外側に出ること。
外側に向かって、個人単位で、バラバラにどんどん進むこと。
互いに、離散し、自立していようと、すること。外向きの、開放性を指向すること。
速度を出して、高速で粗い動きをしようとすること。
気体的であること。ドライであること。

（初出2009年12月）

上位者。支配者。男女の性差。

（１）
女性の上位者。
女性の支配者。
それは、以下である。
中心的存在。

それは、以下に基づく。
女性の本性。
自己中心性。
自己保身性。

（２）
男性の上位者。
男性の支配者。
それは、以下である。
普遍的存在。
それは、以下に基づく。
男性の本性。
自己拡大性。

男性の上下関係。女性の上下関係。

(1)
男性の上下関係。
それは、電波塔タイプである。
それは、トラス構造の電波塔である。
例。
エッフェル塔。

それは、鋼材のようである。
それは、冷たく、硬い。
それは、細いが、折れない。
それは、明快で、シャープである。
それは、離散的である。
それは、天空に向かって、とても高く伸びる。

男性は、そのような上下関係を、構築する。

そこでは、以下のような人々が、より上位である。
彼らは、高度が高い。
彼らは、支配領域が広い。
彼らは、資源を独占する。

上記の内容は、男性優位社会の人々に、一般的に当てはまる。

(2)
女性の上下関係。
それは、エスカレータータイプである。
そのエスカレーターは、幅が広い。

そのエスカレーターに乗る人々。
彼らは、時間経過に伴って、上位になる。
年功序列。
前例の踏襲と蓄積。
彼らは、その度合が上昇するほど、上位になる。
中心部と周辺部。
彼らは、中心に居るほど、上位になる。

彼らは、人生の終わりまで、ずっと、それに乗り続ける。
それは、環境変動に伴うリストラが無い限り、永続する。

そこでは、以下のような人々が、より上位である。
最上段の中心位置。
そこに乗った人物。

(2-1)
そこでは、以下のような特例が、存在する。
前例の丸暗記。
前例の理解。
それらに長けている人物。
彼らは、社会的に、特別に、高速のエスカレーターに搭乗することを、許される。
例。
国家公務員試験の上級レベルに、合格した人々。

(2-2)
そこでは、以下のようなエスカレーターが、存在する。
最初から、入口が高い位置にあるエスカレーター。
そのエスカレーターには、以下のような人々が、搭乗する。
既得権益を所有する人物の子孫。

上記の内容は、女性優位社会の人々に、一般的に当てはまる。

（初出2020年8月）

理系女子が少ない理由。

女性は、人の多い場所を好む。
それは、女性の自己保身性の実現にとって、有利である。

女性は、中心部を好む。
中心部は、人が多い。
それは、女性の自己中心性の実現にとって、有利である。

女性は、人間集団を好む。
女性は、人間集団への所属と定住を好む。
女性は、人間指向である。

文系の内容は、人間一般である。
それは、中心部である。

女性は、文系の作業者を、見上げて、尊敬する。

理系の内容は、人間以外である。
理系の内容は、人間についての冷静な客観視である。
理系の内容は、無人境である。
理系の内容は、人が少ない。
人が少ないところ。
それは、周辺部である。

女性は、理系の内容を、周辺者の仕事と見なす。
女性は、周辺者を、見下して、軽蔑する。
女性は、理系の作業者を、見下して、軽蔑する。
女性は、周辺者になりたくない。
女性は、理系の作業者になりたくない。
そのため、理系の女性は、永久的に、増えない。

（初出2021年5月）

学校で、女子の成績が、男子よりも良いこと。学校で、女子の学力が、男子よりも高いこと。その理由。

学校。それは、以下の教育が行われる場である。
前例の学習や勉強。

学校のテストの採点基準。
それは、前例を、どれだけ暗記し、理解できたかを、測定する。

前例を、鏡のように、一点の隙き間も曇りも無い形で、完璧に暗記出来る能力。
女性は、その能力を、豊富に持っている。
男性は、その能力を、あまり持っていない。
それゆえ、学校のテストは、女性にとって、圧倒的に有利である。
それゆえ、学校では、女性の成績が、男性の成績よりも、優秀になる。
学力は、女性の方が高く、男性は低いとして、測定される。

前例の無い、新たな知見を生み出す能力。
男性は、その能力を、豊富に持っている。
既存の学校のテストは、それを測定することが、難しい。
その測定を可能にすることが、学校のテストにおいて、新たに必要である。

（初出2021年5月）

歴史を作る性としての男性。その劣位性。歴史を作らない性としての女性。その優位性。

貴重品は、その目録とリストが読まれる以外には、本体は、大事な場所に保護されて格納されている。
なので、貴重品は、切りつけたり殴ったり、乱暴なことをすることが横行する歴史の最前線の現場に登場する必要が無い。
傷つかないように奥で秘匿される貴重品。それは、すなわち女性である。
歴史の最前線に登場して、歴史を作る主役なのは、切り捨てごめんが通用する、消耗品、使い捨ての品たち。それは、すなわち男性である。
女性は、歴史に登場しない。それは、女性が、常に、一種の宝物、貴重品として、奥に守られ続けて、歴史の表舞台に自ら登場することが少ないからである。
歴史を作ってきたのは男性であるという主張。その主張は、一見、男性にとって誇らし

げな主張である。しかし、その主張は、彼自身が嫌でも表に出て戦わざるを得なかった、使い捨ての消耗品としての惨めな男性性の表れである。その主張は、男性劣位の象徴である。その主張は、女性優位の現れである。

家系図において、女性が、名前を残さないこと。
それも、上記のことと、同じ理由である。
彼女自身が、名前を晒すこと。
それは、以下の内容と、同じだからである。
彼女自身を、表面へと、露出させること。
彼女自身を、危険に晒すこと。

（初出2020年11月）

なぜ、女性は、社会的上位者ナンバーワンの地位に、就任したがらないのか？

社会的上位者ナンバーワンの地位。
それは、その社会において、最も危険な地位である。

女性は、自己保身を最優先で、行動する。
女性は、危険な社会的立場を避けて、安全地帯に、滞留する。
それゆえ、女性は、危険な社会的地位への就任を、回避する。
それゆえ、女性は、社会的上位者ナンバーワンの地位への就任を、回避する。

社会的上位者ナンバーワンの地位。
その地位は、なぜ、危険か？
仮に、ある人物が、その地位に、就いていた場合。
その人物は、社会運営に失敗した際に、その責任を全て被ることになる。
その人物は、その結果、社会的に、大きく傷付く。
その人物は、場合によっては、死ぬ。
そのことは、彼自身の自己保身にとって、痛恨の致命的なダメージになる。
女性は、彼女自身の自己保身を最優先にする。
女性は、彼女自身へのダメージの発生を、徹底的に回避する。
それゆえ、女性は、その地位に、就かない。

一方、その地位にある人物は、その社会の全ての人々の注目を浴びる。
その地位にある人物は、その社会の中心に、存在することが、可能である。
その地位への就任。
それは、女性の持つ、自己中心性を、根本的に満足させる。
女性は、本当は、危険が無ければ、その地位へと就任したくてたまらない。

女性の取る途は、二通りである。

(1)
社会的上位者ナンバーワンの地位。
その地位に、就任すること。
彼女自身が、社会運営に失敗した時に、彼女自身の身代わりになる、生贄。
それを、常時、用意すること。

仮に、彼女自身が、社会運営に失敗した場合。

無責任な態度や、責任転嫁の態度を、終始、貫くこと。
彼女自身に対する批判を、全面的に禁止すること。
彼女自身に対する批判を、専制的な態度で、抑圧すること。
それを、常時、可能にすること。
そのための、法整備を、行うこと。

社会的上位者ナンバーワンの地位。
その地位に、終身、君臨すること。
彼女自身が生きている間は、あらゆる手段を講じて、その地位に、滞留すること。
そのことで、彼女自身の自己中心性を、彼女自身の生前において、完璧に、実現し続けること。

(2)
社会的上位者ナンバーツーの地位。
その地位に、就任すること。
同時に、社会的上位者ナンバーワンの地位の人物を、籠絡して、手玉に取ること。

例。
母子関係。
それに基づく、親と子供の間の、上下関係。
息子を、社会的上位者ナンバーワンの地位に、就かせること。
母親は、その親として、実質的に、社会的上位者ナンバーワンの地位の人物に、なること。

例。
夫婦関係。
夫婦で、企業を設立する場合。
夫を、社会的上位者ナンバーワンの地位に、就かせること。
妻は、会計上の管理権限を掌握して、実質的に、社会的上位者ナンバーワンの地位の人物に、なること。

そのことで、実質的に、社会的上位者ナンバーワンの地位の人物として、活躍すること。
社会運営に失敗した時に、彼女自身の身代わりになる、生贄。
その役回りを、社会的上位者ナンバーワンの地位の人物に押し付けること。
それを、常時、可能にすること。

////
上記の知見は、女性優位社会の人々にも、当てはまる。

（初出2021年5月）

何故、人々は、男性の責任者を、呼び出そうとするか？何故、人々は、女性の責任者の呼び出しを、避けるか？

社会的責任者の地位。

それは、その社会において、より危険な地位である。

女性は、自己保身を最優先で、行動する。
女性は、危険な社会的立場を避けて、安全地帯に、滞留する。
それゆえ、女性は、危険な社会的地位への就任を、回避する。
それゆえ、女性は、社会的責任者の地位への就任を、回避する。

一方、その地位にある人物は、人々の注目を浴びる。
その地位にある人物は、その社会の中心へと、より接近することが、可能である。
その地位への就任。
それは、女性の持つ、自己中心性を、根本的に満足させる。
女性は、本当は、危険が無ければ、その地位へと就任したくてたまらない。

それゆえ、女性は、社会的責任者の地位への就任を、しばしば実行する。
その人物は、社会運営に失敗した際に、その責任を全て被ることになる。
その人物は、その結果、社会的に、大きく傷付く。
その人物は、場合によっては、死ぬ。
女性は、そうした事態の発生を避けるために、必死になる。

女性が、社会的責任者の地位へと就任している場合。
その女性が、社会運営に失敗した場合。
ある人物が、そのことについて、クレームを入れた場合。
その人物が、女性の責任者を、呼び出した場合。
////
その女性は、決して、表に出て来ない。
その女性は、決して、責任を取ろうとしない。
その女性は、必死で、言い逃れを、し続ける。
その女性は、必死で、言い訳を、し続ける。
その女性は、必死で、責任転嫁を、し続ける。
////

その女性による、そうした行為。
それは、彼女自身が持つ、自己保身の本性に基づく。
その行為は、人間の種の保存にとっては、有効である。

しかし、その行為は、困ってクレームを出した人物にとっては、有害そのものである。

その社会の人々が、みんなで困って、クレームを出した場合。
その女性による、上記の行為。
その行為は、社会全体から見て、有害そのものである。

そうした、社会的に有害な事態を防ぐこと。
そのために、必要なこと。
それは、以下の内容である。
男性の責任者のみを、呼び出すこと。
女性の責任者を、呼び出さないこと。
責任者は、男性のみにすること。
女性を、責任者に、就かせないこと。

////
上記の知見は、女性優位社会の人々にも、当てはまる。

（初出2021年5月）

女性の前例踏襲指向。女性の年功序列指向。

女性の前例踏襲指向。女性の年功序列指向。
それらは、以下の内容の反映である。
女性が所有する、自己保身性。
自己保身性。それは、女性に、以下の行動を、もたらす。
未知の危険な領域に、決して進出しないこと。既知の安全な領域の内部に、永続的に滞留すること。
安全性が既に確立された、既存のノウハウ。それらの学習のみを行うこと。

既知の知識。既存のノウハウ。
それは、以下の内容である。
前例。しきたり。

ある人物は、年齢を重ねるほど、前例学習の経験を重ねることが出来ること。
そのことによって、前例は、その人物が経験年齢を重ねるほど、その人物の体内に、豊富に蓄積されること。
前例をより豊富に持つ者が、社会的に、より上位の序列になること。
経験年齢がより高い者が、社会的に、より上位の序列になること。
それは、以下の内容である。
年功序列。その制度。
それは、以下の社会において、共通に存在する。女性優位社会。例。日本。中韓。ロシア。

（2022年2月初出。）

卵子。女性優位社会。精子。男性優位社会。既得権益の、獲得と、維持と、拡張と、防衛。

卵子は、筐体のサイズが大きく、どっしりしている。
精子は、筐体のサイズが小さく、か細い。
筐体の大きさに関しては、卵子が上位者で、精子は、下位者である。

所有する水分や栄養資源の大きさに関しては、卵子が上位者で、精子は、下位者である。
既得権益の所有に関しては、卵子が上位者で、精子は、下位者である。

生殖設備の占有に関しては、女性が上位者で、男性は、下位者である。
既得権益の所有に関しては、女性が上位者で、男性は、下位者である。

生きやすさの実現において恵まれている、環境。その占有。その点に関しては、女性優位社会が上位者で、男性優位社会は、下位者である。
既得権益の所有に関しては、女性優位社会が上位者で、男性優位社会は、下位者である。

////
精子。
男性優位社会。
移動生活様式。

栄養。衣食住。
それらにおいて、粗末であり、恵まれていないこと。

彼らを取り巻く環境。
それらが、苛酷であること。
それらが、不利であること。
//
精子。
子供の養育に必須となる、豊富な栄養分。
それらの所有における、貧弱性や欠如。
//
男性。
重要な生殖設備。
それらの所有における、貧弱性や欠如。
//
男性優位社会の人々。
移動生活様式の人々。
生存にとって必須な、水分や食糧。
それらの確保の度合いが、貧弱であること。
乾燥環境の下で、仕方無く生活すること。
//

温室性の欠如。

新規の未知の領域への、積極的な進入。
そこにおける、新たな権益の獲得。
それらへの、強い指向性。

その動作や分布における、気体性。
その、強い移動性。
その動作や分布における、気体的性質。

その視野が、広いこと。

変革や破壊への、強い指向性。
そのための捨て身のチャレンジ。

最終的な成功への、強い指向性。

広域への、急激な、進入と拡大。

既得権益の獲得。
その結果。
以下の内容を実現すること。
世界社会における、普遍的存在。
そうした存在になること。
そのことへの、強い指向性。

権益の領域。
その、積極的な、拡大や膨張。

進入や拡大や膨張を阻害する存在。
そうした存在を、徹底的に攻め立てること。
そのことへの、強い指向性。

同じ権益を争うライバル。
彼らを、暴力でねじ伏せること。

獲得した既得権益。
それらを、以下の行為により、占有し続けること。
暴力的な制裁。
その、絶え間無い、行使。

既得権益の簒奪者。
彼らに対する、暴力を伴う攻撃や抵抗。
それらを、徹底的に、行うこと。

攻撃を、彼ら自身にとって有利な方向へと、誘導すること。
その実現のために、真実を、故意に歪曲して、伝えること。
そうした行為を、積極的に行うこと。

既得権益の獲得の手段。
攻撃。
挑発。

それらは、以下の内容である。
積極性。
能動性。
暴力の行使。

卵子や、女性優位社会。
それらの内部に侵入すること。
そのことへの、強い動機づけを持っていること。
女性優位社会の内部に侵入した後に、以下の行為を行うこと。
女性優位社会の既得権益。
それらの、力ずくでの、奪取や収奪や搾取。
ハゲタカのような行為。
例。
アメリカによる、日本の支配。

その際、以下の内容の実現を、重視すること。
彼らにとって一方的に有利な契約。
その締結。

////
卵子。
女性優位社会。
定住生活様式。

予め、栄養面や、衣食住において、恵まれていること。
彼らを取り巻く環境が、既に、十分に快適であること。
彼らを取り巻く環境が、有利であること。
彼らを取り巻く環境における、温室性。
それを、予め、一方的に占有していること。

その、強い定住性。
その動作や分布における、液体的性質。
その視野が、狭いこと。
その内部の、液体性。

その内部に、既得権益を、豊富に貯蔵していること。
//
卵子。
子供の養育に必須となる、豊富な栄養分。
それらを、その内部において、排他的に、独占していること。
それに対する外部からのアクセスの可能性。
そうした可能性は、外部に対して、完全に閉じられていること。
内部からの許可が下りない限り。
//
女性。
重要な生殖設備のほとんどを、排他的に、独占していること。
それに対する男性からのアクセスの可能性。
そうした可能性は、男性に対して、完全に閉じられていること。
女性からの許可が下りない限り。
男性が、それに対する強行突破を行わない限り。
//
女性優位社会の人々。
定住生活様式の人々。
生存にとって必須な、水分や食糧。
それらを、容易に得やすいこと。
農耕に適した、恵まれた環境領域。
それらの、先祖代々にわたる、排他的な独占。
湿潤環境の独占。
それらの行為を、行っていること。
//

その内部における、既得権益。
それらの、豊富性。
それらの、貴重性。

その内部における、自己保身性の実現。
その内部における、温室性の実現。
その内部における、調和の実現。
その内部における、異質者の完全な抹消。
それらの、社会的な自動化。
それらに、成功していること。

その内部における、湿潤性。
その内部における、癒着や特権性やえこひいきや腐敗。
その内部における、透明性や清貧性や公正性の、欠如や消失。
それらが、発生しやすいこと。

それら自体が、巨大な既得権益であること。

対外的な膨張や拡大を、あまり指向しないこと。
既存の恵まれた環境。
それらの現状維持。
そのことを、強く指向すること。
現状維持への、強い指向性。

その内部と外部を仕切る、強大な柵や壁やカーテン。
それらを、予め、所有していること。
それらの強大性や突破不能性。
そのことを、外部に対して、誇示すること。

既得権益の、閉鎖的で排他的な、独占。
それらの持続を、重視すること。

その内部への進入。
そのことへの許認可権限。
それらの占有。
そのことへの強いこだわりを持つこと。

彼ら自身が、その内部への進入を許可した、対象者。
そうした者を、その内部へと、逃げ場の一切無い形で、密閉し、包含すること。

その内部へと進入した者。
そうした者に対して、以下の内容を、一方的に強制すること。
彼ら自身との、一体化や、融合や、調和。
例。
卵子に内部進入を許可された精子。
彼らの行く末。

卵子。
その内部への、許可を伴わない侵入。
その一方的な禁止を行うこと。
そうした侵入の発生可能性。
そうした可能性を、予め、徹底的に抹消すること。
そのことへの強いこだわりを、持つこと。
そのために、そうした侵入者を、抹消すること。
そのための行動。

その一環として、以下のような行動を、付随的に、行うこと。
その内部への侵入に対する、予防線。
それらを、より強固に張ること。
そのために、以下の行為を、可能な範囲で、行うこと。
既得権益の領域の、拡張。
そのために、外部へと、積極的に進出すること。

その内部へと、許可無く一方的に侵入してくる者。
そうした者を、重大な脅威と見なすこと。
そうした者の存在自体を、一切許さないこと。
そうした者に対して、心の底から、本格的に、感情的に怒ること。
彼らが、いったん怒り出した場合。

そうした怒りの発露を、誰も止めることが出来ないこと。

そうした脅威に対する、徹底的な防衛や抗戦や破壊活動。
相手の弱みに付け込んだ形での、専制的な態度での、権益の拡張。
それらを、爆発的な、なりふり構わない態度で、行うこと。
それらを、猛然と、行うこと。
それらを、以下の内容を伴って、行うこと。
誰も止められない、歯止めの効かない暴走性。

その内部の真実。
それらの内容を、外部に対して、隠蔽すること。
それらの内容を、綺麗で無問題な内容へと、故意に歪曲して伝えること。

自発的に、危険な外部領域に進むこと。
そのことを避けること。
その内部の豊かな安全地帯に滞留すること。
そのことで、快適な温室生活を送り続けること。
そうしようとすること。

苛酷な苦役の作業。
危険な対外的な護衛の作業。
それらの作業を、その外部へと、丸投げすること。
そのことで、以下の内容を実現すること。
楽な作業への就労機会。
それらを、その内部で、独占すること。
それらは、以下の内容である。
温室性。
退嬰性。

自分からは、動かず、他力本願に徹すること。
それらは、以下の内容である。
受動性。

既得権益の獲得。
その結果。
世界社会における、中心的存在。
そうした存在になること。
その実現への、強い指向性。

（2022年3月初出。）

男性優位社会における、女性恐怖症。

男性優位社会の人々。
彼らは、女性優位社会の存在を、決して、認めない。
彼らは、女性優位社会の価値観を、決して、認めない。
例。
ロシアや中国における、全体社会の調和や一体性の重視。

彼らは、女性の優位性を、決して、認めない。
彼らは、精子に対する、卵子の優位性を、決して、認めない。

彼らは、以下の内容を、根本的に欠いている。
男女の性差についての公平な研究を遂行する、能力。

彼らは、潜在的に、女性に対する、強い恐怖心を持っている。
彼らは、潜在的に、女性優位社会に対する、強い恐怖心を持っている。

それらの背景。
精子と卵子の受精のプロセス。
多数の精子が、女性の生体内で、大量に殺戮されること。
１個の精子のみが、最終的に、生き残ることを、卵子によって、許可されること。
精子と卵子の受精時。
精子は、卵子によって、その身体を、一方的に、呑み込まれ、解体される。
その結果。
精子は、以下の特性を喪失する。
個人行動。
自由行動。
個人の独立性。
開放性。
精子は、以下の内容を、卵子によって、強制される。
卵子の内部に、永久に、閉じ込められ、二度と外に出られなくなること。
卵子内部の液体に、全面的に、浸され、乾燥性を失い、湿潤状態に陥ること。
卵子との一体化。
卵子内部における調和。

男性は、以下の状況の実現に対する、根強い恐怖がある。
女性によって、丸呑みされ、閉じ込められ、個人行動や自由行動や独立を禁止され、専制支配を受けること。

男性優位社会は、以下の状況の実現に対する、根強い恐怖がある。
女性優位社会によって、丸呑みされ、閉じ込められ、個人行動や自由行動や独立を禁止され、専制支配を受けること。

社会の中核。
血縁集団。
その内部から、女性を追い出して、企業労働へと、進出させること。
その実現について、とても熱心であること。
女性の男性化について、とても熱心であること。
それは、男性優位社会にとっての、男女平等である。
それは、男性優位社会における社会的性差を、消滅させることである。
男性優位社会の女性における、女性性。
その撲滅を、熱心に目指すこと。
そうした社会運動は、潜在的な女性恐怖症によって、もたらされている。

それらは、結局は、以下の内容である。
生物学的な視点において。
卵子の、精子に対する、優位性。
女性の、男性に対する、優位性。
女性優位社会の、男性優位社会に対する、優位性。
卵子の性質や社会行動の、女性の性質や社会行動への、直接的な反映。

精子の性質や社会行動の、男性の性質や社会行動への、直接的な反映。

男性の優位性。
男性優位社会の存在可能性。
それは、移動生活様式を必要とする環境のみに、限定される。

（2022年3月初出。）

女性と、社会的上下関係。専制支配の発生との関連。

女性における、社会的上下関係。女性優位社会における、社会的上下関係。
それらは、以下の内容である。
上位者による、下位者に対する、逃げ場の無い、全人格的支配。下位者による、上位者に対する、逃げ場の無い、全人格的従順。
上位者による、下位者に対する、密閉的な包含。下位者が、上位者による包含の外部に出られないこと。
上位者。それは、下位者を包含する存在である。下位者。それは、上位者に包含される存在である。
上位者。それは、密閉容器である。下位者。それは、その密閉容器に一方的に閉じ込められた、その容器の中身である。
それらは、以下の内容をもたらす。
上位者による、下位者に対する、専制支配。下位者による、上位者に対する、無制限の隷従。
上位者が、下位者を独占すること。下位者が、上位者によって、独占されること。
社会的な専制支配の体制。女性は、社会における専制支配の発生源である。
社会的な密室支配の体制。女性は、社会における密室支配の発生源である。
それらは、以下の内容の反映である。
母体の子宮による、羊水経由の、胎児の密閉的な包含や独占と、胎児への、独占的で排他的な、栄養分の供給。
卵子による、受精のために飛び込んでくる精子の、細胞膜による、密閉的な包含や独占。
それらは、以下の内容の延長である。
母子関係。
母体としての、上位者。胎児としての、下位者。
母親としての、上位者。子供としての、下位者。

物事を、対象を包含するか、対象に包含されるかの、どちらかで、考えること。
対象を包含すること。それは、愛情である。
対象に包含されること。それは、甘えである。
対象が、包含に値する資質を保有している場合。その対象は、女性や、女性化した男性によって、以下のように呼ばれる。”あなたは、可愛い。”
そうした女性特有の思考。
それは、以下のように呼ぶことが可能である。
子宮的思考。数学的集合に基づく思考。

女性と、規則の遵守。

女性による、規則の遵守。

それは、以下の内容である。
規則への隷従。規則の、専制的な強制。
女性は、上位者の定めた規則を、忠実に守る。彼女は、そのルールに対して、従順であり、隷従する。
女性は、彼女自身が守る規則を、下位者に対して、一方的に、有無を言わさず、専制的に、強制する。
下位者が、そのルールを批判した場合。彼女は、その下位者に対して、徹底的で専制的な社会的制裁や社会的処罰を、容赦無く与える。

（2022年2月初出。）

女性や、女性優位社会における、矛盾の丸呑み行為の横行。

女性。
女性優位社会の人々。
彼らは、矛盾の丸呑みを、平気で行う。

例。
日本社会の人々。
彼らは、口先では、アメリカの自由主義的な民主主義を、必死で主張する。
しかし、彼らの実際の社会行動は、ロシアや中国と同様に、専制主義的である。
彼らは、以下の内容を、専ら行う。
アメリカの自由主義的な民主主義の、専制主義的な受容。
彼らは、その矛盾に、気付かない。

（2022年3月初出。）

女性たち。定住生活様式者たち。女性優位社会の人々。彼らのアウトプットが抱える、根本的な欠陥。

女性たち。
女性優位社会の人々。
定住生活様式者たち。
彼らのアウトプット。
その内容が、あまり良くないこと。
その内容が、あまり冴えないこと。
その内容が、やや劣悪なこと。
その内容が、やや不足気味なこと。
その内容が、やや後進的なこと。
それらの、恒常的な発生。
その、根本的な理由。
それは、以下の内容である。

（１）
それが、安住的なアウトプットであること。

それが、温室的なアウトプットであること。

卵子たち。
女性たち。
彼らが、先天的な既得権益の、占有者であること。
主要な、生殖設備や生殖資源。
それらの、生涯にわたる、独占。

定住生活様式者たち。
彼らが、先祖代々にわたる、後天的な既得権益の占有者であること。
主要な水利。
それらの、先祖代々にわたる、独占。
主要な、植物の育ちやすい居住エリア。
それらの、先祖代々にわたる、独占。

女性たち。
定住生活様式者たち。
女性優位社会の人々。

彼ら自身が、そうした恵まれた環境に安住していること。
彼ら自身が、そうした既得権益の上に安住していること。

苦役や危険を伴う、環境や作業。
彼ら自身が、それらを、徹底的に回避し続けていること。
彼ら自身が、それらを、外部の者へと、全て丸投げし続けていること。

楽で快適で安全な環境のみへと、停留すること。
楽で快適で安全な作業のみを、実行すること。
彼ら自身が、それらの実現を、強力に指向し続けていること。

その結果。
彼らの思考や行動におけるアウトプット。
それらが、以下のような内容になること。
//
甘えた性質であること。
生ぬるい性質であること。
//

彼ら自身が安住する温室。
その外部の環境における動向。
それらに対する、徹底的な無関心や興味不足。
それに基づく、根本的な、視野の狭さ。
その結果。
それらの欠陥が、以下の内容において、露呈すること。
//
彼らの思考や行動におけるアウトプット。
//

（２）
それが、不動的なアウトプットであること。

卵子たち。
女性たち。

定住生活様式者たち。
彼らが、定住や不動性を、強力に指向すること。

その結果。
彼らの思考や行動におけるアウトプット。
それらが、以下のような内容になること。
//
静的であること。
受動的であること。
鈍重であること。
のろまであること。
切れ味が悪いこと。
機動性に欠けていること。
遅れていること。
//

（３）
それが、不自由なアウトプットであること。

女性たち。
女性優位社会の人々。
彼らが、相互の間で、以下の内容を、絶えず強力に指向すること。
//
一体性の実現。
融合性の実現。
調和の実現。
同調の強制。
束縛。監視。管理。内部統制。
//

その結果。
彼らの思考や行動におけるアウトプット。
それらが、以下のような内容になること。
////
不自由であること。
画一的であること。
発展性に欠けていること。
快活性に欠けていること。
//
彼らが、あたかも囚人であるかのような、内容であること。
////
（2022年4月初出。）

個人性の優先。共同性の優先。男女の性差。

男性性。個人性の優先。 論理性。理性性。自己判断の重視。

（Ａ）論理性。
男性性の特徴の一つは、以下の内容である。
論理性。

論理の表現は、以下のようである。
（１）XXは、XXである。
（２）XXは、XXでない。

論理は、次の内容である。
０か、１か。
白か、黒か。
それらの中間は、無い。
論理回路は、その典型である。
論理的思考。
それは、自他を切り分ける。

論理は、以下の内容である。
自他を分離すること。
それを行う刃物。それを行う道具。それを行う手段。

それは、自他のつながりを断ち切る。

それは、以下の行動や価値観を実現する。
個人主義。
（１）個人行動。
（２）個人の自主独立。

論理は、それらの根源である。
それは、乾いた感覚をもたらす。

男性は、論理を好む。
そうした男性性は、以下のように表現できる。

////
論理の性。
分離の性。
個人性の性。
////

それは、次の感覚を、男性にもたらす。
////
みんなは、私のことを、そのままでは、分かってくれない。
////

男性は、生殖において、精子を担う。
論理性。
それは、精子の行動様式と、大きく関連する。
それは、以下の通りである。

////
精子は、個人行動をする。
精子は、個人主義で動く。
精子は、相互に分離する。
精子は、相互に分散する。
////

男性の精神は、次の内容を引き継ぐ。
精子の動き。その特性。
男性は、精子の担い手である。

それは、以下の内容の背景となっている。

（１）男性は、論理性を持つ。
（２）男性は、個人性を優先する。

（Ｂ）理性性。
男性性の特徴の一つは、以下の内容である。

理由付けが好きなこと。
理性的であること。

それは、次の内容である。
理性性。

理性的であること。
それは、以下の言動を好むことである。

（１）（XXは、XXである。）なぜならば、XXは、XXだから。
（２）（XXは、XXである。）その理由は、XXである。

////
論理的であること。
理性的であること。
////
上記の両者は、概念的には、別物である。
だが、双方は、密接につながっている。
それは、以下の通りである。

////
理性は、以下の内容である。
論理を正当化すること。そのための根拠。
個人が下した判断。その根拠。
////

それは、以下の行動によって、初めて実現する。
個人による判断。

////
個人による判断。
それは、個人行動がもたらす。
それは、個人主義がもたらす。
////

そうした男性性は、以下のように表現できる。
自己判断の性。
それは、次の内容に付随する。

////

自他のつながりを断ち切ること。
自他を分離すること。
////

それは、次の感覚を、男性にもたらす。
////
みんなは、私のことを、そのままでは、分かってくれない。
私は、私のことを、みんなに、分かってもらいたい。
私は、その実現のために、みんなに対して、説得したい。
私は、みんなに対して、論理的に説得したい。
私は、みんなに対して、理性的に説得したい。
////

男性は、生殖において、精子を担う。
理性性は、精子の行動様式と、大きく関連する。
それは、以下の通りである。

////
精子は、個人行動をする。
精子は、個人主義で動く。
精子は、個人の判断で動く。
////

男性の精神は、次の内容を引き継ぐ。
精子の動き。その特性。
男性は、精子の担い手である。

それは、以下の内容の背景となっている。
（１）男性は、理性性を持つ。
（２）個人による判断。男性は、それを優先する。

（Ｃ）まとめ。

（１）論理性。
（２）理性性。

筆者は、上記の二つの性質を、次の一言でまとめた。
個人性の優先。
男性は、それを、強く持つ。

（初出2020年8月）

女性性。共存性の優先。共同性の優先。 感情性。合意性。自己判断の回避。

（Ａ）感情性。
女性性の特徴の一つは、以下の内容である。
感情性。

女性は、感情的な言動を好む。
女性は、以下を優先する。
彼女自身の好き嫌い。

（１）好きな相手。
女性は、それと融合したい。
女性は、それと一体化したい。

（２）嫌いな相手。
女性は、それと融合したくない。
女性は、それと一体化したくない。
女性は、それを避けたい。

その根源は、以下の分類となる。

（１）女性は、自他を融合させる。
そうした女性性は、以下のように表現できる。
////
融合性の性。
////

（２）女性は、自他を連続させる。
そうした女性性は、以下のように表現できる。
////
連続性の性。
連続性の優先。
////

（３）女性は、自他を一体化させる。
そうした女性性は、以下のように表現できる。
////
一体化の性。
共同性の性。
絆の性。
////

それは、湿った感覚をもたらす。
それは、次の感覚を、女性にもたらす。
////
みんなは、私のことを、分かってくれる。
////

女性は、生殖において、卵子を担う。

感情性。
それは、卵子の行動様式と、大きく関連する。
それは、以下の通りである。

////
卵子は、排卵前は、ひとかたまりで分布する。

それらは、相互にくっついた状態で分布する。
それは、卵のうである。
////

それは、以下の状態である。
（１）細胞としての独立性。それを保っている状態。
（２）相互に接合した状態。

////
卵子。その存在は、自他を分離しない。
その存在は、論理的でない。
////

（Ｂ）合意性。
卵子は、排卵前は、ひとかたまりで分布する。
それらは、相互にくっついた状態で分布する。

仮に、卵子が心理構造を持っていた、とする。
それは、以下の内容を実現する。

////
心理的な和合。
心理的な同調。
心理的な一体感。
////

////
卵子は、個人行動をしない。
卵子は、個人で判断しない。
卵子は、以下を回避する。
自己判断。
卵子。その存在は、理性的でない。
////

////
卵子は、みんなで一緒に決める。
卵子は、みんなで合意する。
卵子は、以下を優先する。
自他の合意。
////

女性の精神は、卵子が持つ、そうした性質を引き継ぐ。
そうした女性性は、以下のように表現できる。
合意の性。

それは、次の感覚を、女性にもたらす。
////
私は、みんなと、合意したい。
私は、そうして、みんなと、一体化したい。
私は、そうして、みんなと、融合したい。
////

（Ｃ）まとめ。

（１）感情性。
（２）合意性。
筆者は、上記の二つの性質を、次のように、まとめた。
共存性の優先。
共同性の優先。

女性は、それを、強く持つ。

（初出2020年8月）

生活の移動性。生活の定住性。男女の性差。

精子。卵子。双方の動きの相違。それがもたらす、男性性と女性性。移動生活様式と定住生活様式。その根本的な関連。

男女の性差の分析。
それにおいては、以下が、根本的に重要である。
以下の視点に着目すること。

１．男性性。女性性。
それらについて、取るべき視点。

遺伝的な性質。
（１）精子的性質。
それは、以下を生成する。
男性性。
捨て身の性質。
自己拡大性。

（２）卵子的性質。
それは、以下を生成する。
女性性。
自己保身性。
自己中心性。

２．社会的な男性優位。社会的な女性優位。
それらについて、取るべき視点。

（１）
生活上、男性性が、何らかの形で、必須であること。
そのため、男性が、以下になること。社会的優位者。
そうした社会。

（２）
生活上、女性性が、何らかの形で、必須であること。

そのため、女性が、以下になること。社会的優位者。
そうした社会。

３．移動生活様式。定住生活様式。
それらと性差との関連。
それについて、取るべき視点。

（１）男性の精子。
彼らは、絶えず動き回る。
彼らは、以下を行う。移動生活様式。

（２）女性の卵子。
彼らは、一か所に止まって動かない。
彼らは、以下を行う。定住生活様式。

４．移動生活様式。定住生活様式。
それらと、以下との関連について、取るべき視点。
男性優位。女性優位。
筆者は、それを、以下のようにまとめた。

（Ａ）移動生活様式優位社会。
それは、以下である。
そこでは、以下の（１）が、以下の（２）の点で、以下の（３）に対して、以下の（４）を実行する。
（１）自然環境。
（２）以下を実現すること。
環境への適応。生存。
（３）生物。人間。
（４）以下を要求すること。移動生活様式。

移動生活様式。それは、以下の内容である。
遊牧。
牧畜。
その社会は、男性と、相性が良い。
男性は、以下を持つ。
生殖面での移動生活様式者。
精子。
その社会は、男性優位になる。
それは、男性優位社会になる。

（Ｂ）定住生活様式優位社会。
それは、以下である。
そこでは、以下の（１）が、以下の（２）の点で、以下の（３）に対して、以下の（４）を実行する。
（１）自然環境。
（２）以下を実現すること。
環境への適応。生存。
（３）生物。人間。
（４）以下を要求すること。定住生活様式。

定住生活様式は、以下である。
農耕。

その社会は、女性と、相性が良い。
女性は、以下を持つ。
生殖面での定住生活様式者。
卵子。
その社会は、女性優位になる。
それは、女性優位社会になる。

（初出2020年06月）

移動生活様式。定住生活様式。男女の遺伝的性差。その関連。

（１）
移動生活様式。
それに向いた心理構造や、行動パターン。
それを人々に提供すること。
そのことが遺伝的に決まっている存在。
それが男性である。

////
移動生活様式優位社会。
その社会で、権力を握ること。
それが、遺伝的に決まっている存在。
それが、予めプログラムされている存在。
それが男性である。

移動生活様式優位社会。
それは男性優位社会になる。

////
移動中に一時的に定住すること。
それを指向する存在。
それは、以下の人々である。
男性。
男性優位社会の人々。

（２）
定住生活様式。
それに向いた心理構造や、行動パターン。
それを人々に提供すること。
そのことが遺伝的に決まっている存在。
それが女性である。

////
定住生活様式優位社会。
その社会で、権力を握ること。
それが、遺伝的に決まっている存在。
それが、予めプログラムされている存在。
それが女性である。

定住生活様式優位社会。

それは女性優位社会になる。

////
定住中に一時的に移動すること。
それを指向する存在。
それは、以下の人々である。
女性。
女性優位社会の人々。

（2020年5月初出）

男性。女性。その行動様式。気体。液体。その分子運動パターン。その関連。

（１）
男性の行動様式は、以下として、捉えられる。
気体分子運動パターン。

それは、一人一人が、互いに、以下のように動く。

////
各自は、離れる。
各自は、バラバラである。
各自は、独立、自立する。
各自は、高速に動き回る。
各自は、能動的である。
各自は、攻撃的である。
////

こうした行動様式。
それは、以下と同様である。
男性が持つ精子。
その動きや分布。
そのあり方。

（２）
女性の行動様式は、以下として、捉えられる。
液体分子運動パターン。

それは、一人一人が、互いに、以下のように動く。

////
各自は、近づく。
各自は、集まる。
各自は、くっつき合う。
各自は、低速である。
各自は、静的である。
各自は、受動的である。
////

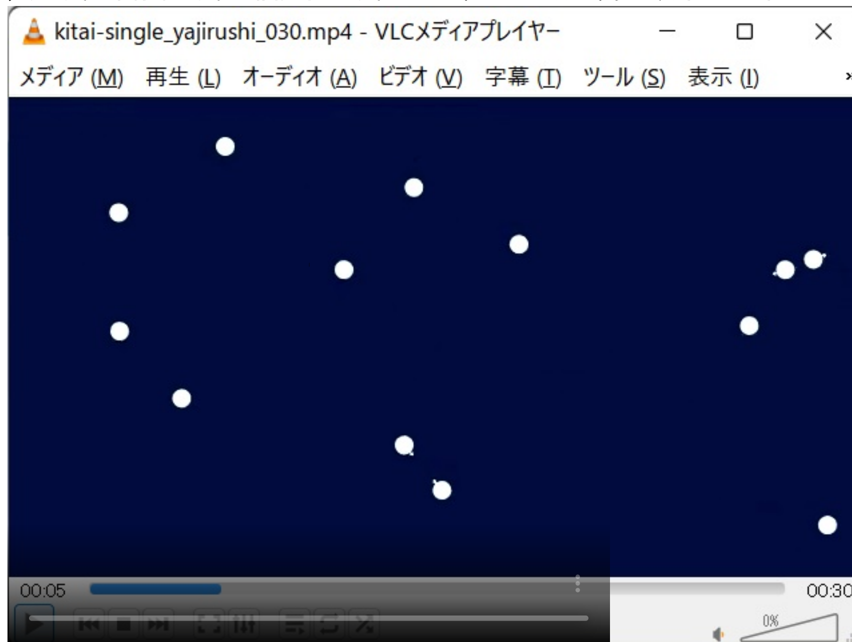
こうした行動様式。
それは、以下と同様である。
女性が持つ卵子。
その動きや分布。
そのあり方。

////参考////

液体。
女性。

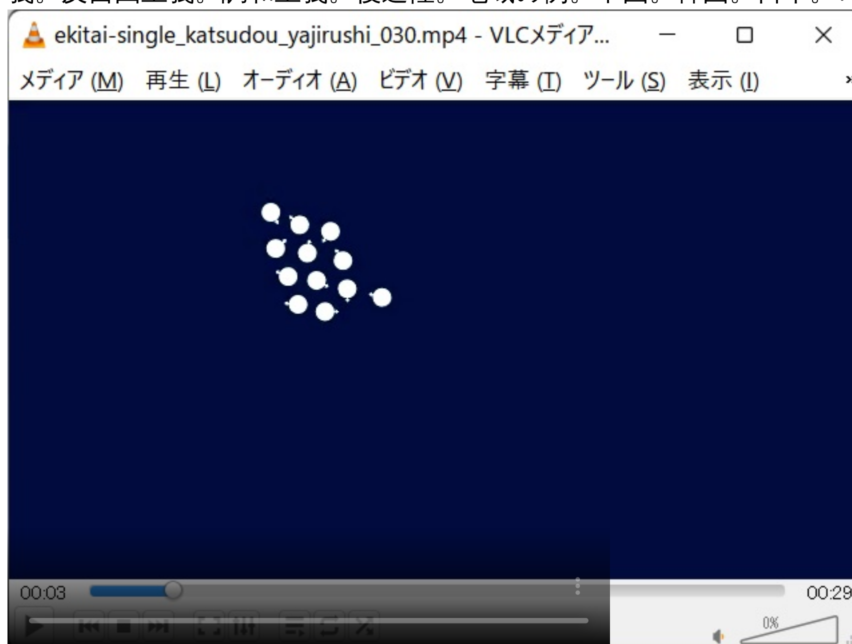
気体。
男性。

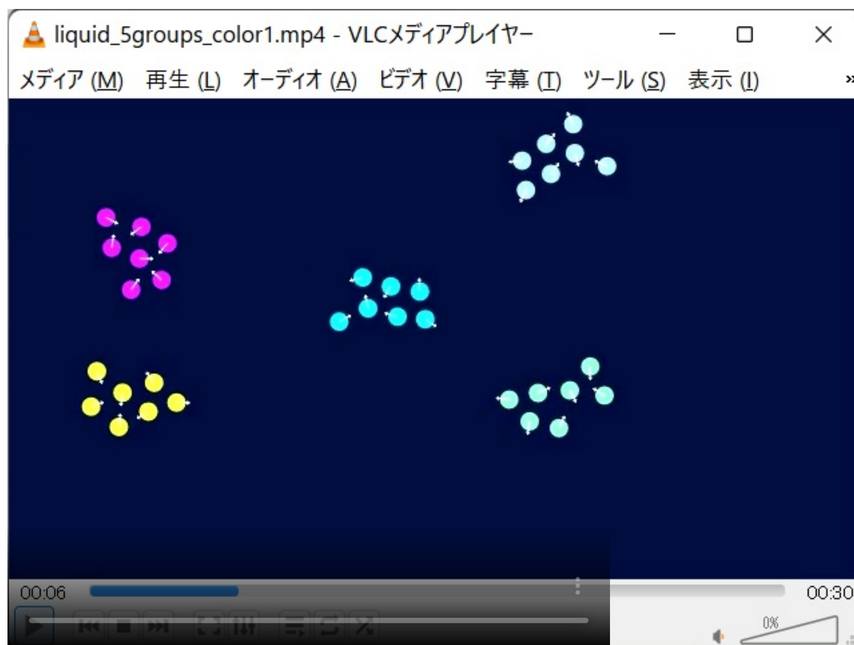
それらの運動。それらの行動。そのパターン。
それを動画で示した結果。
シミュレーション動画（１）。気体分子運動。ドライな感覚。精子の行動。男性的行動。父性的行動。移動生活様式。乾燥地帯における食糧確保行動。遊牧と牧畜の生活。個人主義。自由主義。非調和主義。先進性。地域の例。欧米。中東。モンゴル。





シミュレーション動画（２）。液体分子運動。ウェットな感覚。卵子の行動。女性的行動。母性的行動。定住生活様式。湿潤地帯における食糧確保行動。農耕の生活。集団主義。反自由主義。調和主義。後進性。地域の例。中国。韓国。日本。ロシア。





読者のみなさんは、それについては、以下の内容を、参照して下さい。
それは、筆者の、別の書籍である。

“気体と液体。行動や社会の分類。生物や人間への応用。”

（初出2008年01月）

女性とセックスと権力。

総論。女性とセックスと権力。

女性は、次のように考える。
////
私には、大きな性的価値がある。
私には、性的魅力がある。
私は、以下を、絶えず性的に誘っている。
不特定の男性。
////

////
私には、以下がある。
男性を性的に誘い続ける能力。
私には、男性吸引力がある。
////

女性は、以下のような存在である。

比喩。
////
様々な虫を、自分のところに引き寄せ続ける存在。

それを、人為的に行う存在。
それを、無制限に行う存在。
誘蛾灯。
////

実際。
////
様々な男性を、性的に誘引する存在。
彼らを、自分のところに、引き寄せ続ける存在。
それを、人為的に行う存在。
それを、無制限に行う存在。
生体誘蛾灯。
////

女性は、以下を嫌う。
////
男性。
彼は、私の好みではない。
彼は、私にとって想定外である。
そうした男性が、私に誘引されること。
そうした男性が、私のところにやってくること。
////

女性は、それを予防する手立てを持っていない。
女性は、自分では何もしない。
男性は、勝手に、女性へと寄ってくる。
それは、以下のおかげである。
女性自身が持つ、強力な性的誘引力。

女性は、自分からは動かなくても、以下のことができる。
男性のことを、選り取り見取りすること。

女性は、男性のことを、以下のように捉える。
勝手にアプローチしてくる存在。
女性は、それを、必ずしも、望まない。
女性は、そうした男性たちに対して、以下を抱く。
不可抗力のようなプレッシャー。
女性は、そうした男性たちに対して、以下を抱きやすい。
強力な被害者意識。
女性は、自分たちの恋愛の注意は、一部のモテる男性に集中する。
女性は、多数のモテない男性を、嫌う。
女性は、彼らを回避する。
仮に、以下が起きた、とする。
以下の（１）は、以下の（２）へと、以下の（３）を実行する。
（１）モテる男性。
（２）彼女自身以外の女性。
（３）目を移すこと。
すると、彼女は、以下のように考える。
////
男性は、私のところに来るはずだった。
////

女性は、以下のように考える。
////
私は、男性を、勝手に奪われた。
私の性的価値は、不当に損なわれた。
////

女性は、上記の（２）に対して、猛烈に危害を加える。

女性は、以下のように考える。
男性を選択する主体的存在。それは、女性である。
仮に、男性が、それを決めようとした、とする。
すると、女性は、猛烈に反発する。

女性は、自分がモテないと、以下のように考える。
////
男性には、私を見る目が無い。
男性が悪い。
////

女性は、以下のことは考えたがらない。
////
私には、性的魅力がない。
////

//////////////////////

自分の性的魅力の持続。
女性は、それを、当然視する。
女性は、化粧やダイエットを続ける。
女性は、年齢を重ねる。
女性の容姿は、壊滅的に衰える。
しかし、女性は、それを続ける。
女性は、彼女自身の年齢を盛んに気にする。
それは、以下の結果である。

女性は、年齢に応じて、以下を、どんどん低下させる。
身体面での性的魅力。
女性の卵子。それは、年齢とともに、劣化する。
その結果、女性は、以下について、すぐタイムリミットを迎えてしまう。
以下を作る能力。
彼女自身の遺伝的子孫。

その年齢は、男性に比較して、比較的若い。

女性は、以下を試みる。
以下の（１）について、以下の（３）を実行すること。
それを、以下の（２）が起こる前に、完了すること。
（１）自身の遺伝的子孫。
（２）以下に到達すること。
年齢上のタイムリミット。

（３）何とかして、残すこと。それを試みること。

そのことは、女性特有の行動様式である。
そのことは、女性の心の中に、予め、遺伝的に、ビルトインされている。

女性は、以下を、盛んに気にする。
他の女性との優劣。
身体のプロポーション。化粧。服飾。
女性は、ダイエットやファッションに夢中になる。
それらは、以下に対しても、直結する。
男性への性的魅力。その増減。
女性は、それらを、必死になって向上させようとする。

//////////////////////

女性は、以下のように、考える。
////
女性は、以下を、全て握っている。
セックスにおける、生殺与奪の権限。
セックス決定権は、女性の占有物である。
////

女性は、以下の存在である。
////
セックスの許認可権を占有する存在。
性的支配者。
性的権力者。
性的強者。
性的上位者。
////

女性は、そうして、男性に対して、上から目線で、偉そうに振る舞う。
女性は、男性のことを、以下のように見なす。

////
セックスの決定権。
彼は、それを持てない。
彼は、次である。
格下の存在。
////

仮に、男性が、それを行使しようとした、とする。
すると、女性は、猛反発する。
女性は、男性に対して、上から目線になる。
女性は、男性に対して、ごう慢になる。
女性は、以下に対して、駄目出しをする。
それは、一方的である。
それは、繰り返される。
////

男性からのデートのアプローチ。
男性からのデートのプランの提示。
////

女性は、男性を、上位者気取りで批判する。
一方、女性は、男性から批判される。
すると、女性は、それに耐えることができない。
女性は、すぐに、ブチ切れる。
女性は、男性に対して、以下のことを要求する。
////
私のことを尊重する扱い。
私に対する忖度。
私への気配り。
私へのご機嫌取り。
////

女性は、次の（１）において、次の（２）を実行する。
（１）
男性とのデート。
男性とのセックス。

（２）
男性に対して、以下を、強要すること。
お金の供出。
食事などの接待。
おごり。
女性は、こうしたことを、以下のように考える。
それらは、以下の行為である。
女性による、性的権力の行使。
そうした行為は、女性にとって、当然である。

女性は、これに応じない男性を、以下のように、猛烈に批判する。
////
男性は、以下を軽視している。
私の性的価値。
私の性的権力。
////

女性は、自分の生身の身体や性器を、以下のように捉える。
至高の不可侵の存在。
男性は、それらについて、気安くアプローチする。
男性は、それらを触る。
男性によるそうした行為。
女性は、それに対して、猛然と反発し、怒る。

女性は、男性に比べて筋力が弱い。
女性は、強姦を防止することができない。

仮に、女性が、強姦された、とする。
すると、女性は、以下の（１）について、以下の（２）とする。
（１）セックスの決定権。
（２）一方的な侵害。

それは、女性の占有物である。
女性は、それを、犯罪だとわめきたてる。

女性は、以下の（１）について、以下の（２）とする。
（１）筋力のある男性。
（２）私は、彼に対して、以下を感じる。性的魅力。

女性は、そうした男性に対して、以下を依頼する。
（１）彼女自身を保護すること。
（２）重い物を運ぶこと。

仮に、男性が、強姦した、とする。
すると、彼は、その女性によって、嫌われてしまう。

女性。
彼女は、男性自身にとって、本命である。
////
男性は、彼女に対して、好意を持つ。
男性は、彼女との結婚を、考える。
////
男性は、そうした女性に対しては、以下の必要がある。
その女性から、振られないようにすること。
そのために、その女性に対して、丁重にアプローチすること。

男性にとって、以下は、困難である。
そうした女性に対して、次のことを、うかつに行うこと。
自己中心的で、勝手なセックスをすること。
結局、男性は、以下を実行する。
（Ｐ）彼は、女性たちの望むペースで動く。

以下の仕組み。
以下の（１）が、以下の（２）に対して、以下の（３）を実行すること。
（１）女性。
（２）男性。
（３）以下について、指図すること。それは、自然に行われる。
（３－１）上記の（Ｐ）を実行すること。

これは、以下の力の源泉である。
女性は、その力を握る。
セックスにおける権力。

//////////////////////

女性は、以下を、清潔と考える。
例。彼女自身の皮膚や女性器。
女性は、以下の（１）に対して、以下の（２）を実行する。
（１）男性。彼は、彼女の身体を、タッチする。
（２）以下を要求すること。過度の清潔さ。

//////////////////////

一部の男性は、女性にモテない。
そうした男性は、以下のことを実現する。
以下の充足。
////
性的な興味。
性的な快楽。
////

男性は、それを、以下を通さずに、実現する。
////
女性の生身の身体。
女性の生身の女性器。
////

男性は、それを、以下を使って、実現する。
////
絵。
コンピュータグラフィックス。
それらは、以下を表現する。
女性。
彼女の姿は、性的魅力にあふれている。
////

女性は、それについて、以下のことを感じる。
////
私の生身は、必要とされていない。
私は、尊重されていない。
私の性的価値は、毀損された。
////

女性は、それによって、ひどくプライドを傷つけられる。
女性は、以下に対して、糾弾を行う。
女性は、以下に対して、迫害を加える。
女性は、それらを、凄まじい勢いで、行う。
////
絵やアニメなど。
それは、以下を表現する。
性的魅力にあふれた女性。
そうした男性は、それを、以下の対象とする。
性的な興味。
////

//////////////////////

女性は、盛んに、以下を高めようとする。
////
性的価値。
性的奥ゆかしさ。
性的攻略しにくさ。
////

女性は、盛んに、以下を実行する。
貞淑アピール。
（１）
女性は、わざとセックスに関心の無い振りをする。
（２）
女性は、以下を批判する。
男性の性的言動。
（３）
女性は、以下に対してマウントを取る。
性的に放縦な女性。
（４）
女性は、以下の存在を、妨害する。
////
女性。
彼女は、以下を持っている。
性的に魅力的な身体。
////
（５）
女性は、自分の価値を上げようとする。
女性は、そのために、他人の価値をわざわざ落とす。
女性は、そうした卑怯なやり方をする。
女性は、そのことを、何とも思わない。

女性は、普段、盛んに、以下を行っている。
貞淑アピール。
そうした女性は、強姦されると、以下のように考える。
////
私の性的価値。
私の性的攻略しにくさ。
それについての評価。
それらは、一気に低下した。
私は、性的に放縦な状態になった。
周囲による、私を見る目。
それは、厳しくなった。
それは、過度に性的になった。
私の子宮内には、以下が残る。
私を強姦した男性。
彼の精子。
私は、以下の可能性が生じる。
以下を妊娠すること。
私を強姦した男性。
その子供。
私は、男性に対して、もてなくなる。

////

男性は、次のことを、根本的に嫌う。
他人の子供を、一方的に育てさせられること。
そうして、
女性は、以下を、恥ずかしがる。
女性は、以下を、嫌がる。
女性は、以下を、隠そうとする。
////
強姦されたこと。
そのことを、周囲に知られること。
////
女性は、強姦されたことを、警察とかになかなか届けない。

//////////////////////

女性たちは、次のことを望まない。
下位者男性の遺伝子が、社会に存続すること。
女性たちは、以下の（１）との間で、以下の（２）の行為をすることを、全力で避ける。
（１）下位者男性。弱者男性。
（２）セックス。恋愛。結婚。
女性は、弱者男性を養わない。
女性は、例え、彼女自身が、次の状態であっても、そうである。
////
彼女の年収は、高い。
彼女は、経済力がある。
////

男性が、女性の関心を引くこと。その実現。
そのために、男性は、以下をする必要がある。
次の内容を、女性に対して、必死にアピールすること。
////
容姿の魅力。
有能さ。
競争力の高さ。
社会において、上位にいること。
以下の可能性を持つこと。
これから、社会において、上位になること。
////

デート。セックス。結婚。それらに向けた活動。
女性たちは、それらにおいて、上位者男性のもとに集中する。
女性は、以下の（１）に対して、以下の（２）を実行する。
（１）男性。彼は、以下の（１－１）について、以下の（１－２）を実現する。
（１－１）彼女自身の保身。その実現。その可能性。
（１－２）引き上げること。その幅は、大きい。
（２）付き合うこと。セックスすること。結婚すること。
女性は、次のことを待ち続ける。

////
そうした男性が、私のところにやってきて、私のことを見出すこと。
そうした男性が、私を気に入ること。
そうした男性が、私に対して、プロポーズしてくれること。
////

//////////////////////

女受けする発言。男性は、それを、頻繁にする必要がある。
男受けする発言。女性は、それを、あまりする必要が無い。
男性は、それ無しで、女性へと、寄ってくる。

//////////////////////

男性は、以下を実現しようとする。
（１）
女性との間で、以下の関係を持つこと。
それは、短期間である。
それは、行きずりである。

（２）
以下の（２－１）に対して、以下の（２－２）を実行すること。
（２－１）不特定多数の女性。
（２－２）積極的に種付けをすること。

女性は、以下を実現しようとする。
////
男性との間で、以下を持てるようにすること。
将来的な子づくり。
それを見越した、長期間の関係。
////

女性は、以下を、厳しく吟味する。
////
自分がセックスする相手。
その条件。
////

女性は、相手を絞って、厳選する。
女性は、以下の（１）に対してのみ、以下の（２）を実行する。

（１）
男性。
（１－１）
彼は、以下をクリアした。
彼女自身が、男性一般に対して出す、制約条件。

（１－２）
彼は、以下に該当する。
少数の優良物件。

（２）
セックスへの許諾を出すこと。

//////////////////////

女性は、以下の（１）において、以下の（２）に対して、以下の（３）の態度で、以下の（４）を実行する。
（１）セックス。
（２）男性。

（３）
女性は、それを、以下の目線で行う。
////
上位者としての目線。
一方的な目線。
厳しい目線。
////

（４）以下を、吟味すること。
////
私への前戯。
私とのセックス。

その実行。
その最中。

以下が上手であること。
以下において、テクニシャンであること。

私に対して、性的快感を与えること。
////

仮に、女性が、男性が下手だと思った、とする。
すると、女性は、評価者を気取る。
彼女による評価。それは一方的である。
女性は、すぐダメ出しをする。
女性は、下手な男性を、以下の理由で、振ってしまう。
性格の不一致。
男性は、以下を、高度に磨かなければならない。
////
セックス時のテクニック。
前戯。
セックス中。
////

男性は、そうしないと、以下が困難になる。
////
女性に対して、結婚に到達すること。
その結婚を持続すること。
////
女性は、以下の（１）の間、以下の（２）の目的で、以下の（３）を実行する。
（１）セックス中。
（２）彼女自身の保身。その実現。
（３）以下の（３－１）を、一切負わないこと。
（３－１）
セックス行為。それについての責任。
彼女は、上記の（３－１）を、自身の意思で行った。
彼女は、上記の（３－１）を、以下の（３－２）とする。
彼女は、上記の（３－１）について、以下の（３－３）を実行する。
（３－２）男性が、それを、一方的にやった。
（３－３）上記の（３－１）を、男性へと、押し付けること。

仮に、女性が、以下の（１）について、以下の（２）だった、とする。
（１）男性による愛撫。男性器の挿入。
（２）女性は、強い性的快感を感じている。

女性は、例え、そうであっても、以下の（３）を実行する。
（３）以下の（３－１）に対して、以下の（３－２）を、実行すること。
（３－１）男性。セックスの相手。
（３－２）男性に対して以下を主張すること。
////
私に対して、上記の（１）を、もう実行するな！
////

女性は、上記の（３）を、頻繁に行う。
女性は、上記の（３）を、繰り返し行う。

上記の（３－１）は、上記の（３－２）に真面目に応じて、上記の（１）を止める。
すると、女性は、とても不機嫌になる。
上記の（３－１）は、以下の（４）のために、以下の（５）を必要とする。
（４）女性の本心を叶えること。そうして、女性を満足させること。
（５）以下の（５－１）を行うこと。
（５－１）
上記の（３）を無視し続けること。
上記の（１）を、以下の（５－２）の間、実行すること。

（５－２）
女性が性的絶頂に到達すること。それが実現されるまで。

//////////////////////

売春。援助交際。
そこでは、以下が、必ず発生する。
以下の（１）による、以下の（２）への、以下の（３）の強制。
（１）女性。

（２）男性。
（３）以下の（３－１）への代償。その支払い。例。接待。
（３－１）女性への性的な行為。
それは、以下として捉えることができる。
女性による、男性への課税。『セックス税』の課税。
人間社会においては、以下の（１）が、以下の（２）よりも、以下の（３）に、強く該当する。
（１）税金を取る立場の人間。
（２）税金を取られる立場の人間。
（３）社会的な支配者。社会的強者。

男女の間では、以下の（１－１）が、以下の（２－１）よりも、以下の（３－１）に、強く該当する。
（１－１）女性。セックス税を取る立場の人間。
（２－１）男性。セックス税を取られる立場の人間。
（３－１）支配者。強者。上位者。

（４）結婚することにより、男性が、女性を養うこと。
上記の（４）は、以下の（４－１）の側面を持っている。
（４－１）男性による、特定女性への、セックス税の支払い。
その永続的な継続。
その一方的な継続。

男女の間では、以下の（１－２）が、以下の（２－２）よりも、以下の（３－２）に、強く該当する。
（１－２）女性。セックスを許可する立場の人間。
（２－２）男性。セックスを許可される立場の人間。
（３－２）支配者。強者。上位者。

以下の（１）は、以下の（２）について、以下の（３）を実行する。
（１）緊急避妊薬。
（２）男性の精子。それらは、以下に存在する。
（２－１）膣内。
（２－２）子宮内。
（３）その都度、全滅させること。

それは、以下の（４）においても、実現する。
（４）女性は、セックスを、好き放題に、行っている。

そうして、女性は、以下の（５）を実現する。
（５－１）
以下を確実に回避すること。
計画外妊娠。
（５－２）
以下を防ぐこと。
人工中絶などによる、女性身体へのダメージ。その可能性。
（５－３）
以下を実現すること。
以下を全く下げないこと。
女性の性的価値。

上記の（１）は、以下の（６）である。
（６）魔法の薬。

多くの女性フェミニストは、上記の（１）を激しく攻撃する。
それは、上記の（１）が、以下の（７）にとって、以下の（８）になるからである。
（７）女性の弱さ。それを主張し続けること。
（８）大きな障害。

上記の（１）。その存在は、以下の（９）を、容認する。
（９）男性は、女性に対して、好き放題に、セックスできる。
上記の（９）は、女性たちにとって、面白くない。
女性は、男性に対して、以下の（１０）を実行したい。

（１０）
女性とセックスする機会。
その制限。その持続。

///////////////////////

男性は、以下を残そうとする。
男性自身の遺伝的子孫。
男性は、その実現のため、以下を必須とする。
////
男性は、女性から、以下を、間借りする。
子宮。
女性は、それを占有する。
男性は、そうして、女性に子供を生んでもらう。
////

女性と男性との関係は、次の通りである。
////
（１）女性。
賃貸マンションの大家。

（２）男性。
その賃貸人。
////

////
（１）女性。
以下の所有者。
生産設備を所有する企業。

（２）男性。
所有できない従業員。
////

男性の浮気。
それは、以下と同一である。

家賃無払いの賃貸人の夜逃げ。

女性の浮気。
それは、以下と同一である。
以下の（１）が、以下の（２）に対して、以下の（３）を、以下の（４）とすること。
（１）大家。
（２）他の賃貸人。
（３）入居済みの賃貸人。その部屋。
（３－１）その部屋は、契約済みである。
（３－２）その部屋の家賃は、支払い済みである。
（４）勝手に貸し出すこと。その対象。

女性の浮気は、男性の浮気よりも、より強烈である。

子孫を生産する設備。
その所有。
そうした面では、以下のことが言える。

（１）
女性は、以下に相当する。
資本家。
資産家。

（２）
男性は、その設備を借りる。
男性は、それを活用させてもらう。
男性は、ただの借用者である。

上記は、以下の表れである。
男女間に、以下が存在すること。
上下関係。
（１）女性は、上位者である。
（２）男性は、下位者である。

これは、以下の表れである。
以下の（１）は、以下の（３）において、以下の（２）と比べて、以下の（４）であること。
（１）女性。
（２）男性。
（３）子孫の生産。
（４）上位者。

//////////////////////

男性は、そのままでは、次のことが、分からない。
女性は、どの男性の子供を、妊娠しているか？

どの男性の子供を生むか？その選択。
それは、女性の意思に、完全に依存している。
これは女性の大きな権力である。
男性は、以下を得たい。
以下への確証。

自分の子供が生まれること。

男性は、そうしたければ、以下にこだわるしかない。
処女膜の存在。

遺伝子診断技術。
その開発と普及。
男性は、それを用いることができる。
男性は、そうして、以下のことができる。
以下のことを、自分自身で確認すること。
セックスの相手。
その女性が生む子供。
それが、自分の子供かどうか？

男性の地位は、そうして向上した。

//////////////////////

女性は、以下の（１）を、以下の（２）において、以下の（３）の条件で、実現できる。
（１）性的絶頂に達すること。
（２）セックス中。
（３）
その回数に制限が無いこと。
それが無限であること。
何度でも、実現できること。

男性は、上記の（１）については、以下の（４）である。
（４）
その回数に限界があること。
それが有限であること。
それは、有限回の射精で、終了すること。

次の（５）は、次の（６）にとって、次の（７）になる。

（５）
女性の性欲が強いこと。
女性が、なかなかセックスに満足しないこと。

（６）
男性。セックス相手。

（７）
地獄。
それは、以下の面で、そうなる。
男性の精力。その弱さ。

そうした男性は、相手の女性から、次のように、扱われる。

////
女性を、性的に満足させること。
それができない男性。
使えない男性。
////
男性は、以下を否定される。
彼自身の男性性。
男性は、それを感じる。
男性は、がっかりする。

（３）以下の（１）における、以下の（２）に関する性差。
（１）セックス中。
（２）性的絶頂への到達。その可能回数。

上記の（４）は、以下の（５）になる。
（５）以下の証拠。

以下の（６）が、以下の（７）において、以下の（８）であること。
（６）女性。
（７）セックス。
（８）
男性よりも有利であること。
男性に対して、以下の立場に立っていること。
支配者。

男性にとって、次の（９）は、とても困ることである。

（９）
以下の（１０）が、以下の（１２）において、以下の（１３）であること。
そのため、以下の（１１）が、以下の（１０）に対して、以下の（１４）であること。
それなのに、以下の（１０）が、以下の（１１）に対して、以下の（１５）であること。
そのため、以下の（１１）が、以下の（１０）に対して、以下の（１６）になること。
そのため、以下の（１０）が、以下の（１１）に対して、以下の（１７）になること。
（１０）女性。結婚相手。セックスの相手。
（１１）男性。結婚相手。セックスの相手。
（１２）年齢。
（１３）中年に差しかかっていること。
（１４－１）以下において、衰えていること。セックス相手に対する性的魅力。それを感じる度合い。
（１４－２）セックスを繰り返して飽きが来ていること。
（１５）性欲が強くなること。
（１６）以下ができないこと。セックスを、十分行うこと。
（１７）性的に満足しなくなってしまうこと。

（2020年5月初出）

各論。女性とセックスと権力。

女性の生殖細胞面での優位性

生殖的には、以下の性差が存在する。
女性は、卵子の担い手である。
男性は、精子の担い手である。

卵子は、数が少なく、貴重である。
精子は、数が多く、粗製乱造である。

つまり、卵子は、精子に比べて、以下の存在である。
その価値は、上位である。
それは、より高価である。
それは、より高貴である。

////

これを男性と女性の関係に置き換える。
それは、以下のようになる。

女性。
卵子の担い手。
男性。
精子の担い手。

女性は、男性に比べて、生殖面で、以下の存在である。
その価値は、上位である。
それは、より高価である。
それは、より高貴である。

その点、女性の方が、優位である。
女性の方が強い。

//////////////////////

すなわち、以下のようになる。

恋愛。
結婚。

女性は、以下が可能である。
相手候補を一方的に絞ること。

////

女性は、以下を持っている。
採用や選択の権限。
女性は、そうした立場にある。

////

男性は、以下の立場である。
応募者。
その数は、採用人数に比較して、とても多い。
女性の方が、男性より立場が強い。

////

女性は、以下を所有している。
男性の候補者を、以下に絞って限定する権限。
その男性は、優位である。
その男性は、有能である。

そうした男性に対してのみ、交際を許可する権限。
女性の方が、男性よりも立場が強い。

//////////////////////

女性は、以下を所有している。
セックスを許可するかどうか。
その決定権。
その許認可権限。
女性の方が、男性よりも立場が強い。

////

女性は、以下を所有している。
男性による結婚プロポーズ。
それに対する決定権。
それに対する許認可権限。
女性の方が、男性よりも立場が強い。

//////////////////////

女性は、こうした様々な優位性を持つ。
女性は、それらを、以下の実現のために、活用する。
女性が、自身の権利を拡張すること。
それは、女性にとって、望ましい。

（2020年5月初出）

女性の性器面での優位性

女性器は、以下を、所有し、占有している。
生体の設備。
それは、以下の実現のために、必須である。
遺伝的子孫の生産。

////

女性は、子宮を占有し、所有している。
子宮は、以下のような存在である。
受精設備。
妊娠設備。

胎児を生育させる設備。

////

この場合、女性と男性の関係は、以下のようになる。

（１）設備。
（１－１）女性。
所有者。
資本家。

（１－２）男性。
その借用者。

（２）賃貸不動産物件。
（２－１）女性。
大家。

（２－２）男性。
店子。

（３）大土地所有制度。
（３－１）女性。
地主。

（３－２）男性。
小作人。

女性が男性より、地位が圧倒的に高い。

////

女性は、こうした様々な優位性を持つ。
女性は、それらを、以下の実現のために、活用する。
女性が、自身の権利を拡張すること。
それは、女性にとって、望ましい。

（2020年5月初出）

女性による性的魅力の行使。男性が心理的に女性の奴隷になること。

仮に、女性が、男性に対して、以下を見せた、とする。
すると、男性は、性的に我慢ができなくなる。

（１）きれいな顔や目や耳。
（２）きれいな声。
（３）きれいな、すべすべの、柔らかい、体温を感じる、温かい素肌。
（４）長い、さらさらの、髪の毛。
（５）形のよい、おっぱい。
（６）細くくびれた腰。
（７）きれいな曲線の、出っ張った大きな尻。
（８）むちむちの太もも。

（９）すらっとした、きれいな脚。

男性は、女性に対して、引き寄せられる。
それは、心理的である。
それは、一方的である。

男性は、心理的に、以下となる。
男性は、女性の思うままに、女性によって操られている。
男性は、女性の奴隷になる。

仮に、女性が、以下の姿勢をした、とする。
以下の姿勢。
それは、男性を、性的に挑発する。
すると、男性は、性的に我慢ができなくなる。

（１）Ｍ字開脚。
（２）女豹のポーズ。

男性は、女性に対して、引き寄せられる。
それは、心理的である。
それは、一方的である。

男性は、心理的に、以下となる。
男性は、女性の思うままに、女性によって操られている。
男性は、女性の奴隷になる。

女性は、この権力を、男性に対して、積極的に活用すべきだ。

（2020年5月初出）

女のセックス中の優位性

性的絶頂。
それに達すること。
女性は、それを、何回でも、無限に、体験できる。

男性の射精。
その可能な回数。
それは限られている。

性的絶頂。
それに達すること。
その体験の可能性。
男性は、その点で、有限である。

その点、男女関係は、根本的に、女性優位になる。

//////////////////////

女性は、以下が可能である。
気に入った男性。
その精子。
それを極限まで搾り取ること。

//////////////////////

セックスの開始。
仮に、男性が、性的に威勢が良かった、とする。
男性は、射精する。
女性は、その都度、以下の姿勢をする。
それは、男性を、性的に挑発する。
女性は、次の発言を、故意に、繰り返す。
////
あなたの精子を、私の膣内に、もっと出して！お願い！
////
そのことで、女性は、ほどなく、男性に対して、以下をもたらす。
性的な限界。
女性は、男性を、性的に萎えさせる。
女性は、男性を、次のように呼ぶ。
////
あなたは、使えない男だ！
あなたは、絶倫ではないの？
あなたは、インポテンツだ！あなたは、ダメだ！
あなたは、もっと、性的に持続できるようになりなさい！
あなたは、もっと、頑張りなさい！
////
女性は、そのことで、以下を実現する。
男性を、自分に対して、屈服させること。

女性にとっては、以下も、可能である。
女性は、男性に対して、故意に、次のように呼ぶ。
////
あなたは、早漏だ！あなたは、ダメだ！
////

//////////////////////

男性は、セックス時、以下が必須である。
女性に対して、以下を体験させること。
その実現。
色々な性的快感。

女性は、男性に対して、以下を、一方的に、やらせる。
女性に、性的快感を、与え続けること。
女性は、その結果を、評価する。
それは、男性にとって、厳しい。

性的快感の供与。
男女関係は、その点で、以下のようになる。
男性は、女性に対して、奉仕する。
男性は、女性に対して、従属する。
それは、一方的である。

//////////////////////

仮に、女性が、以下のように考えた、とする。
私は、男性を支配したい。

男性が持つセックスの技術。
女性は、それについて、故意に、次のように呼ぶ。
////
あなたのセックス技術。
それは、根本的に下手だ！
あなたは、もっと、女性を、性的に満足させなさい！
あなたは、その技術を磨きなさい！
あなたは、もっと精進しなさい！
////

//////////////////////

女性は、以下を掌握する。
セックスの決定権。
女性は、権力者である。

女性の同意。
仮に、それが無かった、とする。
すると、男性は、女性と、セックスできない。

セックスの遂行。
その規則。
その内容は、彼女自身にとって、都合が良い。
女性は、それを、恣意的に、自分勝手に決める。
女性は、それを、一方的に、男性に対して、押し付ける。

//////////////////////

その典型例は、以下である。
女性は、以下のことを、男性に対して、一方的に強制する。
////
セックス中。
性的絶頂。
それへの到達。
そのタイミング。

それを、互いに、同期させること。
////
セックスにおいては、男性も、女性も、性的絶頂に達する。

男性は、以下のように考える。
////
男女はどっちも、セックス中、別々のタイミングで、好き勝手に、絶頂に達すれば良い。
そのタイミング。
それを、男女の間で、合わせること。
その必要は、特に無い。
////

女性は、以下の実現に、とてもこだわる。
男性が射精するタイミング。
それと全く同じタイミングで、自身が、性的絶頂に達すること。

女性は、一般に、以下を重視する。
////
自分の行動が、相手と同期すること。
そうして、以下を実現すること。
相手との間で、相互に一体感を持つこと。
////

この考えは、セックスにも、反映されている。

男性の射精のタイミング。
仮に、それが、女性の想定より早かった、とする。
女性は、男性のことを、以下のように罵る。
////
お前は、早漏だ！
お前は、使えない男だ！
////

仮に、それが、女性の想定より遅かった、とする。

女性は、男性のことを、以下のように、罵る。
////
お前は、遅漏だ！
お前の性的機能には、問題がある。
私とお前とは、相性が合わない。
お前は、駄目な男だ！
////
これらは、両方とも、男性にとっては、以下になる。
痛烈な心理的ダメージ。

女性は、このことを活用する。
女性は、男性に対して、故意に、恣意的に、以下のように宣告する。
////
お前は早漏だ！
////
お前は遅漏だ！
////

お前は、私を性的に満足させろ！
お前は、そのために、もっと根本的に努力しろ！
////
女性は、そうすることで、以下を実現できる。
男性を屈服させること。
そして、女性は、以下を実現できる。
こうした男性を、性的に、切り捨てること。
それは、男性にとって、一方的である。

//////////////////////

女性は、男性に対して、以下を行う。
////
セックス面での相性。
それを、一方的に判定すること。
////
相手を首にするかどうか。
それを、一方的に決定すること。
////

女性は、男性にとって、以下の存在である。
上司のような存在。

男性は、以下のように考える。
////
僕は、女性と、関係を続けたい。
////
そのためには、男性は、女性に従うしかない。

男女のセックスにおける、こうした傾向。
女性が、男性に対して、権力を振るいたい場合。
女性は、それを活用すべきだ。

//////////////////////

女性は、男性に対して、以下のことを、思い知らせる。
それは、女性にとって、都合が良い。

（１）
セックスの成果。
その評価や診断。
その権限。
////
セックスのコントロール。
その権限。
////
それらが、女性の側にあること。

（２）
男性が、女性を性的に満足させられない場合。

その男性は、無能であること。
その男性は、以下が無いこと。
人間としての価値。

それは、以下の場合でも、成立すること。
////
男性の容貌が、優れている。
男性が、金持ちである。
////

（３）
男性。
彼が持つ、人間としての価値。
それを決めるのは、女性である。

（４）
女性は、男性にとって、以下の存在である。
セックスにおける上司。

このことは、以下の実現において、有効である。
同棲関係。
結婚関係。
それらの持続。

女性は、男性に対して、上記の主導権を握る。

////

しかし、それは、次の問題を持つ。
仮に、女性が、これをやりすぎた、とする。
すると、男性は、がっかりする。
男性は、怖くなる。
男性は、逃げ出してしまう。

（2020年5月初出）

女性の性欲の強さ。人間が持つ、生物としての性欲の強さ。その社会的公認。それは必要である。

貞淑アピール派の女性たち。
彼女たちは、以下を、強制的に抑圧する。
女体が持つ性的魅力。

彼女たちは、以下を、叩く。
////
女性。
彼女のスタイル。それは抜群である。
例。レースクイーン。
////

彼女たちは、以下を、叩く。
////

女性。
彼女は、以下のことが大好きである。
セックス。
////

彼女たちは、以下を、叩く。
////
緊急避妊薬。
その存在。

それは、以下の存在を殺す。
精子。
それは、女性器の内部に、存在する。

その働きは、以下の場合に、有効である。
セックス後。
レイプ後。
////

彼女たちは、以下を、叩く。
////
以下を主張する女性。
緊急避妊薬。
それは、以下の実現にとって、有効である。
女性が社会的支配力を向上させること。
////

彼女たちは、以下の表現を、叩く。
////
萌え絵。
萌えアニメ。
大きなおっぱい。
むちむちの太もも。
////

貞淑アピール派の女性たち。
彼女たちは、以下を、強制的に抑圧する。
性的な発言。

彼女たちは、それを、以下の内容として扱う。
セクハラ。
それは、何でも、そうなる。

彼女たちは、以下を、セクハラとして扱う。
彼女たちは、それを、叩く。
////
以下に対して行われる、性的な質問。
女性の人工知能券売機。
鉄道会社は、それを導入した。
////

貞淑アピールをする女性。

彼女たちも、普通に、とても性欲が強い。
それは、以下を考えると、明らかである。
彼女たちの生体。その仕組み。

これからは、以下を実現させよう。

女性自身が、以下を、社会的に認めること。
////
女性の性欲。
その強さ。
その深さ。
////

女性の性欲。それはとても強い。
その事実。
それを、社会的に、積極的に主張し、宣伝しよう。

女性は、以下において、男性を上回る。
性的絶頂回数。

女性は、以下が可能である。
無限に性的絶頂を繰り返すこと。

女性は、以下の面では、まさに底なし沼である。
性欲の強さ。

女性は、本質的に、セックスが大好きである。
なので、以下は、補正されるべきだ。
////
女性による恣意的な貞淑アピール。
それがもたらすバイアス。
////

女性に、以下を公認させよう。
以下の事実。
女性たちの性欲。それはとても強い。

以下を実現しよう。
////
セックスが大好きなこと。
その社会的な公認。
その度合い。
その男女平等。
////

人間は、生物の一種である。
人間は、動物の一種である。
男性も、女性も、セックスが大好きである。

人間の男女は、性欲が、とても強い。
そのことは、以下の実現にとって、不可欠である。
男女が、生物として、遺伝的子孫を残していくこと。

人々は、こうした事実を、社会的に、きちんと広めるべきだ。

人間の持つ、以下の性質や特質。
////
それは、生物である。
それは、セックスを本質的に必要とする。
////
人々は、それらを、もっときちんと認識すべきだ。

貞淑アピール派の女性。
彼女たちも、中身の生体は、性欲にまみれている。

女性の身体。
彼女の生体の作り。
それは、そういうものである。

女性のクリトリスの性的快感。
それは、男性のペニスと互換である。
あるいは、それは、面積的に高密度である。
それは、男性よりも、もっと強い。

女性は、以下の性的快感も、とても強い。
////
膣内のボルチオ。
乳首。
////

仮に、女性の女性器に、男性器が入った、とする。
すると、女性は、精神的に、とても満たされる。

女性は、本質的に、セックスを訴求する。

従来、以下の（１）について、以下の（２）の主張が多い。
（１）
性的被害。
性的虐待。

（２－１）
それらは、男性から、女性に対して、一方的に行われている。
（２－２）
男性は、性欲が強い。
女性は、性欲が弱い。

しかし、それについては、以下の反証が考えられる。
例。
既婚の中高年男性。
その奥さん。
彼女は、以下をすっかり無くしている。
性的魅力。
////
彼女は、中高年である。
彼女は、おばさんである。
////

彼女は、以下が、やたらと強い。
性欲。

男性は、以下が、低下してきている。
彼自身の性的能力。

しかし、男性は、以下を、強制される。
奥さんに対する、性的な奉仕。

男性は、それを、毎晩、強制される。

彼自身の精力。
それは、既に、不足状態に陥っている。
男性は、それを、奥さんによって、吸い取られ続ける。

こうした男性は、奥さんから、以下を受けている。
////
性的被害。
性的虐待。
////

それは、以下が原因である。
女性の性欲の強さ。

男性は、自分の子供を、奥さんによって、人質に取られている。
仮に、男性が、奥さんと、離婚した、とする。
すると、男性は、奥さんから、以下を奪われる。
多額の慰謝料。
男性は、経済的に、破滅する。
なので、男性は、離婚もできない。

以下のことは、もっときちんと認識されるべきだ。
////
女性の性欲が強いこと。
そのことで、男性において、以下が生じていること。
社会的な不利益。
それを受けること。
////

（2020年5月初出）

女性たちの持つ、「生の女性器」至上主義。

女性たちは、以下を、本質的に重視する。
女性器の存在。
それは、以下である。
////
セックス。生殖。
それらのための、最大の生産設備。
////

//////////////////////

生の女性器。
それは、男女双方に対して、以下をもたらす。
最大級の性的快感。

女性は、それを餌にする。

//////////////////////////

以下の（１）は、以下の（３）を利用して、以下の（２）に対して、以下の（４）を実行する。
（１）女性たち。
（２）男性たち。それは、女性にとって、魅力的である。
（３）生の女性器。
（４）性的に、おびき寄せること。性的に、釣り上げること。
女性器は、そのことについて、絶大な効果を発揮する。

女性たちは、以下に、大きく着目する。
生の女性器の持つ、上記の特質。

//////////////////////////

女性たちは、次のことを最大限活用する。
////
彼女たちは、生の女性器を所有している。
彼女たちは、そうして、資本家の立場にいる。
////

生の女性器の使用許可権限。
女性たちは、それを、男性を一方的に支配するために用いる。

男性は、以下の立場に置かれている。
女性器の借用人。

女性たちは、以下の内容で動く。
「生の女性器」至上主義。

//////////////////////////

女性たちは、モテない男性たちを、交際対象から一方的に外す。
彼女たちは、次のように考える。
////
彼らは、以下に、適合しない。
私たちの審査のお眼鏡。
私たちは、彼らに、以下を、使用させない。
私たちの生の女性器。
////

//////////////////////////

モテない男性たち。

彼らは、以下の物品を、使用しない。
女性たちの生の女性器。

彼らは、独自の方法で、性的にとても満足する。
彼らは、以下の恩恵を受ける。
////
生の女性器の代用品。
その開発。
////

彼らは、以下を、不要品扱いする。
生の女性器。

彼らは、生の女性器を使わない。

彼らは、以下の内容を、実現する。
仮想的な男女交際。

//////////////////////

女性たちは、そのことで、不快になる。
女性たちは、そうした男性たちを、叩く。
女性たちは、以下の存在を、叩く。
////
男性用のラブドール。
萌え絵の女性。
////

女性たちは、以下の男性を、叩く。
////
彼は、以下を宣言した。
仮想女性との結婚。
例えば、初音ミク。
////

//////////////////////

女性たちは、以下を、叩く。
////
人工子宮。
その開発。
それは、以下に向けて、行われる。
子宮摘出手術を行った女性。
////

生の女性器。
その機能を失った女性。

彼女は、一般女性たちからは、以下のように、扱われる。
女性性を失った、劣位者。

彼女は、一般女性たちから、上から目線で、叩かれる。

//////////////////////

仮に、以下が実現した、とする。
以下の（１）が、以下の（２）について、以下の（３）になること。
（１）女性たち。
（２）生の女性器。女性たちは、それを、彼女たち自身で所有する。
（３）男性は、それに対して、男性器を挿入する。

すると、女性たちは、以下のように感じる。
////
私たちの生の女性器。
それは、必要とされている。
それは、役立っている。
////

女性たちは、以下に浸る。
////
私たちの生の女性器。
その存在。
その有用感。
////

女性たちは、気分がとても充実する。
女性たちは、人生的に満足する。

//////////////////////
=

これは、以下と同じである。
////
不動産賃貸物件。
それを所有する大家。
////

仮に、以下の内容が実現した、とする。
以下の（１）が、以下の（２）について、以下の（３）になること。
（１）大家。
（２）彼の物件。
（３）店子は、それを借りる。

すると、大家には、以下が生まれる。
彼自身の物件についての有用感。
大家は、気分的に満足する。

//////////////////////

女性たちの生の女性器。
それは、以下と、性質が同じである。
大家の不動産賃貸物件。

//////////////////////

大家は、以下の場合、寂しい。
////
不動産賃貸物件。
彼は、それを所有する。
それが空いたままの状態。
それが続くこと。
////

//////////////////////

女性たちは、以下の場合、寂しい。
////
私たちの生の女性器。
それが使われないままであること。
////
私たちの生の女性器。
それへの需要や必要性。
それらを否定されること。
////
女性たちは、がっかりして空しい。

（2020年5月初出）

女性の持つ、性的な権力や権限。

女性は、以下を、行使している。
////
性的な権力。
性的な権限。
////
それらは、とても大きい。
それらは、以下の二種類である。

（１）
一つ目は、以下の権限である。

//////////////////////

男性は、以下の内容に誘われる。
女性が持つ、性的な魅力。

男性は、女性と、セックスしたい。
男性は、女性のもとへ、次々とやってくる。

女性は、その中から、以下を、選別する。
相手の男性。
女性は、その男性に対して、セックスを許可する。

//////////////////////

女性は、セックスを許認可する。
女性は、以下のように考える。
////
私は、この男性は好きだ。
私は、この男性とはセックスしても良い。
////
私は、この男性は嫌いだ。
なので、私は、彼と、セックスしたくない。
////

//////////////////////

女性は、以下の役回りをやっている。
自身の膣穴。
その門番。

女性は、以下の時だけ、門を開ける。
以下の存在とセックスする時。
彼女自身が好きな相手男性。

女性は、以下に対して、門を閉じる。
彼女自身が嫌いな相手男性。

//////////////////////

男性が強引に女性をレイプした場合。
それは、以下のようになる。

女性にとって、その男性が好みである場合。
それは、女性にとって、何も問題無い。
女性は、それを、許可する。

女性にとって、その男性が嫌である場合。
女性は、大声でわめく。
////
私は、強姦された！
////
女性は、相手男性を、犯罪者扱いする。
女性は、告訴する。

//////////////////////

痴漢もこの一種である。
痴漢して良いかどうか？
それについては、女性が、最終決定権を握っている。

痴漢が、女性の意に反して、行われた場合。
それは、以下になる。

女性は、以下のように考える。
////
私は、以下の内容を侵害された。
私が持つ、痴漢の許認可権限。
////
女性は、男性を、犯罪者として扱う。
女性は、告訴する。

//////////////////////////

売春では、男性が、女性に対して、お金を払う。
そうしないと、男性は、女性から、相手にしてもらえない。

これは、女性が、以下を、握っているためである。
セックスの許認可権限。

お金。
売春において、男性は、女性に対して、それを払う。

それは、以下である。
門番への賄賂。

この点で、女性は男性より優位に立っている。
女性は、男性にとって、権力者である。

（２）
二つ目は、以下の権限である。

//////////////////////////

男性は、以下の内容に誘われる。
女性が持つ、性的な魅力。

男性は、女性に対して、次々とプロポーズする。
女性は、その中から、以下の相手男性を、選別する。
私は、私の遺伝子を、彼と共同で、残したい。
女性は、結婚を、許認可する。

//////////////////////////

女性は、自分からは、相手男性にプロポーズしない。
女性は、男性の方から、自分へと、プロポーズさせる。
女性は、そのように、わざと仕向ける。

女性は、以下の自覚を持つ。
////
私は、以下の権限を、持っている。

（１）プロポーズの受諾。

その権限。

（２）結婚する異性。
その最終的な決定。
その許認可権限。
////

女性は、その権限を振るおうとする。
この点で、女性は男性より優位に立っている。
女性は、男性にとって、権力者である。

//////////////////////

問題は、以下の点である。
女性は、年を取る。
女性は、性的な魅力を失う。
すると、女性は、以下において、とても弱くなってしまう。
これらの二つの権力や権限。
それらを行使する力。

女性は、以下を、行うのが良い。
こうした権力、権限を、以下の期間内に、行使すること。
////
女性が、若い間。

その間、女性は、以下を、豊富に持っている。
性的な魅力。

////

（初出2017年5月）

女性による、妊娠に関する機密情報の占有。

受精。
妊娠。
それらが発生した状況の下。
女性は、以下の二種類の内容の情報について、その所有を、独占する。

（１）
以下についての真実。
彼女自身が、現在、妊娠しているかどうか？
（２）
以下についての真実。
その妊娠において、その相手の男性が、本当は誰であるか？

上記の情報は、両方とも、女性にとって、機密情報である。
それらの情報は、当の女性以外は、知ることが、出来ない。

それらの情報を、機密情報として、独占すること。
それは、女性にとっての、性的権限である。
上記の事実は、女性の優位性を、対外的に、明示する。

上記の（１）の情報。
それを、女性の身体の外部から、知ること。
そのことは、以下の場合を除いて、全く不可能である。
女性の妊娠の後期。
女性の腹部の膨らみ。
それが、外見面において、はっきりしてきた場合。
そのことによって、はじめて、対外的に判明する情報。
女性が、既に、妊娠している、という事実。
その場合においても、対外的に、未だに、全く判明しないままの情報。
それは、以下のような情報である。
上記の（２）の情報。
以下についての真実。
その妊娠において、その相手の男性が、本当は誰であるか？

上記の（１）の情報。
それを、女性の身体の外部から、知ること。
そのことは、以下の場合、全く不可能である。
女性の妊娠の初期。

上記の二種類の情報を、知ること。
男性は、そのことが、そのままでは、全く不可能である。

以下の内容についての、性的権限。
女性は、それを、独占している。
上記の二種類の情報。
それを、男性に対して、通知するかどうか？
それを、一方的に決定する、権限。

女性は、以下のような行為が、実行可能である。
上記のような優位性。
それを利用すること。
それは、すなわち、以下の内容である。
男性への托卵。
女性は、その行為を、自由自在に、実行可能である。
そのことは、男性にとって、とても脅威である。
男性は、そのことを予防することが、不可能である。
男性は、以下のことしか、出来ない。
上記の情報について、女性の言うことを、信じること。

それは、女性にとっての、性的権限である。
上記の事実は、女性の優位性を、対外的に、明示する。

上記の場合。
男性が、以下の対策を、取ること。
そのことは、近年において、ようやく可能になってきた。
生まれて来る子供が、誰の子供であるか？
そのことについて、遺伝子診断を、女性と一緒に、受けること。

しかし、その実行においては、以下の内容が、予め、必要である。
相手の女性による、その実行に対する、同意。

上記の遺伝子診断。
その実行。
それを、最終的に許可する権限。
それは、女性が、独占している。
それは、女性にとっての、性的権限である。

それは、以下の根拠に基づく。
生まれて来る子供。
その物理的な実体。
女性が、それを、彼女自身の身体の内部において、機密の存在として、独占していること。
それは、女性にとっての、性的権限である。

上記の事実は、女性の優位性を、対外的に、明示する。

（初出2021年3月。）

男性による、セックスのやり捨て。本命女性の存在。女性のセックス面での権力。

男性は、一部の女を、セックスにおいて、やり捨てにする。
男性は、そうした女に対して、以下を追求する。
////
自己中心的な、性的快感。
その体感。
その実現のみ。
////

男性にとって、その対象になる女性。
それは、以下の通りである。

（１）
彼が気に入っている相手。

////
不倫相手。
二股以上の相手。

////
彼に対して、無関心な相手。
片思いの永続。
それが確定している相手。

////
彼と専用の関係。
それに決してなれない相手。
そうした運命の相手。

（２）

彼の外面的魅力。
それを目当てに寄ってくる相手。
////
例。
お金。
地位。
肩書。
////

彼の内面のこと。
それについて、無関心な相手。
それを、決して好きになりそうにない相手。

（３）
容姿や性格。
それが不細工な相手。
彼が、性的には、あまり気に入らない相手。
しかし、性的関係が持てそうな相手。
その機会が、何かしら、ありそうな相手。
女性器へ、男性器を挿入する快感。
彼が、それを体験したい相手。

（４）
彼にとって、行きがかり上、誰でもいい相手。
一時的な相手。
彼が、ずっとセックスしていない場合。
彼が、とにかく、一回、女性器を体験したい場合。

例。
彼が強姦する相手。
従軍慰安婦。

（５）
彼にとって、行きがかり上、誰でもいい相手。
一時的な相手。
例えば、戦争。
彼にとって、命の危険が迫っている場合。
彼にとって、命の余裕が無い場合。
彼にとって、遺伝的子孫をとにかく残したい場合。
（例。男性は、軍隊の兵士である。）

例。
彼が強姦する相手。

実際のところ、男性は、こうしたことを、以下に対しては、なかなかできない。
彼にとっての本命女性。

男性は、以下を、本気で考える。
僕は、彼女とは、共同で、遺伝的子孫を残したい。
男性は、彼女に対しては、以下のようにするしかない。
////
彼は、彼女のご機嫌を取る。
彼は、彼女に対して、丁寧にアプローチする。

////

男性は、以下の（１）に対して、以下の（２）になるしかない。
（１）彼にとっての本命女性。
（２）セックスにおいて、上手になること。

男性は、本命女性に対して、以下の関係になりやすい。
男性は、彼女に対して、一方的に奉仕する。

こうして見ると、男性は、結局、本質的なところで、女性に対して、屈服してしまう。
それは、以下の理由である。
女性は、次の権限を、占有する。
////
（１）
男性からの結婚のプロポーズ。
それを、受諾する権限。

（２）
男の遺伝的子孫。
それを、彼女自身と共同で残すかどうか。
それを決定する権限。
////

男性は、それらの権限を、持っていない。

女性たちは、この利点を、以下へと、活用すべきだ。
女性たちの権力強化。

（2020年5月初出）

強姦される時の女性心理

（１）
彼女自身の重要拠点。
それが陥落すること。
そのことへの拒否感。

彼女自身の隠したい秘密。
それが暴かれること。
そのことへの恥辱感。

////////////////
私の身体。
その中の以下の場所。
////
それは、最もプライベートである。
それは、最もデリケートである。
それは、最も大事である。
////

私は、それを、他人によって、触られ、いじられ、突破された。

その行為は、私に対して、いきなり、勝手に、行われた。
私は、とても恥ずかしい。

（２）
権力者としての感情。
上から目線の感情。
怒りの感情。

////////////////
男性は、以下を勝手に破った。
セックスへの許認可権限。
それは、女性が占有している。
その行為は、女性にとって、とても腹立たしい。
男性は、以下を、何だと思っているのか？
女性が持つ、以下の力。
////
セックスに対する決定力。
セックスにおける権力。
////

男性が、女性とセックスしたい場合。
////
男性は、女性の許可を、事前に、きちんと、得ろ！
男性は、女性の意思に対して、勝手に逆らうな！
男性は、彼自身の身分を、わきまえろ！
////

（３）
不本意な妊娠。
その可能性。
それへの焦燥感。

////////////////
私は、このままでは、以下の状況に陥る可能性がある。
私の気に入らない男性。
その子供。
私は、それを、不本意に、妊娠してしまう。
もしも、そうなったら、どうしよう？
私はとっても困る。
私は、このまま妊娠したくない。
嫌いな男性の子供。
私は、それを、産みたくない。

（４）
性的快感。

////////////////
男性の男性器。
それは、私の女性器の中に、入ってきた。
それは、予期せず、突然強引に、起きた。
私は、私自身の以下の部分を触られた。
////
私のおっぱい。

私のクリトリス。
私の女性器。
私の乳首。
////

私は、それらのいずれについても、強い快感を感じる。
それらの快感は、すごく新鮮だ。
私は、とっても気持ちいい。
私は、愛液をいっぱい出してしまう。

私にとって、以下のことが、とても凄く興奮する。
////
セックスが、いきなりで、強引なこと。
そうしたセックスのシチュエーション。
////

私にとって、セックスは最高だ。

（５）
彼女自身の性的魅力。
その存在。
それが確認されたこと。
それへの安心感や満足感。

以下の女性に対する優越感、あるいは、心理的なマウント。
彼女は、男性から、セックスの対象として、そもそも選んでもらえない。

////////////////
私は、以下を自覚した。
////
男性から、選ばれたこと。
男性によって、セックスされる、ターゲット。
それになったこと。
////

私は、そのため、以下について、確認できた。
私の身体が持つ、以下の内容。
////
性的魅力。
性的誘引力。
性的価値。
////

私は、その威力を、改めて、実地で確認出来た。
私は、安心した。
私は、女のプライド面で、満足できた。

女性の身体や顔つき。
////
それが、あまりにも不細工過ぎる場合。
それが、あまりにも酷すぎる場合。
それは、駄目だ。
////

////
それが、高齢である場合。
それは、駄目だ。
////

女性に、性的魅力が無い場合。
男性は、女性に対して、寄ってこない。
あるいは、仮に、男性が、セックスしようとした、とする。
すると、男性は、気分的に、萎えて、勃起できない。

それらと、私とを、比べた場合。
私は、性的魅力の面で、かなり優位みたいだ。
私は、うれしい。

（６）
自己価値。
それが毀損されたこと。
それへの怒り。

////////////////
私は、男性から、勝手にセックスされた。
私は、その挙句、男性から、一方的に、やり捨てをされた。
そのことで、私は、以下が大幅に下がった。
以下の価値への自己評価。

（６－１）私自身が持つ、性的な攻略への困難さ。
それがもたらす、私自身の性的価値。

（６－２）私が、異性から、配偶者として、きちんと選択されること。
そうした選択がなされる価値。

（６－３）私が、人間として、相手から、大事にされること。
そうした扱いを受ける価値。

私は、プライドを、大きく傷つけられた。
私は、とてもがっかりした。
私は、とても頭に来た。
強姦する男性の思考。
それは、以下だ。
////
彼自身の性欲。
彼にとって、それさえ満たされれば、良い。
彼は、後は、私がどうなっても良い。
////

彼のそうした思考。
////
それは、自分勝手である。
それは、自己中心的過ぎる。
////

私は、以下について、とても失望した。
相手男性。
////

人間としての、レベル。
彼における、その低さ。
////

私は、以下は嫌だ。
////
相手から、一方的に捨てられること。
////

男性は、私の存在を、もっと大事にしろ！
男性は、私の気持ちを、もっと考えろ！
男性は、私を、人間として、ちゃんと扱え！

（７）
男性に対する、筋力面での劣位。
その自覚。

次のことへの恐怖心や怒り。
男性によって、以下が、一方的に封じられること。
彼女自身の身体の動き。
その自由。

////////////////
男性は、私より、以下が強い。
////
筋力。
腕力。
////

私は、そうした男性によって、一方的に、組み伏せられた。
そして、私は、以下を、強奪された。
////
私自身の身体。
その動き。
その自由。
////

私は、以下が、とても怖い。
////
何かを、強引にされること。
何かを、押し付けられること。
何かを、強要されること。
それ自体。
////

私は、以下を、強く感じる。
////
私の身の危険。
////

男性は、私から、以下を、勝手に奪うな！
私自身の動き。
私自身の意思決定。
それらの自由。

男性は、以下を、勝手に強引に支配するな！
私自身の動き。
私自身の意思決定。

男性は、以下のことをするな！
私自身を、勝手に、一方的に、恐怖に陥れること。

（2020年5月初出）

痴漢される時の女性心理

（１）
恥辱感。

////////////////
私は、次のことが、とても恥ずかしい。

（１－１）
私自身の重要拠点。
それが陥落すること。
そのことへの拒否感。

私自身の隠したい秘密。
それが暴かれること。
それへの恥辱感。

////////////////
私の身体。
その中の以下の場所。
////
それは、最もプライベートである。
それは、最もデリケートである。
それは、最も大事である。
////

私は、それを、他人によって、触られ、いじられ、突破された。
その行為は、私に対して、いきなり、勝手に、行われた。
私は、とても恥ずかしい。

（１－２）
恥辱。
それを伴う行為。
それを一方的に公開されること。
それに対する拒否感。

////////////////
私は、性的に興奮した。
////
私は、よがった。
私は、性的な姿になった。
私は、喘ぎ声を出した。

////

私は、それらを、周囲のみんなによって、見られ、聞かれた。
それは、以下の状況において、発生した。
////
公衆の面前。
公開状態。
////

私は、それらを、全力で隠したい。

（２）
権力者としての感情。
上から目線の感情。
不満の感情。

////////////////
男性は、以下を勝手に破ろうとした。
セックスや前戯への許認可権限。
それは、女性が占有している。

その行為は、女性にとって、とても腹立たしい。
男性は、以下を、何だと思っているのか？
女性が持つ、以下の力。
////
セックスに対する決定力。
セックスにおける権力。
////

女性の身体。
男性が、それを、いじりたい場合。
////
男性は、女性の許可を、事前に、きちんと、得ろ！
男性は、女性の意思に対して、勝手に逆らうな！
男性は、彼自身の身分を、わきまえろ！
////

まあ、私は、以下の場合、それを、大目に見てあげても良い。
////
私の女性器。
私のおっぱい。
////

////
男性が、それらを、触るだけの場合。
男性が、それ以上の行為を、止める場合。
////

（３）
性的快感。

////////////////
私は、他人によって、以下を触られた。
////
私のクリトリス。

私の女性器。
私の乳首。
////

私は、それらのいずれについても、強い快感を感じる。
それらの快感は、すごく新鮮だ。
私は、性的に興奮する。
私は、とっても気持ちいい。
私は、愛液をいっぱい出してしまう。

私は、みんなが見ている前で、思わず性的に興奮する。
私は、そうして、以下を、周囲のみんなに、晒してしまう。
////
私自身のよがる姿。
私自身の喘ぎ声。
////

////
そうした恥ずかしいシチュエーション。
私自身が、それを自覚すること。
それ自体。
////

それについて、私は、性的に、とても興奮する。
それについて、私は、とても気持ちがいい。
それについて、私は、愛液を、思わず、いっぱい出してしまう。

私にとって、前戯は最高だ。
私にとって、セックスは最高だ。

（４）
彼女自身の性的魅力。
その存在。
それが確認されたこと。
それへの安心感や満足感。

以下の女性に対する優越感、あるいは、心理的なマウント。
彼女は、男性から、痴漢の対象として、そもそも選んでもらえない。

////////////////
私は、以下を自覚した。
////
男性から、選ばれたこと。
男性によって、痴漢をされる、ターゲット。
それになったこと。
////

私は、そのことで、以下を、確認できた。
私の身体が持つ、以下の内容。
////
性的魅力。
性的誘引力。
性的価値。

////

私は、その威力を、改めて、実地で確認出来た。
私は、安心した。
私は、女のプライド面で、満足できた。

女性の身体や顔つき。
////
それが、あまりにも不細工過ぎる場合。
それが、あまりにも酷すぎる場合。
それは、駄目だ。
////

////
それが、高齢である場合。
それは、駄目だ。
////

女性に、性的魅力が無い場合。
男性は、女性に対して、寄ってこない。
あるいは、仮に、男性が、セックスしようとした、とする。
すると、男性は、気分的に、萎えて、勃起できない。

それらと、私とを、比べた場合。
私は、性的魅力の面で、かなり優位みたいだ。
私は、うれしい。

（５）
自己価値。
それが毀損されたこと。
それへの怒り。

////////////////
私は、男性から、性的に弄ばれた。
それは、勝手に、一方的に、なされた。
私は、男性から、おもちゃにされ、いじられた。

私は、以下が、大きく低下した。
////
私自身が持つ、人間としての価値。
それに対する、自己評価。
////

男性は、私のことを、勝手に、次の存在として扱うな！
彼自身より格下の道具。
男性は、私を、人間として、きちんと扱え！
男性は、私の存在を、もっと尊重しろ！

（2020年5月初出）

男女の勢力面、権力面での対等化と、強姦。

男女の、以下の面での、対等化。
////
勢力。
権力。
////
その実現には、以下が必要である。
男性が、女性を強姦可能であること。

強姦できない場合。
男性には、以下の不都合が生じる。

（１）
男性は、以下を消失する。
彼自身の意思でセックスできる可能性。

男性が、女性とセックスしようとする場合。
男性には、以下の必要が生じる。
////
女性の許認可。
それを全面的に得ること。
////

その結果、以下になってしまう。
女性の専制。

（２）
男性は、以下を消失する。
////
彼自身の遺伝的子孫。
それを、彼自身の意思で残せる可能性。
////

男性が、彼自身の遺伝的子孫を残そうとする場合。
男性には、以下の必要が生じる。
////
女性の許認可。
それを全面的に得ること。
////

その結果、以下になってしまう。
女性の専制。

男性が女性を強姦できること。
男性は、そのために、以下を実現する必要がある。
以下において、女性より優位に立つこと。
////
筋力。
武力。
////

そのことで、男性は、以下を防ぐことができる。
女性の専制。

人間の男性は、以下は、避けたい。

女性に対して、男性が、一方的に劣位になること。

人間の男女の対等化。
その実現において、以下のような関係は、好ましくない。
////
巨大な女王蟻と、小さなオス蟻。
女性が男性を一方的に支配する関係。
////

それは、男性にとって、好ましくない。

（2020年5月初出）

強姦による不本意な妊娠と、男女の性差

（１）
女性による、男性の強姦。
その場合、女性は、以下を、妊娠する。
////
彼女自身が望む相手男性。
その子供。
////

そのため、それは、あまり問題視されない。

（２）
男性による、女性の強姦。
それは、以下の理由で、良くないとされる。
それは、問題視される。
その場合、女性は、以下を、妊娠する。
////
彼女自身が望まない相手男性。
その子供。
////

女性は、不本意な妊娠をする。

女性は、その外観からは、以下が判別できない。
女性は、どの男性の子供を妊娠するか？
そのことは、男性にとっても、不本意妊娠につながる。
男性には、次の危険性が存在する。
////
以下の状況に陥ること。
以下を、彼自身の子供として育てること。
そうした羽目になること。
//
他の男性。
彼は、強姦の主犯である。
その子供。
//
////

その点、以下が必要である。
安全な妊娠キャンセルの方法。
その確立。

（2019年10月初出）

製品としての遺伝的子孫。男女の結婚制度。

男女の遺伝的子孫。
それは、女性器の側で、完成品になる。
それは、物理的物体である。
それは、女性側の在庫になる。

その在庫の維持管理。
それは、そのままでは女性側の負担になる。

なので、女性は、以下の実現のために、何とかしようとする。
そのコストを、男性にも負担させること。

その結果、女性は、以下の制度を、考え出した。
////
結婚制度。
////

これにより、以下が実現する。
男も、そのコストを負担する。

男女にとって、彼ら自身の遺伝的子孫は、以下のような負担をもたらす。

（１）
男女は、彼ら自身の遺伝的子孫を育てるのに、長期間かかる。

（２）
男女は、以下を実現する必要がある。
////
彼ら自身の遺伝的子孫が、環境へと適応できること。
そのために、以下の（２－１）に対して、以下の（２－２）を、実行すること。
（２－１）彼ら自身の遺伝的子孫。
（２－２）
//
以下を身に付けさせること。
必要な能力。
//
以下をしつけること。
必要な行動様式。
//
////

そのため、男女は、手間がかかる。

（３）
男女は、以下を続ける必要がある。
以下の（３－１）に対して、以下の（３－２）を、実行すること。

（３－１）彼ら自身の遺伝的子孫。
（３－２）食べ物を与えること。

それは、男女にとって、経済的に負担になる。

（2020年5月初出）

女性が持つ、性的誘引力の強さ。その文化的な表現美術。美少女コンテンツ。萌え絵の女性。

女体カースト。

「女体の美しさ。」
それは、男性を生得的に、性的に吸い寄せる。その性的な誘引力は、凄まじい。

仮に、女性たちが、次の（１）において上位だ、とする。すると、彼女たちは、次の（２）において、上位になる。
（１）女体の持つ性的魅力の高さ。
（２）女性たちの間における、上下関係や、優劣関係。

それは、次のように呼べる。
「女体カースト。」

「女体カースト」。それは、外観的には、次の通りである。
（１）顔。
（２）本体。
（３）声。

女性は、次の二通りである。
（１）女体カーストが高い女性。
（２）女体カーストが低い女性。

「女体カースト」のエリート。
（１）「顔。身体。」アダルトビデオ女優。売春女性。それらにおける人気者。
（２）「声。」女性声優。
（３）「顔。身体。声。それらの全てにおいて完璧な存在。」女性アイドル。

実際の生身の女性には、次のような女性が多い。
「自身の女体が持つ性的魅力。それが劣るか、不良である女性。」
そうした女性たちは、「女体カースト」が低い。
そうした女性たちは、性的魅力において、残念である。
そうした女性たちが勝てる要素。それは、女性器だけである。

一部の女性は、次の内容を攻撃する。
（１）性的行動。

（２）性的表現。
そうした女性は、多くの場合、次である。
「「女体カースト」の下位者。」

そうした攻撃行動の根源は、次の通りである。
「嫉妬。足の引っ張り。」

それらは、負の感情である。それらは、劣情である。
それらは、表向きは、隠される。

それらは、次に対して、向けられる。
「「女体カースト」における上位者。」

それらの目的は、次のことの実現である。
「女性間における、「女体カースト」。それについて、悪平等や横並びを、新たに実現すること。」

「女体カースト」が低い女性。彼女は、次である。
（Ａ）彼女の顔は、不細工である。
（Ｂ）彼女は、太り過ぎである。彼女は、やせ過ぎである。
（Ｃ）彼女は、高齢である。
（Ｄ）彼女の身体つきは、貧しい。
（Ｅ）彼女の声は、貧しい。
（Ｆ）彼女の性的反応は、貧しい。

女体が持つ、性的魅力の高さ。「女体カースト」を高める要素。それらは、次から成る。

（１）女体の外観。
（１－１）視覚的なもの。
（Ａ）顔。髪。
（Ｂ）本体。
（１－２）聴覚的なもの。
（Ａ）声。
（１－３）触覚的なもの。
（Ａ）肌触り。
（１－４）それらの表情。喜怒哀楽の感情の表現。

上記の掛け合わせ。

（２）女体の動作。そこに、性的魅力があること。
人々は、それを、次で、体験する。
それは、動画である。それは、次の内容である。
（Ａ）アダルトビデオ。
（Ｂ）アダルトアニメ。

その性的魅力は、次の場合、顕著である。
（２－１）女性が、「性的な身体姿勢」を取る。それは、次の内容である。
（Ａ）Ｍ字開脚。大きな開脚。
（Ｂ）女豹のポーズ。腰。尻。それらの突き上げ。

（２－２）女性が、「性的な反応」をする。それは、次の内容である。
（２－２－１）総合面。

（Ａ）女性は、性的に感じやすい。
（Ｂ）女性は、性的に悶絶しやすい。

（２－２－２）身体部分。
（Ａ）頭。
（Ａ－１）女性は、喘ぎ声を出す。
（Ａ－２）女性は、顔を、性的快感で歪める。

（Ｂ）腰。
（Ｂ－１）女性は、腰を、自主的に、ピストンする。
（Ｂ－２）女性は、腰をくねらせる。

（Ｃ）乳房。
（Ｃ－１）女性は、乳房を揺らす。
（Ｃ－２）女性は、乳首を勃起させる。

（Ｄ）女性器。
（Ｄ－１）女性は、クリトリスを勃起させる。
（Ｄ－２）女性は、愛液を流す。
（目に見えない内容。女性は、膣を締め上げる。）

（２－２－３）性的絶頂。
（Ａ）時間的側面。
（Ａ－１）女性は、すぐに、性的な絶頂に達する。
（Ａ－２）女性は、頻繁に、性的な絶頂に達する。

（Ｂ）具体的反応。
（Ｂ－１）女性は、愛液を噴出する。
（Ｂ－２）女性は、放尿する。
（Ｂ－３）女性は、けいれんを起こす。
（Ｂ－４）女性は、失神する。
（目に見えない内容。女性は、膣を、繰り返し、締め上げる。）

次の（１）は、次の（２）よりも、高い（３）を持つ。
（１）萌え絵の女性。
（２）生身の不細工な女性。
（３－１）「女体の性的魅力」の表現度。
（３－２）「理想の女体」の再現度。

「萌え絵の女性」は、「女体カースト」が、とても高い。

「女体カースト」の高さ。性的魅力の高さ。それらの維持。
それは、女性にとって、次のことの重要な足掛かりとなる。
「人生投資家の生活。その実現や維持。」
女性の性的魅力は、次の二通りになる。
（１）女性器の性的魅力。それは、外部からは、分かりにくい。
（２）女体の性的魅力。それは、外部からは、分かりやすい。
上記の（２）。性的に優秀な女体。「女体カースト」の高さ。それは、男性を、すぐに、性的に誘引できる。

「女体カースト」の高さ。それは、結婚では、場合によっては、有利ではない。

それは、次の場合である。
（１）女性の性格が、邪悪である。
（２）女性の生活習慣が、邪悪である。
（３）女性の生活能力が、低い。
（３－１）身体能力。
（３－２）知的能力。
（４）女性の性的魅力が、高すぎる。そうした女性は、結婚後も、他の男性を、性的に惹きつける。そうした女性は、浮気をしやすい。
そうした女性は、男性から、敬遠される。彼女は、「女体カースト」が高くても、そのように扱われる。

女体の性的魅力。それは、次によって、大きく低下する。
「女性の年齢が、高くなること。」

女体は、性的魅力において、賞味期限が短い。
「女体カースト」の高さ。それは、女性の加齢とともに、急速に低下する。

（初出2020年7月）

女性の着衣。その魅力。その性的誘引力。

スカート。その魅力。その性的誘引力。

スカート。ミニスカート。スカートの下のパンティがチラッと見えること。スカートの下に、パンティを履いていないこと。スカートをヒラヒラとなびかせること。スカートがめくれること。それらは、以下の内容である。女性が、男性を、性的に誘引して落とすために用いる、必殺の武器。それらの性的誘引力の要因分析。それらの性的誘引力は、遺伝的に決定されている。
スカートが、移動面や運動面で不便であると言われながらも、女性によって、延々と履き続けられる根本要因。それは、以下の内容である。女性自身が、以下のような男性を、スカートの採用や利用によって、容易に、性的に誘引し我が物にすること。
性的に魅力的な、女性自身にとっての配偶者候補のターゲットの男性。
女性自身が、それを、容易に実現出来ること。その力の巨大性。その力の偉大性。

スカートの効果。
強力な性感帯のある、女性の股間部。そこを中心とする下半身上部。そこに、以下のような内容の空間が、形成されること。性的誘引度がとても高い、秘密の空間。その秘密の空間は、以下のような性質を持つこと。その下方において、開放性のあること。その上方や正面からは、その空間内部を見通すことが、出来ないこと。その空間の内外を仕切る衝立の衣が、極めて薄くて柔らかいこと。そのため、その衝立の衣は、風が吹くなどの外的な偶然の要因によって、容易にめくれること。そのことで、秘密の空間内部が容易に露出すること。
性的誘引力の高い、女性の身体部位。女性器。太ももの付け根や内股部。尻。それらを、一つの、上方に向けて狭く閉じた、下方に向けて開放された空間領域に、一斉に揃えていること。それらが、同一空間を共有していること。一つの空間における、閉鎖性と開放性の両立が起きていること。見かけ上、上部や正面からは、空間の閉鎖性や、外部からのアクセス不能性を演出していること。しかし、実は、下方からは、空間は開放的で、外部から、いつでも容易にアクセス可能であること。誰でも、下方から、容易

に、その空間領域へと、手指を差し入れることが出来ること。空間領域を隔てる衣を、誰でも、簡単にめくることができること。空間領域を隔てる衣は、風で、簡単に、めくれること。攻略困難性と攻略容易性の両立がなされていること。
攻略容易性の象徴。それが以下の内容であること。スカートの下のパンティがチラッと見えること。
性的誘引力の高い、女性の身体部位。女性器。太ももの付け根や内股部。尻。それらの露出可能性。それが、実は、高いこと。それらは、いつもは露出していないこと。それらの露出のチャンスは、いつもは閉ざされているが、偶然に開く可能性があること。そこには、射幸性があること。それは、以下のような心理を、男性に対してもたらすこと。ギャンブルにのめり込むことと、同じ心理。アトランダムな期日に行われる秘仏開帳と、同じ心理。男性にとって、その有り難みや功徳が、とても高いこと。偶然性や偶発性がもたらす魅力。その場合、パンティは、履いていても、男性にとって、十分にご利益が高いこと。しかし、パンティは、履いていない場合は、男性にとってのご利益や功徳の上では、最上位になること。

ミニスカートの効果。
スカートの丈がとても短いこと。そのことで、太ももの肉が、外部から見て、常に、露出していること。太ももの内股部が、脚の動作によって、容易に露出しやすいこと。太ももの内股部の、両脚による、こすり合わせの動作。それが、外部から見て、容易に露出しやすいこと。衣がめくれやすいこと。衣がめくれた場合は、性的誘引力が高い部位が、もろに露出すること。
性的誘引力の高い、女性の身体部位。女性器。太ももの付け根や内股部。尻。それらの露出可能性。それが、とても、高いこと。そのことが、男性に対して与える、精神的な期待の度合いの高さが、とても大きいこと。女性が、男性を、性的に誘引して我が物にするために用いる、必殺の武器。
舞台の最前部に立っている、ミニスカートを履いた女性。
彼女の股間部を、客席の最前列の下から、見上げる形で、覗くこと。それが可能になること。
その際に、女性器の開口部が、直接、閲覧可能になること。
その際に、女性の太ももの内股部が、直接、閲覧可能になること。
そのことがもたらす、女性が行使する、男性に対する性的誘引力。その大きさは、とても凄まじい。

（2021年12月初出。）

ブルマ。その魅力。その性的誘引力。

ブルマ。それを、女性が履くこと。その魅力。その性的誘引力。それは、以下のような内容である。
//
尻肉の柔らかな盛り上がりの肉感。太ももの肉感。それらの肉感の、肌から、衣類部への、強烈な連続感があること。
女性器は、直接は見えないが、その位置が、外部から見て、一目瞭然であること。
股間部における、一番付け根の部分の空き空間。その存在が、外部から見て、一目瞭然であること。その空き空間は、女性器の開口部に対応していること。
太ももの肉太さ。太もも同士の接触や、こすり合わせ。太ももが開く動作。それらが、外部から見て、全て、一目瞭然であること。
肉部と衣部の、色彩面や質感面でのコントラストの高さ。それがもたらす、肉部のくっきり感の強さ。
//
それらの外観や動作が持つ、性的誘引力。それが、とても高いこと。そのことが、男性

にとって、とても魅力的であること。女性が、男性を、性的に誘引して我が物にするために用いる、必殺の武器。

（2021年12月初出。）

女性が「性格が美人」であるための条件。

女性が「性格が美人」であるための条件。
それは、何か？

その前提条件は、次である。
（１）「彼女は、女性性を、強く持つ。」
（２）「彼女は、女性優位社会の女性である。」
女性優位社会の女性は、本質的に、女性性の持ち主である。

男性優位社会の女性は、女性性を喪失している。
男性優位社会の女性は、性格的美人には、そもそも、なれない。

「性格が美人な女性。」彼女が備えるべき、具体的な性格。その内容。
それは、総合的には、次である。
「「女性優位社会の支配者」が、本来的に持つ、人間的な魅力。」

彼女は、「力ある存在」である。彼女は、社会的な権力者である。
彼女は、次の対象である。
「社会的な尊敬。」

彼女は、母性的である。
彼女は、以下の能力を持つ。
「子供を精神的に支配する能力。」

彼女は、「慈母」の側面が、強い。
彼女は、「厳母」の側面は、あまり出さない。

萌え絵の女性は、「性格が美人」に見える。

「性格が美人な女性。」彼女が備える性格。その詳細な内容のリスト。それは、次である。

（１）
彼女は、穏やかである。
彼女は、慈しみの心を持つ。
彼女は、安らぎを与える。
彼女は、静かである。

（２）
彼女は、対象に配慮する。
彼女は、対象にケアをする。
彼女は、親切である。
彼女は、人助けをする。
彼女は、献身的に動く。

彼女は、対象に世話を焼く。

（３）
彼女は、包容力がある。
彼女は、対象を受け入れる。
彼女は、対象を呑み込む。
彼女は、対象を引き受ける。
彼女は、寛容である。

（４）
彼女は、考えがしっかりしている。
彼女は、頼りになる。
彼女は、心の支えになる。
彼女は、肝が据わっている。
彼女は、誠実である。

（５）
彼女は、明るい。
彼女は、朗らかである。
彼女は、前向きである。

（６）
彼女は、活動的である。
彼女は、行動する力がある。
彼女は、実践する力がある。

（７）
彼女は、頭が良い。
彼女は、賢い。
彼女は、知能が高い。

（８）
彼女は、金銭感覚が優れている。
彼女は、次のことが上手である。
「金銭の管理。資産の管理や運用。」

彼女は、対象にお小遣いをくれる。

（９）
彼女は、次の自覚がある。
「社会的に強いこと。」

彼女は、次のことをしない。
「加害者であるのに、被害者を気取ること。」
「強者であるのに、弱者を気取ること。」

それらは、すなわち、次のことである。
「偽りに満ちていること。」
「嘘つきであること。」
「社会的に不誠実であること。」

彼女は、それらのことをしない。

（１０）
彼女は、信頼を受ける。
彼女は、尊敬される。

（初出2020年7月）

美少女コンテンツ。

美少女性の分析。

美少女性。
それは、以下の内容である。

（１）
女性一般の美しさ。
男性が、共同で、遺伝的子孫を残したいと思える、魅力。
その内容を、その女性が、備えていること。

（１－１）
性格美人。
性格の美しさ。
性格における、魅力の高さ。

（１－２）
容姿美人。
女体の美しさ。
衣装や化粧の美しさ。

（２）
美少女に特有の、美しさ。
それは、以下の内容である。

（２－１）
初々しさ。
//
未経験性。
新品性。
未使用性。
純粋性。
無垢性。
擦れていないこと。
人生における、未体験性。
処女性。
人生における、初体験の連続性。
人生体験に対する、初々しい反応の連続性。
そうした反応における、新鮮さ。

既存の枠に囚われない、柔軟で斬新な発想が、出来ること。
物事に取り組む姿勢における、夢中さや、一生懸命さや、一途さ。
将来における、有望性の高さ。
それらの特性は、大人になると失われて、二度と取り戻せないこと。
それらの特性の、彼女自身の人生における、掛け替えの無さ。
それらが、彼女自身の美しさの発揮に、つながる。
//

（２－２）
若々しさ。
//
若さ。
健康性。
エネルギーの放出における、快活性。
老朽化していないこと。
経年劣化していないこと。
女体の美しさにおける、絶頂期にあること。
所有する生殖設備の状態の良好さにおける、絶頂期にあること。
それらの特性は、より高齢になると、急速に失われて、二度と取り戻せないこと。
それらの特性の、彼女自身の人生における、掛け替えの無さ。
それらが、彼女自身の美しさの発揮に、つながる。
//

美少女コンテンツ。
それは、以下の内容である。

例。
イラスト。
コミック。
アニメ。
ゲーム。
フィギュア。
画像。
写真。
映像。

美少女コンテンツ。
それは、以下のように、分類される。

（１）
生身のもの。
実在物。

例。
実在する、若い女性アイドル。
彼女は、コンサート会場に来訪する。

例。
実在の、生身の、若く美しい女性。
彼女は、アダルトビデオへの出演を行う。
彼女は、売春を行う。

（２）
生身で無いもの。
非実在物。
生身の対象の人工的な複写や模写と加工。
それらを施工した物品。

それらは、以下の二通りに、分類される。

（２－１）
リアルであるタイプ。

（２－１－１）
生身の対象のカメラによる撮影物。
例。
写真。
映像。

（２－１－２）
生身の対象の、視聴覚面での忠実な模写物。
例。
絵画。
イラスト画像。
映像。

（２－２）
デフォルメされているタイプ。
生身の対象に対して、視聴覚面でのデフォルメを、加えた物。
そのことで、それに対して、独自の美的な感覚を、新たに与えた物。
例。
絵画。
イラスト画像。
コンピューターグラフィックス。
映像。

美少女コンテンツ。
それは、以下のような存在である。
文化的に創造された、女性の理想像。

美少女コンテンツ。
その優れた点。その長所。
それは、とても美しく、綺麗で、華麗である。
それは、年齢がとても若く、新鮮である。
それは、とても可愛い。
それは、老化しない。
それは、女体の水準が、とても高い。
それは、性的な誘引力において、抜群に、優れている。

美少女コンテンツ。
その性的な誘引力。
それらが発生する、様々な側面。
例。

顔。
髪。
声。
身体のスタイル。
身体のプロポーション。
身体の動作。

美少女コンテンツ。
それは、以下のような内容である。
女性の様々な身体部位。
女性の様々な身体動作。
それらの良いところ取りをした、一流の成果物。

美少女コンテンツ。
その生成においては、生身の場合と異なり、以下の内容の実現が、可能である。
女性が持つ、性的誘引力。
その表現における、社会的な分業制の導入。
その場合。
その生成においては、以下の内容の実現が可能である。

各分野で、一番、水準や能力の高い担当者。
その人物が、その分野を、社会的分業の形で、担当すること。

その結果。
彼らは、その生成において、以下の内容を、総合的に実現できる。
女性が持つ、性的な誘引力。
その様々な側面における、以下の内容の実現。
最高の品質。
最高の完成度。

美少女コンテンツ。
それが獲得する、そのような品質や完成度。
個人の生身の女性。
彼女は、ほとんどの場合、その点において、それに、敵わない。

美少女コンテンツ。
それは、女性優位社会の産物である。
その社会の人々。
彼らは、女性のみならず、男性も、以下の能力を、豊富に持つ。
女性性の本質。
その表現。
彼らは、その表現の実現において、成功している。
その結果、その表現物は、以下の内容を、強力に持つことが出来る。
女性的な性的誘引力。
男性優位社会の人々は、それを生成する能力を、持たない。

美少女コンテンツ。
それを、男性が視聴すること。
そのことは、本来、何も問題が無い。
それは、以下の内容を、完全に満たしている。

男性の持つ、遺伝的な、性的な指向性。

それは、男性にとって、性的な魅力の面において、十分に理想的である。

美少女コンテンツ。
その存在は、女性にとって、本質的に、不愉快である。
それは、女性にとって、見かけ上は、強力なライバルである。

女性は、以下の点において、そのままでは、それに対して、全く敵わない。
性的な誘引力。
その点における優位性。

その存在は、女性にとって、以下のような内容である。
以下の行為。
その対象。
嫉妬。
否定。
抹消。

美少女コンテンツ。
その限界。
その欠陥。

（１）
美少女コンテンツ。
それは、生身では無い。
（１－１）
美少女コンテンツ。
それは、以下の内容を持つことが、一切出来ない。

生身の女体や、女性器。
それらが持つ、以下の力。
生身の生物。
その、生き生きとした反応。
それを、男性に対して、返すこと。
それを実現する能力。
性的な誘引力。
それは、生身の肉体が持つ、固有な力である。

（１－２）
美少女コンテンツ。
それは、遺伝的子孫を、残せない。
それの愛好者。
彼らは、必然的に、以下のような存在になる。
社会的な、性的不能者。
それは、男性にとって、以下のような存在に、止まる。
生身の女体。
生身の女性器。
それらの、一時的な代用品。
それらの、一時的な代替品。

美少女コンテンツ。

それは、以下の（１）の側面において、以下の（２）の存在に対して、劣る。
（１）
存在上の、格付けの高さ。

（２）
生身の女性。
彼女が、以下の条件を、全て満たしている場合。
彼女は、若い。
彼女は、美しい。
彼女は、最上級の生身の水準を、所有する、

それは、以下の（１）のような存在に対して、優位に立つ。
以下の（２）の内容を除いた場合。

（１）
最上級の女性でない、普通の女性。

（２）
生身の女性器。
それが持つ、性的魅力の大きさ。
それが持つ、遺伝的子孫を残す能力。

最上級でない女性。
普通の女性。
彼女は、上記の存在の抹消に向けて、全力で、動く。
普通の女性は、以下の（３）の人物に対して、以下の（４）の行為を、全面的に、禁止する。
（３）
彼女自身の周囲にいる、他の男性。
彼は、彼女の結婚相手である。
彼は、彼女の交際相手である。
（４）
美少女コンテンツ。
その所有。
その視聴。

男性。
彼は、生身の女性との間で、彼自身の遺伝的子孫を、残したい。
その場合。
彼は、以下の行為のみを、その女性から、許される。
以下の内容を実現すること。
上記の存在を、否定すること。
それは、表面的である。
それは、ずっと、継続する。
それは、全面的である。

そうした女性の振る舞い。
それは、以下の内容と、表裏一体である。
男性が、以下の内容を、嫌うこと。
経済力のある美男子。

そうした存在についての、コンテンツ。

それらの背景に該当する、男女に共通する、行動原理。
生物が持つ、根本の行動原理。
それは、以下のような内容である。

生物は、以下の内容を、嫌う。
////
それ自身の遺伝的子孫の獲得。
そのために、必要な、魅力的な異性の獲得。
そうした異性の獲得において、ライバルに当たる、同性。
//
その存在。
その表現物。
異性による、その所有や、その視聴。
////

美少女コンテンツ。
女性の持つ、性的誘引力。
その強さの条件。
その優位性の条件。

それらの内容について、筆者は、以下の説明を、記述した。
萌え絵の女性についての説明。
女体カーストの説明。
それらの内容を、絵画以外に対して、一般化すること。
その実現は、十分に可能である。

美少女コンテンツ。
それは、以下の能力を、持たない。
それ自身の遺伝的子孫を、残すこと。
他の女性が、彼女自身の遺伝的子孫を残す上での、ライバル。
そうした存在になること。
その理由。
それは、以下の内容を持つことが、出来ない。
生身の女体。
生身の女性器。

美少女コンテンツ。
それは、以下の能力を持たない。
生身の女体。
生身の女性器。
それらが持つ、独特の性的快感。
それを、男性に対して与えること。
それを実現する能力。

美少女コンテンツ。
それが、そうした能力面において、以下のような存在になること。
生身の女性にとっての、本当のライバル。

そうした状況は、決して、発生しない。

美少女コンテンツ。
それは、そうした点で、本質的に、生身の女性にとっては、無害である。

生身の女性。
彼女が、上記の存在に対して、以下のような心理を、抱くこと。
ライバル心。
敵対心。
嫉妬心。
その必要性は、全く無い。

それが、生身の女性にとって、手強い存在に見えること。
それは、見かけだけである。
生身の女性は、それに対して、もっと寛容になるべきである。

生身の女性は、以下の内容について、もっと寛容になるべきである。
男性が、それを、所有すること。
男性が、それを、楽しむこと。

（１－１）
ある、一人の、生身の女性。

彼女自身にとって、本当に怖い存在。
それは、以下のような人物である。
一般的な女性。
他の生身の女性。
その人物は、以下の場所において、普通に存在する。
彼女自身の隣。
彼女自身の周囲。

（１－２）
そうした、他の生身の女性。

（１－３）
上記の（１－１）の女性にとって、お気に入りの意中の男性。

その結果。
上記の（１－２）の女性は、上記の（１－３）の男性と、勝手にくっつく。
上記の（１－２）の女性は、その上記の（１－３）の男性を、排他的に占有する。

上記の（１－２）の女性は、以下の能力を、持つ。
その上記の（１－３）の男性との間で、共同の遺伝的子孫を、独占的に残すこと。

上記の（１－２）の女性は、上記の（１－３）の男性を、性的に誘引する。
上記の（１－２）の女性は、そのために、以下の存在を活用する。
彼女自身が所有する、生身の女体。
彼女自身が所有する、生身の女性器。

上記の（１－２）の女性は、以下の能力を持つ。
その上記の（１－３）の男性を、性的に独占すること。

上記の（１－２）の女性は、上記の（１－１）の女性から、上記の（１－３）の男性を、

略奪する。
それは、生殖面において、行われる。
それは、生涯にわたって、行われる。

その結果。
上記の（１－１）の女性は、以下の機会を、永遠に、喪失する。
上記の（１－３）の男性との間で、共同の遺伝的子孫を残すこと。

上記の（１－２）の女性は、上記の（１－１）の女性にとって、以下の内容に、該当する。
彼女自身にとっての、人生最大のライバル。

上記の（１－３）の男性は、その上記の（１－２）の女性との間で、共同の遺伝的子孫を残す。
それは、上記の（１－１）の女性にとって、以下の内容に、該当する。
彼女自身の人生における、致命的なダメージ。

美少女コンテンツ。
それは、以下のことを、決して、起こさない。。
生身の女性の人生。
それに対して、致命的なダメージを与えること。

それは、以下のような存在である。
生身の女性の人生において、安全な存在。

美少女コンテンツ。

生物や人間の、行動のモード。
その内容の分類。

（１）
ノーマルなモード。
特に、性的な興奮をしていない状態。
普通の生活を行う状態。
（２）
セクシーなモード。
性的な興奮。
その発揮。
その実現。
それに向けて、異性に対して、性的誘引力を、行使すること。
そのようなモード。
（３）
興奮のモード。
セックスの本番の行為。
それに突入するモード。
性的に興奮するモード。
（４）
エクスタシーのモード。
性的な絶頂に達するモード。

生物が持つ、根本の行動原理。

それは、以下のような内容である。

その生物にとっての異性。
その異性が、（３）のモードに突入する場合。
その生物にとって、その異性が、性的に魅力的になる度合い。
それが、急増する。

その異性が、（４）のモードで動作している間。
その生物にとって、その異性は、一番、性的に魅力的になる。

美少女コンテンツ。
それが、（３）のモードに突入する場合。
男性にとって、それが、性的に魅力的になる度合い。
それが、急増する。

美少女コンテンツ。
それが、（４）のモードで動作している間。
男性にとって、それは、一番、性的に魅力的になる。

（初出2021年4月。）

「萌え絵の女性。」その意義。「女性優位社会」の特産品。

「萌え」とは、何か？

アニメやコミックなどで、「萌え」という表現が頻繁に使われる。
それは、どういう意味合いを持っているか？

萌えとは、以下の（１）の時期における、以下の（２）の様子を示している。
（１）季節が春になった頃。生物が冬眠から活動期に入る頃。
（２）植物の芽が、芽吹く。植物のつぼみなどが、膨らみ、伸びる。

それは、以下の様子として、捉えられる。
「吹き出し。膨張。伸張。それらは、生物が持つ活動感を伴う。」

それは、、さらに、以下に転用される。
「動物。人間。」
（１）彼らは、好きな相手に発情する。
（２）彼らは、生殖活動を目指す。
（３）彼らは、性器が、勃起、伸張する。（男性のペニス。女性の乳首やクリトリス。）
（４）彼らは、気分的に、高揚し、興奮し、膨らむ。

いずれも、根底に、以下の内容が存在する。
「生物が持つ、活動感や躍動感。」

それが、以下の動作や感覚を、人間を含む生物に対して、もたらす。
（１）それは、生殖活動に結びつく。
（２）それは、芽吹き、膨張する。

それは、「萌える」という表現で、共通化できる。

（初出 2008年5月）

萌え絵の女性。美術としての特徴。

（1990年代以降）

No.	部位	萌え絵以前（1980年代）	萌え絵（1990年代以降）
(1)	まつ毛	それは、長い。それは、たくさんある。	それは、無い。それは、末端の突起で代用される。それは、すっきりしている。
(2)	目	それは、横長である。	それは、縦長である。それは、正円や、四角い円である。
		それは、小さな円として描かれる。それは、生体の目のサイズに近い。	それは、「大きな円」や「楕円」へと、誇張される。
		瞳のサイズが、小さい。	瞳のサイズが、大きい。
		瞳の色が、単色である。それは、濃淡が無い。	瞳の色が、多色で遷移する。それは、濃淡がある。
		「瞳への光の映り込み」が、無い。	「瞳への光の映り込みや、反射」が、ある。
		瞳の輝きが、無い。	瞳の輝きが、ある。
(3)	鼻	それは、正面から見て、大きい。それは、長い。それは、鼻筋を表現する。	それは、正面から見て、ごく小さな突起である。それは、鼻筋を、ほとんど表示しない。
(4)	口	それは、「唇の上下二つの突起」が大きい。それは、歯を、リアルに表現する。	それは、唇の突起が無い。それは、開いた赤口のみである。それは、閉じた口を、「短い円弧の線」のみで表現する。それは、歯を省略する。それは、歯を、ごく小さく簡略化して表現する。
(4)	髪の毛	それは、毛の流れを、表現しない。それは、塗りつぶしである。	それは、毛の流れを、表示する。それは、その「光の当たり方の変化」を捉える。

ある絵が「萌え絵」かどうかは、顔の表情によって、かなり決まる。

絵師は、描く顔について、以下の方針を取る。
（１）彼は、以下のことを、しない。
「実際の生体の顔を、忠実に真似ること。」
（２）彼は、顔に対して、大胆なデフォルメを加える。

それが、萌え絵となる。
（１）彼は、目や瞳を、大きく強調する。
（２）彼は、瞳などを、みずみずしく、光を映すように、描く。
（３）彼は、次の内容を最小限に抑える。「その他の、顔の部品における、隆起や、突起。」（まつ毛。鼻筋。唇。）

それは、全般に、以下の造形へと、仕上げられる。
（１）それは、ごてごてしない。
（２）それは、けばけばしない。
（３）それは、すっきりしている。
（４）それは、光がある。
（５）それは、かわいい。

こうした絵が、萌え絵であると言える。

萌え絵の原型は、少女コミックである。それは、以下の特徴を持つ。
（１）それは、目や瞳が大きい。
（２）それは、表情の可愛らしさを、強調する。

それは、女性作者が、元々の作画上の主導権を握っている。
そこに男性作者が新たに参入した。彼らは、上記の特徴に対して、「異性としての魅力」を感じた。

女性作者と、男性作者は、萌え絵について、共に、主に男性消費者向けに、以下のように、改良を重ねた。
「女の子の絵が、異性として、より、すっきり可愛く感じるようにすること。」

それが、現在に至ると考えられる。

その、以下の特徴は、原型となった少女コミックの影響が大きい。
（１）それは、目や瞳が、大きい。

その、以下の特徴は、男性の嗜好の影響が大きい。彼は、萌え絵の主要な消費者である。
（１）それは、けばけばした飾りが無い。
（２）それは、すっきり簡略化されている。

参考文献
STUDIO HARD MX（制作）「アニメヒロイン画報－架空美少女ヒロイン四十年の歩み－」、竹書房、1999年。

（初出 2006年10月。～2009年1月。）

萌え絵の女性。その魅力。概要。

それらは、人物表現において、女性の本性を、保持し、誇示している。

それらにおいては、以下の内容が、積極的に表現されている。
「女性が本来的に持つ、人間としての魅力や、性的魅力。」

萌え絵の女性において、その魅力は、次のように分けられる。
（１）性的魅力。
（２）性格や心理構造面での魅力。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。存在面での特徴。

それは、次のような女性である。

（１）彼女は、生身ではない。
（２）彼女は、仮想である。
（３）彼女は、作り物である。
（４）彼女は、二次元である。
（５）彼女は、画面や紙の中から、外に出てこない。
（６）彼女は、次の内容を持つことが、不可能である。「現実の、生身の社会関係。」

それは、女性の苛酷な現実を見せない。
それは、理想を見せる。

筆者は、それを、以下の構成要素へと、分類した。

１．
「静止画。動画。両者に共通。」

（１－１）萌え顔。目。鼻。口。
（１－２）萌え髪。きれいな髪。

（２）萌え女体。エッチな絵。エロアニメ。
（３）萌え衣装。エッチな服装。女子高生の制服。ブルマー。
（４）萌えポーズ。女性特有の可愛いポーズ。エッチなポーズ。静止した姿勢。

２．
「動画。アニメ。ゲーム音楽動画。」
「コンピューターによるシミュレーション。」

（１）萌え声。女性声優の声質。彼女たちの声の演技。彼女たちが演じる、「セックス中の女性の喘ぎ声」。

（２）萌えソング。女性声優の声質による、歌声。一人の歌。複数メンバーによる合唱。それは、女性アイドルや女性歌手のライブとかぶる。それらの区別は、難しい。

（３）萌えダンス。ダンス中の、女性特有の、手足や指先や胴体の動き。内股になる動き。盛んに手を振る動き。例えば、ミリシタ。ラブライブ。

（４）萌えしぐさ。女性特有の可愛いしぐさ。
（４－１）女性の一般的なしぐさ。ウィンクするしぐさ。笑顔を振りまくしぐさ。
（４－２）女性特有の、エッチな身体の姿勢や動作。エロアニメ。セックス中。

（５）萌える会話。女子高生同士の日常会話。可愛い女子たちと、一般男子との会話。

（６）萌える社会行動。女性の魅力にあふれた、社会行動の内容。例えば、ラブライブ。
（６－１）がさつな行動の排除。
（６－２）互いの仲良しアピール。
（６－３）周囲への、気配り。
（６－４）周囲から、注目を浴びようとする行為。

３．
「女性の身体の物理的な置物。女性の身体のコンピューターによるシミュレーション。仮想の人体動作。仮想の外観の表現。」
（１）萌えフィギュア。萌えドール。
（２）三次元コンピューターグラフィックスで実現した、萌える、可動女性。

４．
「女性優位な心理や知能の、コンピューターによるシミュレーション。仮想の女性優位な知的生物体。女性の内面の表現。」
「萌え知能。」人間並みのニューラルネットワーク。それを用いた、人工知能としての女性。
それは、リアルな「萌え対話」が可能である。
（１）研究者は、それに、女性優位な感情を持たせる。自己保身性。自己中心性。
（２）研究者は、次の内容について、人格面での欠陥や、不快な面を、相当、そぎ落とす。「生身の女性の心理構造。」
（３）研究者は、そうして、以下を実現する。
「女性の人格者。性格の良い姉ちゃん。」

研究者は、萌え絵の女性について、上記の外観と内面を合体させる。それは、究極の理想的な女性になる。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。性的魅力。容姿の素晴らしさ。

萌え絵の女性は、性的魅力を、強く持つ。
それは、男受けする。男性の好みに合っている。
それは、生身の女性を、軽く凌駕する。
それは、生身の女性に比べて、表現の自由度が高い。
萌え絵の女性による性的魅力の行使が、行われている。男性は、心理的に、萌え絵の女性の奴隷になる。

（１－１）女体の素晴らしさ。

「女体の性的品質。」
それは、以下の内容である。
「女体に求められる、品質の高さ。それは、高い性的魅力を、満たしているか？」

女体の性的品質について。萌え絵の女性の女体は、生身の女性の女体より、優れている。

男性にとって重要なのは、その女体が、生身かどうかでは無い。
その女体の持つ、以下の内容自体である。
（Ａ）ボディーラインや、体形のセクシーさ、
（Ｂ）プロポーションの素敵さ、

図形としてのパターンが、女体が持つ性的魅力の本質である。

萌え絵の女性の女体は、男性に対して、以下のものを見せる。
男性は、性的に我慢ができなくなる。

（Ａ）形のよいおっぱい。
（Ｂ）細くくびれた腰。
（Ｃ）きれいな曲線の出っ張った大きな尻。
（Ｄ）むちむちの太もも。
（Ｅ）すらっとしたきれいな脚。

「萌え絵の女性」の女体は、以下のような、性的に挑発的な姿勢をする。
すると、男性は、性的に我慢ができなくなる。
（Ａ）Ｍ字開脚。
（Ｂ）女豹のポーズ。

男性は、その女体に、心理的に一方的に引き寄せられる。
男性は、その女体によって、その思うがままに、操られる。
男性は、「萌え絵の女性」の奴隷になる。それは、男性にとって、快感である。

仮に、萌え絵の女性で、以下の（Ａ）が、以下の（Ｂ）のように表現されていた、とする。
（Ａ）女性のボディーライン。女性の体形。女性のプロポーション。
（Ｂ）それらは、性的に素敵に表現されている。

それは、生身である必要は、全く無い。
それは、むしろ、生身の女体よりも、優れている。
萌え絵の女性の素敵な女体が、急速に増えている。
それは、生身の女性の女体を凌駕する。

今まで、萌え絵の女性は、二次元であった。
それゆえ、それは、次の存在より劣るとされてきた。

「三次元の存在。生身の女性。」
しかし、最近は、次の内容が増えている。
「萌え絵の女性の女体の、三次元表現。」

その、動画でのセクシーな動作の表現が増えている。
次の内容も、頻繁に作られている。
「萌え絵の女性による、セックス本番の動画。」

（１－２）「若いこと。」
萌え絵の女性は、女子中学生や、女子高生である。
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、いつまでも若い。

（１－３）「表情。」
（１－３－１）「顔の表情の良さ。美人であること。」

萌え絵の女性は、顔が、とても可愛い。
萌え絵の女性は、表情が、美人である。

それらは、顔の表情において、以下の特徴を持つ。

（Ａ）目や瞳。
それは、とても大きい。
それは、澄んでいる。
それは、透明である。
それは、その目の中において、立体感がある。
それは、潤んでいる。
それは、きれいである。
それは、聡明である。

（Ｂ）鼻。
それは、極めて小さい。
それは、点のように表示される。
それは、ちょっとした突起のように表示される。
それは、ほとんど見えない。
それは、ほとんど省略されている。
それは、可愛い。

（Ｃ）口。
それは、小さめである。
それは、その中が、とても赤い。
それは、その中で、歯をむき出しにしない。

それらは、表現が全体的に、とても可愛い。

それらの可愛さや、美しさのレベルは高い。
それは、生身の女性を、軽く凌駕している。

（１－３－２）「声の良さ。」
これは、アニメやゲーム動画に、限定される。
萌え絵の女性は、声が可愛い。
萌え絵の女性は、声が、美しい。

女性の声優が、その声を担当する。
彼女たちは、優秀である。

（１－３－３）「しぐさ、動作の良さ。」
これは、アニメやゲーム動画に、限定される。
萌え絵の女性は、しぐさが可愛い。
萌え絵の女性は、動作が美しい。
萌え絵の女性は、スポーティーな動きをする。
それは、女性優位で、可愛らしくて、とても魅力的である。

（１－４）「容姿。服装。」
（１－４－１）「容姿の可愛さ。セクシーさ。」
萌え絵の女性は、髪がきれいである。
それは、長髪である。
それは、髪の毛がさらさらである。
それは、ポニーテールをする。
それは、素敵な髪飾りをする。

萌え絵の女性は、肌がきれいである。
それは、肌がすべすべである。
それは、肌が柔らかい。
それは、肌が温かい。

（１－４－２）「服装の可愛さ。セクシーさ。」
萌え絵の女性は、以下の服装をする。
それは、女子中学生や、女子高生の制服を着る。
それは、メイド服を着る。
それは、ブルマーを履く。
それは、スパッツを履く。
それは、ミニスカートを履く。
それは、タイツを履く。
それは、生足である。
それは、ソックスを履く。
それは、ビキニを着る。
それは、白い服を着る。
それは、パンツや下着を見せる。
それは、セクシーな格好をする。

（１－５）「性的行為の受容。」
萌え絵の女性は、以下の行為を受容する。
それは、覗きを許可する。
それは、盗撮を許可する。
それは、痴漢を許可する。
それは、強姦を許可する。
それは、性的に恥ずかしいことを、許可する。
それは、男性が、変な「性的な性癖」を持つことを、許す。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。鑑賞者専用の視点。その評価基準のリスト。

萌え絵の女性。その評価基準のリスト。概要。

「萌え絵の女性」の表現。
絵の作者の皆さんは、それについて、どんな内容を実現すれば、良いでしょうか？
その絵は、どうすれば、萌え絵として、一定程度、優れた出来になるのでしょうか？

社会には、「萌え絵の女性」の作品が、たくさん供給されています。

筆者は、今まで、そうした「萌え絵の女性」について、鑑賞する立場から、いろいろ調べてきました。
筆者は、以下の内容を、長年にわたって、大量に観察してきました。
「絵やアニメ、ゲーム動画など。それらは、いずれも、「萌え絵の女性」に該当しそうである。」

絵は、どういうポイントを満たすと、「萌え絵の女性」としての表現になるのでしょうか？

筆者は、その具体的な評価ポイントを、いろいろ考えました。
そして、筆者は、そうした評価基準になりそうな内容を、以下に、試しに、リストアップしてみました。

それらは、従来主流だった、「絵師の技法の視点」ではありません。
それらは、「鑑賞者専用の視点」から、新たに導出したものです。

絵は、表現上、鑑賞者にとって、どんな感覚を満たすと、「萌え絵の女性」らしくなるのでしょうか？
筆者は、そうした感覚要因を、以下の内容へと、個別に、要素分解しました。
（１）鑑賞者が、着目すべき、視点。
（２）鑑賞者視点で、満たすべき、形容詞の表現。

筆者は、それらの視点や表現を、以下に、たくさんリストアップしました。

それは、主に　顔と女体について、まとめています。

その内容は、まだ、暫定的で、試験的です。
その内容には、おかしな点が、まだいろいろあるでしょう。

筆者は、内容を、時間の余裕に応じて、充実させようと思います。

筆者は、以下の実現を、理想としています。

仮に、絵の作者の皆さんが、作成中、以下のリストの基準を満たした、とします。
すると、その絵は、そうして、一定品質水準をクリアする、「萌え絵の女性」になるでしょう。

筆者は、そのことの実現を、目指しています。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。顔と女体。共通の部品。

それらは、以下の部品を、共通に、必要とする。

（１）皮膚。
（２）肉。
（２－１）普通の肉。
（２－２）乳房。

（３）骨。
（４）血。
（５）水。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。萌え顔。評価基準のリスト。

（１）「概要。」
それは、可愛い。
それは、美しい。
それは、ブスではない。

それは、生身の女性の顔にありがちな、苛酷な現実を見せない。
それは、理想を見せる。
それは、きれいごとである。

（２）「顔の表情。」
それは、笑顔である。
それは、感情の表出がある。
それは、喜怒哀楽がある。

（３）「顔の皮膚。」
それは、赤い。
それは、血が通っている。
それは、血色が良い。

（４）「眉毛。」
それは、線が細い。
それは、繊細である。
それは、表示が丸い。
それは、クッションである。

（５）「目。瞳。」

それは、宝石である。
それは、クリスタルである。
それは、きれいな原石である。

それは、高貴である。

それは、輝く。
それは、光を持つ。
それは、光輝である。

それは、潤んでいる。
それは、水分がある。
それは、流れがある。
それは、液体的である。

それは、クリアである。
それは、透明である。

それは、立体的である。
それは、奥行きがある。

それは、広大である。
それは、面積がある。
それは、面積が大きい。
それは、面積が広い。

それは、見開いている。
それは、まなざしがある。
それは、視線がある。

それは、まなざしの動きの幅が、広い。

（６）「頬。」
それは、赤い。
それは、赤らめている。

それは、血が通っている。

（７）「鼻。」
それは、突起が、極めて小さい。
それは、突起が、点になっている。
それは、鼻の穴の表示が無い。
それは、露骨さの排除である。
それは、露骨さの省略である。

（８）「口。」
それは、表示は、口腔のみである。
それは、表示は、口の赤い内側のみである。

（８－１）「口腔。」

それは、柔らかい。
それは、湿っている。
それは、温かい。

（８－２）「唇。」
その表示は、限定的である。
その表示は、口を閉じている時だけである。
その表示は、口を開いている時には、無い。
それは、露骨さの排除である。

（８－３）「歯。」
その表示は、限定的である。
その表示は、口を開いている時には、無い。
それは、個別の歯を描かない。
全ての歯は、その全体が、真っ白なかたまりである。
それは、赤い口の表現が、優先される。
その表示は、副次的である。
それは、硬質さの排除である。
それは、露骨さの排除である。

（９）「耳。」
それは、柔らかい。
それは、しっかりしている。
それは、ある程度、厚みがある。

それは、穴がある。
それは、秘部である。

それは、温かい。
それは、血が通っている。

仮に、誰かが、それに、息を吹きかけた、とする。すると、女性は、性的に興奮する。

（１０）「髪。」
それは、きれいである。

（１０－１）「髪の色。」
（１０－１－１）黒髪。
（１０－１－２）カラフルな髪。

（１０－２）「髪の長さ。」
（１０－２－１）長髪。流れるような髪。
（１０－２－２）短髪。スポーティーな髪。

（１０－３）「髪の毛の品質の良さ。」
それは、つやつやである。
それは、さらさらしている。

それは、水分がある。
それは、潤っている。

（１０－４）「髪型。」
（１０－４－１）それは、単純である。例えば、ポニーテール。
（１０－４－２）それは、複雑である。例えば、三つ編み。

（１０－５）「髪飾り。」
それは、美しい。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。萌え女体。評価基準のリスト。

それは、生身の女体にありがちな、苛酷な現実を見せない。
それは、理想を見せる。
それは、きれいごとである。

（１）「概要。」

それは、円のようである。
それは、丸い。
それは、円やかである。

それは、柔らかである。
それは、ふっくらしている。

それは、血が通っている。
それは、温かい。

それは、体温を感じる。

それは、ソフトである。
それは、クッションである。
それは、肉感的である。
その肉は、適度に、豊かである。
それは、やせ過ぎない。
その肉付きは、多過ぎない。
それは、デブでない。
それは、たるんでいない。

それは、露骨さの排除である。
それは、硬質さの排除である。

それは、ごつさの排除である。
それは、筋力感覚の排除である。

それは、次の両者への需要に、別々に、対応している。
（１－１）それは、性的に、良く発育している。
それは、巨乳である。
それは、大きな尻である。
それは、成熟している。
それは、大人である。
それは、豊かさがある。
それは、豊潤である。
それは、適度に太い。

（１－２）それは、性的に未発育である。
それは、貧乳である。
それは、小さな尻である。
それは、子供っぽい。
それは、幼い。
それは、細い。

（２）「肉。」
それは、赤い。
それは、血が通っている。
それは、血色が良い。

それは、温かい。

それは、水分がある。
それは、潤っている。
それは、カサカサしていない。
それは、乾いていない。

それは、柔らかい。
それは、クッションである。

それは、肉感的である。
それは、量が、適度に、豊かである。
それは、やせ過ぎない。
それは、量が、あり過ぎない。それは、デブでない。
それは、たるんでいない。

（３）「肩。」
それは、なで肩である。
それは、丸い。
それは、円の感覚である。
それは、ごつくない。
それは、華奢である。

（４）「肌。」
それは、すべすべしている。
それは、滑らかである。
それは、触っていて、気持ちいい。

それは、きめ細かい。
それは、潤っている。
それは、水分がある。

それは、柔らかい。
それは、クッション性がある。

それは、脂肪の感覚がある。

それは、突起が無い。
それは、無毛である。
それは、とがりが無い。

それは、しみが無い。
仮に、誰かが、それを、撫で続けた、とする。すると、女性は、性的に興奮する。
それは、赤さがある。
それは、血が通っている。
それは、血色が良い。

それは、温かい。
それは、水分がある。
それは、潤っている。
それは、カサカサしていない。
それは、乾いていない。

（５）「尻。」
それは、重心が低い。
それは、下方に落ち着いている。
それは、安定的である。

それは、底面が大きい。
それは、突き出している。

その肉は、割れている。
それは、桃尻である。

その肉は、丸い。
その肉付きは、盛り上がっている。
その肉付きは、出ている。
その肉付きは、豊かである。
その肉付きは、分厚い。
その肉は、柔らかい。

（６）「腰。」
それは、重い。
その骨は、大きい。
それは、細くくびれている。

それは、細い。
それは、すらりとしている。
それは、くびれている。

（７）「太もも。」
それは、肉厚である。
それは、分厚い。

それは、太い。
それは、軸太である。

それは、温かい。

（８）「腕。」
それは、細い。
それは、すらりとしている。

（９）「脚。」
それは、細い。
それは、すらりとしている。

（１０）「太もも。」
その肉付きは、すべすべしている。
その肉付きは、温かい。
その肉は、柔らかい。
それは、軸が、太い。
それは、付け根が、特に太い。

（１１）「女性器。」
（１１－１）「概要。」
それは、凹部である。
それは、奥部である。
それは、穴である。

それは、表向きは、閉じている。
それは、挿入先である。

それは、肉質である。
それは、究極の秘部である。
それは、秘密の中心で、中核である。
それは、女体の中核である。
それは、女体の核心部分である。
女性は、それを他人に見られると、とても恥ずかしい。
女性は、それを、隠したい。
それは、大きな恥辱感がある。
それは、秘肉である。

それは、湿っている。
それは、柔らかい。
それは、温かい。

それは、おしっこを出す。
それは、おしっこを漏らす。

それは、内部が、指先で、ぱっくり開く。

（１１－２）「膣。」
それは、内部が、愛液で満ちる。
それは、内部が、粘液であふれる。

それは、内部が温かい。
それは、内部に、ひだひだがある。
その内部は、挿入すると、気持ちいい。

（１１－３）「クリトリス。」
仮に、女性が性的に興奮した、とする。すると、それは、勃起して、膨らむ。
仮に、女性が性的に興奮した、とする。すると、それは、固くなる。
仮に、誰かが、それを、触り続けた、とする。すると、女性は、性的に興奮し、絶頂を迎える。

（１１－４）「陰毛。」
それは、ぼさぼさである。
それは、つるつるである。

（１２）「太もも。女性器。それらの相互作用。」

それは、以下に分類される。
（１２－１）M字開脚。
（１２－２）大開脚。
（１２－３）全開。

それは、ぱっくり、開いている。
それは、開いた大きな門である。
それは、性的に、凄く迫力がある。

それは、開門の儀式である。
それは、秘宝の開帳である。

それは、女性が持つ、次の考えに基づく。
「私は、あなたに、見せてあげる。あなたは、それを、ありがたく思いなさい。」

それは、秘密の開示である。

（１３）「乳房。乳首。」
（１３－１）「乳房。」
それは、前方に突き出している。
その突き出しの中心は、乳首である。

それは、袋状である。
それは、重力が働いて、下に行く。

それは、弾力がある。
それは、形が元に戻る。

それは、とても柔らかい。
それは、すぐ、とても容易に、自由に、変形する。
それは、究極のクッションである。

それは、膨らんでいる。
それは、ふっくらしている。
そのボリュームは、十分である。

その谷間は、くっきりしている。

（１３－２）「乳首。」
それは、凸部である。
それは、突起感がある。
それは、硬直感がある。
それは、肉質感がある。
それは、面積がある。

仮に、女性が性的に興奮した、とする。すると、それは、固くなる。
仮に、女性が性的に興奮した、とする。すると、それは、勃起する。

それは、乳状の液体を噴出する。
仮に、誰かが、それを、触り続けた、とする。すると、女性は、性的に興奮し、絶頂に至る。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。女性の理想形。

萌え絵の女性は、その全てにおいて、以下の存在である。
「女性の理想形。理想的な女性。」
（１）それは、「究極の理想性」を持つ。それは、生身の女性では実現が不可能である。それは、「女性の理想性」を表現している。
それは、生身の女性が持つ、以下の欠陥を解決する。
（１－１）冴えない身体。
（１－２）不快な心理構造。
（１－３）暮らしにくい社会関係。
それは、そうした欠陥の無い、理想的な女性である。

（２）それは、次の内容である。
「女性性の強力なかたまり。」
それは、女性優位魅力が強い。
それは、次の内容を体現している。
「本当の女らしさが持つ素晴らしさ。」
それは、女性の優位性を示す。

（３）それは、次の内容である。
「女性優位社会の特産物。その名物。その売り。」
それは、次の方法でないと作れない。
「女性優位社会の女性による、自作。」
それは、あるいは、女性優位男性による、その物真似である。

（４）それは、次のことの証拠である。
「世界社会における、「強者女性の実在」。」
それは、次の内容の根源である。
「女権拡張を指向する、フェミニズム。」
それは、女性性の象徴である。

女性優位女性の方が、男性優位女性より、女性として、優れている。
女性優位女性の方が、男性優位女性より、女性優位な魅力がある。
女性優位女性は、女性性の本質を保っている。
萌え絵の女性は、女性優位女性による製品である。それは、そういう点で、女性優位魅力にあふれている。
それは、そういう点で、理想的な女性である。
女性優位魅力は、以下の通りである。
（１）性的魅力。
（２）次の存在としての魅力。「女性優位な価値観を体現する存在。（自己保身性。自己中心性。）」
（３）次の存在としての魅力。「定住生活様式における、有力で有能な権力者。」

性的魅力は、女性優位女性の方が、男性優位女性より、優れている。
それは、萌え絵の女性に、引き継がれている。
萌え絵の女性は、女性優位女性の本質の体現者である。
性的魅力は、理想的女性の方が、現実の女性より、優れている。
性的魅力は、萌え絵の女性の方が、生身の女性より、優れている。
萌え絵の女性の方が、生身の制約や欠陥が無い。

それは、女性の理想形を、より実現しやすい。

生身の女性が優れているのは、次の内容だけである。
（１）物理的な女体。
（２）物理的な女性器。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。それへの問題意識。

萌え絵の女性は、理想化された女性である。
それは、現実の生身の女性が持つ、以下の側面を、極力隠している。
「苛酷な、恐ろしい支配者。」

仮に、男性が、「萌え絵の女性」と付き合っている、とする。すると、男性は、以下の存在とは、ずっと、付き合わなくて良い。
「生身の女性。それは、苛酷な内実を持つ。」

彼は、それで、十分心理的に満足できる。
萌え絵の女性は、どういう風に、理想化されているか？

萌え絵の女性は、仮想化された存在である。
萌え絵の女性は、人格の一部を切り取って強調している。それは、キャラクターである。

生身の女性の心理構造の持つ、良い面と、悪い面を、分析する。
そのうちの良い面のみが、萌え絵の女性に反映されている。
そうした良い面、悪い面は、以下に分類される。
（１）男性にとっての側面。
（２）女性にとっての側面。
（３）人間一般にとっての側面。

以下では、（１）を、取り扱う。
「萌え絵の女性」の主要なターゲットは、男性である。

萌え絵の女性は、男性にとっての、性的欲求のはけ口となっている。
それは、男性にとっての、魅力的な性的誘蛾灯である。
それは、生身の女性器を備えていない。

萌え絵の女性は、生身の女性と付き合えない男性にとって、「代理の女性」である。
そうした男性は、なぜ、生身の女性と付き合えないか？
彼は、生身の女性によって、交際を、拒絶される。
そうした拒絶が起きる原因は、何か？

あるいは、男性は、そもそも、以下の状態に至らない。
「生身の女性への、交際の申し込み。」

男性は、なぜ、萌え絵の女性なら、大丈夫なのか？
「萌え絵の女性」のどこが、男性を惹きつけるか？
男性は、どういう女性なら大丈夫なのか？

以下のことが言えるのではないか？
「生身の女性には、男性にとって、性格上の大きな問題点がある。」

以下のことが言えるのではないか？
「男性にとっては、生身の女性は、以下のような存在である。」
（１）その女体と女性器は、魅力的である。
（２）その心理構造は、微妙で、不快である。

以下のことが言えるのではないか？
「男性は、以下の目的で、仕方なく、生身の女性と、付き合っている。」
（１）女体と女性器を体験するため。
（２）彼の遺伝的子孫を残すため。

女性は、、微妙で不快な心理構造の持ち主である。
生身の女性が持つ、心理的な不快さは、どのように分析されるか？

萌え絵の女性では、その不快な面が、打ち消されている。
そこでは、女性の良い面が、強調されている。
そこでは、以下の内容が無効化されている。
「生身の女性が持つ、心理的な毒。」

男性は、生身の女性を拒否する。そうした男性は、次の存在を、受け入れている。
「理想的な女性としての、萌え絵の女性。」

その良い面は何か？
それは、そのキャラクターのデザインや性格などに、どう反映されているか？

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。長所と短所。

萌え絵の女性は、どこが良いのか？
それは、以下の点である。
「男性は、萌え絵の女性と付き合う。そうした男性は、生身の女性と、付き合わなくて済む。」
生身の女性は、不快な心理構造を持つ存在である。

萌え絵の女性は、どこが駄目なのか？
（１）それは、物理的な女体や女性器を持っていない。
（２）それは、一緒にいても、遺伝的子孫を、残せない。

男性にとっては、次の体験が出来れば、良い。
（１）彼は、生身の女体と女性器だけ体験できれば、良い。
（２）彼は、それを、萌え絵の女性で、体験できれば、一番良い。
（３）彼は、萌え絵の女性と、遺伝的子孫を作れれば、一番良い。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。その欠陥。

それは、生身のセックスができない。
（１）それは、次の存在へはアクセスできない。
「生身の女体。生身の女性器。」
男性は、それらの気持ちよさを、味わえない。
（２）それは、遺伝的子孫の生成が不可能である。
もしも、男性が、それを、愛好し続けた、とする。
すると、彼は、生物として、淘汰される。

上記への対策は、以下の通りである。
（１）ラブドールとの連携。オナホールとの連携。
（２－１）人工子宮の実現。
（２－２）男性は、別途、文化的子孫を残す。
（２－３）男性は、遺伝子操作を利用する。
男性は、新たなタイプの遺伝的子孫を、「萌え絵の女性」との間で、作れるようにする。

（初出 2020年7月）

萌え絵女性。性格や心理構造面での魅力。

萌え絵の女性は、以下の（１）において、以下の（２）のような魅力を持っている。
（１）「その性格。その心理構造。」
（２）「生身の女性が持つ欠陥の克服や超越。」

萌え絵の女性は、生身の女性と違って、以下の長所を持っている。
生身の女性は、男性にとって、不快な心理構造を持つ。
萌え絵の女性は、そうした欠陥をクリアしている。
生身の女性は、男性にとって、有害な価値観を持つ。
萌え絵の女性は、そうした欠陥をクリアしている。

（Ａ）
生身の女性は、低スペックの男性に対して、次のように、冷たく当たる。
「あなたは、私にとって、恋愛対象外だ！」
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。
萌え絵の女性は、低スペックの男性を、温かく迎え入れてくれる。
低スペックの男性が持つプライドを、保ってくれる。

（Ｂ）
生身の女性は、男性に対して、上から目線で、以下を、強制的に、求めてくる。
（１）彼女への経済的なもてなし。
（２）彼女への褒め称え。

（３）彼女への共感。

萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。
萌え絵の女性は、男性に対して、対等に接してくれる。

（Ｃ）
生身の女性は、男性に対して、以下ばかりを重視する。
「容姿や服装。その外面的な評価。そのおしゃれさや、清潔感。」
仮に、男性が、それらについて、欠如していた、とする。すると、生身の女性は、男性を拒絶し、馬鹿にする。
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。
萌え絵の女性は、男性の内面を見てくれる。

（Ｄ）
生身の女性は、男性に対して、感情的に激昂し、「言葉による暴力」を振るう。
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。
萌え絵の女性は、穏やかである。

（Ｅ）
生身の女性は、男性に対して、受け入れにおいて、平気で分け隔てをする。
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。
萌え絵の女性は、全ての男性を、分け隔てなく、受け入れてくれる。
それは、男性がどんな性格や性癖、病気の持ち主でも、そうである。

（Ｆ）
生身の女性は、以下のような存在である。
（１）彼女は、自己中心的である。
（２）彼女は、自己愛のかたまりである。
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。

（Ｇ）
生身の女性は、見栄を要求する。
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、それをしない。

（Ｈ）
生身の女性は、次のような非人間的な対人関係を、強制する。
（１）その人物は、上位者に忖度、隷従する。
（２）その人物は、下位者を、自身に対して、隷従させる、
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。
萌え絵の女性は、対人関係が対等である。
（Ｉ）
生身の女性は、男性に、以下の非人間的な振る舞いを、強制する。
（１）合わない集団への強制的な加入。
（２）集団メンバー間での、心理的な相互同調と一体化。
（３）集団メンバー全員による、団体行動。

仮に、集団内の誰かが、それに上手く合わせられなかった、とする。
すると、生身の女性たちは、以下の非人間的な振る舞いをする。
（１）女性たちは、その人物を、集団で、寄ってたかって、いじめて潰し、差別する。
（２）女性たちは、最終的に、その人物を、追放し、隔離する。

萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そうした振る舞いをしない。

萌え絵の女性は、男性に、一人で、マイペースでいることを許してくれる。

（Ｊ）
生身の女性は、男性に対して、以下のことをさせる。
（１）女性は、男性に、危ないことをやらせる。
（２）女性は、男性に、判断や決定を、強制する。
（３）女性は、男性に、責任を転嫁してくる。
萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。

（Ｋ）
生身の女性は、以下の内容を、冷酷に拒絶する。
「男性による、女性に対する、心理的な依存の欲求。」

萌え絵の女性は、生身の女性と違って、そういうことがない。
萌え絵の女性は、男性に対して、母親代わりになって、心理的に依存させる。
それは、男性に対して、優しい。
それは、男性にとって、頼りになる。
それは、男性を、支えてくれる。
それは、男性にとって、癒しとなる。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。男性にとっての需要。

１．男性共通。
１．１．「男性の持つ、性的興味や、性的欲求を充足してくれる存在。」
それは、「目の保養」である。
それは、疑似的な性行為の相手である。（覗き。痴漢。強姦。）
その女体の表現は、エッチである。男性は、それを見て、性的に興奮する。
男性は、その顔や声に対して、性的に惹きつけられる。

１．２．「生身でない女性」への需要。
女性は、以下の二種類に分けられる。
（１）三次元（生身の女性）。
（２）二次元（生身でない女性）。

生身でない女性への需要は、以下の通りである。
（１）それは、次の存在への直面を回避できる。
「生身の女性が持つ、不快な心理構造。」
男性は、そうして、女性から、下僕扱いされないで済む。

（２）それは、疑似的な、結婚相手である。

（３）それは、年を取らない。それは、いつまでも、以下の状態でいてくれる。それは、一生、その状態で、付き合える。
（３－１）それは、永遠に、若く、可愛く、きれいで、美しい。
（３－２）それは、永遠に、以下の状態を保ち続ける。
「性的魅力が大きい状態。」

（４）それは、以下のものを、無効化する。
「付き合う上での、面倒な束縛。それは、生身の女性が持つ。」
（４－１）それは、次のことへの心配が、要らない。
「妊娠。結婚。不倫。」
（４－２）それは、究極のやり捨ての相手である。
（４－３）それは、いくらでも取り替え可能である。

１．３．男性優位女性。女性優位女性。萌え絵の女性。三者比較。
（１）男性優位女性。
男性は、男性優位女性を、精神的に支配下に置ける。
しかし、男性優位女性は、身体のしぐさや心が、男性優位である。
それは、女性優位な魅力に欠ける。

（２）女性優位女性。
男性は、女性優位女性によって、精神的に支配されてしまう。
男性は、その下僕になってしまう。
男性は、女性から、お小遣いを与えられる。
男性は、女性に対して、弱い立場になってしまう。
しかし、女性優位女性は、身体のしぐさや心が、女性優位である。
それは、女性優位な魅力に満ちている。
それは、もちろん、性的魅力にも、素晴らしく満ちている。

（３）萌え絵の女性。
男性は、萌え絵の女性に、精神的に支配されることは無い。
男性が、萌え絵の女性を支配することもない。
両者は、対等である。
萌え絵の女性は、身体のしぐさや心が女性優位である。
それは、女性優位な魅力に満ちている。
それは、もちろん、性的魅力にも、素晴らしく満ちている。

男性にとっては、萌え絵の女性が、最高の存在である。

２．モテない男性。
（１）低スペックの男性。身長。筋力。学歴。地位の安定性。収入。これらが低い。
（２）性的に奥手である男性。
（３）女性との会話が下手な男性。
（４）容姿や服装、清潔感で女性に避けられる男性。
（５）精神障害者の男性。

彼らは以下のように考える。
「彼女は、僕を、受け入れてくれる。僕は、振られない。僕は、無視されない。彼女は、僕に、親しくする。彼女は、僕と、一緒にいる。僕は、告白できる。彼女は、僕の結婚相手になってくれる。」
男性は、そうして、自身が持つ、心理的、社会的プライドを維持できる

３．モテる男性。
（１）彼は、交際する女性と一緒に、恋愛アニメを見る。萌え絵の女性は、そのアニメのヒロインである。
（２）溢れる性欲を充足させる、補完的な存在。そうした性欲は、交際する女性や、生身の女性では補えない。それは、次の存在である。「第二の彼女。」

彼らは、そうして、自由に浮気できる。

４．女性優位社会の女性優位男性。
４．１．
「母親」を求める男性。彼らは、以下のように考える。
「僕は、子供のまま。僕は、男の子のまま。僕は、未熟なまま。僕は、お母さんが欲しい。」

萌え絵の女性は、そうした男性にとって、次の存在である。
「理想的な母親。」「良い母親の代理。」それは、次の内容を、充足してくれる。「彼が持つ、女性への、依存心。」

（１）それは、彼を、甘えさせる。それは、彼を、赤ちゃん返りさせる。それは、彼に、寛容の心で接する。それは、彼を、慈しむ。それは、彼に、優しくする。

（２）それは、彼を、強者の余裕で、受け止める。それは、彼を、抱擁する。それは、彼にとって、心の支えである。それは、彼にとって、頼りになる。

（３）彼は、以下の母には、耐えられない。
（３－１）彼女は、厳しい。
（３－２）彼女は、虐待する。
（３－３）彼女は、毒がある。
彼は、そういう母から、逃避したい。それは、その逃避先となる。それは、「代理の理想的な母」となる。
４．２．
彼は、絵師である。彼は、それを描くことが好きである。彼は、それを描くことで、稼ぎたい。彼は、それを描くことで、有名になりたい。

５．女性優位社会への不適合者の男性。異性愛者。
彼は、女性優位女性と、生身で付き合わなくて済む。仮に、彼が、女性優位女性と、生身で付き合った、とする。それは、彼にとって、地雷である。
彼にとって、次の人々も地雷である。
「女性優位男性。彼らは、萌え絵の女性を愛好する。」
彼は、社会から引きこもる。彼は、以下のことを実現する。「生身の女性からの、物理的な隔絶。」
彼は、そうした状態で、以下の内容を堪能できる。「本当の女らしさが持つ、素晴らしさ、エッチさ。」
彼は、そうして、以下の内容を満たす。
「女性性を、遠隔で望む心。」

６．男性優位社会への不適合者の男性。
彼は、男性優位な価値観や社会規範が苦手である。
（１）人々は、その社会では、無能だと、いじめられる。
（２）人々は、その社会では、自己の主張を強くアピールできないと、いじめられる。
彼は、次の存在に憧れる。
「男性優位でない、本物の女性。」
彼は、女性優位な女性に憧れる。
彼は、な価値観に惹かれる。
彼は、以下のように考える。
「萌え絵の女性は、次の内容の理想的な体現者だ。「本当の、女性優位な価値観。」それは、とても素敵だ。」

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。女性にとっての需要。

（１）彼女は、絵師である。彼女は、それを描くことが好きである。彼女は、それを描くことで、稼ぎたい。彼女は、それを描いて、有名になりたい。
（２）彼女は、次のことが好きである。
「百合の表現。レズビアンの表現。それらを見ること。」
彼女は、以下のように考える。
「可愛い女子同士がつるむことは、素敵だ。」
（３）彼女は、女性アイドルが好きである。彼女は、きれいで、カラフルな、輝く衣装を見たい。彼女は、華麗なダンスを見たい。彼女は、それを、自身の女磨きの参考にしたい。例えば、プリパラ。
（４）彼女は、きれいで可愛い変身シーンを、見たい。
（５）彼女は、格好いい女性が好きである。例えば、プリキュア。
（６）彼女は、交際する男性と一緒に、恋愛アニメを見る。萌え絵の女性は、そのアニメのヒロインである。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。その生みの親。女性優位社会の女性絵師。

「萌え絵の女性」の表現は、女性優位社会の強者女性たちが、主導して、生み出している。
女性優位社会が、「萌え絵の女性」の生みの親である。
それは、女性優位女性の絵師たちの功績だ。
それは、特に、日本の女性絵師たちの功績だ。
それは、高く褒め称えられるべきだ。
萌え絵の女性は、本質的に、純粋な女性性のかたまりだ。
萌え絵の女性の魅力の根源は、それである。
萌え絵の女性は、世界にとって、素晴らしい、模範となる存在である。

萌え絵の女性は、女性の強さの象徴だ。
萌え絵の女性は、女性が持つ優位性の象徴だ。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。女性優位男性の絵師。彼らの高い能力。

萌え絵の女性。
その表現の世界的な普及。

それには、次の役割が、とても大きい。

「女性優位男性である絵師。」

それは、次の通りである。

（１）彼らは、次の質問に対する正解を、熟知している。
「女体の性的魅力は、どこにあるか？」
彼らは、そうした女体の本質を、正確に、客観的に把握している。
それは、男性本来の能力である。
それは、男性ならではの能力である。

（２）彼らは、そうした女体の本質を、上手に再現できている。
そこでは、彼らは、表現上の高度な女性性を、上手に保持できている。

彼らが持つ、「「萌え絵の女性」の絵師」としての能力。
それは、とても高度である。

彼らにおいて、そうした高い能力が生まれる要因。
それは、次の通りである。

（１）彼らは、女性優位女性による支配を受けている。
それは、精神的支配である。
それは、社会的支配である。

（１－１）彼らは、そのため、精神が女性優位になる。
彼らは、男性であるにも関わらず、次を実現できる。
「女性優位な表現。」

（１－２）彼らは、女性優位社会で生きている。
そこでは、女性優位女性の絵師が、場を主導している。
彼女らが行う絵画的表現は、女性優位表現の手本である。

「彼女らによる、女体の女性優位表現。」
女性優位男性の絵師たちは、その表現を、次の内容とすることができる。
「彼らにとっての、理想的な手本。」
彼らは、その表現を、身近で絶えず参考にすることができる。
彼らは、絵の制作環境において、恵まれている。

（２）彼らには、以下の男性優位能力が、残存している。
（２－１）女体の性的魅力を根本的に把握する能力。
（２－２）それを、絵画において、正確に客観的に再現する能力。
それらの能力は、男性に生得的である。

女性優位女性の絵師は、その関心が、次に向かいがちである。
「異性としての男性。その絵画的表現。」

そのため、彼女らは、以下についての関心や意欲が、薄れがちである。
「「萌え絵の女性」の表現。」

女性優位男性の絵師には、そうした問題が無い。
彼らは、女体が持つ性的魅力の表現を、ストレートに指向し続けることができる。
彼らが持つ、そうした指向。
それは、以下のことの実現にとって、欠かせない。

「「萌え絵の女性」における、以下の表現。」
（１）女性性の表現。
（２）女体が持つ性的魅力の表現。

上記の両者の効果によって、彼らは、以下の内容を、とても上手に表現できる。
「女性優位女性の女体が持つ、性的魅力。それらの絵画的再現。」

「萌え絵の女性」の世界的普及。
彼らは、上記の実現にとって、とても重要な推進役である。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。現代の女性優位社会。その問題点。

（１）萌え絵の女性。「強者女性による社会支配」の象徴。

女性優位社会の強者女性たちは、「萌え絵の女性」を生み出した。

「女性優位社会における、弱者男性の絵師たち。」
彼らは、その模倣者で、改良者だ。
萌え絵の女性を生み出すには、女性優位な精神が欠かせない。

女性優位社会の強者女性たちは、その社会における支配者である。

萌え絵の女性は、以下の内容の象徴である。
「女性による、社会支配。」

萌え絵の女性は、以下の内容の象徴である。
「女性による、弱者男性の抑圧。」

しかし、萌え絵の女性は、生身の女性と違って、男性を、直接的に抑圧することは無い。
萌え絵の女性は、弱者男性に対して、以下の心で、温かく接してくれる。
「強者としての心。」
（Ａ）寛容さ。
（Ｂ）余裕の心。
（Ｃ）慈しみの心。
（Ｄ）優しい心。
（Ｅ）母親代わりになる心。

（２）女性優位社会の強者女性。その変質。

女性優位社会の強者女性は、そうした心を、弱者男性に対して持っていた。
しかし、女性優位社会の強者女性は、それを、すっかり止めた。
例えば、日本。

女性優位社会の強者女性は、以下の内容を、盛んに取り入れるようになった。
「有力な男性優位社会が持つ、価値観。」

それは、以下の理由による。
（Ａ）それは、先進的である。
（Ｂ）それは、見栄えがいい。
（Ｃ）それは、安全である。
（Ｄ）それは、権威がある。
（Ｅ）それを信じると、私は守られる。

そうした女性は、次の内容を、崇めるようになった。
「有力な男性優位社会における、弱者女性の主張。」
それは、欧米諸国のフェミニズムである。

女性優位社会の強者女性は、強者としての社会的立場を、従来通り、維持している。
強者女性は、社会的に、支配者のままである。
その社会では、人々は、以下の内容に従って行動しないと、生きていけない。
「女性優位な価値観。女性優位な社会規範。」
男性も、それを強制される。
女性は、引き続き、その社会の主宰者である。

しかし、強者女性は、弱者、被害者として、もっぱら振る舞うようになっている。
女性は、根拠もなく、勝手に、次のようになる。
「強烈な被害者意識のかたまり。」

女性は、弱者男性を、社会的支配者と見なして、攻撃する。
それは、社会の実態とかけ離れている。
女性は、弱者男性を、性的差別を行う存在として、敵対視する。
女性は、弱者男性に、無理難題を吹きかける。

女性は、以下のような男性のみを受け入れる。
（Ａ）彼は、彼女に対して、全面的に共感してくれる。
（Ｂ）彼は、彼女を褒め称えてくれる。
彼は、一見、騎士のようである。
しかし、彼は、実質的には下僕である。

女性は、従来通り、高いスペックの男性のみを受け入れる。
女性は、男性に、従来通り、企業での強制奴隷労働をさせる。
女性は、男性に、「小遣い制」を実施し続ける。

女性は、男性を、次のように捉えるようになっている。
（Ａ）攻撃対象。
（Ｂ）ストレス解消のためのサンドバッグ。
（Ｃ）いじめの対象。

男性は、女性を、以下の言論の自由を、社会的に失ったままである。
「男性は、女性を、社会的強者と見なして、批判することができる。」
それは、社会的禁忌のままである。
それは、社会が、女性優位だからだ。

女性優位社会の男性は、こうした現実の生身の強者女性の振る舞いに、耐えられない。
そこに、萌え絵の女性が、心理的に入る。

（３）女性優位社会の弱者男性。「萌え絵の女性」の受容者。

女性優位社会では、男性は、以下の内容を除去されている。
「男性優位な精神。父性。」

男性は、精神が女性化している。
男性は、無力な弱者である。
そうした男性は、筋力があるので、強く見えるだけである。
男性は、ただの子供である。
男性は、幼い男の子のままである。
男性は、、未熟な存在のままである。
強者女性は、本来、そうした弱者男性に対して、以下の心で、接するべきである。
（Ａ）「母親代わりの心。」
（Ｂ）「社会的強者としての自負。」

それは、例えば、以下の内容である。
（Ａ）寛大な心。
（Ｂ）ケアの心。
（Ｃ）大人の心。
（Ｄ）余裕の心。

萌え絵の女性は、男性に対して、まさに、そうしてくれている。
萌え絵の女性は、男性にとって、とてもありがたい、心の支えになる存在だ。

（４）現代の社会的問題。その根源。
（４－１）強者女性。その問題点。
以下の存在は、その社会における、最低で、最悪の存在である。
それは、特に、本当の社会的弱者にとって、そうである。
（Ａ）「弱者気取りの強者。」
（Ｂ）「弱者として振る舞う強者。」
（Ｃ）「強者である自覚が無い強者。」

それは、人間として、人格的に問題がある。それは、少しも尊敬できない存在だ。

今の女性優位社会の強者女性は、まさにそうした存在だ。
強者女性は、身勝手に弱者を気取り、被害者を気取る。それは、著しい。
女性たちは、弱者男性に対する加害者だ。
そうした強者女性は、その欠陥を、きちんと認識すべきだ。

女性たちは、強者としての自覚を、もっと持つべきだ。

（４－２）弱者男性。その問題点。
以下の存在は、その社会における、本当の馬鹿者だ。
（Ａ）「強者気取りの弱者。」
（Ｂ）「強者として振る舞う弱者。」
（Ｃ）「弱者である自覚が無い弱者。」

それは、哀れで、気の毒な存在だ。
それは、同時に、同情できない、助けたくない存在だ。

今の女性優位社会の弱者男性は、まさにそうした存在だ。

今の女性優位社会の弱者男性は、以下のことを、し過ぎだ。

「根拠の無い、次の行動。」
（Ａ）強がり。
（Ｂ）粋がり。
（Ｃ）威張り。

そうした男性たちは、次のことを、盛んに行う。
「根拠の無い、次の行動。」
（Ａ）「家父長」を気取ること。

それは、彼らの頭の悪さの表れだ。それは、救いようがない。
それは、彼らの持つ、幼稚な精神の表れだ。
そうした男性たちは、間抜けで、助けるに値しない存在だ。

そうした男性たちは、次のことがお似合いだ。
「女性優位に振る舞うこと。」
（Ａ）仲良し集団を作ること。
（Ｂ）弱い者いじめをすること。
（Ｃ）保身をすること。
（Ｄ）見栄を張ること。
（Ｅ）前例の暗記ばかりやること。

弱者男性は、弱者としての自覚を、もっと持つ必要がある。

（５）おまけ。筆者による、勝手な独り言。
筆者が、こんなことを言っても、女性優位社会の男女には、おそらく、何も影響しない。
彼らは、彼らの社会を、男性優位社会と思い込んでいるからだ。
それは、宗教に洗脳された信者と同じだ。
彼らには、説得が不可能だ。
筆者は、彼らとは、意思疎通できない。
筆者は、がっかりする。彼らが、「萌え絵の女性」の生みの親なのに。
彼らとは、付き合わないこと。それが、筆者の人生にとって、最良の選択だ。
筆者は、素敵な「萌え絵の女性」と、ずっと一緒にいたい。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。その社会的立場。その変化。

それは、日本で生まれた。
それは、最初は、日陰者、反社会的存在だった。それは、次の内容の影響が大きい。
「それを好んだ性的犯罪者。彼についての、ニュース報道。」

しかし、それは、次第に、社会的な人気者になった。
そのアニメは、全世界的に視聴への需要がある。例えば、ファンサブでの視聴。
そのエロアニメは、世界的に人気を博している。
その人気映画が、世界を席巻した。（例えば、「新海誠」監督の作品）。

それは、日本だけでなく、その同類の定住生活様式の社会において、製作者が増加している。例えば、中韓。
それは、モテる男女も、大っぴらに見るようになった。

しかし、欧米諸国のような男性優位社会の影響で、その存在への規制が始まっている。

それに対する社会的な偏見が、まだ、残っている。それを叩く人々は、今なお、多くいる。

（初出 2020年7月）

萌え絵の女性。それを叩く人々。その批判者。

筆者は、以下の内容を分析しました。

（１）萌え絵の女性。それを叩く人々。その批判者。
（２）世界社会における、その分類。その項目の整理。

その結果を、以下で、リストアップしています。

凡例
（１）叩く人々。批判者。その種類。
（２）「萌え絵の女性」は、彼らにとって、どのような存在か？
（３）彼らは、それに対して、何をするか？

（以下。リストアップの内容。）

１．
（１）人間。男女。
（２）性的表現そのもの。それは、表向きは、出したり、楽しんでは、いけない存在だ。それは、恥ずかしい、隠したい存在だ。（しかし、それは、生物としては、本来は、必要な存在だ。）
（３）その考えは、人間の本性である。それは、男女共通である。それは、性的表現の規制を、世界的に、生み出す。

２．１．
（１）モテる男性。彼氏がいる女性。次のように考える女性。
「私は、有望な彼氏を、作れそうだ。」
（２）「モテない男性向けの道具。」それは、もしも男性がモテるなら、そもそも必要ない。
（３）人々は、それを、見下し、馬鹿にする。

２．２．
（１）結婚した男女。遺伝的子孫を作った男女。
（２）「結婚できない男性」の象徴。「遺伝的子孫を残せない男性」の象徴。
（３）人々は、そうした男性を、以下のように、見下し、馬鹿にする。
（３－１）社会的な劣位者。
（３－２）生物として、子孫を残せず、淘汰される存在。

３．１．
（１）生身の女性。

（２）生身の女性を不要にする、邪悪な存在。
（３）女性は、次のことについて、怒る。
「私は、要らない人として、扱われた。それは、萌え絵の女性の存在のせいだ。私は、それが許せない！」

３．２．
（１）冴えない顔と女体を持った女性（ブス。デブ。高齢。）
（２）性的魅力の面での、手強いライバル。自尊心の破壊者。
（３）そうした女性は、以下のように考える。
「萌え絵の女性の顔は、きれい過ぎる。その女体表現は、魅力的に過ぎる。私たちは、それに対して、性的魅力の点で、とても敵わない。私たちは、その存在を、消したい。」
そうした女性は、それを、ヒステリックに叩く。

３．３．
（１）貞淑アピールが大好きな、見栄張り女性。
彼女は、周囲に対して、次のように見せたい。
「私は性的に奥手である。」

（２）そうした貞淑アピールのための道具。

（３）女性は、エッチな女体の表現を叩く。
女性は、そうして、自身の貞淑さを、アピールする。
女性は、次の内容を、とてもエッチだと見なす。
「萌え絵の女性における、女体の表現。」

４．１．
（１）フェミニスト一般。
（２）男性による、性的消費の道具。女性を道具扱いする、邪悪な表現。
（３）それは、彼らによる、表現規制を生み出す。

５．１．
（１）男性優位社会の人々。彼らに忖度し、追随する、女性優位社会の人々。
（２）男性優位社会の価値観への挑戦、脅威。それは、以下のことを行う。「女性優位の明示。」それは、邪悪である。
（３）人々は、それに対して、強い反感を抱く。
人々は、以下のように考える。
「男性優位は、世界社会において、普遍的でなければならない。女性優位を明示する存在は、消されるべきだ。」
人々は、それを、弾圧の対象とする。
男性優位社会では、男性は、それを見ていると、いじめられる。
人々は、それに表現規制をかける。
人々は、それを禁止する。

５．２．
（１）男性優位社会のリベラルな勢力。彼らは、性差別反対運動を行う。それは、世界的に主流化している。
（２）そうした性差別反対運動への挑戦、脅威。それは、以下のことを行う。「性差の明示。その誇示。」それは、邪悪である。
（３）人々は、それに対して、強い反感を抱く。それは、表現規制を生み出す。

５．３．

（１）男性優位社会のフェミニズムを支持する人々。
それは、次の存在を含む。
「女性優位社会の強者女性。」
（２）男性優位社会のフェミニズムへの挑戦、脅威。それは、以下のことを行う。「女性優位の明示。」それは、「女性の弱者性」を否定する。それは、邪悪である。
（３）人々は、それに対して、強い反感を抱く。人々は、その存在自体が、許せない。

６．
（１）教育者。子供の両親。
（２）子供の勉強のじゃまをする存在。
（３）人々は、次のように考える。「子供たちは、それのせいで、学習に専念できない。それは、子供の教育にとって、良くない。それは、社会的に有害だ。みんなは、それを、規制すべきだ。」

７．
（１）女性優位社会の中高年の男女。
（２）反社会的な、日陰者としての存在。それは、今なお、社会的に有害である。
（３）人々は、そうした、昔ながらの固定観念を保持する。

(初出 2020年7月)

人生投資家としての女性。その投資先の企業家としての男性。女性の社会的優位性。

前置き。女性による生殖設備の占有と、男性による、それらの借用。そうした借用者を募集する広告手段としての、女体と、女性器。

女性による生殖設備の占有と、男性による、それらの借用。
そうした借用者を募集する広告手段としての、女体と、女性器。

女体。女性の身体における、対外的に露出する部分。
それは、以下の内容である。
女性が占有する、生殖設備の物件。その借用者を募集するための、広告。
生殖設備の借用者としての、男性。広告への応募者としての、男性。
広告提供者としての、女性。
その広告は、以下の広告と、基本的に、同一の仕組みであること。
不動産の住居設備の物件。その広告。

その広告の内容。女体の性的なアピールポイント。
体験型の広告であること。生体ベースであり、働きかけを行うと、反応があること。それが、男性における、彼自身の遺伝的子孫を残すための行動を、強力に誘発すること。
その広告への応募者としての男性において、彼自身の複合的な身体感覚に、訴えること。得られる様々な感覚が、男性にとって、性的誘引力に満ち溢れていること。
例。
視覚。顔立ちや髪やうなじの美しさ。乳房や乳首の形状の美しさ。腰のくびれの度合い

の大きさ。腰部の大きさ。太ももの太さ。皮膚の滑らかさや柔らかさ。
聴覚。喘ぎ声の美しさ。
触覚。乳房の柔らかさ。柔肌の、すべすべした感じ。女性器内部における、締め付けの感覚。
温度感覚。皮膚の温かさ。
湿度感覚。愛液によって、粘り湿った女性器内部が与える、気持ち良さ。

その広告が与える効果は、遺伝的に、男女間において、予め決定されていること。
その広告の内容が魅力的であるほど、応募者としての男性を、より集客しやすいこと。
その広告は、生涯にわたって、女性の身体から、放出され続けること。
その広告の効果は、女性の加齢に伴って、急速に劣化すること。女性が、その劣化への対策に、生涯にわたって、終始、必死になり続けること。

女性が、生殖設備の賃貸料の収入によって、働かずに生活すること。
生殖設備の投資家としての、女性。
それは、以下の内容と、同様である。
不動産の賃貸物件を所有する投資家が、不動産の賃貸料という不労所得によって、働かないで生活すること。
女性と、不動産の投資家との間の、共通点。
それは、以下の内容である。
賃貸料の不労所得。彼らは、その継続的な確保によって、働かずに、生活し続けること。

女性が占有する、生殖設備。その借用者を募集する広告。
借用者の男性が、所有者の女性を、性的に満足させない場合。所有者の女性が、借用者の男性を、追い払うこと。
その広告の内容に魅力が無い場合。借用者の男性が、他の、より魅力的な広告提供者の女性へと、逃げること。
その生殖設備の機能の有効性において、問題がある場合。借用者の男性が、他の、より有効な生殖設備の提供者の女性へと、逃げること。
女性は、その広告の魅力の高さを、絶えず維持する必要があること。
女性は、その生殖設備の機能の有効性を、絶えず維持する必要があること。

結婚。
女性が占有する生殖設備の、男女間における、生涯にわたる、独占的な賃貸契約。
それは、女性にとって、彼女自身の人生を賭けた投資となる。彼女は、人生投資家である。
そうした契約は、共同の遺伝的子孫を、長期にわたって、共同で育成するために、男女双方にとって、必須である。

女性が占有する生殖設備において、女性器が果たす、中心的な役割。
男性が、女性の生殖設備の広告において、最優先で、直接的に目指すターゲット。それは、女体における、女性器である。
男性は、女性器を独占的に借用することで、彼自身の遺伝的子孫を残すルートが、初めて開ける。
男性にとって、女性器の借用は、性的な快感を、巨大な水準で、男性に対して、もたらす。
男性による、女性の生殖設備の借用。それは、直接的には、女性器の借用である。

（2022年3月初出。）

総論。人生投資家としての女性。その投資先の企業家としての男性。女性の社会的優位性。

女性は、以下を、男性へと投資する。
////
彼女自身の人生。
彼女自身の女性器。
////

女性は、投資先の男性から、生涯にわたって、以下を、受け取る。
////
配当。
リターン。

//
例。
経済的な富。
地位。
栄誉。
遺伝的子孫。
//
////

女性は、人生投資家である。
男性は、女性から、以下を受ける。
////
人生の投資。
////

投資家としての女性。
男性は、そうした女性のために、一生懸命になって、以下を生み出す。
////
利益。
アウトプット。
////

その点、男性は、以下を兼ねた存在である。
////
企業の起業者。
企業経営者。
企業労働者。
////

投資家は、自分では積極的に働かない。
投資家は、以下を中心とする生活を送る。
////
投資先企業からの配当。
その受け取り。
////

女性は、そうした、投資家生活を実行する。

男性は、以下である。
////
企業。
////

女性は、以下である。
////
その企業への投資家。
////

女性は、以下のことに、本来あまり関心が無い。
（１）企業を起こすこと。
（２）企業を経営すること。
（３）企業で働くこと。
（４）企業の役職に就くこと。

企業の役職に就く度合い。
それには、世界的に、性差がある。

////
女性による、企業への進出。
女性による、企業の役職への就任。
//
それは、世界的に進まない。
その原因は上記である。
////

例えば、国の機関。
それも、企業の一種である。

国の機関の役職。
それは、例えば、以下である。
////
大統領。
首相。
////

国の機関の役職に就く度合い。
それには、性差がある。

その原因は上記である。

このことは、以下と同じである。
////
投資家は、自分自身では、企業で働こうとはしない。
////

女性からの人生の投資。
男性は、それに応じて、以下のことに従事する。
男性は、そのことに、熱心である。
（１）企業を起こすこと。
（２）企業を経営すること。
（３）企業で働くこと。

（４）企業の役職に就くこと。
（５）人生的業績を上げること。

男性は、以下が強い。
////
キャリア指向。
////

企業は、本質的に、以下である。
////
男性優位な存在。
////

企業としての男性。
女性は、そうした男性に、自分の人生を、まるごと投資する。
女性は、そうして、一生、以下の生活を送ろうとする。
////
投資家としての生活。
////

投資家の生活や人生。
それは、以下によって、もっぱら左右される。
////
彼の投資先の企業の業績。
彼の投資先の企業の盛衰。
////

女性の生活や人生。
それは、男性の働き次第になりやすい。

投資家は、企業に対して、以下を要求する。
////
高い経済的業績を生み出すこと。
////

同様に、女性は、男性に対して、以下を要求する。
////
高い人生的業績を生み出すこと。
////

定住生活様式では、女性が権力を握る。
社会は、女性優位になる。

女性優位社会の女性は、以下を占有する。
以下を、自分で管理する権限。
////
投資の資金。
投資のリソース。
////

彼女は、人生上の配当を得ようとする。
彼女は、そのために、男性を、企業で、強制的に労働させる。
彼女は、男性を、奴隷化する。

移動生活様式では、男性が権力を握る。

社会は、男性優位になる。

男性優位社会の女性。
彼女は、以下を、男性によって、奪われる。
////
以下についての管理権限。
投資の資金やリソース。
////

彼女は、以下が無い。
////
経済的自由。
////

彼女は、仕方なく、以下を行う。
////
彼女自身も、男性同様に、企業で働こうとする。
////

人生投資家としての女性。
彼女は、以下である。
////
妻。
母親。
娘。
////

妻。
彼女は、以下に対して、人生を投資する。
////
結婚相手。
夫。
////

母親。
彼女は、以下に対して、人生を投資する。
////
彼女自身の遺伝的子孫。
//
息子。
娘。
//
////

娘。
彼女は、以下に対して、人生を投資する。
////
彼女自身の遺伝的な父親や兄弟。
////

投資家は、以下のことが起きた場合、配当を受け取れなくなる。

（１）
彼の投資先の企業。
それが潰れること。

（２）
彼の投資先の企業。
それが業績不振に陥ること。

（３）
彼自身が、以下を失うこと。
////
その企業への投資の権利。
そのことで、投資ができなくなること。
////

投資家は、そうなると、途端に、以下に見舞われる。
////
彼自身の生活。
それが破綻すること。
////

女性も、これと同じ問題を、抱えている。
それは、女性も、男性に対して、以下を、投資しているからである。
////
彼女自身の人生。
彼女自身の女性器。
////

人間には、以下の二通りがいる。
////
投資家に向いている人。
企業家に向いている人。
////

同様に、女性にも、いろいろな種類がある。
////
例。
ある女性は、以下に向いている。
人生投資家。

別の女性は、以下の（１）よりも、以下の（２）において、より優れている。
（１）人生投資家としての素質。
（２）企業家としての素質。
////

これは、男性の場合も同様である。

女性は、以下の生活を送ることができる。
人生投資家としての生活。

その理由としては、以下が、とても大きい。
////
女性器の存在。
//
女性は、それを、自身の体内に、所有する。
女性は、それを、生得的に、所有する。
////

女性は、以下の（１）を、以下の（２）に対して、以下の（３）の期間、貸し出す。
（１）
自身の女性器。

（２）
特定の男性。
彼は、その女性の結婚相手になった。

（３）
一生。

女性は、そうして、以下を得る。
////
永続的な賃料。
永続的な配当とリターン。
自身の遺伝的子孫。
////

これが、以下の原点である。
女性優位な投資家生活。

女性は、以下に似ている。
////
不動産投資家。
大家。
////

大家は、物件を、店子に対して、長期にわたって貸す。
大家は、そうして、店子から、定期的な賃料収入を得る。

店子は、男性である。
大家は、女性である。

この場合、以下の（１）は、以下の（２）に相当する。
（１）不動産物件。
（２）女性の女性器。

女性は、以下のことを、主に行う。
彼女は、家庭において、以下を、担当する。
////
住宅内の清掃。
住宅内の整理。
家事。
////

これは、以下と同じである。
大家は、以下を、主に行う。
////
店子向けの所有賃貸物件。
彼は、それらにおいて、以下を、担当する。
//
その物件の部屋。
その中を、定期的に整備すること。

//
////

人間の住宅。
その主要な管理者は、女性である。

女性器。
その主要な管理者は、女性である。

////
人間の住宅。
女性器。
//
両者は、存在として、似ている。
////

女性は、以下の存在であり続ける。
人生の投資家。

その状態は、以下のことが続く限り、存続する。

（１）
女性は、女性器を、所有する。
女性が、自身の女性器を、男性に貸し出す。
女性は、それらを、続ける。
（２）
男性が、女性から、女性器を借りる。
男性は、その状態を、維持しようとする。
男性は、そのために、必死になる。
男性は、それらを、続ける。

女性は、こうしたことが続く限り、以下を必要としない。
////
彼女自身が、企業で働くこと。
その必然性。
////

なので、以下のことは、進まない。
////
女性による、企業への本格的な進出。
女性による、企業の役職への就任。
////

人間社会で、社会的に、より優位である存在。
それは、一般的には、以下の（１）である。
それは、以下の（２）ではない。
（１）
大家。
不動産物件。
その所有者。

（２）
店子。

不動産物件。
その賃貸人。

上記の（２）は、（１）に対して、賃料を支払い続ける。
彼は、そうして、不動産物件を、借り続ける。

これを、以下に対して、当てはめる。
男女の性差。

人間社会で、社会的に、より優位である存在。
一般的には、以下の（１）である。
それは、以下の（２）ではない。
（１）
女性。
////
女性器。
その所有者。
////

（２）
男性。
////
女性器。
その賃貸人。
////

上記の（２）は、（１）に対して、賃料を支払い続ける。
彼は、そうして、女性器を、借り続ける。

女性器の存在。
それが、女性に対して、以下をもたらす。
////
彼女の、社会における、優位性。
////

それは、女性に対して、以下をもたらす。
////
彼女の社会的権力。
////

女性器。
それは、上記の源泉である。

これは、以下の要因である。
////
女性が、男性に対して取る態度。
それが、以下の内容であること。
//
それは、尊大である。
それは、上から目線である。
//

//
それらは、根本的である。

それらは、永続する。
//
////

女性は、男性にとって、そうした存在であり続ける。
そのことを可能にする存在。
それは、以下である。
女性器。
女性は、それを、生得的に、占有する。

これは、以下と同じである。
以下の（１）が、以下の（２）に対して、以下の（３）を持つこと。
（１）
株主。
投資家。
資本の所有者。

（２）
企業。
上記の（１）による投資先。
その意思決定。

（３）
その内容を、根本的に左右する力。
その存在そのものを、支配する力。

これは、以下と同じである。
以下の（１）が、以下の（２）に対して、以下の（３）を持つこと。
（１）
女性。
人生投資家。
女性器。
生殖的資本。
その占有者。

（２）
男性。
上記の（１）による、人生投資先。
その企業。
その意思決定。

（３）
その内容を、根本的に左右する力。
その存在そのものを、支配する力。

人生投資家としての女性。
彼女は、以下を、一方的に占有する。
女性器。

それは、以下の存在である。
生殖的資本。

彼女は、そうして、以下を、左右し、支配し続ける。
以下の存在についての意思決定。
////
男性。

//
それは、以下の存在である。
彼女自身の人生の投資。
その対象。
その企業。
//
////

男性は、以下の存在である。
////
女性による支配。
それを受け続ける存在。
////

女性による男性に対する支配。
それは、以下によって、生じる。
女性から、男性への、女性器の貸し出し。

（初出2020年5月）

各論。
人生投資家としての女性。
その投資先の企業家としての男性。
女性の社会的優位性。

男女の社会的居場所と、家庭、企業との関係。

家庭は、人生投資家の根城である。

人生投資家の生活。
それは、以下の内容である。
////
家庭で、配当を得ながら、のんびり暮らすこと。
////

企業は、企業家の根城である。

企業家の生活。
それは、以下の内容である。
////
企業で、強制労働に従事すること。
////

家庭と企業との関係。
それは、次の二つのタイプへと、分けられる。

（１）家庭と企業。

両者を、空間的に共有するタイプ。
////
例。
自家工場経営。
農業経営。
////

（２）家庭と企業。
両者を、空間的に分離するタイプ。
////
例。
都心オフィスへの通勤。
////

以下の（１）と、以下の（２）の関係。
（１）
男女。
その社会的な居場所。

（２）
////
家庭。
企業。
////

それらは、次のように整理される。

（Ａ）男性。
（Ａ－１）女性優位社会における男性。
男性は、企業で、専ら働く。

男性は、家庭には、帰ってこない。
男性は、家庭には、居場所が無い。

男性は、家族から疎外されている。
男性は、子供から引き離される。

男性は、女性によって、一生、企業へと、隔離される。

男性は、企業で、以下を、やらされる。
苛酷な強制奴隷労働。

男性は、家庭には居場所が無い。
そのため、男性は、企業にいるしかない。

男性は、企業家を、専業する。
男性は、企業専属である。

男性にとって、以下が起きている。
家庭と企業の分離。

男性が働く企業。
そこでは、以下の（１）は、以下の（２）の内容を持つ。
（１）

企業内部。
その人間関係。
その社会規範。

（２）
女性優位な性格。

企業で働く人々。
それは、人数としては、男性が多い。
しかし、男性たちは、以下の状況に置かれている。
////
女性の精神的支配。
その配下。
////

それは、以下の理由による。
男性が、女性によって、以下の処置を受けていること。
精神の女性化。

（Ａ－２）男性優位社会における男性。
男性は、企業で働く。

しかし、男性は、家庭へと、帰ってくる。

男性は、家庭を支配する。

男性は、子供に、以下を、叩き込む。
////
移動生活様式。
その男性優位価値観。
その男性優位な行動様式。
////

男性は、家計管理をする。
男性は、以下に、存在する。
////
企業。
家庭。
その両方。
////

男性は、以下を、主導する。
////
企業。
家庭。
その両方。
////

男性にとって、以下が起きている。
////
家庭と企業。
その二股帰属。
////

（Ｂ）女性。
（Ｂ－１）女性優位社会における女性。
女性は、以下の状態が、デフォルトである。
////
人生投資家として、家庭にいること。
////

女性は、企業で働かなくて良い。

女性は、以下の生活を送る。
優雅な配当生活。

女性は、家庭を支配する。
女性は、母親として、彼女自身の子供に対して、以下を、叩き込む。
////
定住生活様式。
その女性優位な価値観。
その女性優位な行動様式。
////

母親たちは、みんなで、以下を、企業へと、送り込む。
自身の子供。

母親たちは、子供たちを、精神的に支配する。
母親たちは、その行為を通じて、企業を支配する。

あるいは、以下の通りである。
////
妻は、夫にとって、母親代わりである。
妻は、夫を、精神的に支配する。
妻は、そうした夫を、企業へと、送り込む。
妻たちは、その行為を通じて、企業を支配する。
////

女性は、家計管理を行う。
女性は、以下の（１）について、以下の（２）の状態を保持する。
（１）
家庭のお金。

（２）
////
彼女は、それを、好きな用途に使える。
彼女は、それを、使い放題できる。
////

女性は、以下を、専業する。
人生投資家。

女性は、以下のことばかり考える。
家庭内部。

女性は、以下のことには、関心が薄い。
家庭の外界。

女性は、以下のことには、関心が薄い。
社会問題。

女性は、以下のことばかりを、気にする。
////
彼女が男性から得る配当。
それが多いこと。その実現。
////

女性は、以下のことには、関心が薄い。
////
男性が企業で働く条件。
その苛酷さ。
男性の過労。
////

女性は、以下である。
家庭専属。

女性にとって、以下が起きている。
家庭と企業の分離。

仮に、女性が、結婚できないままだった、とする。
すると、女性は、仕方なく、企業で働く。

仮に、女性が、企業家として、才能があった、とする。
すると、女性は、企業で働く。

女性は、以下の実現のために、企業で働く。
（１）
条件の良い企業家。
そうした男性。
彼と出会うこと。

（２）
彼と結婚すること。

（３）
そうして、以下の生活を満喫すること。
人生投資家の生活。

（Ｂ－２）男性優位社会における女性。
女性は、家庭にいる。

しかし、女性は、居心地が悪い。

女性は、家族から疎外されている。
女性は、子供から引き離される。

女性は、以下を、男性に占有される。
家計管理の権限。

女性は、家庭において、以下が無い。

経済的自由。

女性は、家庭では、以下のように扱われる。
家政婦。

女性は、以下のように考える。
////
私は、経済的自由を得たい。
////

女性は、そのため、仕方なく、企業で働く。

女性にとって、以下が起きている。
////
家庭と企業。
その二股帰属。
////

（初出2020年6月）

人生投資家としての女性。企業家としての男性。そうした女性の生活は、男性に比べて、とても恵まれている。

女性は、すぐに、人生投資家に、なれる。
女性は、特に、努力しなくても、人生投資家に、なれる。

////
//
有効な女性器。
それを彼女自身の体内に持っていること。
その条件を満たすこと。
//

女性は、それだけで、すぐ、人生投資家になれる。
////

女性は、以下を過ごす。
そうした、人生投資家としての生活。

そのために、女性には、以下は、あってもいい。
////
例。
学歴。
職業上の特技。
////

しかし、女性は、それらがなくても、問題なく、以下を実現できる。
人生投資家になること。

なので、女性には、本来的には、それらは、特に必要ない。

仮に、女性が、以下を実現した、とする。

企業家相当の男性と結婚すること。

すると、女性は、家庭において、すぐに、以下の生活を送ることができる。
////
//
人生投資家としての生活。
配当生活。
//

//
それは、楽である。
それは、特権的である。
//
////

その点、女性は、人生面で、男性に比べて、以下を実現する。
（１）格段に優遇されている状態。
（２）格段に楽である状態。
女性は、それらを、容易に実現する。

このことは、特に、以下の女性について言える。
女性優位社会における女性。
////
例。
日本の女性。
////

女性優位社会。
女性たちは、以下を、社会的に、所持する。
////
家庭における家計管理。
その権限。
それを独占的に掌握する権力。
////

彼女たちは、以下を、自分の意のままに、実行できる。
////
家庭における、お金の出し入れ。
////

彼女たちは、以下が可能である。
以下を、自分の思うままに使うこと。
////
男性からの経済的配当。
男性からの経済的リターン。
////

女性優位社会。
女性たちは、この面で、以下を所持する。
////
社会的地位。
それが根本的に高い状態。
////

女性優位社会。
女性たちは、以下を実現できる。
////
人生投資家としての、幸福な人生や生活。
それを生涯にわたって続けること。
////

仮に、男性優位社会における女性たちが、これを行おうとした、とする。
すると、女性は、男性の許可を得ないといけない。

男性優位社会では、男性が、家庭を主導する。

男性優位社会。
男性は、以下を、社会的に、所持する。
////
家庭における家計管理。
その権限。
それを独占的に掌握する権力。
////

男性優位社会における女性たち。
彼女たちは、人生投資家としては、以下の内容を持つことが出来ない。
////
経済的な自由。
////

女性たちは、以下を確保しようとする。
////
彼女自身の経済的自由。
////

そのため、彼女たちは、仕方なく、男性同様に、以下を目指す。
////
企業家。
////

以下のことは、必要ない。
////
以下の（１）は、以下の（２）みたいに、以下の（３）を過ごす。
（１）女性優位社会における女性たち。
（２）男性優位社会における女性たち。
（３）企業家指向の人生。
////

それは、本来、全く、必要ない。

以下の（１）は、以下の（２）を、実行できる。
（１）女性優位社会における女性たち。
（２）人生投資家としての配当生活。

上記の（１）の人々は、上記の（２）を、十分満喫できる。
上記の（２）は、以下の（３）が起きない限り、保証される。

（３）
男性が無能である状態。

その程度が、一定限度を超えること。
////
例。
能力不足。
過労。
病気。
死亡。
////

その保証は、上記の（１）にとって、生涯にわたって、続く。

女性優位社会における女性たち。
彼女たちは、以下をするだけで、良い。
////
以下の（１）の場合において、初めて、以下の（２）を実現すること。
（１）
以下の二つの条件が揃った場合。

（１－１）
以下のことに気付くこと。
////
私自身には、以下が、ありそうだ。
企業家としての才能。
////

（１－２）
以下のように思うようになること。
////
私は、以下を伸ばしたい。
上記の（１－１）における才能。
////

（２）
企業家になること。
企業家をやること。

彼女たちは、以下について、幅が広い。
人生面での選択肢。

彼女たちは、以下の人生を送ることが出来る。
////
イージーモードの人生。
恵まれた人生。
////

そのために必要な社会的権力。
彼女たちは、それを、十分に持っている。

彼女たちの社会的地位。
それは高い。

男性優位社会における女性たち。
彼女たちは、上記の面で、大きく劣っている。

彼女たちの社会的地位。
それは、根本的に低い。

男性優位社会における女性たちは、以下において、不幸になりやすい。
人生投資家としての人生や生活。

男性優位社会。
女性は、男性同様、以下の人生を送るしかない。
////
企業家としての人生。
働き詰めの人生。
////

彼女たちには、以下の人生が待っている。
////
ハードな人生。
恵まれない人生。
不幸な人生。
////

彼女たちは、そうした人生を、終生にわたって送る。

男性優位社会における女性たち。
彼女たちは、必死になって、以下を、主唱する。
////
女性の社会的地位。
その向上。
その実現。
その思想。
////

フェミニズムの思想。
その根源。
それは、上記にある。

現状の女性優位社会。
例えば、日本。

女性優位社会の人々は、以下の内容に、感化される。
男性優位社会における思想。

上記の男性優位社会。
その社会は、以下の特徴を持つ。
（１）それは、世界的に、影響力が大きい。
（２）それは、先進的である。

女性優位社会の人々は、上記の内容を、盲信する。

以下の（１）の思想は、以下の（Ａ）のための思想である。
（１）
男性優位社会における、フェミニズムの思想。

（Ａ）

男性優位社会における女性たち。
////
彼女たちは、恵まれない人生を送る。
彼女たちは、社会的弱者である。
////

（Ｂ）
女性優位社会における女性たち。
////
彼女たちは、恵まれた人生を送る。
彼女たちは、社会的強者である。
//
それらの実現。
彼女たちは、それを、本来的に、保証されている。
////

以下の（Ｃ）は、以下の（３）の行為を、繰り返す。
（Ｃ）女性優位社会におけるフェミニストたち。
（３）上記の（１）を、以下の（Ｂ）に対して、強制すること。

上記の（Ｃ）は、上記の（Ｂ）に対して、以下の（４）を、強制する。
（４）
//////
男性並みの人生。
ハードな人生。
////
以下の内容の人生。
そこでは、以下の内容が、終生、持続する。
//
企業における、奴隷労働。
//
////

上記の傾向は、社会的に、次第に強まっている。

上記の（Ｃ）は、以下の行為を行っている。
上記の（Ｂ）は、下記の（５）を持つ。
その下記の（５）を、下記の（６）にすること。

（５）
人生投資家としての生活や人生。
////
恵まれた人生。
幸福な人生。
//
その高い品質。
その高い水準。
////

（６）
上記の（Ａ）と同じ水準。

それは、上記の（Ｂ）にとって、以下と同じである。
////

以下の内容を引き下げること。
以下の内容を悪化させること。
//
生活の水準。
人生の水準。
////

上記の（Ｃ）は、上記の（Ｂ）にとって、以下の（７）のような存在である。
（７）
////
人生の敵。
邪悪な者。
社会的な加害者。
////

上記の（Ｃ）は、上記の（Ｂ）に対して、上記の（５）に関して、以下の（８）の行為を、実行する。
（８）
その存続を、根本的に脅かすこと。

上記の（１）は、以下である。
////
不幸なフェミニズム。
////
上記の（Ａ）が、それを、主導する。

上記の（Ｂ）向けのフェミニズム。
それは、以下の（２）である。
（２）
////
幸福なフェミニズム。
////

上記の（２）の思想。
それは、以下を指向する。
女権のさらなる拡張。

上記の（２）の具体的な内容。
それは、以下である。

（２－１）
以下を実現すること。
////
家庭における家計管理。
その権限。
その独占。
////

そうして、以下を実現すること。
人生投資家としての、恵まれた人生。

それを、次の存在にすること。
それは、女性にとって、本来的である。

（２－２）
以下を実現すること。
////////
人生における自由。
人生上の好み。
//////
それを確保すること。
それを謳歌すること。
////
その一環として、以下を、可能にすること。
//
企業家としての才能。
それを、自由に伸ばすこと。
それを可能にすること。
//
////
//////
///////

そして、以下を可能にすること。
//////
人生。
その自由の度合い。
それがとても高いこと。
////
それを永続させること。
その実現。
////
//////

上記の（Ｂ）にとっては、以下が必要である。
上記の（１）に代わって、上記の（２）を用意すること。

上記の（Ｂ）にとっては、以下が必須である。
上記の（２）を、急いで作り上げ、用意すること。

////////////////

一方、企業家の男性。
男性は、以下が必要である。
以下の（１）のために、以下の（２）を、実現すること。
（１）
女性への配当を実現すること。

（２－１）
絶えず、働き続けること。

（２－２）
有能さ。
////
それを確保すること。
それを、維持し続けること。
////

男性は、以下の（１）のために、以下の（２）が、必要である。
（１）
企業家として生きていくこと。

（２）
大きな才能や努力。

男性は、以下が必要である。
////
そうしたハードな人生。
それを生きて行くこと。
////

以下の（１）は、以下の（２）と比較して、以下の（３）の内容である。

（１）男性の人生。
（２）女性の人生。

（３）
それは、根本的に割りが悪い。
それは、劣っている。

男性の人生。
それは、ハードになる。

その原因は、以下である。
男性が、以下の（１）を、以下の（２）の形で、持っていないこと。
（１）
生体面での資本。
////
例。
女性器。
女性が、それを、所有する。
////

（２）
生体内の機構。
器官。

これは、以下につながっている。
人間社会における男性差別。

それは、男性にとって、根本的な問題である。

（初出2020年5月）

人生投資家としての女性。その女性は、人生における自由度が高い。

女性は、男性に比べて、以下が可能である。
以下の両者を、同時に兼業すること。

////
人生投資家。
企業家。
////

人物が人生面で持つ自由さ。
女性は、それを、男性に比べて、格段に多く持てる。

女性は、男性に対して、以下を投資する。
////
自身の人生。
////

女性は、そうして、男性から、配当を得る。

女性は、以下が可能である。
////
彼女は、彼女自身では働かない。
彼女は、それで、十分生活できる。
そうした経済的な生活レベル。その容易な獲得。
////

女性は、それらを、簡単に得る。
女性は、それらと同時に、以下の内容を、たくさん持てる。
////
自由時間。
////

なので、女性は、以下が可能である。
////
彼女自身が好きなこと。
企業のようなこと。
それをすること。
////

そのため、以下の（１）は、以下の（２）を、実現できる。
（１）
女性。
彼女は、以下を持つ。
////
企業家の才能。
////

（２）
企業家としての人生。
彼女は、それを、本格的に、開始する。

仮に、女性が、以下の（１）であった、とする。
すると、女性は、以下の（２）が可能である。
（１）
彼女自身は、既に、以下の立場を確保している。
////
人生投資家。
////

（２）
////
趣味的な企業活動。
彼女は、それを行う。

その企業収益。
それは、あまり重要ではない。
////

以下の（１）は、以下の（２）が発生すると、以下の（３）になる。
（１）
女性。
人生投資家。

（２）
男性。
企業家。
彼は、倒れる。

（３）
////
配当を、十分得ること。
その実現。

それが不可能になること。
////

女性は、そうした事態を、想定する。

女性は、以下のように考える。
私は、以下の能力を、ある程度、予備で持つべきだ。
////
企業家。
経済的自活。
////

女性は、以下に熱心になっている。
以下の能力を磨くこと。
////
企業家としての能力。
経済的利益を計上する能力。
////

（初出2020年5月）

女性優位社会における母親主導の子育て。人生投資家としての母親。

女性優位社会における女性。
女性は、以下の存在である。
////
家庭にいる存在。
母親。
////

彼女は、以下が可能である。
////
子育てにおいて、主導権を握ること。

子育ての権限。
それを、自身で、独占できること。
////

彼女は、そうした支配者的な立場にいる。
彼女は、それを利用する。

彼女は、以下の（１）として、以下の（２）に対して、以下の（３）を行う。
（１）
母親。

（２）
彼女自身の子供。

（３）
彼女自身の人生。
それを投資すること。
その量は、たくさんである。

彼女は、以下の実現を目指す。
上記の（２）は、以下の（４）の存在として、以下の（５）の内容を実現する。
（４－１）企業家。
（４－２）人生投資家。
（５）社会的に成功すること。

彼女は、そのために、上記の（２）に対して、以下の（６）を、以下の（７）の方式で、行う。
（６）
////
教育。
しつけ。
////

（７）
////
付きっ切りで、指導すること。
一生懸命に、指導すること。
////

彼女は、それを、上記の（２）が、以下の（８）に該当する間、行う。
（８－１）上記の（２）が大人になるまでの間。
（８－２）生涯の全ての期間。

彼女は、例えば、以下を行う。
////
以下を探して、決めようとすること。
彼女自身の子供たちの結婚相手。
それは、上記の一環である。

////

これは、彼女にとって、以下になる。
////
人生投資家としての人生。
その新たなラウンド。
その第二ラウンド。
////

彼女は、上記について、以下を、既に、実現している。
//////
人生投資家としての人生。
その第一ラウンド。

それは、以下の内容である。
////
配偶者。男性。
彼女は、彼と、結婚した。
彼への人生投資。
彼からの配当に基づく生活。
//
それは、恵まれている。
それは、幸せである。
//
////
//////

女性優位社会。
そこでは、以下の（９）は、以下の（１０）に対して、上記と同様のことを考える。

（９）祖母。
（１０）自身の孫。

これは、以下の内容になる。
////
人生投資家としての人生。
そのさらに新たなラウンド。
その第三ラウンド。
////

女性は、以下の（１１）の双方に対して、投資する。
（１１－１）自身の息子。
（１１－２）自身の娘。

彼女は、上記の（１１－１）には、以下を与えようとする。
////
企業家としての才能。
////

上記の（１１－１）は、男性である。
彼は、以下を持っていない。
女性器。

彼は、以下の実現が困難である。
人生投資家になること。

そのため、母親は、以下を目指す。
////
上記の（１１－１）の才能を、以下に特化させること。
それを、なるべく伸ばすこと。
企業家。
////

彼女は、以下を目指す。
////
上記の（１１－２）に対して、以下の二つの才能を、両方とも与えること。
それらを、なるべく伸ばすこと。
//
人生投資家。
企業家。
//
////

上記の（１１－２）は、女性である。
彼女は、以下を持っている。
////
女性器。
////

上記の（１１－２）は、以下のどちらにもなれる。
////
人生投資家。
企業家。
////

人生の選択肢は、上記の（１１－１）よりも、上記の（１１－２）の方が、より多い。
人生の条件は、上記の（１１－１）よりも、上記の（１１－２）の方が、より良い。

女性優位社会。
上記の（１１－２）。
そこでは、彼女は、本来、以下をやるだけで、十分生活できる。
////
人生投資家。
////

上記の（１１－２）。
彼女は、上記のことだけで、以下の実現が可能である。
////
満足した人生を送ること。
それは、以下の二つの面で、十分実現する。
//
経済面。
人生面。
//
////

（１２）
////

企業家としての才能。
それを伸ばす教育。
////

上記の（１２）は、上記の（１１－２）にとっては、あっても、無くても、どちらでも問題ない。

そのため、母親は、以下の（１３）を、必ずしも、実行しなかった。
////
（１３）上記の（１１－２）に対して、上記の（１２）を、実施すること。
////

しかし、母親の方針は、最近は、以下へと、変化しつつある。
////
上記の（１３）を、確実に実行すること。
////

（初出2020年5月）

人生投資家としての女性。女性による企業における働きぶり。その働き方が家計補助的になる理由。

人生投資家としての女性。
彼女は、以下の（４）が発生するまで、以下の（４）を実行しない。
（４）以下の（１）が、以下の（２）の状態になること。

（１）
彼女自身の人生投資先の男性。
彼からの経済的配当。

（２）
その不足。
その発生。

（３）
以下を、初めて開始すること。
////
企業で働くこと。
////

女性は、以下の行為を望まない。
//////
彼女は、企業において、以下を実行する。
彼女は、以下の（５）の限度を超えて、働く。
////
（５）
家計の補助。
その実現。

それは、以下のために、必要である。
//
彼女自身の人生投資先の男性。
彼からの経済的配当。

その不足。
それを補うこと。
//
////
//////

このことは、以下についての、明確な証拠となる。
女性が、以下の（６－１）と同様に、以下の（６－２）の原理で動いていること。
（６－１）
投資家。
株式配当生活者。

（６－２）
////
投資家一般。
その普遍的な行動原理。
////

上記の（６－１）は、ふだんは、以下によって生活する。
彼は、それで満足する。
////
（７）
投資先からの経済的配当。
////

上記の（６－１）は、以下の（１０）が発生するまで、以下の（９）を実施しない。
//////
（１０）上記の（７）が、以下の（８）の状態になること。

（８）
経済的な不足。
その発生。

（９）
以下を、初めて開始すること。
////
企業で働くこと。
////
//////

上記の（６－１）は、以下を望まない。
企業において、以下を実行すること。
//////
以下の（１１）の限度を超えて、働くこと。
////
（１１）
収入不足。
その補填。
その補助。
その実現。

それは、以下のために、必要である。
//
彼の投資先からの経済的配当。

その不足。
それを補うこと。
//
////
//////

上記の（６－１）。
彼は、以下のように考える。
////
上記の（１０）の発生。
それは、一時的なものである。
////

人生投資家としての女性。
彼女は、それと同様に、以下のように考える。
////
上記の（４）の発生。
それは、一時的なものである。
////

彼女は、以下は、考えない。
//////
彼女は、企業で、以下の（１２）を実現する。
（１２）
彼女は、働く。

（１２－１）
彼女は、それを、本格的に実行する。

（１２－２）
彼女は、それに対して、以下の気持ちで臨む。
////
私は、自分の人生を、それに対して、新たに、賭ける。
////
//////

彼女は、以下の（１３）について、興味を持たない。
////
（１３）
企業において、役職に就くこと。
////

それは、彼女にとって、本来的である。
そのため、彼女たちは、以下を、少しもしない。
////
上記の（１３）を、実行すること。
////

なぜなら、上記の（１３）は、彼女たちにとっては、そもそも、以下を実現する上で、全く必要がないからだ。
人生投資家としての生活。

以下の（１４）の人物は、以下の（１５）の人物に比べて、以下の（１６）の実現が、容易になる。

（１４）
次の立場の人。
その人物は、生活上、強制労働をしなくて良い。

（１５）
次の立場の人。
その人物は、生活上、強制労働が必須である。

（１６）
////
社会的地位。
それが、根源的に高いこと。
その実現。
////

これは、男性と女性の間にも当てはまる。

以下の（１４－１）の人物は、以下の（１５－１）の人物に比べて、以下の（１６－１）の実現が、容易になる。

（１４－１）
女性。
その人物は、以下である。
人生投資家。
その人物は、生活上、強制労働をしなくて良い。
その人物は、配当生活で、余裕を持って暮らして行ける。

（１５－１）
男性。
その人物は、以下である。
企業家。
その人物は、以下の生活に明け暮れる。
強制労働。
その毎日の繰り返し。

（１６－１）
社会的地位。
それが、根源的に高いこと。
その実現。

そうして、以下のことが言える。
（１７）
女性は、男性に比べて、社会的地位が高い。
それは、社会において、根本的な現象である。

従来の男性優位社会。
そこでは、人々は、下記を行っている。
（２０）人々は、以下の（１８）の内容を、以下の（１９）の目的で、採用する。

（１８）
企業において、女性が、役職に就任する度合い。

（１９）
////
女性の社会的地位。
その高さ。
その測定。
////

女性優位社会。
その社会における、上記の（２０）についての評価。
それは、上記の（１７）の視点からは、本来、以下のようになる。
////
それは、本質的に間違っている。
それは、馬鹿馬鹿しい。
////

（初出2020年5月）

人生投資家になり損ねる女性。彼女が抱える社会的格差。

女性は、以下を、持っている。
女性器。

女性は、以下を、生得的に備えている。
////
人生投資家になること。
その実現。
それに有利な条件。
////

しかし、以下の（１）の人物は、以下の（２）の実現のために、以下の（３）を実行する必要がある。
（１）女性。

（２）
////
人生投資家としての生活。
それを、生涯にわたって、行うこと。
その実現。
////

（３）
////
その人物の人生の投資先としての男性。
//
彼を、生涯にわたって、確保すること。
その実現。
その最優先。
//
////

////
人生投資家として安定した人生を送ること。

その実現。
////
女性は、そのために、以下が必要である。
（１）
////
以下の存在を、探すこと。
男性。
彼は、企業家として有能である。
////

（２）
////
彼と、以下を開始すること。
デート。
同棲。
////

（３）
////
彼女は、最終的に、彼との間で、以下を実現する。
結婚生活。
それは、安定している。
////

例えば、女性は、以下の手段を取る。
彼女は、以下の（１）によって、以下の（２）を、決めてもらう。
（１）
他者。
彼女は、その他者を、人生上で頼りにしている。
////
例。
彼女の母親。
////

（２）結婚相手の男性。

女性は、次のような男性を、見つける。

（１）
彼は、企業家として有能である。

（２）
彼は、彼女との間で、以下が合う。
////
性格。
価値観。
////

女性は、その男性と結婚する。

そうした女性は、以下の（１）の存在となる。
彼女は、以下の（２）の内容を開始できる。
（１）人生投資家。
（２）十分幸せな人生。

逆に、以下のことが起こる。
仮に、女性が、以下の実現について、失敗した、とする。
（１）彼女は、そうした男性を、何とかして、見つける。
（２）彼女は、その男性と、結婚生活を送る。

すると、女性には、以下のことが待ち受ける。
////
想定外の人生。
それは、かなり苛酷である。
////

そうした女性には、以下のことが必要である。
////
配当が一切無い状況の下で、何とか生活していくこと。
その実現。
////

女性は、以下の内容を確保する必要がある。
経済的なバックアップ。

女性は、以下の実現が可能な場合、この問題をクリアできる。
////
彼女は、実家から、経済的バックアップを得られる。
彼女は、経済的に余裕がある。
彼女は、経済的に恵まれている。
////

しかし、女性は、以下の場合、この問題をクリアできない。
彼女は、経済的に弱い。

そうした女性は、生活のために、以下を行う。
企業で働くこと。

そうした女性は、男性と同様に、以下を行う。
////
働きづめの生活。
企業家としての生活。
////

女性は、以下の（１）の場合、以下の（２）の内容を実現できる。
（１）
企業家としての才能。
彼女は、それを持つ。

（２）彼女は、以下の状態を生成する。
（２－１）
彼女は、経済的には楽である。

（２－２）
彼女は、以下を、生みやすい。
生活上の余裕。

それでも女性は、基本的には、以下が必要である。
彼女は、以下の（１）の内容を実現するまで、以下の（２）の内容を実行する。
（１）
彼女は、貯金や投資によって、十分な資金を確保する。

（２）
////
強制労働に明け暮れる生活。
ハードな生活。
それは、男性と同様である。
それは、毎日続く。
////

女性は、以下の（３）の場合、以下の（４）の状態になりやすい。
（３）以下の（１）の状態を続けながら、以下の（２）の状態に入った場合。
（１）
結婚相手を見つけること。
それに失敗したままの状態。

（２）
結婚適齢期を逃した状態。

（４）
彼女は、以下の状態を強制される。
////
彼女は、生涯にわたって、独身生活を送る。
////

それは、そうした男性と同様である。

それは、以下を意味する。
女性は、以下の（１）について、以下の（２）の状態になる。
（１）
人生投資家としての恵まれた生活。
それを送るチャンス。

（２）
彼女は、そうした人生のチャンスを、生涯にわたって逃したままで終わる。

以下の（１）の人物と、以下の（２）の人物の間では、以下の（３）の内容が出現する。
（１）
人生投資家生活の実現。
それに成功した人物。

（２）
人生投資家生活の実現。
それに失敗した人物。

（３）
////
人生面での満足度。
それに関する格差。

//
その間隔が大きい状態。
その出現。
//
////

以下の（１）の人物は、以下の（２）の人物に比べて、以下の（３）の実現が、容易になる。

（１）
次の立場の人。
その人物は、生活上、強制労働をしなくて良い。

（２）
次の立場の人。
その人物は、生活上、強制労働が必須である。

（３）
////
社会的地位。
それが、根源的に高いこと。
その実現。
////

以下の（１）の人物と、以下の（２）の人物の間では、以下の（３）の内容が出現する。
（１）
人生投資家生活の実現。
それに成功した人物。

（２）
人生投資家生活の実現。
それに失敗した人物。

（３）
社会的地位。
その格差。
その間隔の大きい格差。

女性優位社会の女性。
女性は、結婚できない場合、以下の実現が不可能になる。
以下の生活を送ること。
////
彼女は、自分の遺伝的子孫としての息子や娘を生む。
彼女は、そうした自分の子供たちに対して、人生投資を行う。
////

そこには、以下の二通りの女性がいる。
（１）
以下の女性。
////
彼女は、結婚できた。

彼女は、以下を実現できた。
//
彼女は、彼女自身の子供を作る。
//
////

（２）
以下の女性。
////
彼女は、結婚できなかった。
彼女は、以下を実現できなかった。
//
彼女は、彼女自身の子供を作る。
//
////

両者の間においては、以下の（１）が、とても大きい。
（１）人生面での格差。

以下の（Ａ）は、このことと関係がある。

（Ａ－１）
女性が、以下にこだわること。
////
結婚。
その実現。
////

（Ａ－２）
女性間で、以下の（１）の女性が、以下の（２）の女性に対して、以下の（３）の行動をすること。

（１）
結婚した女性。

（２）
結婚していない女性。

（３）
彼女は、勝ち誇る。
彼女は、マウントを取る。

（Ａ－３）
女性間で、以下の（１）の女性が、以下の（２）の女性に対して、以下の（３）の行動をすること。
（１）
以下の女性。
////
彼女たちは、結婚できない。
////

（２）
以下の女性。
////

彼女たちは、結婚した。
彼女たちは、以下を確保した。
//
人生投資家。
その地位。
//
////

（３）
彼女は、嫉妬する。

上記の（１）の女性は、上記の（２）の女性に対して、下記の（３－１）の行為を実行する。
（３－１）
彼女は、以下を、試みる。
////
彼女は、以下を、何とかして、やらせる。
//
彼女たちと同様の生活。
苛酷な生活。
企業で働く生活。
//
////

上記の（１）の女性は、そうすることで、上記の（２）の女性に対して、下記の（３－２）の行為を実現する。

（３－２）
////
上記の（２）の女性の人生の品質を、以下のレベルまで、低下させること。
上記の（１）の女性と同様の、低いレベル。
////

上記の（１）の女性は、以下の心理を持つ。
////
悪平等の心理。
それは、人間社会の中で、大きく存在している。
////

女性優位社会。
上記の（１）の女性の間には、以下の思想が流行しやすい。
////
フェミニズム。
それは、以下を、推奨する。
女性たちの企業進出。
////

そのフェミニズムは、以下の内容である。
それは、本来、以下の（４）を、対象とする。

（４）
男性優位社会における弱者女性。

女性優位社会。

そこでは、主流の女性は、上記の（２）の女性である。
上記の（２）の女性は、社会的強者である。
その事実は、不変である。

人間社会一般における、悪平等の心理の存在。
それは、以下の原因となっている。
////
上記の（４）。
その社会的な流行。
////

それは、女性優位社会では、よく起きる。

例えば、日本。

（初出2020年5月）

女性による人生投資家生活の持続。社会を取り巻く経済情勢の悪化。

女性たちは、以下を、指向する。
////
人生投資家としての人生。
その実現。
////

その指向は、強力である。

こうした心理的傾向の存在。
それは、以下の条件の場合、特に問題無い。
////
結婚相手の男性。
それが見つかりやすいこと。
//
その社会条件。
その実現。
それが容易な場合。
//
////

しかし、それは、以下の場合、問題を起こす。

（Ａ）////////////
以下が発生した場合。
例。
社会における経済情勢の悪化。

男性たちは、以下が不可能になる。
以下を実現すること。
////
彼は、企業家として、十分な稼ぎを得る。
////

そのことで、男性たちは、以下が不可能になる。

以下を実現すること。
////
彼は、結婚相手の女性に対して、以下を実行する。
彼は、経済的配当を、十分に出す。
////

すると、以下の（４）が発生する。

（４）
以下の（１）の人々は、以下の（２）の人々に対して、以下の（３）の行為を実行する。

（１）
多数の女性。
彼女たちは、以下を持つ。
////
結婚。
それへの希望。
////

（２）
少数の男性たち。
彼らは、以下の（２－１）を実現している。

（２－１）
以下の力。
それを何とか確保すること。
それについて、成功すること。
//////
経済力。

////
それは、以下を、可能にする。
以下を、、女性に対して、もたらすこと。
//
企業家としての、十分な配当。
//
////
//////

（３）
殺到する。

上記の（４）は、以下の内容を、もたらす。
（５）
男女間の結婚難。

それは、以下の内容を生成する。
////
大きな社会的問題。
////

そうして、以下の（６）の女性が、大量に出現する。

（６）
彼女は、以下の獲得に失敗した。
////
結婚相手の男性。
////

彼女は、そのままでは、以下の状態になる。
//////
不毛な独身生活。
苛酷な企業労働生活。
////
それらを生涯続けること。
//
その回避。
それが不可能な状態。
//
////
//////

上記の（５）の状況は、上記の（６）の女性を、新たに、大量に生み出す。

上記の（６）の女性の間には、以下が、流行しやすい。
//////
フェミニズム。
それは、以下を推奨する。
それは、以下を正当化する。
////
女性たちの企業進出や企業労働。
////

////
それは、本来、以下を対象とする。
//
男性優位社会における弱者女性。
//
////
//////

上記は、女性優位社会において、良く見られる。

女性優位社会。
そこでは、以下の人々が主流である。
////
以下の女性たち。
//
彼女たちは、以下の立場を、確保している。
人生投資家。
//
////

例えば、日本。

（Ｂ）////////////
以下が発生した場合。

例。
社会における経済情勢の悪化。

以下の（１）の人々は、以下の（２）の人々によって、以下の（３）の存在と見なされる。
（１）
////
男性たち。
彼らは、以下を、十分に出せない。
//
企業家としての稼ぎ。
//

彼らは、大量に出現する。
////

（２）
////
女性たち。
彼女たちは、以下を希望する。
//
人生投資家としての生活。
その実現。
//
////
（３）
彼らは、以下の対象から外れる。
////
デートの相手。
セックスの相手。
結婚の相手。
////

上記の（１）の男性たち。
//////
彼らは、以下の対象と見なされる。
社会的な見下し。

彼らは、社会的弱者になる。

彼らは、以下を実行する。
不毛な独身生活。

彼らは、以下が不可能になる。
////
自分の遺伝的子孫。
それを残すこと。
////

彼らは、以下の生活を、続ける。
////
その生活は、以下の内容を、感じやすい。
//
僕の人生は、無意味である。
//

彼らは、そうした生活を、生涯続ける。
////
//////

（４）
女性優位社会。
その社会規範。

（４－１）
それは、以下を優遇する。
////
女性。
彼女は、以下の立場を、確保している。
//
人生投資家。
//
////

（４－２）
それは、以下を前提とする。
人生投資家としての生活。
////
それを、女性が占有すること。
その状態の存続。
////

その社会規範は、上記の（１）の男性たちにとって、以下の内容である。
////
苛酷な存在。
それは、以下を、もたらす。
//
人生上の大きな損失。
//
////

しかし、上記の（１）の男性たちは、以下の状況について、疑問を持たない。
////
人生投資家としての生活。
それを、女性が占有すること。
その状態の存続。
////

上記の（１）の男性たちは、以下の実現について、努力する。
//////
以下を上昇させること。
////
以下の能力。
//
企業家として、稼ぐこと。
//
////
//////

上記の（１） の男性たちは、以下の実現について、努力する。

////
彼らは、上記の（２）の女性たちとの間で、以下の内容を、実現する。
//
結婚。
//
////

そして、上記の（１）の男性たちは、以下を、嫌う。
上記の（１）の男性たちは、以下の（５）の実現を、否定する。
（５）
女性一般。
彼女たちの企業進出。
////
それは、以下を問わない。
//
未婚。
既婚。
//
////

上記の（１）の男性たちは、上記の（５）の女性たちを、以下の存在と見なす。
//////
新たなライバル。

////
両者は、以下の目的において、競合する。
//
企業家としての稼ぎ。
それを上昇させること。
//
////
//////

上記の（４）の内容は、以下の（６）の発生により、以下の（７）の状況をもたらす。

（６）
その社会を取り巻く経済情勢の悪化。
それに伴って、以下が起きること。
////
企業家たちの稼ぎ。
その低下。
////

（７）
社会の少子化。

上記の（４）。
それは、以下の内容を必要とする。
////
その内容の、以下の状況の発生に伴う、改正。
//
経済情勢の変化。
//
////

それにおいては、以下の内容は、少なくとも、改正されるべきである。
上記の（４－１）。
////
人生投資家。
その専業生活。
//
その偏重。
その、女性による占有。
その状態の持続。
//
////

女性は、以下の実現を減速すべきである。
////
女性は、男性に対して、以下を、貪欲に求め過ぎる。
経済的配当。
////

そうした心理的ブレーキ。
それが、社会的に必要である。

あるいは、以下の実現が必要である。
以下の（８）の人々は、以下の（９）の人々に対して、以下の（１０）の内容を実行する。
（８）
女性。
////
彼女は、以下を持つ。
//
企業家としての才能。
//

彼女は、以下の内容を多く得る。
//
稼ぎ。
//
////

（９）
男性。

（１０）
彼女は、企業家になる。
彼女は、その役割を、女性として、新たに取る。
彼女は、経済的配当を与える。

そのことは、以下の実現を促進する。
上記の（９）の男性たちは、上記の（８）の女性たちに対して、以下の（１１）の存在になる。

（１１）
人生投資家。

彼は、その役割を、男性として、新たに取る。

（初出2020年5月）

女性優位社会における、性別役割分業の持つ意義。

女性優位社会。
女性は、以下が不要である。
企業家生活。

女性は、以下が可能である。
人生投資家の生活。
その専業。

女性優位社会。
そこでは、以下の（１）の人々は、以下の（２）の内容を実行する。
以下の（２）の内容は、以下の（３）の状況をもたらす。
以下の（３）の状況は、以下の（４）の状態になる。

（１）
女性。
人生投資家。

（２）
人生投資家の生活。
その専業化。

（３）
性的役割分業。
その実現。

（４）
社会的な標準。

女性優位社会。
そこでは、上記の（３）の状況は、下記の（５）の内容である。
（５）
社会的な女性優位。
その象徴。

====

女性は、以下の存在として生きている。
人生投資家。

女性は、以下を、男性へと投資する。

////
彼女自身の人生。
彼女自身の女性器。
////

女性は、投資先の男性から、生涯にわたって、以下を、受け取る。
（１）
////
配当。
リターン。
//
例。
経済的な富。
地位。
栄誉。
////

（２）
遺伝的子孫。

====

男性は、以下の欲求が強い。
性的欲求。

//////
それは、とても強い。
それは、いつも強い。
//////

それは、以下の内容である。
（１）
性的快感。
性的絶頂。
それらを得ること。
（２）
彼自身の遺伝的子孫。
それを生成すること。

上記の取得。
その手段。
それは、以下の内容である。
（１）
女性器の利用。
//
女性器の所有者。
それは、女性である。
//

（１－１）
その中に、以下を、挿入すること。
彼自身の男性器。

（１－２）
そうして、その中に、以下を、放出すること。
彼自身の精子。

（２）
女体の利用。
////
それを触ること。
それを操作すること。
////

//
女体の所有者。
それは、女性である。
//

上記の実現。
そのため、男性は、女性に対して、以下を必要とする。
（１）
以下を、お願いすること。
以下についての許可。
////
以下の貸し出し。
（１－１）女性器。
（１－２）女体。
////

その実現。
そのため、男性は、女性に対して、さらに、以下を必要とする。
（２）
女性に向かって、頭を下げること。

（３）
そうして、女性にとって、以下の存在になること。
////
下位者。
////

====

以下の（１）の人物は、以下の（２）の人物に比べて、以下の（３）の存在になる。

（１）
////
次の立場の人。
//
所有者。
占有者。
//

その人物は、自身の所有物を、借用者に対して、貸し出す。
//
それは、お恵みである。
それは、恩寵である。
それは、慈悲である。
////

（２）
//////
次の立場の人。
////
借用者。
////

////
その人物は、他人の所有物を、所有者から、借用する。
それは、以下を必要とする。
//
所有者から許可を得ること。
所有者に対して、その実現を、お願いすること。
そのために、所有者に対して、精神的に依存すること。
そのために、所有者に対して、卑屈になること。
//////

（３）
社会的地位。
////
それが、根源的に高いこと。
その実現者。
////

以下の（１－１）の人物は、以下の（２－１）の人物に比べて、以下の（３）の存在になる。
（１－１）
女性。
以下の所有者。
以下の占有者。
////
女性器。
女体。
////

女性は、彼女自身の占有物を、男性に対して、貸し出す。
//

それは、お恵みである。
それは、恩寵である。
それは、慈悲である。
////

（２－１）
男性。
以下の借用者。
////
女性器。
女体。
////

男性は、それらを、女性から、借用する。
それは、以下を必要とする。
//
女性から許可を得ること。
女性に対して、その実現を、お願いすること。
そのために、女性に対して、精神的に依存すること。
そのために、女性に対して、卑屈になること。
//
////

（３－１）
社会的地位。
それが、根源的に高いこと。
その実現者。

====

男性は、女性によって、以下を、投資される。
女性の人生。

その際、男性は、女性から、以下を、貸与される。
////
女性器。
女体。
////

////
女性器。
女体。
//

それらの貸与。
それらの借用。
////
上記の関係は、男女にとって、生涯にわたる。

その結果、男性は、以下を必要とする。
（Ａ）
男性は、女性に対して、以下をもたらす。

（Ａ－１）
////
人生上の配当。
人生上のリターン。
////

上記の（Ａ－１）は、以下の（Ａ－２）の実現を必要とする。
（Ａ－２）
（Ａ－２－１）
////
それらの内容が、多様であること。
それらの内容が、多岐にわたること。
////

（Ａ－２－２）
それらの生成。
それが、生涯にわたって、必須であること。

（Ｂ）
男性は、上記の（Ａ）のために、以下の（Ｂ－１）を実行する。

（Ｂ－１）
男性は、企業家として、生活する。

////
（１）
男性は、企業へと進出する。
（１－１）
男性は、企業を立ち上げる。
（１－２）
男性は、既存の企業に加わる。

（２）
男性は、企業で強制的に働く。
男性は、そうして、以下を得る。
高い稼ぎ。

（３）
男性は、企業で、以下に就く。
高い地位の役職。
////

（Ｃ）
男性は、上記の（Ｂ）を、一生続ける。
それは、苛酷である。
それは、辛い。

（Ｄ）
男性は、上記の（Ｃ）を、女性のために、一方的に強いられる。

上記の（Ａ－１）。
それは、例えば、以下である。

（１）
////
経済的稼ぎの高さ。
それをもたらす社会的地位の高さ。
それらの持続的な安定性。
その確保。
////

（２）
////
//
人生面での高い業績。
それがもたらす褒賞。
//

男性による、それらの実現。
それがもたらす、以下の実現。
//
女性の社会的栄誉。
////

以下の（１）の人物は、以下の（２）の人物に比べて、以下の（３）としての存在になる。

（１）
次の立場の人。
その人物は、生活上、強制労働をしなくて良い。

（２）
次の立場の人。
その人物は、生活上、強制労働が必須である。

（３）
社会的地位。
それが、根源的に高いこと。
その実現者。

これは、男性と女性の間にも当てはまる。

以下の（１－１）の人物は、以下の（２－１）の人物に比べて、以下の（３－１）としての存在になる。

（１－１）
女性。
その人物は、以下である。
人生投資家。
//
彼女は、生活上、強制労働をしなくて良い。
彼女は、配当生活で、余裕を持って暮らして行ける。
//

（２－１）
男性。
彼は、以下である。
企業家。
彼は、以下の生活に明け暮れる。
//
強制労働。
その毎日の繰り返し。
//

（３－１）
社会的地位。
それが、根源的に高いこと。
その実現者。

それは、社会において、根本的な現象である。

上記の（１－１）の人物は、以下の（６）が可能である。
（６）
その人物は、以下の（４）の状況を実現する。

（４－１）
その人物は、以下の（５）を、両方選択する。
（４－２）
その人物は、以下の（５）を、併存させる。

（５）
生活パターン。
それは、以下の二種類である。
（５－１）
人生投資家としての生活。
（５－２）
企業家としての生活。

上記の（２－１）の人物は、以下のことが不可能である。
その人物は、上記の（６）を、実現させる。

上記の（２－１）の人物は、以下のみが可能である。
上記の（５－２）。
その選択。
その人物は、それを強制される。

以下の（１）の人物は、以下の（２）の人物に比べて、以下の（３）としての存在になる。

（１）
次の立場の人。
その人物は、人生において、以下が可能である。
複数の選択肢を持つこと。

（２）
次の立場の人。

その人物は、人生において、以下のみが可能である。
単一の選択肢。
その選択を強制されること。

（３）
社会的地位。
それが、根源的に高いこと。
その実現者。

以下の（１－１）の人物は、以下の（２－１）の人物に比べて、以下の（３－１）の存在になる。

（１－１）
女性。
その人物は、人生において、以下が可能である。
複数パターンの生活を送ること。

（２－１）
男性。
その人物は、人生において、以下のみが可能である。
単一パターンの生活。
その選択を強制されること。

（３－１）
////
人生面での自由度。
人生面で恵まれている度合い。
//

それが、根源的に高いこと。
その実現者。
////

人間社会そのものが、以下の内容を、根本的に持つ。
（１）
その社会的な優位者。
それは、以下の存在である。
女性。
（２）
その本質。
それは、以下である。
女性優位社会。

====

女性は、以下の存在として生きている。
人生投資家。

そうした女性は、以下の性質を持つ。
その性質は、以下の内容が薄い。

以下の内容に対する、人生上の必要性。
////
以下の内容に対する、動機付け。

以下の内容に対する、関心。
////
以下の行為の実行。

その人物は、企業家として、生活する。
////
（１）
その人物は、企業へと進出する。
（１－１）
その人物は、企業を立ち上げる。
（１－２）
その人物は、既存の企業に加わる。

（２）
その人物は、企業で強制的に働く。
その人物は、そうして、以下を得る。
高い稼ぎ。

（３）
その人物は、企業で、以下に就く。
高い地位の役職。
////

それは、本来的である。

女性は、以下を実行する。
（Ａ）
女性は、以下の（４）の実現を望む。
（４）
以下の（１）の人物は、以下の（２）の人物のために、以下の（３）を実行する。

（１）
男性。
（２）
女性自身。

（３）
以下を生み出すこと。
////
配当。
リターン。
//
それらを、少しでも多く生み出すこと。
////

（Ｂ）
女性は、上記の（Ａ）を実現する。
女性は、そのために、以下の（５）を実現する。

（５）
女性は、上記の（１）の人物を、以下の（６）の状態にする。

（６－１）
企業家。
働く者。

（６－２）
その専業生活。
彼は、その生活に明け暮れる。

（Ｃ）
女性は、上記の（Ｂ）の実現を、上記の（１）の人物に対して、強制する。

（Ｄ）
女性は、上記の（Ｃ）の実現を、生涯にわたって持続する。

これは、以下の根本的な原因である。
以下の（１）においては、以下の（２）が生じる。
（１）
人間社会。
（２）
性別役割分業。

（Ｅ）
以下の（１）の内容は、以下の（２）の内容を示す。

（１）
性別役割分業。
その存在。

（２）
以下の（３）は、以下の（５）になっている。

（３）
以下の（４）の実現。

（４）
以下の（４－１）の人物は、以下の（４－２）の人物に対して、以下の（４－３）を実行する。

（４－１）
女性。
人生投資家。

（４－２）
男性。
企業家。

（４－３）
その人物は、その存在を、一方的に使役する。

（５－１）
社会における、既成事実。
（５－２）

社会的な標準。

上記の（Ｅ）は、以下の（Ｆ）を示す。

（Ｆ）
以下の（１）の人物は、以下の（２）の人物に比べて、以下の（３）の状態になる。
その証拠。

（１）女性。
（２）男性。
（３）その人物は、社会的に優位である。

====

人間の社会は、以下の二種類である。
（１）
移動生活様式優位社会。
////
その生活は、以下の存在にとって、より有利である。
その性質は、以下の存在にとって、生得的である。
////

男性。

その社会は、以下になる。
男性優位社会。

（２）
定住生活様式優位社会。
////
その生活は、以下の存在にとって、より有利である。
その性質は、以下の存在にとって、生得的である。
////

女性。

その社会は、以下になる。
女性優位社会。

====

//////////
女性優位社会。
女性は、以下の（３）を、自前で持つ。
女性は、以下の（３）を、占有する。

（３）
以下の権限。

（３－１）
以下の（Ａ）の管理。
それは、以下の生活において、得られる。
人生投資家。
それは、多様な形で得られる。
それは、恒常的に得られる。

（３－２）
以下の許認可。
それは、以下の（Ａ）を、金銭面で出し入れすることである。

（Ａ）
配当。
リターン。

女性は、上記の（Ａ）を、以下によって得た。
男性による、企業家としての働き。

彼女は、以下の（１）の行為を、以下の（２）の態度で、実行する。
（１－１）
彼女は、男性を使役する。

（１－２）
彼女は、配当を、金銭的に、自由に使用する。

（１－３）
彼女は、男性に対して、以下の体制を敷く。
小遣い制。
彼女は、男性に対して、以下を与える。
お小遣い。
そのお金。

（２）
彼女の好き放題。
彼女のやりたい放題。

その結果、彼女は、以下が可能である。
彼女は、以下の生活を送る。
投資家としての生活。
配当生活。
////
それは、優雅である。
それは、華麗である。
////

//////////
女性優位社会。
女性は、以下の内容が、ほとんど無い。

それは、本来的である。
////
以下の行為の必要性。
以下の行為の必然性。
////

（Ａ）
彼女は、企業で働く。

女性優位社会。
以下の（Ｂ）は、せいぜい以下の（Ｃ）の場合に限られる。

（Ｂ）
女性は、以下の内容を感じる。
それが発生する。

以下についての意欲。
上記の（Ａ）を試すこと。

（Ｃ）
（１）
以下の（１－１）は、以下の（１－２）の状態に陥る。
（１－１）
配当。
（１－２）
一時的な不足。

上記の（１－１）は、以下の存在によって、もたらされる。
男性。
企業家。

上記の（１－２）は、以下の原因によって、発生する。
例。
男性。
企業家。
彼は、病気になった。

（２）
女性は、以下の内容を感じる。
それが発生する。

以下についての意欲。
彼女は、以下を開花させる。
彼女は、以下を伸ばす。
彼女自身における、以下の才能。
企業家として稼ぐ能力。

（３）
女性にとって、以下の状況が発生する。
以下が不可能なこと。
以下の生活を実行すること。
人生投資家。

（３－１）
女性は、以下のことに手間取っている。
女性は、以下の（３－１－１）を、実現する。
（３－１－１）
結婚。

（３－２）
女性は、以下のことに失敗した。
女性は、以下の（３－２－１）を、以下の（３－２－２）の期間内に実現する。
（３－２－１）結婚。
（３－２－２）適齢期。

//////////
女性優位社会。
女性は、以下の立場にある。
特権的な立場。
その権力は、以下の内容である。
以下を実現する力。

女性は、以下の（１）について、以下の（２）を、実行する。
彼女は、それを、以下の（３）を伴って、実行する。
（１）
彼女自身の子供。

（２）
教育。

（３）
以下の行為。
独占。
主導。

彼女は、上記の（１）の人物を、以下の（４）の内容として、活用する。

（４）
彼女自身の人生。
その、第二の投資対象。

彼女は、上記の（４）の内容について、以下の（５）を目指す。

（５）
彼女は、上記の（１）について、以下の（６）を実現する。

（６－１）
社会的な昇進。
立身出世。

（６－２）
高い社会的地位。

（６－２－１）
その獲得。

（６－２－２）
その安定。
その維持。
その生涯にわたる持続。
それは、以下である。
////
人生のレール。
////
その上を歩むこと。

彼女は、上記の（１）に対して、以下の（７）を、以下の（８）を伴って、実行する。
（７－１）
しつけ。
（７－２）
高い能力。
その習得の実現。

（８）
必死さ。

彼女は、以下のことを特に重視する。
上記の（６－２－２）。
その実現。
彼女は、そうした人生を、上記の（１）に対して、強制する。

彼女は、そのことで、以下を実現する。
彼女は、上記の（１）から、下記の（９）の内容を得る。

（９）
彼女自身の人生面での高い配当。
第二の配当。
彼女たちは、そうして、以下の（１０）を実現する。

（１０）
彼女は、人生的に、満足する。

///////////////////////////////

女性優位社会。
そこでは、以下が、実現する。

そこでは、以下が、存続する。

以下の（１）の人物は、以下の（２）の人物として、存在する。
（１）
女性。

（２）
人生投資家。
その専業者。

上記の（１）の人物は、以下の（３）の人物として、存在する。
（３）社会的強者。

そのことで、以下の（４）の内容は、以下の（５）を実現する。
（４）
性別役割分業。
その存在。

（５）
社会的に標準化すること。
その状態の持続。

====

///////////////////////////////
男性優位社会。
女性は、以下の状況に置かれる。

男性は、以下の（３）について、以下の（４）を実行する。
（４）
////
所有。
占有。
////

（３）
以下の権限。

（３－１）
以下の（Ａ）の管理。
それは、以下の生活において、得られる。
人生投資家。
////
それは、多様な形で得られる。
それは、恒常的に得られる。
////

（３－２）
以下の許認可。
それは、以下の（Ａ）を、金銭面で出し入れすることである。

（Ａ）
////
配当。
リターン。
////

男性は、上記の（Ａ）の内容を、以下のことによって得た。
自身による、企業家としての働き。

男性は、以下の（１－１）を、以下の（２）の態度で、実行する。
（１－１）
男性は、女性を、以下の存在として、使役する。
家事労働者。
家政婦。
メイド。
（１－２）
男性は、配当を、金銭的に、自由に使用する。

（１－３）
男性は、女性に対して、以下の体制を敷く。
小遣い制。
男性は、女性に対して、以下を与える。
お小遣い。
そのお金。

（２）
彼の好き放題。
彼のやりたい放題。

そのため、女性は、以下の状態になる。

（６）
（６－１）
女性は、以下が不可能である。
上記の（１－２）。
その実現。

（６－２）
女性は、以下の（４）の内容において、以下の（５）の状態になる。

（４）
経済面での意思決定。

（５－１）
女性は、男性に対して、依存する。

（５－２）
男性による支配。
女性は、それを受容する。

（５－３）
女性は、以下の実現が困難になる。
自己決定。

女性は、以下の（７）の実現のために、以下の（８）の内容になる。

（７）
女性は、上記の（６）の状態から、抜け出す。

（８）

女性は、以下の（９）の状況を、強制される。

（９）
女性は、企業家として、生活する。
（９－１）
女性は、企業へと進出する。
（９－１－１）
女性は、企業を立ち上げる。
（９－１－２）
女性は、既存の企業に加わる。
（９－２）
女性は、企業で強制的に働く。
女性は、そうして、以下を得る。
稼ぎ。
それは、男性並みである。
（９－３）
女性は、企業で、以下に就く。
高い地位の役職。

上記の（９）は、以下の（１０）を生み出す。

（１０）
性的役割分業。
その消失。

上記の（１０）は、以下の（１１）である。

（１１）
以下の状況。
その象徴。
（１１－１）
女性の生活。
それが、劣悪であること。
（１１－２）
女性の人生。
それが、不幸であること。

上記の（１０）。
そうした社会現象。
それは、以下の（１２）の人物にとって、以下の（１３）の内容である。
（１２）
女性一般。
人生投資家。

（１３）
それは、本来、以下の対象には、決して、なり得ない。
////
称賛。

褒め。
賛同。
積極的推進。
////

（１２）それは、本来、以下の対象である。
////
軽蔑。
非難。
批判。
忌避。
////

====

//////////////////////////////

女性優位社会。
その価値観。
それは、基本的に、以下である。
前例の踏襲。
その偏重。

その存在。
それは、基本的に、以下の内容である。
後進的。

以下の（１）は、以下の（２）との間で、以下の（３）を実行する。
（１）
女性優位社会。

（２）
男性優位社会。
////
それは、有力である。
それは、先進的である。
////

（３）
相互作用。

上記の（１）は、上記の（２）に対して、以下の（４）を実行する。
上記の（１）は、それを、盛んに行う。

（４）
それは、以下を、真似る。
上記の（２）の社会的価値観。
その内容は、上記の（２）にとって、当たり前である。

上記の（１）は、以下の（５）の内容を実行する。

（５）
それは、以下を試みる。
それは、以下を実現する。
それは、世界社会の中で、以下の存在になる。
////
それは、とても先進的である。
それは、最先端である。
それは、世界中から称賛される。
////

上記の（１）は、上記の（５）の過程で、以下の（６）を実行する。
（６）
以下の社会。
上記の（２）。
その表面的な外観。
それは、上記を身に付ける。

そのことで、以下の（７）は、以下の（８）になる。
（７）
世界社会。
その全体。

（８）
それは、表向き、以下を推進する。
それは、以下で動く。
以下の社会的価値観。
上記の（２）。

上記の（２）は、以下の（１１）を行う。
（１１）
それは、以下の（９）を、以下の（１０）として、捉える。

（９）
社会における、以下の実現。
その度合い。
（９－１）
女性による、企業への進出。
（９－２）
女性による、企業での役職就任。
（９－３）
それらに伴う、性別役割分業の消失。

（１０）
女性一般。
その社会的地位の向上。
そのバロメーター。

上記の（１１）。

その対象は、本来、以下の（１２）へと限定されていた。

（１２）
男性優位社会。
その女性。

しかし、上記の（１１）は、以下の（１３）になっている。
（１３）
以下の実現。
その適用対象。
その拡大。
その進展。
////
それは、急速である。
それは、世界的である。
それは、普遍的である。
////

女性優位社会。
そこでは、以下の（１４）は、本来、以下の（１５）である。
（１４）
性的役割分業。

（１５）
以下の状況。
その象徴。
（１５－１）
女性が持つ、社会的な優位性。
（１５－２）
女性が持つ、高い社会的地位。

（１７）
以下の（１６－１）は、上記の（１４）に対して、以下の（１６－２）を実行する。
（１６－１）
男性優位社会。
その人々。
（１６－２）
それは、以下を主張する。
////
非難。
批判。
否定。
////

上記の（１７）の理由は、以下である。
//////////
上記の（１４）の肯定。
それは、以下のことにつながる。
以下の（１８）の肯定。

（１８）女性。
その低い社会的地位。
////
それは、普遍的である。
それは、世界的である。
////

上記の（１４）の肯定。
それは、以下の（１９）に反する。
（１９）
以下の促進。
////
男女平等。
性差別の撤廃。
//

上記の（１４）の存続。
それは、社会的に許されない。
///////////

上記の（１７）。
それは、強硬である。

上記の（１７）は、以下の（２０）と照合した場合、以下の（２１）である。
（２０）
社会における、以下の実態。
女性優位。

（２１）
それは、一方的過ぎる。
それは、以下と真逆である。
それは、以下を反映しない。
女性優位社会。
その実態。

上記の（１７）。
以下の（２２）は、それに対して、以下の（２３）の態度を取る。

（２２）
女性優位社会。
その人々。

（２３）
従順。

上記の（２２）は、以下の（２４）を実行する。

（２４－１）
性的役割分業。
その否定。
上記の（２２）は、上記を、懸命になって、表明する。

（２４－２）
男性優位社会。
そのフェミニズム。
上記の（２２）は、上記を、懸命になって、導入する。

上記の（２２）は、そうして、以下の（２６）を実行する。
（２６）
それは、以下を試みる。

（２６－１）
それは、以下の（２５）について、表向き、対応する。

（２６－２）
それは、上記の（１７）の主張を、何とかして、かわす。
それは、その実現のために、暗躍する。

（２５）
上記の（１８）の主張は、表向き、世界的に、賛同されている。

上記の（２６－２）。
それは、以下である。
社会的工作。
そのツール。
その内容は、以下の（２７）である。

（２７）
（２７－１）
////
社会的な言い訳。
そのツール。
////
それは、上記の（１４）を、外部に向けて、表面的に否定する。
それは、上記の（１４）の存在を隠ぺいする。

（２７－２）
////
潜水艦のような戦略。
そのツール
////
それは、上記の（１４）の存在を、社会の表面に露出させない。
その潜在性。
それは、上記を、維持する。
それは、その存在を、社会内部で、存続させる。
それは、その実現を、強力に、支援する。

上記の（２７）。
それによって、以下の（２８）が実現する。
（２８）
以下の（２９）の内容は、外部社会から、隠ぺいされる。

（２９）
////

女性優位社会。
その真の実態。

女性は、以下の状態を、保持し続けている。
人生投資家。
その専業者。

女性は、社会的に優位である。
女性は、その社会における真の支配者である。
////

女性優位社会。
それは、以下の（３０）に向けて、以下の（３１）を実行する。

（３０）
世界社会。

（３１）
それは、以下の外観を、表向き見せる。
それは、そのことを、思わせぶりに主張する。
男性優位社会としての外観。

それは、上記の（１９）の観点からは、以下のように見える。
それは、とても後進的である。
それは、あたかも、以下の（３２）のように見える。
（３２－１）
そこでは、女性の社会的地位は、以下の存在よりも、低い。
男性優位社会。
その女性。
（３２－２）
そこでは、以下の実現が、徹底している。
女性への社会的差別。

/////////
（３３）
女性優位社会。
その外見。
それは、以下の（３３－１）には見えない。
それは、以下の（３３－２）のように、見える。
（３３－１）
本来の女性優位の社会。

（３３－２）
男性優位社会。
その一類型。

/////////
（３４）
女性優位社会。
その内部。
その実態。

それは、元の状態を完全に維持している。
それは、以前と、全く変わらない。
それは、実際には、上記の（３３－２）とは、真逆である。
そこでは、以下の（３５）が、以下の（３６）として、君臨する。

（３５）
女性たち。
それは、以下の存在である。

（３５－１）
それは、以下の意思を持つ。
性的役割分業。
その肯定。

（３５－２）
人生投資家。
その専業者。

（３６）
その存在は、社会的に、主流である。
その存在は、社会的に、優位である。
その存在は、社会的に、以下を備える。
強大な威力。

その存在は、以下である。
////
真の支配者。
真の権力者。
実際の社会規範。
その真の体現者。
その真の根源。
////

女性優位社会。
そこでは、一般女性は、以下の（３７）のように考える。

（３７－１）
私は、以下の存在になりたい。
人生投資家。
私は、以下を満喫したい。
配当生活。
その人生。
それは、とても美味しい。

（３７－２）
私は、そのために、以下の（３８）を、実現したい。
私は、そのために、必死になる。
私は、そのために、以下を続ける。
社会的な努力。
社会的な格闘。

（３８）

私は、以下の男性と、結婚する。
企業家。
その男性の条件は、他の女性に比べて、格段に良い。

女性優位社会。
その現状は、しょせんは、上記の通りである。

////////////////
女性優位社会。
そこでは、表向き、以下の（３９）が起きている。

（３９－１）
そこでは、以下のような女性が、増加している。
////
彼女は、以下に目覚めた。
自身が持つ、以下の才能。
企業家。

彼女は、以下を開始した。
企業への進出。
////

（３９－２）
そこでは、以下が発生している。
経済情勢の悪化。
そのため、そこでは、以下の女性が、増加している。
////
彼女は、結婚できない。
彼女は、そのまま、以下の状態を続ける。
独身生活。

彼女は、以下を実現したい。
//
彼女は、そうした生活を、当面、維持する必要がある。
彼女は、そのため、企業で働く。
////

しかし、それらは、しょせんは、以下の内容である。
表向きの外観。

女性優位社会。
その内部では、そうした外観とは裏腹に、別のことが起きている。
それは、以下の（４０）である。

（４０）
主流派の女性。
女性たちは、今なお、以下を、基本的に指向している。
人生投資家。

その専業者。
その生活。
その一生。

その理由は、以下である。
その生活。
それは、人生面で、以下の内容である。
（４０－１）
それは、とても楽である。
（４０－２）
それは、とても有利である。
（４０－３）
それは、社会的優位を実現する。

女性優位社会。
その内部では、今後、以下が予想される。

（４１）
以下の（４２）は、それほど進まない。

（４２）
女性は、以下を実行する。
企業への進出。
企業における役職への就任。

上記の（４１）の状況。
それは、以下の（４３）を、呼び起こす。
（４３）
////
男性優位社会。
その人々。
彼らによる、批判。
////

女性優位社会。
その内部。
そこでは、以下の（４４）は、今まで通りである。
（４４）
性別役割分業。

女性優位社会。
その社会は、表向き、上記の（４２）を、必死に奨励する。
その社会は、そうして、上記の（４３）を、かわす。

その社会は、実際は、上記の（４４）を、そのまま維持する。

女性優位社会。
上記の（４４）は、その社会において、以下を示す。
その社会における、真の優位者。
それは、女性である。

上記の（４４）は、その社会において、その有効性を、強く保持する。

上記の（４４）は、その社会の内部で、以下の状態を維持する。
それは、社会的に主流である。

上記の（４４）は、その社会の内部で、永続する。

（初出2020年5月）

人生投資家と企業家としての人生や結婚を指向する男女。彼らが、人生で抱えがちな根本的な問題。

以下の（１）は、以下の（２）を、以下の（３）として、見なす。

（１）
女性。
人生投資家。

（２）
男性。
企業家。
（２－１）
以下に値する存在。
彼女の人生を、まるごと投資すること。
（２－２）
彼女に対して、以下を出せそうな存在。
配当。
それは、彼女の人生にとって、高い利益を生み出す。

（３）
結婚の相手。
優先的な選択対象。

====

上記の（１）。
女性。
彼女が持つ条件。

彼女は、それを、以下に対して、求める。
上記の（２）。
男性。

その条件は、以下の（Ａ）の通りである。

（Ａ）
///////
（１）
彼は、身体能力が高い。
彼は、筋力や身長が高い。

（２）
彼は、知的能力が高い。
彼は、以下のものを持っている。
////
高い学歴。
高難易度の資格や免許。
////

（３）
彼は、以下の（３－１）について、以下の（３－２）を、持っている。

（３－１）
彼女自身が生成する、遺伝的子孫。
（３－２）
以下の実現。
その可能性の大きさ。
その能力。
そのスペック。
それらを高く上げられること。
遺伝的な能力。
後天的な能力。

（４）
彼は、以下が得意である。
コミュニケーション。
彼は、女性を、心理的に、喜ばせる。

彼は、以下の（４－１）において、以下の（４－２）を実現する。
（４－１）
企業で働く場合。
（４－２）
彼は、以下の能力が高い。
周囲と、上手に対話すること。
対人関係の構築。
対人関係の維持。

（５）
彼は、以下において、恵まれている。
経済力。
彼は、以下の存在である。
富裕層の資産家。

経済的な稼ぎ。
彼は、それが多い。

（６）
彼は、以下において、優れている。
彼は、既に、それらを獲得している。
彼は、将来性がある。
彼は、出世昇進ができそうである。

（６－１）
社会的地位。
肩書。
高級官僚や医者、弁護士であること。

（６－２）
業績。
社会的評価。
何かの賞を獲得すること。
社会的に有名になること。

（６－３）
社会的人脈。
縁故。
以下であること。
名門の家庭。
名門の学校。
その出身者。

（７）
彼は、以下において、安定している。
その企業。
その存在。
その稼ぎ。

彼は、以下の内容を、実現できる。
彼は、以下の内容を、生涯にわたって持続させる。
高い配当。
以下の高さ。
生活の安定度。

彼は、以下の企業において、働いている。
それは、以下を持つ。
安定した業績。
大企業。

（８）
性的能力が高いこと。

（８－１）
彼は、以下が可能である。
彼は、女性を、性的に満足させる。
彼は、それを、生涯にわたって、持続する。

彼は、以下において、魅力的である。
容姿。
セックスの技術。
精力。

（８－２）
彼は、以下において、正常である。
生殖面での機能。
彼は、以下を、確実に作れる。
遺伝的子孫。

（９）
彼は、以下が大きい。
配当。
それは、女性を、心理的に、満足させる。
それは、持続的である。

（９－１）
彼は、以下の持ち主である。
以下の性格。
女性は、それを、気に入る。

（９－２）
彼は、以下の可能性が少ない。
彼は、女性に対して、以下を行使する。
不快な態度。
暴力。
それは、身体的なものである。
それは、心理的なものである。

（１０）
彼は、以下の可能性が少ない。
////////
男性は、女性に対して、以下の（１）の最中に、以下の（２）について、以下の（３）を行う。
（１）
女性の人生。
その途中。
（２）
配当。
（３）
中止すること。
それは、予定外である。
それは、自分勝手である。
////////

（１０－１）
男性は、女性に対して、以下の行為をしない。
男性は、他の女性に対して、浮気をする。

（１０－２）
男性の企業においては、以下が発生しない。

人員整理。
人員の解雇。
倒産。

（１１）
男性は、以下の可能性が少ない。
////////
男性は、女性に対して、以下の（１）について、以下の（２）を行う。
（１）
配当。
（２）
分量を減らすこと。
分量を無しにすること。
それを、自己都合で行うこと。
それを、勝手に行うこと。

例。
男性は、以下の（１）について、以下の（２）を行う。
（１）
自身の稼ぎ。
（２）
私的な使い込み。
私的な浪費。
以下に対して、私的に、のめり込むこと。
ギャンブル。
///////

====

上記の（２）。
男性。
彼が持つ条件。
彼は、それを、以下に対して、求める。
上記の（１）。
女性。

その条件は、以下の（Ｂ）の通りである。

（Ｂ）
///////
（１）
彼女は、以下が可能である。
男性は、彼女に対して、性的に満足する。
（１－１）
彼女は、以下について、条件が良い。
彼女の容姿。
彼女器。
（１－２）
彼女は、以下について、条件が良い。
セックス時の快感。
彼女の性的反応。

（２）
以下の可能性。
それが大きいこと。
彼女は、以下を、確実に残せる。
自身の遺伝的子孫。

（２－１）
彼女は、以下の行為をしない。
浮気。
（２－２）
彼女は、以下に関して、協力的である。
子供の育児。
（２－３）
彼女は、以下に関して、正常である。
生殖能力。

（３）
彼女は、以下に関して、高い能力を持つ。
身体能力。
知的能力。

彼女は、以下を、高く上げられる。
彼自身の遺伝的子孫。
////
能力。
スペック。
その多様性。
遺伝的能力。
後天的な能力。
////
（４）
女性は、以下の（４－１）の内容を実現する。
（４－１）
///////
男性は、以下の（１）において、以下の（２）を実現できる。
（１）
企業家としての活動。
それを続けること。
（２）
心理面での、安定しやすさ。
////
彼女は、以下の存在である。
以下の性格の持ち主。
男性は、それを、気に入る。
/////////

（５）
彼女は、以下の（５－１）に対して、以下の（５－２）を実現できる。
（５－１）
男性。
彼は、以下の状態になりやすい。

働き詰めになること。
（５－２）
彼女は、以下を、十分に実施する。
生活面でのサポート。
生活面でのケア。

（６）
///////
彼女は、以下の（１）について、以下の（２）を実現できる。
（１）
男性。
企業家。
その企業における働き。
（２）
助けること。
引き上げること。
///////

（６－１）
彼女の持つ、以下の能力。
知的能力。
それは、高い。
（６－２）
彼女の持つ、以下の能力。
////
対人関係の構築。
対人関係の維持。
////
それは、高い。
（６－３）
彼女は、以下において、恵まれている。
////
社会的人脈。
縁故。
////

彼女は、以下の出身である。
////
名門の家庭。
名門の学校。
////

（７）
彼女の持つ、以下の力。
経済力。
それは、高い。

彼女は、次の（７－１）について、次の（７－２）を実現できる。
（７－１）
以下の発生。
経済的な危機。
男性は、以下を、出せなくなる。
配当。

それは、一時的である。
例。
男性は、大きな病気にかかる。

（７－２）
十分な備え。
十分な対応。
彼女は、それが可能である。
以下の存在になること。
彼女は、それが可能である。
彼女は、男性に代わって、家族を、経済的に支える。
彼女は、以下の才能を持つ。
////
企業家。
稼ぐ力。
////
彼女は、以下の属性を持つ。
彼女は、もともと経済的に富裕である。

///////

====

//////////////////
人生投資家。
女性。
企業家。
男性。
その人生。
その結婚。

以下の（１）について。
以下の（２）は、以下の（３）よりも、以下の（４）となる。
（１）
相手異性に対して出す条件。
（２）
女性。
人生投資家。
（３）
男性。
企業家。
（４）
それは、以下の内容になりやすい。
それは、より厳しい。
それは、より苛酷である。

その理由は、以下の通りである。

（１）
女性は、以下を持っている。
女性器。

有利な資本。
それは、以下において、価値が高い。
（１－１）
それは、男性からの需要が多い。
（１－２）
それは、男性への供給が限られている。

（２）
女性は、そのことで、以下の（２－１）に対して、以下の（２－２）を実現できる。
（２－１）
相手男性。
（２－２）
彼女は、条件的に有利になる。

///////////////////////
人生投資家。
女性。

企業家。
男性。

その人生。
その結婚。

それらは、以下の内容を持つ。
以下の実現。
それを目指すこと。

（１）
女性。
彼女の人生。
その、男性への投資。
それについて、以下が多いこと。
男性からの配当。
男性からのリターン。

（２）
男性。
以下が十分であること。
女性は、男性に対して、以下を実行する。
それは、内容面で、十分に多様である。
それは、量的に、十分に多い。
人生上のサポート。
人生上の欲求充足。

女性は、男性の面倒を見る。
それは、男性に対して、以下を実現する。
男性の稼ぎ。
男性の業績。
それらが上がること。
それは、男性にとって、以下の実行を、容易にする。

男性は、配当を出す。

/////////////////
人生投資家。
女性。

企業家。
男性。

その人生。
その結婚。

そこでは、男女双方は、以下の（１）を、以下の（２）において、重視する。
そうした重視。
それは、連続的に発生する。

（１－１）
人生面での利害。
人生面での打算。
（１－２）
人生において、以下を、実現すること。
表向きの見栄。

（２）
以下の選択。
（２－１）
結婚相手。
（２－２）
人生の内容。

//////////////////////////

人生投資家。
女性。

企業家。
男性。

その人生。
その結婚。

それは、以下の結果になる。
それは、以下の（Ｃ）を、欠いている。

（Ｃ）
（１）
人生上の共同体の実現。
以下の精神を、共有すること。
それは、強い。
それは、大きい。

（１－１）
相手異性に対する、心理的な結びつき。

（１－２）
相手異性の人格。
それに対する、敬愛の気持ち。
（１－３）
相互の根本的な仲の良さ。

（２）
各自の人格。
その品質の高さ。
その実現。
例。
高潔さ。

（３）
彼らは、以下の内容を、充実させる。
////
彼等の各々が、大好きなこと。
趣味。
ライフワーク。
生きがい。
//
それを、双方が、共に実現する。
その実現は、同時である。
その実現は、利害抜きである。
////

上記は、以下にとって、重要である。
以下の実現。
////
相互の人生。
//
その品質。
その確保。
その向上。
////

//////////////

人生投資家。
女性。

企業家。
男性。

その人生。
その結婚。

それは、以下の内容になりやすい。
それは、上記の（Ｃ）を、大きく外す。

人生投資家。
女性。

企業家。
男性。

その人生。
その結婚。

そこでは、男女は、以下に対して、こだわりやすい。

利害。
それは、多種多様である。

その結果、、男女は、以下の状態に陥る。

以下の（１）において、以下の（２）は、以下の（３）になる。
（１）
心理的内面。
（２）
充実の度合い。
（３）
低下すること。
それが、容易に発生すること。

男女は、以下の（１）において、以下の（２）を実行する。

（１－１）
経済力。
（１－２）
社会的地位。
（１－３）
人生上の業績。

（２）
高度な配当。
その実現。
その獲得。

それは、表面的には、以下の内容である。

それは、華やかである。
それは、成功している。

しかし、それは、実際には、以下の内容である。

男女は、以下の（１）において、以下の（２）の状態になる。
（１）
双方の仲。
（２）
冷却。
その頻発。

その継続。

男女は、以下の（１）において、以下の（２）の状態になる。
（１）
心理面での充実性。
（２）
その欠如。

男女は、以下の（１）において、以下の（２）の状態になる。
（１）
気分。
（２）
空虚。

その原因は、以下にありそうである。
上記の（C）の欠如。

このことは、以下と同じである。
以下の（１）において、以下の（２）は、以下の（３）になる。
（１）
株式投資家。
（２）
人生。
（３）
それは、必ずしも幸福では無い。

上記の状況。
その発生。
それは、以下の場合でも、起きる。

上記の（１）は、上記の（２）において、以下の（３）を実現する。
それは、以下において、非の打ち所がない。
その実現の度合い。

（３）
配当が多いこと。
お金が儲かること。
//
例。
億万長者になること。
//

/////////
人生投資家。
女性。

企業家。
男性。

その人生。
その結婚。

そこでは、以下が、良さそうである。

男女は、本当は、以下の行為をするべきである。

以下の内容の実現。
（１）
彼らは、それを、抑制する。
彼らは、それを、ほどほどにする。
////
人生への投資。
その効率。
それを、最大限にすること。
////

（２）
彼らは、以下を、追求する。
////
人生の品質。
その充実。
彼らは、それを、十分に確保する。
////

女性は、特に、注意が必要である。

その理由は、以下である。

女性は、以下を、容易に実現する。
人生において、以下の立場に立つこと。
////
投資する立場。
////

その結果、女性は、以下を、容易に実現する。
彼女は、人生において、以下の行為を実行する。
彼女は、以下の内容を、最優先させる。
////
配当。
利益。
その大きさ。
////

それは、頻発する。
それは、不可避である。

女性は、以下の傾向が強い。
女性は、以下について、頻度が高い。
女性は、以下の度合いが大きい。

//////
人生において、強欲になること。
////
人生において、以下を行うこと。
//

高望み。
//////

女性の人生。
その充実。
その実現。
そのために、女性には、以下が必要である。
////
自制心。
////

（初出2020年5月）

女性による特権的な人生投資家生活の永続。女性による男性支配、男性差別の永続。

以下の社会規範。
それは、永続する。

/////////////////////
（Ｘ）
社会規範。

以下の（１）による、以下の（２）の実現。
（１）
女性。
（２－１）
以下の存在になること。
人生投資家。
（２－２）
以下の存続。
上記の（２－１）の生活。

それは、永続する。
それは、保証される。

/////////////////////
その理由は、以下である。
以下の前提条件は、永続する。

女性にとって、以下の実現が、可能である。

////////////
（Ａ）
女性は、以下の（１）を、以下の（２）と見なす。
女性は、以下の（１）について、以下の（３）を実行する。
それは、生涯にわたって、続く。

（１）
彼女自身の女性器。
彼女自身の女体。

（２）
彼女自身の身体の資本。

（３）
所有すること。
占有。

////////////
（Ｂ）
男性は、下記の（１）について、以下の（３）を引き起こす。
それは、以下の（２）において、発生する。
それは、生涯にわたって、続く。

（１）
女性器。
その存在。
女体。
その存在。
女性。
その存在。

（２）
彼自身の生存。
彼自身の生活。
彼自身の生理。
彼自身の心理。

（３）
（３－１）
依存すること。
それは、とても強力である。

以下の実現は、不可能である。
上記の（３－１）の中止。
上記の（３－１）の抑制。

それは、以下と関連する。
彼は、生物の一種である。
生物の根本原理。

////////////
（Ｃ）
上記の（Ａ）。
上記の（Ｂ）。
それらの持続。

それらは、以下の内容を実現する。
以下の（２）にとって。
以下の（１）は、以下の（３）として、以下の（４）の存在になる。
それは、生涯にわたって、続く。

（１）
女性。
（２）
男性。
（３）
生物。

（４）
特権的存在。
支配者的存在。
//
その権力。
その支配力。
それらの強さ。
それは、以下を、繰り返す。
変動。
それは、一定範囲内を、行き来する。
//

////////////////////
（Ｘ－１）
社会規範。

以下の（１）による、以下の（２）の実現。
（１）
女性。
（２－１）
以下の存在になること。
人生投資家。
（２－２）
////
以下の存続。
上記の（２－１）の生活。
//
それは、永続する。
////

////////////////////
それは、以下を示す。

////////////////////
（Ｘ－２）
社会規範。

以下は、永続する。
以下の（２）にとって。
以下の（１）は、以下の（３）として、以下の（４）を所有する。
（１）
女性。
（２）
男性。
（３）

生物。
生物。
（４）
根本的な優位性。

それは、すなわち、以下である。

（Ｘ－２。簡易表現。）
社会規範。
////
女性優位。
その永続。
////

/////////////////////
上記の（Ｘ－２）。
その永続。

それは、例えば、以下である。

////////////
（Ｘ－２。Ｅ１。）

以下のことを容認する社会規範。
その永続。

（Ａ）
以下の（１）は、以下の（３）を、以下の（４）の存在と見なす。
そうして、以下の（１）は、以下の（５）を実行する。
そうして、以下の（１）は、それを、以下の（２）に対して、実行する。
（１）
女性。
（２）
男性。
（３）
彼女自身の女性器。
彼女自身の女体。
（４）
誘蛾灯。
その代わり。
（５）
彼を性的に誘い出すこと。

（Ｂ）
上記の（１）は、以下の（６）の行為を、上記の（２）に対して、実行する。
上記の（１）は、それを、以下の（７）の側面において、実行する。
上記の（１）は、それを、以下の（８）の態度で、実行する。
その実行は、以下の（９）のタイミングで、なされる。
その実行は、以下の（１０）の期間において、なされる。

（６）
搾取。
たかり。

（７）
経済面。
生活面。

（８）
それは、一方的である。
それは、強制的である。

（９）
（９－１）
その開始時点は、以下である。
彼女は、性的に成熟した。
（９－２）
その発生時点は、以下である。
それは、開始後、いつでも、発生する。
それは、開始後、生涯にわたって、発生する。

（１０）
それは、短期間の場合、以下である。
一時的交際。
それは、長期間の場合、以下である。
生涯の結婚生活。

//////////////////////
上記の（Ｘ－２）。
その永続。

それは、すなわち、以下である。

//////////////////////
（Ｘ－３）
社会規範。

以下は、永続する。
以下が、可能である。
以下の（１）は、以下の（３）を実行する。
以下の（１）は、それを、以下の（２）に対して、実行する。

（１）
女性。
（２）
男性。
（３－１）
社会的な支配。
（３－２）
社会的な差別。

上記については、以下が可能である。
その表現を、以下のように、言い換えること。

（Ｘ－３。簡易表現。）
社会規範。

社会における、以下の永続。
（３－１）
女性による、男性支配。
（３－２）
女性による、男性差別。

////////////////////

（Ｘ－４）
社会規範。

以下の永続。
以下の（１）に対して。
以下の（２）は、以下の（３）の内容を求める。

その結果。
以下の（１）に対して。
以下の（２）は、以下の（４）の行為を実行する。

（１）
女性。
（２）
男性。
（３）
彼女の女性器。
彼女の女体。
（４）
依存。
従属。
隷従。

上記については、以下が可能である。
その表現を、以下のように、言い換えること。

（Ｘ－４。簡易表現。）
社会規範。
社会における、以下の永続。
男性。
その性欲。
その強力さ。

（Ｘ－４）の社会規範。
それは、上記の（２）について、以下の（４）になる。
それは、以下の（３）に関して、そうなる。
（３）
その人生。
（４）
仇。

////////
（Ｘ－５）

社会規範。

以下の永続。

以下の（２）に対して。
以下の（１）は、以下の（３）の内容を、実行する。
以下の（１）は、それを、以下の（４）の態度で、実行する。

（１）
女性。

（２）
男性。

（３）
////
彼女自身の女性器。
彼女自身の女体。
//

彼女は、それらを、貸し出す。
それは、有償である。
////

（４）
それは、恩寵である。
それは、慈悲である。

その結果。
上記の（１）に対して。
上記の（２）は、以下の（５）の状態に、陥る。

（５）
彼は、以下が必須になる。
彼は、上記の（１）に対して、以下の（６）を実行する。

（６）
彼は、代償を支払う。
彼は、そのために、上記の（１）に対して、以下の（８）を実行する。
彼は、それを、以下の（７）の期間、実行する。

（７）
一生。

（８）
彼は、以下を実現する。
彼は、以下を生み出す。
配当。

彼は、そのために、以下の存在になる。
企業家。

その結果。
彼は、上記の（１）のために、以下の行為を実行する。

彼は、それを、上記の（１）から、強制される。
働くこと。
労働。

上記については、以下が可能である。
その表現を、以下のように、言い換えること。

（Ｘ－５。簡易表現。）
社会規範。
社会における、以下の永続。
男性。
その強制労働。
その、女性による強制。

男性の運命。
それは、以下である。
女性の経済的奴隷。

それは、男性にとって、以下の期間続く。
一生。

それは、男性にとって、決定的である。
それは、男性にとって、不可避である。

//////////////////////
（Ｘ－６）
社会規範。

次の（Ａ）は、以下の（Ｂ）を実現する上で、以下の（Ｃ）の内容に相当する。

（Ａ）
以下の永続。
以下の（３）について。
以下の（２）は、以下の（５）の欲求を、持つ。
それは、以下の（４）の状態である。
以下の（１）は、以下の（３）を所有する。

（１）
女性。
（２）
男性。
（３）
彼女の女性器。
彼女の女体。

（４）
その発生は、生理的である。
その発生は、恒常的である。

その程度は、とても強力である。

（５）
性欲。

（Ｂ）
以下の永続。

上記の（１）は、以下の（７）の状態を、実現できる。
上記の（１）は、それを、以下の（６）の存在として、実現できる。
上記の（１）は、それを、以下の（８）の内容で、実現できる。

（６）
人生投資家。
（７）
配当生活。
その持続。

（８）
持続しやすさ。
その程度は、極めて、安定的である。

（Ｃ）
基盤。
それは、とても重要である。

（2020年5月初出）

性的搾取。

性的搾取。その内容の分類。

性的搾取。
その内容の分類。

（１）
それらは、以下の二種類である。
//
男性による、女性に対する搾取。
女性による、男性に対する搾取。
//

（２）
それらは、以下の二種類である。
//
身体的な搾取。
経済的な搾取。
//

（１）
身体的な性的搾取。

（１ー１）
男性による、女性への、身体的な性的搾取。
男性は、以下の内容を、女性に対して、強制する。
男性自身が所有する、性的欲求。
その、はけ口となること。
男性は、女性に対して、以下の行為を、実行する。

交際の前。
セックスの前。
性的に、しつこく付きまとうこと。
セックスを、絶えず要求すること。

セックスの開始後。
セックスの相手の女性。
彼女に対する、前戯。
それを、いい加減に行うこと。
それを、省略すること。

セックス中。
セックスの相手の女性。
彼女を、性的に興奮させること。
それを、考慮しないこと。
その結果。
彼自身だけで、一人で、自分勝手に、性的に絶頂すること。
セックスの相手の女性。
彼女が、性的絶頂に達しないこと。
その発生。
それを、考慮しないこと。
それを、そのまま放置すること。

セックスの後。
セックスの相手だった女性。
彼女に対して、性的に醒めること。
彼女に対して、性的に飽きること。
その結果。
セックスの相手だった女性。
彼女を、邪険に扱うこと。

（１－２）
女性による、男性への、身体的な性的搾取。

（１－２－１）
女性は、以下の内容を、男性に対して、強制する。
彼女自身が所有する、性的欲求。
その、はけ口となること。
女性は、男性に対して、以下の行為を、実行する。

彼女自身が所有する、性的欲求。
それが、強力であること。
その結果。

男性に対して、以下の内容を、要求すること。
彼女自身が、性的に興奮すること。
その実現。

彼女に対して、以下の内容を、上手に行うこと。
優しい配慮を、すること。
優しい言葉を、掛けること。
彼女を、褒めること。
その言葉を、掛けること。

彼女自身の性感帯。
それに対して、愛撫を、行うこと。

上記の内容。
その実行。
それが、徹底的であること。
それが、十分に、繊細であること。
それが、以下の場所を、確実に捉えていること。
彼女自身にとっての、急所。

セックスに必要な身体運動。
そのほとんどを、男性に、やらせること。

彼女が、男性に対して、行うこと。
それは、以下の内容である。
彼女自身の女体。
それを、提供すること。
彼女自身の女性器。
それを、提供すること。

彼女自身の身体。
その性的な反応。
その性的な興奮。
それらの表現。
それらを、十分に、提供すること。
それらを、十分に、視聴させること。
例。
喘ぎ声を出すこと。
愛液を出すこと。
けいれんさせること。

上記以外。
その全てを、男性にやらせること。
彼女自身は、特に、何もしないこと。
彼女自身は、横になっているだけであること。

性的絶頂。
性的満足。
彼女自身が、それらの状態に達すること。
セックスの相手の男性。
彼が、そのことを、繰り返し、実現させること。
それを、短時間のうちに、頻繁に発生させること。

それを、長時間にわたって、連続的に発生させること。
それを、以下の状態が発生するまで、休まずに、発生させること。
彼女自身が、性的に十分に満足すること。

上記の内容を、彼に対して、強制すること。
そのために、彼に対して、以下の内容を、要求すること。
セックスの経験。
それが、豊富であること。
セックスにおける、高度なテクニック。
その内容を、既に習得していること。
そのレベルが、十分に高いこと。
その実現のために、彼を、性的に、こき使うこと。
その実現において、以下の内容を、考慮しないこと。
セックスの相手の男性。
彼自身の、性的側面における、持続能力。
彼自身の、性的側面における、疲労の度合い。

その実現。
それが、十分でなかった場合。
例。
セックスの相手の男性。
彼が、途中で、性的に疲れ果てること。
彼が、早漏であること。
彼が、遅漏であること。

セックスの相手の男性。
彼に対して、不機嫌になること。
彼に対する態度を、冷たくすること。

そのことで、彼に、以下の内容を、やらせること。
彼女自身に対する、ご機嫌取り。

彼に対して、以下の内容を、考えること。
浮気。
離婚。

（１－２－２）
女性は、以下の内容を、男性に対して、強制する。
彼女自身。
その自己保身。
その安全の確保。
それを、実現させること。

その力。
その技術。
その網羅性。
その時間的な切れ目の無さ。
それらが、十分に、高いこと。

その実現。
それらを、彼自身のみで、全て、完結させること。

彼女自身は、特に、何もしないこと。

彼女自身の手を、煩わせること。
その状態の発生。
それを、全て、回避すること。

例。
彼女自身の生物。
彼女自身の身体。
彼女自身の精神。
それらを、護衛すること。

以下のような存在になること。
彼女自身にとっての身代わり。

リスク。
危険。
それらを、彼自身のみで、全て、背負うこと。

チャレンジ。
その実行。
それを、彼自身のみで、全て、完結させること。
彼女自身を、その中に、決して、巻き込まないこと。

（１－２－３）
女性は、以下の内容を、男性に対して、強制する。
彼女自身。
その弱い筋力。
それに対する補助。

男性自身の筋力。
それを増強すること。

苛酷な肉体労働。
それに従事すること。

それらを、以下の状況において、十分に、実現させること。
彼女自身の生活中。

（２）
経済的な性的搾取。

（２－１）
女性による、男性への、経済的な性的搾取。
女性は、男性に対して、以下の内容を、貸し出す。
彼女自身の女体。
彼女自身の女性器。

女性は、その見返りとして、男性に対して、以下の内容を、実行する。

彼女自身に対する、経済的な奉仕。
その実行を、彼に対して、強制すること。
その内容。
彼に対して、貢物を、絶えず要求すること。
例。
食事。
物品。
お金。

彼を、企業へと、送り込むこと。
彼を、その場所で、労働させること。
その労働。
その内容。
それは、強制的である。
それは、奴隷と同様である。
それは、過酷である。

その結果。
彼が得る、経済的な対価。
彼が得る、社会的な地位。
彼が達成する、社会的な業績。
それらを、配当として、彼から、一方的に受け取ること。
彼女自身は、彼に対して、経済的には、何も提供しないこと。

その結果。
彼女自身は、以下の内容の生活を、実行すること。
男性からの配当生活。
その内容。
彼女自身は、特に、何も働かないこと。
彼女自身は、楽をすること。
彼女自身は、優雅に暮らすこと。

そのような生活を、一生にわたって、謳歌すること。

特に、女性優位社会の場合。
例。
日本の社会。

女性は、以下の内容を、実現する。
家計の財布の紐。
それを、一方的に握ること。
男性を、そこから、締め出すこと。
男性に対して、毎日、わずかな小遣いを、一方的に与えること。

男性を、毎日、企業へと強制的に送り出すこと。
そのことにより、男性に対して、以下の内容を、強制すること。
//
働くこと。
稼ぐこと。
休まないこと。
//
それらを、毎日、生涯にわたって、続けること。

彼女自身は、それらについて、何もしないこと。

そうして得られた、家計のお金。
それを、消費すること。
そのことを、自由に行うこと。
そのことを、好き勝手に、行うこと。
その決定の権限。
彼女が、それを、占有すること。

それらを可能にする、権力。
彼女が、それを、全面的に掌握すること。

女性のパートナーの男性。
彼は、彼女のために、彼自身の人生を犠牲にして、働き続けた。
彼は、家計の全てのお金を、稼いだ。
彼女が、彼を、家計管理の場から、締め出すこと。
そのことの実現。
それが、社会的に、全面的に、容認されていること。
それが、社会的に、全面的に、推奨されていること。

（２－２）
男性による、女性への、経済的な性的搾取。
男性が、女性に対して、セックスを行った後。
男性が、そのまま、女性の前から、消えていなくなってしまうこと。
それは、以下の内容である。
男性による、女性に対する、セックスのやり捨て。

その女性が、妊娠して、出産した場合。
その子供の遺伝子情報。
それは、その男性からも、半分、来ている。
その子供の身体の半分。
それは、その男性自身である。
その子育てに掛かる費用。
それは、上記の点からは、男女間で、折半する必要がある。

しかし、その男性は、女性の前からは、逃げてしまっている。

その子育てに掛かる費用。
その男性は、それを、一切負担しないままである。
その結果。
以下の状況が、発生する。
子育てに掛かる費用。
子育てに掛かる労力。
それを、その女性が、全て負担すること。
その男性が、取る行為。
それは、以下の内容である。
本来、負担すべき費用。
それを、払わないこと。
本来、負担すべき労力。
それを、提供しないこと。

それらに対する、肩代わり。

その男性は、それを、強制的に、その女性に対して、押し付けている。

それは、以下の内容に、該当する。
男性による、女性に対する、経済的な搾取。

（初出2020年12月）

女性による、男性からの経済的な性的搾取。その発生のメカニズム。

以下の（１）は、以下の（２）に対して、以下の（３）を、実行する。

（１）
女性。
（２）
男性。
（３）
経済的な性的搾取。

以下の（１－１）は、以下の（２－１）に対して、以下の（３－１）を、実行する。
以下の（２－１）は、以下の（４－１）の目的のために、以下の（１－１）に対して、以下の（５－１）を実行する。

（１－１）
設備の所有者。
資本家。
例。
工場の設備。その所有者。
（２－１）
設備の借用者。
労働者。
（３－１）
彼らのことを、経済的に、思い切り搾取すること。
彼らに対して、低賃金を支払うだけで、済ませること。
（４－１）
生計を立てること。
報酬を獲得すること。
賃金を獲得すること。
そのために、働くこと。
そのために、設備を使用すること。
そのために、設備を借用すること。
（５－１）
上記の（１－１）が所有する設備を、借用すること。
その許可を、上記の（１－１）から、得ようとすること。
そのために、上記の（１－１）が出す、以下の（５－１－１）の内容に対して、以下の（５－１－２）行動を実行すること。
（５－１－１）
彼らを、強制労働に従事させること。

（５－１－２－１）
文句を言わずに、おとなしく従い続けること。
過重労働を、ずっと続けること。
（５－１－１－２）
彼らに対して、経済的な搾取を、一方的に、行うこと。
（５－１－２－２）
それに対して、文句を言わずに、おとなしく従い続けること。
経済的搾取を、ずっと受け続けること。

以下の（１－２）は、以下の（２－２）に対して、以下の（３－２）を、実行する。
以下の（２－２）は、以下の（４－２）の目的のために、以下の（１－２）に対して、
以下の（５－２）を実行する。

（１－２）
生殖の設備。
例。
//
女性器。
女体。
//

その所有者。
資本家。

女性。
（２－２）
生殖の設備。
その借用者。
労働者。
男性。

（３－２）
彼らのことを、経済的に、思い切り、搾取し続けること。

彼らに対して、以下の内容を、実行すること。
彼女自身に対する、経済的な朝貢。
それを、生涯にわたって、強制し続けること。

（４－２）
そのような生殖の設備。
その使用に伴って、以下の内容を、獲得すること。
//
強烈な性的刺激。
それを、一時的に、体験すること。
//
彼ら自身の、遺伝的子孫。
それを、後世に、残すこと。
//

そのために、設備を使用すること。
そのために、設備を借用すること。

（５－２）
上記の（１－２）が所有する設備を、借用すること。
その許可を、上記の（１－２）から、得ようとすること。
そのために、上記の（１－２）が出す、以下の（５－２－１）の内容に対して、以下の（５－２－２）の内容を、実行すること。

（５－２－１－１）
彼女自身の所有設備。
生殖の設備。
女性器。
女体。
彼らが持つ、その使用に対する、生得的な欲求。
その強烈さ。
その永続性。

彼らが持つ、そうした弱み。
それに対して、付け込むこと。

そのために、彼らに対して、以下の行為を実行すること。

彼女自身の所有設備。
生殖の設備。
女性器。
女体。
その使用許可。
それを、彼らに対して、与えること。
その行為は、彼女自身の恩寵であること。

その代わりに、その見返りとして、以下の行為を実行すること。
//
彼らを、過重な労働に、追い込むこと。
彼らを、長時間にわたって、働かせ続けること。
彼らを、強制労働に、従事させること。
//
上記の行為を、生涯にわたって、持続させること。

（５－２－２－１）
文句を言わずに、おとなしく従い続けること。
過重労働を、ずっと続けること。

（５－２－１－２）
彼らに対して、経済的な搾取を、一方的に、行うこと。

（５－２－２－２）
それに対して、文句を言わずに、おとなしく従い続けること。
経済的搾取を、ずっと受け続けること。

設備の所有者は、設備の借用者より、その地位や立場が、上位である。
設備の所有者は、その強い立場を利用する。
設備の所有者は、設備の借用者に対して、強制的に、彼自身の言うことを聞かせる。

その結果。
設備の所有者は、設備の借用者を、経済的に、社会的に、搾取し続ける。

そのことの実現。
それは、十分に可能である。

上記の場合。
設備の所有者を、女性に、置き換えて、考えること。
設備の借用者を、男性に、置き換えて、考えること。
そのことで、以下の内容が、説明できる。
生殖面で、女性は、設備の所有者であること。
生殖面で、男性は、設備の借用者であること。

男性は、以下のような存在である。

以下の行為を、生涯にわたって、実行し続けること。
女性が所有する、生殖の設備。
その借用。
それを、求め続けること。
そのために、必死になること。

それは、強力である。
それは、恒常的である。
それは、永続的である。

そのように、遺伝的に決定されていること。
そうした存在。

男性は、以下のような存在である。

女性が所有する、生殖の設備。
それを使用すること。
そのことで、強力な性的刺激を得ること。
そのことで、その都度、性的絶頂に達すること。

そうした性的欲求。
それを、回避すること。
そのことが、全面的に、不可能であること。

その強力な性的衝動。
その発生。
それを、遺伝的に、強制されていること。

男性。
彼は、以下の性質を、持つ。
//
女性が所有する、生殖の設備。
女性器と女体。
それらを、求め続けること。
そうした精神状態。
それは、いつの間にか、発生すること。
それは、いつも、恒常的に、発生すること。

女性が所有する、生殖の設備。
女性器と女体。
それらに対して、性的に即座に興奮すること。
そうした精神状態。
女性が所有する、生殖の設備。
女性器と女体。
それらに対する、全面的な精神的依存。
そうした状態。

そのような精神状態。
その永続。
それを、遺伝的に、強制されていること。
//

男性。
彼は、そのため、以下の性質を、持つ。
//
女性から、生殖の設備を借りずに、済ませること。

そのことが、不可能であること。
そのことが、根本的に、困難であること。

それは、生涯にわたって、そうであること。
それは、一瞬であっても、そうであること。
//

設備の所有者。
設備の借用者。
彼らの間における、上下関係の発生。
その、生殖面における、発生。
そのことを、考慮する場合。

設備の所有者。それは、女性であること。
設備の借用者。それは、男性であること。

その結果。
生殖の面において。
女性が上位者であること。
男性が下位者であること。

そのことで、以下の内容が、発生すること。
女性による、男性に対する、経済的な搾取。
その配当の原資としての、男性の過重労働。
それを、女性が、男性に対して、日常的に、強制すること。
そのことが、女性にとって、恒常的に、実施可能であること。

（初出2021年3月。）

身体構造における、男女の性差。過重労働への適合性との関連。

女性の身体。
それは、以下の（１）のような造りには、特になっていない。

男性の身体。
それは、以下の（１）のような造りに、特化している。

（１）
過重労働を、続けること。
それを、前提とすること。
そのような、造り。

そのことは、両者の間における、根本的な相違点である。
それは、男女の間における、根本的な性差の現れである。

女性の身体。
それは、以下の（２）のような造りに、特化している。
（２）
男性に対する、経済的な性的搾取。
その行為を、生涯にわたって続けること。
それを、前提とすること。
そのような、造り。

女性の身体。
それは、以下の（２－１）のような造りに、特化している。
（２－１）
男性に、強制的な過重労働を、連続して行わせること。
その結果。
男性が、女性に対して、経済的な配当を、差し出すこと。
そのような経済的な配当。
それを、専ら、得ること。
そのことで、彼女自身の生計を、立てること。
その結果。
彼女自身は、過重労働を一切せずに、暮らし続けること。
彼女自身は、そうして、ずっと、優雅に、気楽に、暮らし続けること。
その行為を、生涯にわたって続けること。
それを、前提とすること。
そのような、造り。

女性たち。
仮に、彼女たち自身が、強制的な過重労働を、連続的に行った場合。
彼女たちは、身体を壊して、働けなくなる。
例。
ケーキ屋の職人。
それは、女性の職業人気が、とても高い。
しかし、それは、実態を反映していない。

実際に、その職人として残る存在。
それは、男性ばかりである。
その理由。
ケーキ屋の職人。
その労働は、とても過重である。
それに耐えられる存在。
それは、以下のような存在に限られる。
過重労働に耐える身体。
それを生得的に持つ存在。
男性。

（初出2021年3月。）

女性による、男性に対する、性的搾取。それらの分類。

性的搾取。
それは、性差に基づく、一方の性による、他方の性に対する搾取である。

女性による、男性に対する、性的搾取。
それは、以下のように、分類可能である。

（１）
経済的搾取。
稼ぐ行為。男性に対して、その内容を強制すること。そのことで、彼女自身は、稼がずに済むこと。そのことで、女性が、経済的な報酬や余裕を、労せずして、一方的に、手に入れ、消費すること。その恒常的な実施。
そのことは、女性の持つ、以下の性質に対応する。女性は、身体の仕組みが精巧なため、作業負荷に弱く、作業面で無理が効かないこと。

（２）
セキュリティ的搾取。
脅威への直面。死への直面。男性に対して、それらの内容を強制すること。そのことで、女性が、安全や安心を、一方的に手に入れること。その恒常的な実施。
武器の酷使。死や負傷に対する恐怖感の、恒常的な覚醒。女性は、男性に対して、それらの内容を強制する。
それらのことは、女性の持つ、以下の性質に対応する。生物学的貴重性と、それに基づく、強烈な自己保身性。

（３）
温室的環境の搾取。
苦役への直面。悪条件の環境への直面。男性に対して、それらの内容を強制すること。そのことで、女性が、楽さや、快適さを、一方的に手に入れ、享受すること。温室的環境の、一方的な入手。その当然視を、行うこと。その恒常的な実施。
身体の酷使。筋力の酷使。痛さや辛さや苦しさの感覚の、恒常的な覚醒。女性は、男性に対して、それらの内容を強制する。
それらのことは、女性の持つ、以下の性質に対応する。女性は、身体の仕組みが精巧なため、作業負荷に弱く、作業面で無理が効かないこと。生物学的貴重性と、それに基づく、強烈な自己保身性。

（４）
性的快感の搾取。
男性器の酷使。性感帯の愛撫と、膣内射精。女性が性的に満足するまで、それらの行為を、延々と続けること。男性に対して、それらの内容を強制すること。そのことで、女性が、性的快感や、性的絶頂を、労せずして、一方的に、手に入れること。その恒常的な実施。
そのことは、女性の持つ、以下の性質に対応する。主要な生殖設備の占有と、それに基づく、既得権益者としての、社会的上位者気取りの、高慢な性格。

女性による、それらの実現の容易化。
女性による、それらの隠蔽。
その方法。
それは、以下の内容である。
彼女自身を、一方的に、弱者に見せること。弱い振りをすること。
男性のことを、強者として、一方的に、おだてること。

（2022年1月初出。）

セックスのやり捨て。托卵。それらの行為が持つ、共通性。

男性による、女性に対する、セックスのやり捨て。
女性による、男性に対する、托卵。
上記の双方の行為。
それらは、男女それぞれにおいて、以下のような行為である。
//
自然に考え付き、実行しようとすること。
相手の異性に対する罪悪感を、特に感じないこと。
やった者勝ちであること。
感覚的に、普通であること。
感覚的に、自然であること。
遺伝的な基盤。
それに、強固に基づいていること。
//

どちらの行為も、相手の異性にとって、以下のようなダメージが、とても大きい。
人生面でのダメージ。
そのダメージは、以下の時点で、生じる。
その行為。
それを、彼ら自身のパートナーから実行されること。
その後。
その効果が、顕在化すること。
その時点。

（Ａ）
ダメージを受ける側。
それが、女性である場合。

男性による、女性に対する、セックスのやり捨て。
その結果。
女性は、以下の内容を、強制される。

彼女自身が望まない、妊娠。
妊娠の相手の男性。
彼と、彼女自身との間で、関係を持たなくなっていること。
その結果。
妊娠の相手の男性に対する、経済的な搾取。
その実行が不可能な状態。
その発生。
その結果。
彼女自身における、絶対的な貧困の状態。
その発生。
その持続。
そのことが確定すること。

子育て。
それを、以下のような状況の下で、実行すること。
//
妊娠の相手の男性からの、子育ての費用の回収。
それが、困難であること。

彼女自身が、経済的に絶望的であること。
彼女自身が、一人であること。
彼女自身が、孤独であること。
//
そのような行為。
その持続。
それが、生涯にわたること。

それは、男性による、女性に対する、ただ乗りである。
それは、男性による、女性に対する、経済的な搾取である。
それは、男性による、女性に対する、人生面における、搾取である。

（Ｂ）
ダメージを受ける側。
それが、男性である場合。

女性による、男性に対する、托卵。
その結果。

（１）
男性。

以下の二者の間に生まれた、子供。
（２）
上記の（１）。
彼のパートナーに当たる女性。
（３）
上記の（２）。
彼女の不倫相手に当たる男性。

そのような子供。
それは、上記の（１）にとって、以下の内容である。

彼自身の遺伝的子孫。
そのことに該当する要素。
それがゼロであること。

彼自身とは何ら無関係な存在であること。

上記の（３）。
その男性の遺伝的子孫。

上記の（１）。
彼が、そうした子供について、子育てを、行うこと。
彼が、その実現のために、以下の内容の人生を、送ること。

以下の行為を、上記の（２）と（３）の存在から、一方的に、受け続けること。
//
稼ぎを得る労働。
その強制。
//
経済的な搾取。
//

上記の（１）。
彼による、そのような人生。
それは、以下のような内容である。
//
それは、彼自身の利益には、全くならないこと。
それは、彼自身にとって、無駄であること。
それは、彼自身にとって、無意味であること。
//

上記の（１）。
彼による、そのような人生。
その発生。
その持続。
彼自身は、そのことに、何ら気づかないままであること。
彼は、そのままの状態で、人生を、ずっと送ること。
彼は、そのままの状態で、人生を、終えること。
彼は、以下の内容を、後世に残せないまま、消滅すること。
彼自身の遺伝的子孫。

そうした悲惨な人生。
上記の（１）が、それを、上記の（２）から、強制されること。
上記の（２）。
彼女は、上記の（１）に対して、托卵の真実を、故意に隠蔽した。

上記の（２）。

彼女が、上記の（３）の存在を、上記の（１）の存在よりも、優先させること。
彼女が、そのことを、以下の（４）の内容に基づいて、実行すること。
（４）
その考えは、自然である。
その考えは、当たり前である。

上記の（２）。
彼女が、以下の内容の実現を、図ること。
上記の（３）の遺伝的子孫。
その生存。
その存続。

上記の（２）。
彼女が、そのために、上記の（１）に対して、以下の（５）の行為を、実行すること。
彼女は、その行為を、以下の（６）の態度で、実行すること。
（５）
彼の生涯。
それを、丸ごと、犠牲にすること。
（６）
平然としていること。

上記の（２）。
彼女が、そうした企みを、以下の（７）の態度で、実行に移すこと。
（７）
//
その実行を、自然に思い付くこと。
その実行に対して、特に罪悪感が無いこと。
その実行に対して、ためらいが無いこと。
//

そうした主犯に当たる行動主体。
そうした企みを、難なく成功させる能力。
妊娠の相手の男性。
それが本当は誰なのか？
その真実を、周囲の全員に対して、完全に隠蔽すること。
それを、容易に実現可能な能力。
それらの能力を、生まれながらに、高度に保持すること。
そうした主体。
それらの真の主体。
それが、女性である。

上記の（Ｂ）。
女性による、男性に対する、托卵。

（１）
女性。
彼女が、複数の男性と、同時に交際中だった場合。

（２）
そのうちの一人の男性。

彼女は、上記の（２）から、以下の内容について、宣告を、受けた。

彼女とのセックス。それが、彼にとっては、只のやり捨てであること。
彼は、生まれて来る子供に対して、経済的な負担をしないこと。

彼女は、その後、以下の内容の子供を、妊娠した。
上記の（２）との間の子供。

上記の（１）。
彼女が、上記の（２）に対して、以下の（３）の状態である場合。
（３）
好意や愛情を、保持し続けていること。

上記の（B）。
それは、上記の（１）が、以下の目的のために、行う。
//
彼女自身が真に欲しい子供。
その子育て。
その実現。
//

（１）
女性。
彼女が、複数の男性と、同時に交際中だった場合。

（４）
そのうちの一人の男性。
彼は、上記の（１）にとって、上記の（２）とは別の交際相手に、該当する。
上記の（１）が内包する、真の事情。
彼は、その内容を、知らない。

上記の（１）が、上記の（４）に対して持つ、好意。
そのレベル。
それが低めである場合。
上記の（４）の人生を、潰すこと。
上記の（１）が、そのことに対して、罪悪感を、特に感じない場合。
上記の（４）が、経済力がある場合。

上記の（１）が、上記の（４）に対して、以下の（５）の行為を実行すること。
真の情報を、隠蔽し続けること。
それを、生涯の主要期間において、行うこと。
それを、平然と、行うこと。

以下の（１）が、以下の（２）の状態において、以下の（３）を実行すること。
（１）
男性。
女性。
その双方。

（２）
異性との交際中。
（３）。
二股や、それ以上の、複数の異性関係。
それらを、同時に進行させていること。
彼らにとって、それが、普通であること。

それらは、以下の内容である。
婚姻前の不倫。
婚姻後の不倫。
不倫。
それは、男女の関係において、不可避である。
不倫の結果。
交際相手の異性のうち、かなりの数の者。
彼らは、パートナーが持つ好意の対象から、外れる。
彼らは、パートナーの異性から、一方的に捨てられる。
彼らは、パートナーの異性から、以下のような存在として、扱われる。
性的搾取。
それを行うための、只の道具。

性的搾取。

（１）
それらは、以下の二種類である。
//
男性による、女性に対する搾取。
女性による、男性に対する搾取。
//

（２）
それらは、以下の三種類である。
//
身体的な搾取。
経済的な搾取。
人生面における、搾取。
//

男性による、女性に対する、セックスのやり捨て。
それは、以下の内容である。
//
男性による、交際相手の女性に対する、身体的な搾取。
男性による、妊娠相手の女性に対する、経済的な搾取。
男性による、妊娠相手の女性に対する、人生面における、搾取。
//

女性による、男性に対する、托卵。
それは、以下の内容である。
//
女性による、托卵相手の男性に対する、経済的な搾取。
女性による、托卵相手の男性に対する、人生面における、搾取。
//
女性による、不倫相手の男性に対する、身体的な搾取。

不倫相手の男性。
彼は、以下のような存在である。
女性自身が、性的な好意を寄せる対象。
//

それらは、双方ともに、性的搾取に当たる。
それらは、双方ともに、双方の性によって、以下のような態度で、行われる。
//
自然であること。
罪悪感が、無いこと。
//

それらは、双方ともに、以下のような結末を、もたらす。
実行のターゲットとなった相手の異性。
その人生を、潰してしまうこと。

それらがもたらす結果。
それは、双方ともに、以下の（１）の存在にとって、以下の（２）の内容に、該当する。
（１－１）
交際相手の異性。
彼らは、以下の存在に、該当する。
それらの実行のターゲットとなった相手。
（２－１）
悲惨そのもの。

（１－２）
交際相手の異性。
彼らは、以下の存在に、該当する。
それらの実行主体。
（２－２）
幸せそのもの。

それらは、男女のそれぞれにおいて、以下の内容である。
性的搾取。
それに該当する行為。
それを、引き起こす、プログラム。
それは、遺伝的に内蔵されている。
それは、生得的である。
それは、自然である。
それは、罪悪感を伴わない。

社会分類との関連。
（１－１）
一夫一妻制の社会の場合。
上記の二つの行為は、発生しやすい。
（１－２）
一夫多妻制の社会の場合。
上記の二つの行為は、発生しにくい。
男性は、以下の（１－２－１）の行為を、以下の（１－２－２）の内容として、考える。

（１－２－１）
彼自身の全ての遺伝的な子供。
その子育て。
それを、全面的に、引き受けること。
それを、実行すること。
（１－２－２）
//
自然なこと。
当然なこと。
//

男性は、そのため、以下の（１－２－３）の内容を、特に感じない。
（１－２－３）
男性による、女性に対する、セックスのやり捨て。
それを実行することの必要性。

（２－１）
男性において、経済的な余裕が、不足しがちであること。
そうした社会の場合。

上記の二つの行為は、発生しやすい。

（２－２）
男性において、経済的な余裕が、十分に保持されがちであること。
そうした社会の場合。
上記の二つの行為は、発生しにくい。
男性は、以下の（２－２－１）の実現のために、以下の（２－２－２）を実行することが、可能である。
（２－２－１）
彼自身の全ての遺伝的な子供。
その子育て。
（２－２－２）
経済的な性的搾取。
それを、余裕を持って、受容すること。

男性は、そのため、以下の（２－２－３）の内容を、特に感じない。
（２－２－３）
男性による、女性に対する、セックスのやり捨て。
それを実行することの必要性。

(初出2021年3月。)

性的放縦。

性的放縦。それについての見方の分類。

性的放縦。
生殖行為において、行為の相手を、どんどん変えること。
生殖行為において、行為の相手に関して、一途で無いこと。

//
性的放縦に対して、厳しい存在。
物事に対して、一途さを求める存在。例。異性の恋愛相手や配偶者に対して、一途な愛情を貫く者。
彼ら自身の遺伝的子孫が、将来にわたって確実に残ること。そのことを、確定したい者。
//

//
性的放縦に対して、寛容な存在。
物事に対して、変節を認める存在。例。異性の恋愛相手や配偶者に関して、愛情の対象の相手を、色々、変える者。
彼ら自身の遺伝的子孫が、将来にわたって確実に残ること。そのことについて、無頓着な者。
//

//
女性の性的放縦に対して、厳しい存在。
以下のような男性。
父親になる積もりの男性。
以下のような女性。
息子の母親。姑。小姑。

生まれて来る子供が、彼ら自身の遺伝的子孫であること。その保証を、持つことが出来ないこと。
そのことの回避。
そのことの禁止を、社会的に要求すること。
//

//
女性の性的放縦に対して、寛容な存在。
以下のような男性。
セックスが好きな男性。
多数の女性に対する種付けを、たくさん行いたい男性。

以下のような女性。
娘。娘の母親。嫁。
生まれて来る子供が、彼ら自身の遺伝的子孫であること。その保証を、持つことが出来ること。
そのことの実現が、確実であること。
//

//
男性の性的放縦に対して、厳しい存在。
女性。
そうした男性からは、妊娠しても、捨てられてしまい、子供の養育を、独力で行わなければならなくなる可能性が大きいこと。
そうした男性からは、経済的なサポートが得られなかったり、途絶えてしまう可能性が大きいこと。
男性。
彼ら自身による、女性との結婚や、女性への種付け上の、強いライバルになるため。
//

//
男性の性的放縦に対して、寛容な存在。
以下のような男性。
セックスが好きな男性。
以下のような女性。
男性の性的な欲求の強さに付け込んで、男性から最大限の経済的搾取を行いたい、女性。
//

生殖行為において、行為の相手に関して、一途さを求める者。
彼らが、性的放縦になる場合。

////
強姦。別の異性から、セックスを、強制されること。
不倫。別の異性からの性的誘引に、負けて、ついつい、セックスすること。
//
一時的な性的関係。直ぐに別れること。
性的関係の中期的な維持。結婚と離婚の繰り返し。
////

（2022年1月初出。）

追加内容。2023年5月中旬。男女の性差の物質的根源について。

私は、男女の性差の物質的根源について、新たな知見に到達した。以下は、その要約である。その詳細については、私の別の電子書籍を参照して下さい。
地球上の物質には、エネルギー性の物質と、保存性の物質が有る。
エネルギー性の物質は、動かす力を持つ。保存性の物質は、止める力を持つ。
エネルギー性の物質の代表は、気体である。保存性の物質の代表は、液体や、金属固体である。
生物一般は、液体性であり、保存性の物質の一員である。
生物のうち、ウィルスや精子や男性は、より気体性でエネルギー性の性質を持っている。彼らは、仕事や稼ぎに熱心である。彼らは、補給や治癒や保育といった保存行為が不得手である。彼らは、それらの行為を、液体性生物へと丸投げする。彼らは、生物の外延であり、生物界の周辺や外縁に位置する。
生物のうち、細胞や卵子や女性は、より液体性で保存性の性質を持っている。彼らは、補給や治癒や保育といった保存行為に熱心である。彼らは、仕事や稼ぎといったエネルギー的行為が不得手である。彼らは、それらの行為を、気体的生物へと丸投げする。彼らは、生物の代表であり、生物界の中心に位置する。
結局。男性性は、気体性のサブカテゴリであり、エネルギー性の物質の性質のサブカテゴリである。女性性は、液体性のサブカテゴリであり、保存性の物質の性質のサブカテゴリである。従来の男女の性差についての知見は、これらをサポートしている。
結局。男女の性差の存在の主張を、性差別的として否定すること。そのことは、気体と液体との性質差を否定することになる。それは、物理法則に大きく反する、不正直な行為となる。欧米や日韓のリベラルの人たちやポリティカル・コレクトネスの人たち。彼らは、今すぐ改心して、男女の性差の存在を認めるべきだ。
欧米や日韓におけるフェミニズム。
そうした思想は、今後は、以下の方向を取るべきでは無い。保存性物質としての女性

に、仕事や稼ぎをさせようとすること。女性の男性化。女性のエネルギー性物質化。そうした方向。
そうした思想は、今後は、以下の方向へと進むべきだ。女性本来の保存性を、更に強化する方向。

私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。

////
私は、以下の内容を、発見した。
男女の社会行動上の性差。
そのことについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

男女の性差。
それは、以下の内容である。
精子と卵子との、性質の差。
それらの、直接的な、延長であり、反映。

男女の社会行動上の性差。
それらは、以下の内容に、忠実に、基づいている。
精子と卵子との、社会行動上の差。

それは、全ての生物において、共通している。
それは、生物の一種としての人間にも、当てはまる。

男性の心身は、精子の乗り物に過ぎない。
女性の心身は、卵子の乗り物に過ぎない。

子孫の生育に必要な、栄養分と水分。
卵子は、それらの、所有者であり、占有者である。

生殖設備。
女性は、それらの所有者であり、占有者である。

卵子が占有する、栄養分や水分。
精子は、それらの、借用者である。

女性が占有する生殖設備。
男性は、それらの、借用者である。

所有者が上位者であり、借用者が下位者である。

その結果。
栄養分や水分の所有。
それらにおいては、卵子が上位者であり、精子が下位者である。
生殖設備の所有。
それらにおいては、女性が上位者であり、男性が下位者である。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、精子を、一方的に選別すること。
そのことで、精子に対して、受精を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、一方的に選別すること。
そのことで、男性に対して、婚姻を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の行為を、行う。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、様々な側面から、総合的に搾取すること。

卵子は、精子を、性的に誘引する。
女性は、男性を、性的に誘引する。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
それ自身の内部への、精子の進入。
そのことについての、許認可。
その権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
男性に対する、セックスの許認可。
その権限。

彼女自身が所有する生殖設備。
男性による、それらの、借用。
その許認可。
その権限。

男性からの求婚。
それに対する許諾。
その権限。

生物が、有性生殖を行う限り、以下の内容は、確実に存在する。
男女の社会行動上の性差。

男女の社会行動上の性差。
それらは、無くすことは、決して出来ない。

私は、以下の内容を、新たに説明する。

世界には、男性優位の社会だけでなく、女性優位の社会も、同様に、普通に、多数存在すること。

それは、以下の内容である。
女性優位社会の存在の明瞭性。
その、世界社会における、新たな再確認。

男性優位社会は、移動生活様式の社会である。
女性優位社会は、定住生活様式の社会である。

精子。
その乗り物としての、男性の心身。
彼らは、移動生活様式者である。

卵子。
その乗り物としての、女性の心身。
彼らは、定住生活様式者である。

男性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
欧米諸国。中東諸国。モンゴル。
女性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
中国。ロシア。日本。韓国や北朝鮮。東南アジア。

男性は、行動の自由の確保を最優先する。
男性は、上位者に反抗する。
男性は、下位者を、暴力で強引にねじ伏せて、服従させる。
男性は、以下の内容についての余地は、少しだけ残す。
下位者による反抗。
その可能性。
下位者による自由行動。
その可能性。
それらの余地。

男性優位社会は、暴力による支配を行う。

女性は、自己保身を最優先する。
女性は、上位者に対して、隷従する。

女性は、下位者を、隷従させる。

それは、以下の内容である。
//
最大限の高慢さと尊大さを、用いること。

下位者による反抗や自由行動。
それらの行動の余地を、完全に封殺して、一切不可能にすること。

それは、以下の内容である。
周囲の同調者と、予め、示し合わせて、行われること。
下位者による反抗を、一切、許さないこと。
下位者を、逃げ場の一切無い、密閉空間に監禁すること。
上位者の気が済むまで、粘着的に、行われれること。
下位者を、サンドバッグ代わりにして、一方的に、虐待し続けること。
//

女性優位社会は、専制による支配を行う。

欧米諸国と、ロシアや中国との、対立。
それらは、以下の内容として、十分に説明可能である。
男性優位社会と、女性優位社会との、対立。

移動生活様式は、男性優位社会を、生み出す。
そこでは、女性差別が起きる。
定住生活様式は、女性優位社会を、生み出す。
そこでは、男性差別が起きる。

女性優位社会では、以下の内容が、恒常的に発生する。
上位者としての女性による、以下のような行動。
自己弱者性についての、恣意的な連呼。
男性の強者性についての、恣意的な連呼。
それらは、以下の内容を、故意に隠蔽する。
女性の社会的優位性。
男性差別。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

女性優位社会における、その内部の機密性や閉鎖性や排他性。
その内部情報の非公開性。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

生物や人間の社会において、性差別を無くすこと。
その実現は、不可能である。
そうした試みは、しょせんは、綺麗事の理想の主張に過ぎない。
それらの行為は、全て無駄である。

男女の性差の存在を強引に否定すること。
性差別に反対すること。
欧米主導の、そうした社会運動。
それらは、基本的に、全て無意味である。

男女の性差の存在を前提とする、社会政策。
その展開が、新たに必要である。

////
私は、以下の内容を、発見した。
人間の本質。
それらについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

当方は、以下のような見方を、根本的に転換し、破壊する。

従来の、欧米やユダヤや中東による主導の、移動生活様式の思想。
それらは、人間と、人間以外の生物とを、峻別する。
それらは、以下の内容に基づく。
家畜の恒常的な屠殺。その必要性。
そうした見方。

私の主張は、以下の内容である。

人間の存在は、生物一般の存在へと、完全に包含される。
人間の本質は、以下の方法によって、より効果的に説明できる。
人間を、生物の一種として、眺めること。
人間の本質を、生物一般の本質として、捉えること。

生物の本質。
それは、以下の内容である。
自己の複製。
自己の存続。
自己の増殖。

それらの本質は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
私的な生きやすさ。
その、飽くなき追求。
それへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
有能性の獲得。
既得権益の獲得。
それらへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下の内容を、絶えず生じさせる。
生存における、優位性。
その確認。
その必要性。

そのことは、結果的に、生物の間に、以下の内容を、生み出す。
社会的優劣関係。
社会的上下関係。

そのことは、以下の内容を、必然的に生み出す。
上位者の生物による、下位者の生物に対する、虐待や搾取。

そのことは、生物に対して、原罪を、回避不可能な形で、もたらす。
それは、生物を、生きにくくする。

そうした原罪や生きにくさから逃れること。
その実現。
どんな生物も、その内容は、生きている限り、決し

て、実現出来ない。
それは、生物の一種である人間においても、同様である。
人間の原罪は、生物であることそのものにより、生じている。

////
私は、以下の内容を、新たに発見した。
従来の生物学において主流である、進化論。
それについて、以下の内容を指摘すること。
その内容面における根本的な誤り。
そのための、新たな説明。

それは、以下のような見方を、根本的に否定する。
人間は、生物の進化の完成形であること。
生物の頂点に、人間が、君臨すること。
そうした見方。

生物は、自己複製を、ひたすら、機械的に、自動的に、繰り返すだけである。
生物は、そうした点において、純粋に物質的な存在である。
生物は、進化への意思を、全く持たない。

生物の自己複製における突然変異。
それらは、純粋に、機械的に、自動的に、起きる。
それは、生物に対して、新たな形態を、自動的にもたらす。

従来の進化論の説明。
そうした新たな形態が、従来の形態よりも、優れていること。
そうした説明は、何も根拠が無い。

現状の、生物の一環としての人間の、形態。
それが、生物による自己複製の繰り返しの過程において、そのまま保たれること。
そうした保証は、一切無い。

生物を取り巻く環境は、常に、予想外の方向へと変化する。
以前の環境において適応的だった形質。
それらは、次の変化した環境においては、往々にして、以下のような形質となる。
その新たな環境に対して、不適応であること。

その結果。
生物の形態は、自己複製と突然変異により、常に変化する。
それは、以下の内容の実現を、全く保証しない。
より望ましい状態への進化。
その持続。

////
私の、上記の主張。
それは、以下の内容である。

世界の上位を独占する、世界一の既得権益者。
そうした、男性優位社会。
欧米諸国。
ユダヤ。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらは、彼らを中心として、生成されている。
それらの内容は、彼らが、彼ら自身が有利になるように、一方的に決定した。

それらの背景をなす、彼らの、伝統的な社会思想。
キリスト教。
進化論。
リベラリズム。
民主主義。
彼らにとって、一方的に有利な内容の、様々な社会思想。
それらの内容を、根本的に破壊し、封殺し、初期化すること。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらの決定のプロセスにおける、女性優位社会の関与の度合い。
その拡大。
その実現を、更に促進すること。

女性優位社会の内部における、根本的に生きづらい、社会的内実。
それは、上位者への隷従と、下位者への専制支配によって、完全に満たされている。
例。
日本社会の内実。

そうした不都合な社会的内実。
その発生メカニズムを徹底的に解明すること。
その結果の内容を、暴露し、内部告発すること。
そうした内容であること。

////
私の書籍。
それらの内容における、隠れた、重要な目的。
それは、以下の内容である。

女性優位社会の人々。
彼らは、今まで、以下の内容に頼るしか無かった。
男性優位社会の人々が、彼ら自身のために生成した、社会理論。

女性優位社会の人々。
彼らが、彼ら自身の社会を説明する、自前の社会理論。
彼らが、それを、自前で持つことが出来るようにすること。
その実現。

そのことによる、以下の内容の実現。
世界秩序の形成において、現在、優位に立っている、男性優位社会。
それらの弱体化。
女性優位社会の力の、新たな強化。
私が、それを、手伝うこと。

女性優位社会の人々。
彼らが、自前の社会理論を、いつまで経っても、なかなか持つことが出来ないこと。
その理由。
それらは、以下の内容である。

分析行動そのものを、心の底で、嫌っていること。
対象との一体化や、対象との共感を、対象の分析よりも、優先すること。

彼ら自身の社会が持つ、強い排他性や閉鎖性。
彼ら自身の社会の内実を解明されることに対して、強い抵抗感を持っていること。

彼ら自身の女性的な自己保身性に基づく、強い退嬰性。
未知の危険な領域を探査することを嫌うこと。
安全性が既に確立された、前例踏襲ばかりを優先する

こと。

前例の無い、女性優位社会の内実の探査。
そうした行動そのものを、嫌うこと。

前例としての、男性優位社会の社会理論。
その内容を、ひたすら暗記学習すること。
それしか、能力的に、出来ないこと。

（2022年3月初出。）

筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。

私の執筆の目的。
生物にとっての生きやすさ。生物にとっての生存可能性。生物にとっての増殖可能性。それを増大させること。
それは、生物にとって、一番、価値があることである。それは、生物にとって、本質的に、善である。それは、生物にとって、本質的に、光明性をもたらす。
社会的上位者にとっての善。それは、以下の内容である。最上位の社会的地位の獲得。覇権の獲得。獲得した既得権益の維持。
社会的下位者にとっての善。それは、以下の内容である。有能性の獲得による、社会的上昇。社会的革命の生成による、社会的上位者の既得権益の、破壊と初期化。
その実現に役立つ思想。真実。生物が、自分自身の真実を知ること。それは、生物にとって、冷酷で厳しく辛辣な内容である。その受容。その助けになる思想。それらを、効率良く生み出す方法。その確立。

私の方法論。
上記の目的。その実現に当たっての手順。その実現に当たっての勘所。その実現に当たっての注意点。それらは、以下の内容である。
ネット検索やネット閲覧によって、環境や生物社会の動向を常に俯瞰し観察し把握すること。それらの行為は、以下の内容の源泉になる。
環境や生物社会の真実や法則の解明において、説明力や説得力のあるアイデア。
あるアイデアによって、真実を８０％説明できそうな見通しが立った場合。そのアイデアの内容を、どんどん書き出して、体系化すること。真実に近そうな、説明力の高そうな思想を、独力で、どんどん生み出すこと。その行為を、最優先すること。
詳細な説明を後回しにすること。難解な説明を避けること。
過去の前例との照合は、後回しにすること。正しさの完全な検証は、後回しにすること。
簡潔で分かりやすく使いやすい法則の確立。その行為を、最優先すること。それは、例えば、以下の行為と同様である。簡潔で分かりやすく使いやすいコンピュータのソフトウェアの開発。

私の執筆における、理想とスタンス。

私の執筆における、理想。
それは、以下の内容である。
//
私が生成する内容の説明力の最大化。
そのためにかける手間や時間の最小化。
//

それらの実現のための方針やスタンス。それらは、下記の内容である。

私の執筆における、スタンス。

私が、文章の作成において、考慮する、根本的な方針。
それらの対比。
それらの主要な項目一覧。
それは、以下の内容である。

上位概念性。 / 下位概念性。
要約性。 / 詳細性。
根幹性。 / 枝葉性。
一般性。 / 個別性。
基本性。 / 応用性。
抽象性。 / 具体性。
純粋性。 / 混合性。
集約性。 / 粗放性。
一貫性。 / 変動性。
普遍性。 / 局所性。
網羅性。 / 例外性。
定式性。 / 非定式性。
簡潔性。 / 複雑性。
論理性。 / 非論理性。
実証可能性。 / 実証不能性。
客観性。 / 非客観性。
新規性。 / 既知性。
破壊性。 / 現状維持性。
効率性。 / 非効率性。
結論性。 / 中途性。
短縮性。 / 冗長性。

全ての文章において、内容面で、以下のような性質を、最初から、最上級の形で、実現すること。

概念上位性。
要約性。

根幹性。
一般性。
基本性。
抽象性。
純粋性。
集約性。
一貫性。
普遍性。
網羅性。
定式性。
簡潔性。
論理性。
実証可能性。
客観性。
新規性。
破壊性。
効率性。
結論性。
短縮性。

その実現を最優先して、文章の内容を、執筆すること。
その内容を、なるべく早く完成させること。
その内容を、書き上げた部分毎に、直ぐに、本文に、マージしていくこと。
それらを、最優先すること。
例。
固有名詞を、使わないこと。
ローカルな、抽象度の低い意味の語句を、使わないこと。

先進的なコンピュータプログラミング技術を、文章作成の方法へと、積極的に、応用すること。

例。
オブジェクト思考に基づく、文章作成の技術。
クラスとインスタンスの概念の、文章作成への応用。
上位クラスの内容の優先的な記述。

例。
アジャイル開発の方法の、文章作成への応用。
頻繁に、以下の行動を、繰り返すこと。
電子書籍の内容の、バージョンアップ。
その電子書籍ファイルの、公開サーバーへのアップロード。

私は、従来の学術論文の作成方法とは異なる方法を、採用している。
従来の学術論文の作成方法は、説明力のある内容の導出において、非効率である。

書籍の執筆における、私の視点。
それは、以下の内容である。

統合失調症の患者からの視点。
社会における、最下位者からの視点。
社会における扱いが、一番、劣悪な者からの視点。
社会から、拒絶され、差別され、迫害され、追放され、隔離された者からの視点。
社会不適応者からの視点。
社会で生きることを諦めた者からの視点。
一番、社会的ランクが下位の病気に罹患した患者からの視点。
社会における、一番の有害者からの視点。
社会における、一番の嫌われ者からの視点。
社会に対して、生涯、心を閉ざした者からの視点。
生物や人間に対して、根本的にがっかりした者からの

視点。
生物や人間に対して、絶望した者からの視点。
人生を諦めた者からの視点。
罹患した病気のせいで、彼自身の遺伝的子孫を残すことを、社会的に拒絶された者からの視点。
罹患した病気のせいで、極めて短命に終わること。そのことを、運命付けられた者からの視点。
罹患した病気のせいで、生きやすさや救いを、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、有能性を、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、生涯にわたって、社会から、虐待や搾取を受け続けること。そのことが、予め確定している者からの視点。
そうした者による、生物社会や人間社会に対する内部告発の視点。

私の人生目標。
それは、以下の内容である。
男女の性差。
人間社会や生物社会。
生物そのもの。
それらの本質を、自力で、分析し、解明すること。

そうした、私の人生目標は、以下のような人々によって、大きく妨害された。

男性優位社会の人々。例。欧米諸国。
そうした、男性優位社会によって支配されている、女性優位社会の人々。例。日本と韓国。
彼らは、女性優位社会の存在を、決して認めない。
彼らは、男女の本質的な性差を、決して認めない。

彼らは、男女の性差についての研究そのものを、社会的に、妨害し、禁止している。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

人間と、人間以外の生物との、本質的な共通性。
彼らは、それを、決して認めない。
彼らは、人間と、人間以外の生物とを、必死で、区別し、差別しようとする。
彼らは、人間の、人間以外の生物に対する優位性を、必死で、主張しようとする。

そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

女性優位社会の女性たち。例。日本社会の女性たち。
彼らは、女性優位社会における女性の優位性を、表向きは、決して認めない。
女性専用社会や、女性優位社会における、それらの社会の内部の真実。
彼らは、その公開を、決して認めない。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。
そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

上記のような人々。
そうした、彼らの態度は、私の人生目標を、根本的に、妨害した。
そうした、彼らの態度は、私の人生を、その土台から、狂わせ、破壊し、台無しにした。
私は、それらの結果について、とても怒っている。
私は、彼らに対して、鉄槌を下したい。
私は、彼らに対して、以下の内容を、何としてでも、

理解させたい。
私は、以下の内容を、何としてでも、自力で解明したい。
//
男女の性差における、真実。
人間社会や生物社会における、真実。
//

私は、人間社会を、冷静に、客観的に、分析したかった。
そこで、私は、人間社会から、一時的に、私自身を、隔離した。
私は、人間社会の俯瞰者となった。
私は、人間社会の動向を、ネット経由で、毎日、ひたすら、観察し続けた。

その結果。
私は、以下の内容を、手に入れた。
人間社会の全体を、最下位から俯瞰する、独自の視点。

その結果。
私は、以下の内容を、自力で、何とか、掴んだ。
//
男女の性差の本質。
人間社会や生物社会の本質。
//

その結果。
私は、新たな人生目標を、手に入れた。

私の、新たな人生目標。
彼らの社会的妨害に対して、対抗し、挑戦すること。
そして、以下の内容を、人々の間に広く知らせること。
//

私が自力で掴んだ、男女の性差の真実。
私が自力で掴んだ、人間社会や生物社会の真実。
//

私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍を作成している。
私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍の内容を、日々、熱心に、改訂し続けている。

（2022年2月初出。）

参考文献。

== 男女の性差。
/ 総説。

Bakan, D. The duality of human existence . Chicago: Rand-McNally. 1966.
Crandall, V. J., & Robson, S. (1960). Children's repetition choices in an intellectual achievement situation following success and failure. Journal of Genetic Psychology, 1960, 97, 161-168.(間宮1979 p178参照)
Deaux,K.: The Behavior of Women and Men, Monterey, California: Brooks/Cole, 1976
Goldstein, MJ (1959). The relationship between coping and avoiding behavior and response to fear-arousing propaganda. Journal of Abnormal and Social Psychology, 1959, 58, 247-252.(対処的・回避的行動と恐怖を誘発する宣伝に対する反応との関係)
影山裕子 : 女性の能力開発, 日本経営出版会, 1968
間宮武 : 性差心理学, 金子書房, 1979
皆本二三江 : 絵が語る男女の性差, 東京書籍, 1986
村中 兼松 (著), 性度心理学―男らしさ・女らしさの心理

(1974年) , 帝国地方行政学会, 1974/1/1
Mitchell,G. : Human Sex Differences - A Primatologist's Perspective, Van Nostrand Reinhold Company, 1981 (鎮目恭夫訳 : 男と女の性差 サルと人間の比較, 紀伊国屋書店, 1983)
Newcomb,T.M.,Turner,R.H.,Converse,P.E. : Social Psycholgy:The Study of Human Interaction, New York: Holt,Rinehart and Winston, 1965 (古畑和孝訳 : 社会心理学 人間の相互作用の研究,岩波書店,1973)
Sarason, I.G., Harmatz, M.G., Sex differences and experimental conditions in serial learning. Journal of Personality and Social Psychology., 1965, 1: 521-4.
Schwarz, O, 1949 The psychology of sex / by Oswald Schwarz Penguin, Harmondsworth, Middlesex.
Trudgill,P.:Sociolinguistics: An Introduction, Penguin Books, 1974(土田滋訳 : 言語と社会, 岩波書店, 1975)
Wallach M. A., & Caron A. J. (1959). "Attribute criteriality and sex-linked conservatism as determinants of psychological similarity. Journal of Abnormal and Social Psychology, 59, 43-50(心理的類似性の決定因としての帰属的規準性と性別関連の保守性)
Wright,F.: The effects of style and sex of consultants and sex of members in self-study groups, Small Group Behavior, 1976, 7, p433-456

東清和、小倉千加子(編) , ジェンダーの心理学, 早稲田大学出版部, 2000
宗方比佐子、佐野幸子、金井篤子(編), 女性が学ぶ社会心理学, 福村出版, 1996
諸井克英、中村雅彦、和田実, 親しさが伝わるコミュニケーション, 金子書房, 1999
D.Kimura, Sex And Cognition, MIT Press,Cambridge,Massachusetts, 1999. (野島久雄、三宅真季子、鈴木眞理子訳 (2001) 女の能力、男の能力 – 性差について科学者が答える – 新曜社)

E.Margolies,L.VGenevie, The Samson And Delilah

Complex,Dodd,Mead &Company, Inc.,1986(近藤裕訳 サムソン＝デリラ・コンプレックス －夫婦関係の心理学－,社会思想社,1987)

/ 各論。

// 男性単独。

E.モンテール (著), 岳野 慶作 (翻訳), 男性の心理―若い女性のために (心理学叢書) , 中央出版社, 1961/1/1

// 女性単独。

扇田 夏実 (著), 負け犬エンジニアのつぶやき~女性SE奮戦記, 技術評論社, 2004/7/6

// 男女間比較。

/// 1.能力における性差

//// 1.1 空間能力における性差

Collins,D.W. & Kimura,D.(1997) A large sex difference on a two-dimensional mental rotation task. Behavioral Neuroscience,111,845-849
Eals,M. & Silverman,I.(1994)The hunter-gatherer theory of spatial sex differences: proximate factors mediating the female advantage in recall of object arrays. Ethology & Sociobiology,15,95-105.
Galea,L.A.M. & Kimura,D.(1993) Sex differences in route learning. Personality & Individual Differences,14,53-65
Linn,M.C.,Petersen,A.C.(1985) Emergence and Characterization of Sex Differences in Spatial Ability : A Meta-Analysis. Child Development, 56, No.4, 1479-1498.
McBurney,D.H., Gaulin, S.J.C., Devineni,T. & Adams,C.(1997) Superior spatial memory of women: stronger evidence for the gathering hypothesis. Evolution & Human Behavior,18,165-174
Vandenberg,S.G. & Kuse,A.R.(1978) Mental rotations, a group test of three-dimensional spatial visualization. Perceptual & Motor Skills, 47,599-601

Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.2 数学的能力における性差

Bembow,C.P., Stanley,J.C.(1982) Consequences in high school and college of sex differences in mathematical reasoning ability : A Longtitudinal perspective. Am. Educ. Res. J. 19,598-622.
Engelhard,G.(1990) Gender differences in performance on mathematics items: evidence from USA and Thailand. Contemporary Educational Psychology,15,13-16
Hyde,J.S.,Fennema,E. & Lamon,S.J.(1990) Gender differences in mathematics performance: a meta-analysis. Psychological Bulletin,107,139-155.
Hyde,J.S.(1996) Half the human experience : The Psychology of woman. 5th ed., Lexington, Mass.: D.C.Heath.
Jensen,A.R.(1988)Sex differences in arithmetic computation and reasoning in prepubertal boys and girls. Behavioral & Brain Sciences,11,198-199
Low,R. & Over,R.(1993)Gender differences in solution of algebraic word problems containing irrelevant information. Journal of Educational Psychology,85,331-339.
Stanley,J.C., Keating,D.P., Fox,L.H. (eds.)(1974) Mathematical talent: Discovery, description, and development. Johns Hopkins University Press, Baltimore.

//// 1.3 言語能力における性差

Bleecker,M.L.,Bolla-Wilson,K. & Meyers,D.A.,(1988)Age related sex differences in verbal memory. Journal of Clinical Psychology,44,403-411.
Bromley(1958) Some effects of age on short term learning and remembering. Journal of Gerontology,13,398-406.
Duggan,L.(1950)An experiment on immediate recall in secondary school children. British Journal of Psychology,40,149-154.
Harshman,R., Hampson,E. & Berenbaum,S.(1983) Individual

differences in cognitive abilities and brain organization,Part I: sex and handedness differences in ability. Canadian Journal of Psychology,37,144-192.
Hyde,J.S. & Linn,M.C.(1988) Gender differences in verbal ablility:A Meta-analysis. Psychological Bulletin, 104, No.1,53-69.
Kimura,D.(1994)Body asymmetry and intellectual pattern. Personality & Individual Differences,17,53-60.
Kramer,J.H.,Delis,D.C. & Daniel,M.(1988) Sex differences in verbal learning. Journal of Clinical Psychology,44,907-915.
McGuinness,D.,Olson,A. & Chapman,J.(1990)Sex differences in incidental recall for words and pictures. Learning & Individual Differences,2,263-285.

//// 1.4 運動能力における性差

Denckla,M.B.(1974)Development of motor co-ordination in normal children. Developmental Medicine & Child Neurology,16,729-741.
Ingram,D.(1975)Motor asymmetries in young children. Neuropsychologia,13,95-102
Nicholson,K.G. & Kimura.D.(1996) Sex differences for speech and manual skill.Perceptual & Motor Skills,82,3-13.
Kimura,D. & Vanderwolf,C.H. (1970) The relation between hand preference and the performance of individual finger movements by left and right hands. Brain,93,769-774
Lomas,J. & Kimura, D.(1976) Intrahemispheric interaction between speaking and sequential manual activity. Neuropsychologia,14,23-33.
Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.5 知覚能力における性差

Burg,A.(1966)Visual acuity as measured by dynamic and static tests. Journal of Applied Psychology,50,460-466.
Burg,A.(1968)Lateral visual field as related to age and sex. Journal of Applied Psychology,52,10-15.

Denckla,M.B. & Rudel,R.(1974) Rapid “automatized”naming of pictured objects,colors,letters and numbers by normal children. Cortex,10,186-202.
Dewar,R.(1967)Sex differences in the magnitude and practice decrement of th Muller-Lyer illusion. Psychonomic Science,9,345-346.
DuBois,P.H.(1939)The sex difference on the color naming test. American Journal of Psychology,52,380-382.
Ghent-Braine,L.(1961)Developmental changes in tactual thresholds on dominant and nondominant sides. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,670-673.
Ginsburg,N.,Jurenovskis,M. & Jamieson,J.(1982) Sex differences in critical flicker frequency. Perceptual & Motor Skills,54,1079-1082.
Hall,J.(1984)Nonverbal sex differences. Baltimore:Johns Hopkins.
McGuinness, D.(1972)Hearing: individual differences in perceiving. Perception,1,465-473.
Ligon,E.M.(1932)A genetic study of color naming and word reading. American Journal of Psychology,44,103-122.
Velle,W.(1987)Sex differences in sensory functions. Perspectives in Biology & Medicine,30,490-522.
Weinstein,S. & Sersen, E.A.(1961)Tactual sensitivity as a function of handedness and laterality. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,665-669.
Witkin,H.A.(1967)A cognitive style approach to cross-cultural research. International Journal of Psychology,2,233-250.

/// 2.パーソナリティの性差

Maccoby, E.E. & Jacklin, C.N.(1974) The Psychology of sex differences. Stanford,CA:Stanford University Press.

/// 3.社会的行動の性差

Brehm,J.W.(1966)A theory of psychological reactance. Academic Press.
Cacioppo,J.T. & Petty,R.E.(1980) Sex differences in influenceability:Toward specifying the underlying processes. Personality and Social Psychology Bulletin,6,651-656

Caldwell,M.A., & Peplau,L.A.(1982) Sex Differences in same-sex friendships. Sex Roles,8,721-732.
Chesler,M.A. & Barbarin,O.A.(1985) Difficulties iof providing help in crisis: Relationships between parents of children with cancer and their friends. Journal of Social Issues,40,113-134.
大坊郁夫(1988)異性間の関係崩壊についての認知的研究,日本社会心理学会第29回発表論文集,64.
Eagly,A.H.(1978) Sex differences in influenceability.Psychological Bulletin,85,86-116.
Eagly,A.H. & Carli,L.L.(1981) Sex of researchers and sex-typed communications as determinants of sex differences in influenceability:A meta-analysis of social influence studies. Psychological Bulletin,90,1-20.
Eagly,A.H. & Johnson,B.T.(1990) Gender and leadership style: A meta-analysis. Psychological Bulletin,108,233-256.
Hall,J.A.(1984) Nonverbal sex differences:Communication accuracy and expressive style. Baltimore:John Hopkins University Press.
Hays,R.B.(1984) The development and maintenance of friendship. Journal of Personal and Social Relationships,1,75-98.
Horner,M.S.(1968)Sex differences in achievement motivation and performance in competitive and non-competitive situation. Unpublished Ph.D. thesis. University of Michigan.
Jourard,S.M.(1971) Self-disclosure:An experimental analysis of the transparent self. New York:Wiley & Sons, Inc.
Jourard,S.M & Lasakow,P.(1958) Some factors in self-disclosure. Journal of Abnormal and Social Psychology, 56, 91-98.
Latane',B. & Bidwell,L.D.(1977) Sex and affiliation in college cafeteria.Personality and Social Psychology Bulletin,3,571-574
松井豊(1990)青年の恋愛行動の構造,心理学評論,33,355-370.
Nemeth,C.J. Endicott,J. & Wachtler,J.(1976) From the '50s to the '70s:Women in jury deliberations,Sociometry,39,293-304.
Rands,M. & Levinger, G. (1979)Implicit theory of relationship: An intergenerational study. Journal of Personality

and Social Psychology,37,645-661.
坂田桐子、黒川正流(1993) 地方自治体における職場のリーダーシップ機能の性差の研究-「上司の性別と部下の性別の組合せ」からの分析,産業・組織心理学研究,7,15-23.
総務庁青少年対策本部(1991) 現代の青少年－第５回青少年の連帯感などに関する調査報告書,大蔵省印刷局.
上野徳美(1994) 説得的コミュニケーションに対する被影響性の性差に関する研究,実験社会心理学研究,34,195-201
Winstead,B.A.(1986) Sex differences in same-sex friendships. In V.J.Derlega & B.A.Winstead(Eds.) Friendship and social interaction. New York:Springer-Verlag.Pp.81-99
Winstead,B.A., Derlega,V.J., Rose,S. (1997) Gender and Close Relationships. Thousand Oaks, California:Sage Publications.
山本真理子、松井豊、山成由紀子(1982) 認知された自己の諸側面の構造,教育心理学研究,30,64-68

== 世界の社会の分類。男女間における、優位性の比較。

/ 一般。

富永 健一 (著), 社会学原理, 岩波書店, 1986/12/18
岩井 弘融 (著), 社会学原論, 弘文堂, 1988/3/1

笠信太郎, ものの見方について, 1950, 河出書房
伊東俊太郎 (著) , 比較文明 UP選書 , 東京大学出版会, 1985/9/1

/ 気候。

和辻 哲郎 (著), 風土: 人間学的考察, 岩波書店, 1935
鈴木秀夫, 森林の思考・砂漠の思考, 1978, 日本放送出版協会
石田英一郎, 桃太郎の母 比較民族学的論集 , 法政大学出版局 , 1956
石田英一郎, 東西抄－日本・西洋・人間, 1967, 筑摩書房

松本 滋 (著), 父性的宗教 母性的宗教 (UP選書) , 東京大学出版会, 1987/1/1
ハンチントン (著), 間崎 万里 (翻訳), 気候と文明 (1938年) (岩波文庫) , 岩波書店, 1938
安田 喜憲 (著), 大地母神の時代―ヨーロッパからの発想 (角川選書) , 角川書店, 1991/3/1
安田 喜憲 (著), 気候が文明を変える (岩波科学ライブラリー (7)) , 岩波書店, 1993/12/20

鈴木 秀夫 (著), 超越者と風土 , 原書房, 2004/1/1
鈴木 秀夫 (著), 森林の思考・砂漠の思考 (NHKブックス 312) , NHK出版1978/3/1
鈴木 秀夫 (著), 風土の構造, 原書房, 2004/12/1
梅棹 忠夫 (著), 文明の生態史観, 中央公論社, 1967

ラルフ・リントン (著), 清水 幾太郎 (翻訳), 犬養 康彦 (翻訳), 文化人類学入門 (現代社会科学叢書), 東京創元社, 1952/6/1
祖父江孝男『文化とパーソナリティ』弘文堂，1976
F.L.K.シュー (著), 作田 啓一 (翻訳), 浜口 恵俊 (翻訳), 比較文明社会論―クラン・カスト・クラブ・家元 (1971年), 培風館，1970．

J・J・バハオーフェン (著), 吉原 達也 (翻訳), 母権論序説 付・自叙伝, 創樹社, 1989/10/20

阿部 一, 家族システムの風土性, 東洋学園大学紀要 (19), 91-108, 2011-03

/ 移動性。

大築立志, 手の日本人、足の西欧人, 1989, 徳間書店
前村 奈央佳, 移動と定住に関する心理的特性の検討 : 異文化志向と定住志向の測定および関連性について, 関西学院大学先端社会研究所紀要, 6号 pp.109-124, 2011-10-31

浅川滋男, 東アジア漂海民と家船居住, 鳥取環境大学, 紀要, 創刊号, 2003.2 pp41-60

/ 食糧の確保の手段。

千葉徳爾, 農耕社会と牧畜社会, 山田英世 (編), 風土論序説 (比較思想・文化叢書) , 国書刊行会, 1978/3/1
大野 盛雄 (著), アフガニスタンの農村から—比較文化の視点と方法 (1971年) (岩波新書) , 岩波書店, 1971/9/20
梅棹 忠夫 (著), 狩猟と遊牧の世界—自然社会の進化, 講談社, 1976/6/1
志村博康 (著), 農業水利と国土, 東京大学出版会, 1987/11/1

/ 心理。

Triandis H.C., Individualism & Collectivism, Westview Press, 1995, （H.C. トリアンディス (著), Harry C. Triandis (原著), 神山 貴弥 (翻訳), 藤原 武弘 (翻訳), 個人主義と集団主義—2つのレンズを通して読み解く文化, 北大路書房, 2002/3/1)
Yamaguchi, S., Kuhlman, D. M., & Sugimori, S. (1995). Personality correlates of allocentric tendencies in individualist and collectivist cultures. Journal of Cross-Cultural Psychology, 26, 658-672
Markus H.R.,Kitayama,S., Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. Psychological Review, 98, pp224-253 1991

千々岩 英彰 (編集), 図解世界の色彩感情事典—世界初の色彩認知の調査と分析, 河出書房新社, 1999/1/1

== 男性優位社会。移動生活様式。遊牧と牧畜。気体。

/ 欧米諸国。全般。

星 翔一郎 (著), 国際文化教育センター (編集), 外資系企業

就職サクセスブック, ジャパンタイムズ, 1986/9/1

/ 西欧。
// 単独社会。
// 社会間比較。
西尾幹二, ヨーロッパの個人主義, 1969, 講談社
会田 雄次 (著), 『アーロン収容所：西欧ヒューマニズムの限界』中公新書, 中央公論社 1962年
池田 潔 (著), 自由と規律: イギリスの学校生活 (岩波新書), 岩波書店, 1949/11/5

鯖田 豊之 (著), 肉食の思想―ヨーロッパ精神の再発見 (中公新書 92) , 中央公論社, 1966/1/1
八幡 和郎 (著), フランス式エリート育成法―ENA留学記 (中公新書 (725)) , 中央公論社, 1984/4/1
木村 治美 (著), 新交際考―日本とイギリス, 文藝春秋, 1979/11/1
森嶋 通夫 (著), イギリスと日本―その教育と経済 (岩波新書 黄版 29) , 岩波書店, 2003/1/21
/ アメリカ。
// 単独社会。
松浦秀明, 米国さらりーまん事情, 1981, 東洋経済新報社
Stewart, E.C., American Cultural Patterns A Cross-Cultural Perspectives, 1972, Inter-cultural Press（久米昭元訳, アメリカ人の思考法, 1982, 創元社）
吉原 真里 (著), Mari Yoshihara (著), アメリカの大学院で成功する方法―留学準備から就職まで (中公新書), 中央公論新社, 2004/1/1
リチャード・H. ロービア (著), Richard H. Rovere (原著), 宮地 健次郎 (翻訳), マッカーシズム (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/1/17
G.キングスレイ ウォード (著), 城山 三郎 (翻訳), ビジネスマンの父より息子への30通の手紙, 新潮社, 1987/1/1
長沼英世, ニューヨークの憂鬱ー豊かさと快適さの裏側, 中央公論社, 1985

八木 宏典 (著), カリフォルニアの米産業, 東京大学出版会, 1992/7/1
// 社会間比較。
/ ユダヤ。
// 単独社会。
旧約聖書。
新約聖書。
中川 洋一郎, キリスト教・三位一体論の遊牧民的起源―イヌの《仲介者》化によるセム系一神教からの決別―, 経済学論纂（中央大学）第60巻第５・６合併号（2020年3 月）,pp.431-461
トマス・ア・ケンピス (著), 大沢 章 (翻訳), 呉 茂一 (翻訳), キリストにならいて (岩波文庫) , 岩波書店, 1960/5/25
// 社会間比較。
/ 中東。
// 単独社会。
クルアーン。コーラン。
鷹木 恵子 U.A.E.地元アラブ人の日常生活にみる文化変化 : ドバイでの文化人類学的調査から
http://id.nii.ac.jp/1509/00000892/ Syouwa63nenn
// 社会間比較。
後藤 明 (著), メッカ―イスラームの都市社会 (中公新書 1012) , 中央公論新社, 1991/3/1
片倉もとこ『「移動文化考」 イスラームの世界をたずねて 』日本経済新聞社、1995年
片倉もとこ『イスラームの日常世界』岩波新書，1991．
牧野 信也 (著), アラブ的思考様式, 講談社, 1979/6/1
井筒 俊彦 (著), イスラーム文化−その根柢にあるもの , 岩波書店, 1981/12/1
/ モンゴル。
// 単独社会。
鯉渕 信一 (著), 騎馬民族の心―モンゴルの草原から (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1992/3/1

// 社会間比較。

== 女性優位社会。定住生活様式。農耕。液体。
/ 東アジア。
山口 勧 (編集), 社会心理学―アジア的視点から (放送大学教材) , 放送大学教育振興会, 1998/3/1
山口 勧 (編集), 社会心理学―アジアからのアプローチ, 東京大学出版会, 2003/5/31
石井 知章 (著), K・A・ウィットフォーゲルの東洋的社会論, 社会評論社, 2008/4/1
/ 日本。
// 単独社会。

/// 文献調査。
南博, 日本人論－明治から今日まで , 岩波書店, 1994
青木保, 「日本文化論」の変容-戦後日本の文化とアイデンティティー-, 中央公論社, 1990

/// 社会全般。
//// 著者が、日本人の場合。
浜口恵俊 「日本らしさ」の再発見 日本経済新聞社 1977
阿部 謹也 (著), 「世間」とは何か (講談社現代新書) , 講談社, 1995/7/20
川島武宣, 日本社会の家族的構成, 1948, 学生書房

中根千枝, タテ社会の人間関係, 講談社, 1967
木村敏, 人と人との間, 弘文堂, 1972
山本七平 (著), 「空気」の研究, 文藝春秋, 1981/1/1
会田 雄次 (著), 日本人の意識構造 (講談社現代新書) , 講談社, 1972/10/25
石田英一郎, 日本文化論 筑摩書房 1969
荒木博之, 日本人の行動様式 -他律と集団の論理- , 講談社, 1973

吉井博明 情報化と現代社会[改訂版] 1997 北樹出版

//// 著者が、日本人以外の場合。
///// 欧米諸国からの視点。
Benedict,R., The Chrysanthemum and the Sword : Patterns of Japanese Culture, Boston Houghton Mifflin, 1948（長谷川松治訳, 菊と刀－日本文化の型, 社会思想社, 1948）
Caudill,W., Weinstein,H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America, Psychiatry,32 1969
Clark,G.The Japanese Tribe:Origins of a Nation's Uniqueness, 1977(村松増美訳 日本人－ユニークさの源泉－, サイマル出版会 1977)
Ederer,G., Das Leise Laecheln Des Siegers, 1991, ECON Verlag(増田靖訳 勝者・日本の不思議な笑い, 1992 ダイヤモンド社)
Kenrick,D.M., Where Communism Works: The Success of Competitive-Communism In Japan,1988,Charles E. Tuttle Co., Inc., （ダグラス・M. ケンリック (著), 飯倉 健次 (翻訳), なぜ"共産主義"が日本で成功したのか, 講談社, 1991/11/1）
Reischauer,E.O., The Japanese Today: Change and Continuity,1988, Charles E. Tuttle Co. Inc.
W.A.グロータース (著), 柴田 武 (翻訳), 私は日本人になりたい―知りつくして愛した日本文化のオモテとウラ (グリーン・ブックス 56) , 大和出版, 1984/10/1

///// 東アジアからの視点。
李 御寧 (著), 「縮み」志向の日本人, 学生社, 1984/11/1

/// 心理。
安田三郎「閥について――日本社会論ノート（3）」（『現代社会学3』2巻1号所収・1975・講談社）
木村敏, 人と人との間－精神病理学的日本論, 1972, 弘文堂

丸山真男, 日本の思想, 1961, 岩波書店
統計数理研究所国民性調査委員会 (編集), 日本人の国民性〈第5〉戦後昭和期総集, 出光書店, 1992/4/1

/// コミュニケーション。

芳賀綏, 日本人の表現心理, 中央公論社, 1979

/// 歴史。

R.N.ベラー (著), 池田 昭 (翻訳), 徳川時代の宗教 (岩波文庫), 岩波書店, 1996/8/20
勝俣 鎮夫 (著), 一揆 (岩波新書) , 岩波書店, 1982/6/21
永原 慶二 (著), 日本の歴史〈10〉下克上の時代, 中央公論社, 1965年
戸部 良一 (著), 寺本 義也 (著), 鎌田 伸一 (著), 杉之尾 孝生 (著), 村井 友秀 (著), 野中 郁次郎 (著), 失敗の本質―日本軍の組織論的研究, ダイヤモンド社, 1984/5/1

/// 民俗。

宮本 常一 (著), 忘れられた日本人 (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/5/16

/// 食糧の確保。

大内力 (著), 金沢夏樹 (著), 福武直 (著) , 日本の農業 UP選書, 東京大学出版会, 1970/3/1

/// 地域。
//// 村落。

中田 実 (編集), 坂井 達朗 (編集), 高橋 明善 (編集), 岩崎 信彦 (編集), 農村 (リーディングス日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/5/1
蓮見 音彦 (著), 苦悩する農村―国の政策と農村社会の変

容, 有信堂高文社, 1990/7/1
福武直 (著) , 日本農村の社会問題 UP選書, 東京大学出版会, 1969/5/1
余田 博通 (編集), 松原 治郎 (編集), 農村社会学 (1968年) (社会学選書) , 川島書店, 1968/1/1
今井幸彦 編著, 日本の過疎地帯 (1968年) (岩波新書), 岩波書店, 1968-05

きだみのる (著), 気違い部落周游紀行 (冨山房百科文庫 31), 冨山房, 1981/1/30
きだ みのる (著), にっぽん部落 (1967年) (1967年) (岩波新書)

//// 都市。
鈴木広 高橋勇悦 篠原隆弘 編, リーディングス日本の社会学 7 都市, 東京大学出版会, 1985/11/1
倉沢 進 (著), 秋元 律郎 (著), 町内会と地域集団 (都市社会学研究叢書) , ミネルヴァ書房, 1990/9/1
佐藤 文明 (著), あなたの「町内会」総点検［三訂増補版］―地域のトラブル対処法 (プロブレムQ&A), 緑風出版, 2010/12/1

//// エリア毎の特色。
京都新聞社 (編さん), 京男・京おんな, 京都新聞社, 1984/1/1
丹波 元 (著), こんなに違う京都人と大阪人と神戸人 (PHP文庫) , PHP研究所, 2003/3/1
サンライズ出版編集部 (編集), 近江商人に学ぶ, サンライズ出版, 2003/8/20

/// 血縁関係。
有賀 喜左衛門 (著), 日本の家族 (1965年) (日本歴史新書) , 至文堂, 1965/1/1
光吉 利之 (編集), 正岡 寛司 (編集), 松本 通晴 (編集), 伝統

家族 (リーディングス 日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/8/1

/// 政治。

石田雄, 日本の政治文化－同調と競争, 1970, 東京大学出版会
京極純一, 日本の政治, 1983, 東京大学出版会

/// ルール。法律。

青柳文雄, 日本人の罪と罰, 1980, 第一法規出版
川島武宜, 日本人の法意識 (岩波新書 青版A-43) , 岩波書店, 1967/5/20

/// 行政。

辻清明 新版 日本官僚制の研究 東京大学出版会 1969
藤原 弘達 (著), 官僚の構造 (1974年) (講談社現代新書) , 講談社, 1974/1/1
井出嘉憲 (著), 日本官僚制と行政文化―日本行政国家論序説, 東京大学出版会, 1982/4/1
竹内 直一 (著), 日本の官僚―エリート集団の生態 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
教育社 (編集), 官僚―便覧 (1980年) (教育社新書―行政機構シリーズ〈122〉), 教育社, 1980/3/1
加藤栄一, 日本人の行政―ウチのルール (自治選書), 第一法規出版, 1980/11/1
新藤 宗幸 (著), 技術官僚―その権力と病理 (岩波新書), 岩波書店, 2002/3/20
新藤 宗幸 (著), 行政指導―官庁と業界のあいだ (岩波新書) , 岩波書店, 1992/3/19

武藤 博己 (著), 入札改革―談合社会を変える (岩波新書) , 岩波書店, 2003/12/19

宮本政於, お役所の掟, 1993, 講談社

/// 経営。
間宏,日本的経営－集団主義の功罪,日本経済新聞社,1973
岩田龍子, 日本の経営組織, 1985, 講談社
高城 幸司 (著), 「課長」から始める 社内政治の教科書, ダイヤモンド社, 2014/10/31

/// 教育。
大槻 義彦 (著), 大学院のすすめ―進学を希望する人のための研究生活マニュアル, 東洋経済新報社, 2004/2/13
山岡栄市 (著), 人脈社会学―戦後日本社会学史 (御茶の水選書) , 御茶の水書房, 1983/7/1

/// スポーツ。
Whiting, R., The Chrysanthemum and the Bat 1977 Harper Mass Market Paperbacks（松井みどり訳, 菊とバット 1991 文藝春秋）

/// 性差。
//// 母性。母親。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America Psychiatry,32 1969

河合隼雄, 母性社会日本の病理, 中央公論社 1976
佐々木 孝次 (著), 母親と日本人, 文藝春秋, 1985/1/1
小此木 啓吾 (著), 日本人の阿闍世コンプレックス, 中央公論社, 1982
斎藤学, 『「家族」という名の孤独』講談社 1995
山村賢明, 日本人と母―文化としての母の観念についての研究, 東洋館出版社, 1971/1/1
土居健郎, 「甘え」の構造, 1971, 弘文堂

山下 悦子 (著), 高群逸枝論―「母」のアルケオロジー, 河出書房新社, 1988/3/1

山下 悦子 (著), マザコン文学論―呪縛としての「母」(ノマド叢書) , 新曜社, 1991/10/1

中国新聞文化部 (編集), ダメ母に苦しめられて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1999/1/1

加藤秀俊, 辛口教育論 第四回 衣食住をなくした家, 食農教育 200109, 農山漁村文化協会

//// 女性。
木下 律子 (著), 妻たちの企業戦争 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
木下律子 (著), 王国の妻たち―企業城下町にて, 径書房, 1983/8/1
中国新聞文化部 (編集), 妻の王国―家庭内"校則"に縛られる夫たち (女のココロとカラダシリーズ), ネスコ, 1997/11/1

//// 男性。
中国新聞文化部 (編集), 長男物語―イエ、ハハ、ヨメに縛られて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/7/1
中国新聞文化部 (編集), 男が語る離婚―破局のあとさき (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/3/1

// 社会間比較。
/// 欧米諸国との比較。
山岸俊男, 信頼の構造, 1998, 東京大学出版会
松山幸雄「勉縮」のすすめ, 朝日新聞社, 1978
木村尚三郎, ヨーロッパとの対話, 1974, 日本経済新聞社
栗本 一男 (著), 国際化時代と日本人―異なるシステムへの対応 (NHKブックス 476) , 日本放送出版協会, 1985/3/1
/// 社会の特殊性。その有無についての検討。

高野陽太郎、纓坂英子, ” 日本人の集団主義” と” アメリカ人の個人主義” -通説の再検討-心理学研究vol.68 No.4,pp312-327,1997
杉本良夫、ロス・マオア, 日本人は「日本的」か－特殊論を超え多元的分析へ－, 1982, 東洋経済新報社
/// 血縁関係。
増田光吉, アメリカの家族・日本の家族, 1969, 日本放送出版協会
中根千枝『家族を中心とする人間関係』講談社，1977
/// コミュニケーション。
山久瀬 洋二 (著), ジェイク・ロナルドソン (翻訳), 日本人が誤解される100の言動 100 Cross-Cultural Misunderstandings Between Japanese People and Foreigners【日英対訳】 (対訳ニッポン双書) , IBCパブリッシング, 2010/12/24
鈴木 孝夫 (著), ことばと文化 (岩波新書) , 岩波書店, 1973/5/21
/// 独創性。
西沢潤一, 独創は闘いにあり, 1986, プレジデント社
江崎玲於奈, アメリカと日本－ニューヨークで考える, 1980, 読売新聞社
乾侑, 日本人と創造性, －科学技術立国実現のために, 1982, 共立出版
S.K.ネトル、桜井邦朋, 独創が生まれない－日本の知的風土と科学, 1989, 地人書館

/// 経営。
Abegglen, J.C.,The Japanese Factory:Aspects of Its Social Organization,Free Press 1958 (占部都美 監訳 「日本の経営」 ダイヤモンド社 1960)
林 周二, 経営と文化, 中央公論社, 1984
太田肇 (著) , 個人尊重の組織論, 企業と人の新しい関係 (中公新書) , 中央公論新社, 1996/2/25
/// 保育。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior

in Japan and America Psychiatry,32 1969
/// 教育。
岡本 薫 (著), 新不思議の国の学校教育—日本人自身が気づいていないその特徴, 第一法規, 2004/11/1
宮智 宗七 (著), 帰国子女—逆カルチュア・ショックの波紋 (中公新書) 中央公論社, 1990/1/1
グレゴリー・クラーク (著), Gregory Clark (原著), なぜ日本の教育は変わらないのですか? , 東洋経済新報社, 2003/9/1
恒吉僚子, 人間形成の日米比較－かくれたカリキュラム, 1992, 中央公論社
/// 性差。
//// 女性。
杉本 鉞子 (著), 大岩 美代 (翻訳), 武士の娘 (筑摩叢書 97) , 筑摩書房, 1967/10/1
//// 男性。
グスタフ・フォス (著), 日本の父へ, 新潮社, 1977/3/1
/ 韓国。
// 単独社会。
朴 泰赫 , 醜い韓国人, —われわれは「日帝支配」を叫びすぎる (カッパ・ブックス) 新書 – , 光文社, 1993/3/1
朴 承薫 (著), 韓国 スラングの世界, 東方書店, 1986/2/1
// 社会間比較。
コリアンワークス, 知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典—衣食住、言葉のニュアンスから人づきあいの習慣まで (PHP文庫) 文庫 – , PHP研究所, 2002/1/1
造事務所 , こんなに違うよ！ 日本人・韓国人・中国人 (PHP文庫), PHP研究所 (2010/9/30)
/ 中国。
// 単独社会。
/// 社会全般。
林 松濤 (著), 王 怡韡 (著), 舩山 明音 (著) , 日本人が知りたい中国人の当たり前, 中国語リーディング, 三修社,

2016/9/20
/// 心理。
園田茂人, 中国人の心理と行動, 2001, 日本放送出版協会
デイヴィッド・ツェ (著), 吉田 茂美 (著), 関係(グワンシ)中国人との関係のつくりかた , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2011/3/16
/// 歴史。
加藤 徹 (著), 西太后―大清帝国最後の光芒 (中公新書) 新書 – , 中央公論新社, 2005/9/1
宮崎 市定 (著), 科挙―中国の試験地獄 (中公新書 15) , 中央公論社, 1963/5/1
/// 血縁関係。
瀬川 昌久, 現代中国における宗族の再生と文化資源化 東北アジア研究 18 pp.81-97 2014-02-19
// 社会間比較。
邱 永漢 (著), 騙してもまだまだ騙せる日本人―君は中国人を知らなさすぎる, 実業之日本社, 1998/8/1
邱永漢 (著) , 中国人と日本人, 中央公論新社, 1993
/ ロシア。
// 単独社会。
/// 社会全般。
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈上〉, 日本放送出版協会, 1991/2/1
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈下〉, 日本放送出版協会, 1991/3/1
/// 歴史。
伊賀上 菜穂, 結婚儀礼に現れる帝政末期ロシア農民の親族関係 : 記述資料分析の試み スラヴ研究, 49, 179-212 2002
奥田 央, 1920年代ロシア農村の社会政治的構造（１）, 村ソヴェトと農民共同体, 東京大学, 経済学論集, 80 1-2, 2015-7 https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp › econ0800102
大矢 温, スラヴ派の共同体論における「ナショナル」意識－民族意識から国民意識への展開－, 札幌法学 29 巻

1・2 合併号（2018）, pp.31-53
// 社会間比較。
/// 心理。
アレックス インケルス (著), Alex Inkeles (原著), 吉野 諒三 (翻訳), 国民性論―精神社会的展望, 出光書店, 2003/9/1
服部 祥子 (著), 精神科医の見たロシア人 (朝日選書 245), 朝日新聞社出版局, 1984/1/1
/// 民俗。
アレクサンドル・プラーソル, ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して, 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号、2007.
/// 血縁関係。
高木正道, ロシアの農民と中欧の農民, ——家族形態の比較——, 法経研究, 42巻1号 pp.1-38, 1993
/// 経営。
宮坂 純一, ロシアではモチベーションがどのような内容で教えられているのか, 社会科学雑誌』第５巻（2012年11月）—— 503-539
宮坂 純一, 日ロ企業文化比較考, 『社会科学雑誌』第 18 巻（2017 年 9 月）——, pp.1-48
/// 性差。
Д.Х. Ибрагимова, Кто управляет деньгами в российских семьях?, Экономическая социология. Т. 13. № 3. Май 2012, pp22-56

/ 東南アジア。
// 単独社会。
丸杉孝之助, 東南アジアにおける農家畜産と農業経営, 熱帯農業, 19(1), 1975 pp.46-49
中川 剛 (著), 不思議のフィリピン―非近代社会の心理と行動 (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1986/11/1
// 社会間比較。

== 液体。

/ 液体の性質。液体の動き。
小野周 著, 温度とはなにか , 岩波書店、1971
小野 周 (著), 表面張力 (物理学one point 9), 共立出版, 1980/10/1
イーゲルスタッフ (著), 広池 和夫 (翻訳), 守田 徹 (翻訳), 液体論入門 (1971年) (物理学叢書) , 吉岡書店, 1971
上田 政文 (著), 湿度と蒸発―基礎から計測技術まで, コロナ社, 2000/1/1
稲松 照子 (著), 湿度のおはなし, 日本規格協会, 1997/8/1
伊勢村 寿三 (著), 水の話 (化学の話シリーズ (6)) , 培風館, 1984/12/1
力武常次 (著), 基礎からの物理 総合版 (チャート式シリーズ) , 数研出版, 数研出版, 1986/1/1
野村 祐次郎 (著), 小林 正光 (著), 基礎からの化学 総合版 (チャート式・シリーズ) , 数研出版, 1985/2/1
物理学辞典編集委員会 , 物理学辞典 改訂版 , 培風館, 1992
池内満, 分子のおもちゃ箱 , 2008年1 月19日
http://mike1336.web.fc2.com/ (2008年2月23日)
/ 液体の知覚。
大塚巌 (2008). ドライ、ウェットなパーソナリティの認知と気体、液体の運動パターンとの関係. パーソナリティ研究, 16, 250-252

== 生物。
/ 総論。
鈴木孝仁, 本川達雄, 鷲谷いづみ, チャート式シリーズ, 新生物 生物基礎・生物 新課程版, 数研出版, 2013/2/1
/ 遺伝子。
リチャード・ドーキンス【著】 , 日高敏隆 , 岸由二 , 羽田節子 , 垂水雄二【訳】, 利己的な遺伝子, 紀伊國屋書店, 1991/02/28
/ 精子。卵子。
緋田 研爾 (著), 精子と卵のソシオロジー―個体誕生へのドラマ (中公新書) 中央公論社, 1991/3/1

/ 神経系。
二木 宏明 (著), 脳と心理学—適応行動の生理心理学 (シリーズ脳の科学) , 朝倉書店, 1984/1/1
山鳥 重 (著), 神経心理学入門, 医学書院, 1985/1/1
伊藤 正男 (著), 脳の設計図 (自然選書) , 中央公論社, 1980/9/1
D.O.ヘッブ (著), 白井 常 (翻訳), 行動学入門—生物科学としての心理学 (1970年) , 紀伊国屋書店, 1970/1/1
// 知覚。
岩村 吉晃 (著), タッチ (神経心理学コレクション), 医学書院, 2001/4/1
松田 隆夫 (著), 知覚心理学の基礎, 培風館, 2000/7/1
// パーソナリティ。
Murray,H.A., 1938, Exploration in personality:A clinical and experimental study of fifty men of collegeage.
Schacter, S., 1959, The Psychology of affiliation.Stanford University press.
三隅三不二, 1978, リーダーシップの科学, 有斐閣
Fiedler,F.E., 1973, The trouble with leadership training is that it doesn't train leaders-by. Psychology Today Feb(山本憲久訳 1978 リーダーシップを解明する 岡堂哲雄編 現代のエスプリ131: グループ・ダイナミクス 至文堂).
Snyder,M., 1974, The self-monitoring of expssive behavior. Journal of Personality and Social Psychology, 30, 526-537.
Fenigstein, A., Scheier,M.F., & Buss,A.H., 1975, Public and private self-consciousness: Assessment and theory. Journal of Consulting and Clinical Psychology,43,522-527.
押見輝男, 自分を見つめる自分-自己フォーカスの社会心理学, サイエンス社, 1992
Wicklund, R.A., & Duval,S. 1971 Opinion change and performance facilitation as a result of objective self-awareness. Journal of Experimental Social Psychology,7,319-342.
Jourard, S.M. 1971, The transparent self, rev.ed.Van Nostrand Reinhold(岡堂哲雄訳 1974 透明なる自己 誠信書房).
Brehm, J.W.,1966, A Theory of psychological reactance. Academicpss.

Toennies, F.,1887, Gemeinshaft und Gesellshaft, Leipzig,(杉之原寿一訳 「ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」 1957 岩波書店)
McCrae, R. R., Costa, P. T., Jr., 1987, Validation of the five-factor model of personality across instruments and observers., Journal of Personality and Social Psychology, 52, 81-90
Eysenck, H. J., 1953, The structure of human personality. New York: Wiley.
Edwards, A.L., 1953, The relationship between judged desirebility of a trait and the plobability that the trait will be endowsed. Journal of Applied Psychology, 37,90-93
// 情報。
吉田 民人 (著), 情報と自己組織性の理論, 東京大学出版会, 1990/7/1
/ 社会性。
吉田 民人 (著), 主体性と所有構造の理論, 東京大学出版会, 1991/12/1

/ 人間以外の生物。
// 行動。
デティアー(著), ステラー(著), 日高敏隆(訳),小原嘉明(訳), 動物の行動－現代生物学入門7巻, 岩波書店, 1980/1/1
// 心理。
D.R.グリフィン (著), 桑原 万寿太郎 (翻訳), 動物に心があるか―心的体験の進化的連続性 (1979年) (岩波現代選書―NS〈507〉), 岩波書店, 1979年
// 文化。
J.T.ボナー (著), 八杉 貞雄 (翻訳), 動物は文化をもつか (1982年) (岩波現代選書―NS〈532〉) , 岩波書店, 1982/9/24
// 社会。
今西 錦司 (著), 私の霊長類学 (講談社学術文庫 80) , 講談社, 1976/11/1
今西錦司『私の自然観』講談社学術文庫，1990 (1966)．
河合雅雄 (著), ニホンザルの生態, 河出書房新社, 1976/1/1

伊谷純一郎 (著) , 高崎山のサル (講談社文庫), 講談社, 1973/6/26
伊谷純一郎 (著) , 霊長類社会の進化 (平凡社 自然叢書) 単行本 –, 平凡社, 1987/6/1
/ 無神論。
リチャード・ドーキンス (著), 垂水 雄二 (翻訳), 神は妄想である—宗教との決別, 早川書房, 2007/5/25

== 辞書。
新村出（編著）,広辞苑－第5版, 岩波書店, 1998
Stein, J., & Flexner, S. B. (Eds.), The Random House Thesaurus., Ballantine Books., 1992

== データ分析の方法。
田中敏 (2006). 実践心理データ解析 改訂版 新曜社
中野博幸, JavaScript-STAR , 2007年11月9日
http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/ (2008年2月25日)

私が執筆した全ての書籍。その一覧。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Sex Differences And Female Dominance
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 性别差异和女性主导地位
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Половые различия и женское превосходство
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 男女の性差と女性の優位性

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Female-Dominated Society Will Rule The World.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性主导的社会将统治世界
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Общество, в котором доминируют женщины, будет править миром.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性優位社会が、世界を支配する。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Mobile Life. Settled Life. The origins of social sex differences.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移动生活。定居生活。社会性别差异的起源。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Мобильная жизнь. Урегулированная жизнь. Истоки социальных различий по половому признаку.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移動生活様式。定住生活様式。社会的性差の起源。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) The essence of life. The essence of human beings. The darkness of them.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物的本质。人类的本质。他们的黑暗。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Сущность жизни. Сущность человеческих существ. Их тьма.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物の本質。人間の本質。それらの暗黒性。

Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) On Atheism and the Salvation of the Soul. Live by neuroscience!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 论无神论与灵魂的救赎。靠神经科学生存！

Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) Об атеизме и спасении души. Живи неврологией!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 無神論と魂の救済について。脳神経科学で生きよう！

Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Dryness. Wetness. Sensation of humidity. Perception of humidity. Personality Humidity. Social Humidity.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) 干性。湿气。湿度的感觉。对湿度的感知。性格湿度。社会湿度。
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Сухость. Мокрота. Сенсация влажности. Восприятие влажности. Личностная влажность. Социальная влажность.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) ドライさ。ウェットさ。湿度の感覚。湿度の知覚。性格の湿度。社会の湿度。

Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Gases and liquids. Classification of behavior and society. Applications to life and humans.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 气体和液体。行为与社会的分类。在生活和人类中的应用。
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Газы и жидкости. Классификация поведения и общества. Применение к жизни и человеку.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 気体と液体。行動や社会の分類。生物や人間への応用。

Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Elements of livability. Functionalism of life. Society as life.
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 宜居的要素。生活的功能主义。社会即生活。
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Элементы благоустроенности. Функциональность жизни. Общество как жизнь.

Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 生きやすさの素。生物の機能主義。生物としての社会。

Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) The laws of history. History as a system. History for life.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 历史的规律。历史是一个系统。历史的生物。
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) Законы истории. История как система. История на всю жизнь.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 歴史の法則。システムとしての歴史。生物にとっての歴史。

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Social Theory of Maternal Authority. A Society of Strong Mothers. Japanese Society as a Case Study.
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) 母亲权威的社会理论。强势母亲的社会。以日本社会为个案研究。
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) Социальная теория материнства: Общество сильных матерей. Японское общество как пример.
Iwao Otsuka (Sep 15, 2020) 母権社会論－強い母の社会。事例としての日本社会。－

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Mechanisms of Japanese society. A society of acquired settled groups.
Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) 日本社会的机制。后天定居群体的社会。
Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Механизмы японского общества. Общество приобретенных оседлых групп.
Iwao Otsuka (Aug 28, 2020) 日本社会のメカニズム。後天

的定住集団の社会。

Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) Inertial Society
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 惯性社会（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) инерционное общество
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 慣性社会（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Neurosociology
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神经社会学（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Нейросоциология
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神経社会学（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) From transportation-centric society to communication-centric society. The Progress of Transition.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 从以交通为中心的社会向以通信为中心的社会。转型的进展。
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) От общества, ориентированного на транспорт, к обществу, ориентированному на коммуникации. Прогресс переходного периода.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 交通中心社会から通信中心社会へ。移行の進展。

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) The Sociology of the Individual - The Elemental Reduction Approach.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 个人社会学 -元素还原法。
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Социология личности -Элементный подход к сокращению.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 個人の見える社会学　－要素

還元アプローチ –

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Introduction Of A White Tax To Counter Discrimination Against Blacks.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 引入白人税以打击对黑人的歧视
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Введение белого налога для противодействия дискриминации черных
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 黒人差別対策としての白人税導入

Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Personality and sensation, perception. Light and dark. Warm and cold. Hard and soft. Loose and tight. Tense and relaxed.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 人格与感觉、知觉。明与暗。温暖与寒冷。硬和软。松与紧。紧张与放松。
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Личность и ощущения, восприятие. Светлое и темное. Тепло и холодно. Твердый и мягкий. Свободный и тугой. Напряженный и расслабленный.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 性格と感覚、知覚。明暗。温冷。硬軟。緩さときつさ。緊張とリラックス。

Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Motherhood and Fatherhood. Maternal and paternal authority. Parents and Power.
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) 母性与父性。母权和父权。父母与权力。
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Материнство и отцовство. Материнская и отцовская власть. Родители и власть.
Iwao Otsuka (Nov 22, 2020) 母性と父性。母権と父権。親と権力。

Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Sex differences and sex discrimination. They cannot be eliminated. Social mitigation and compensation for them.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 性别差异和性别歧视。它们无法消除。对它们进行社会缓解和补偿。
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Половые различия и дискриминация по половому признаку. Они не могут быть устранены. Социальное смягчение и компенсация за них.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 男女の性差と性差別。それらは無くせない。それらへの社会的な緩和や補償。

Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Mechanisms of acquired settled group societies. Female dominance.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 后天定居群体社会的机制。女性主导地位。
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Механизмы обществ приобретенных оседлых групп. Доминирование женщин.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 後天的定住集団社会のメカニズム。女性の優位性。

Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Ownership and non-ownership of resources. Their advantages and disadvantages.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 资源的所有权和非所有权。其利弊。
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Владение и не владение ресурсами. Их преимущества и недостатки.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 資源の所有と非所有。その利点と欠点。

Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Wealth and poverty. The emergence of economic disparity. Causes and solutions.

Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 财富与贫穷。经济差距的出现。原因和解决办法。
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Благополучие и бедность. Появление экономического неравенства. Причины и решения.
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Social delinquents. A true delinquent. The difference between the two.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会不良分子。真正的不良分子。两者之间的区别。
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Социальные преступники. Настоящий преступник. Разница между ними.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会的な不良者。真の不良者。両者の違い。

Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) How to enjoy game music videos.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) 如何欣赏游戏音乐视频。
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) Как наслаждаться игровыми музыкальными клипами.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) ゲーム音楽動画の楽しみ方。

Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Life worth living. Fulfilling life. The source of them.
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) 值得生活的生活。充实的生活。他们的源头。
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Жизнь, достойная жизни. Полноценная жизнь. Источник их.
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) 生きがい。充実した人生。そ

れらの源。

私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。

ご訪問ありがとうございます！

私は本の内容を頻繁に改訂しています。
そのため、読者の皆様には、随時サイトを訪れていただき、新刊や改訂版の書籍をダウンロードしていただくことをお勧めしています。

自動翻訳には以下のサービスを利用しています。

DeepL プロ
https://www.deepl.com/translator

本サービスは以下の会社が提供しています。

DeepL GmbH

私の本の原語は日本語です。
私の本の自動翻訳の順序は以下の通りです。
日本語→英語→中国語、ロシア語

どうぞお楽しみ下さい！

私の略歴。

私は、1964年に、日本の神奈川県で、生まれた。
私は、1989年に、東京大学文学部社会学科を卒業した。
私は、1989年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、社会学の職種に、最終合格した。
私は、1992年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、心理学の職種に、最終合格した。
私は、大学卒業後は、日系大手IT企業の研究所に勤務して、コンピュータのソフトウェアの試作業務に従事した。
私は、現在は、企業を退職して、執筆活動に専念中である。

Table of Contents

最初の入口。
一口説明－女らしさ、男らしさについて－
男性の本性。女性の本性。
男女の性差。その根本的な規定要因。
生物としての存在価値と、男女の性差。
社会的分布と、男女の性差。
卵子と精子との、性質や行動様式の、比較。女性と男性との、性質や行動様式の、比較。
自己保身性。自己中心性。自己拡大性。男女の性差。
女性の本性としての「自己保身性」「自己中心性」
１．女性の持つ生存面での優位性。女性の本性との関連。
２．女性の持つ本質的な本性。「自己保身性。」
２－１．女性の本性。「自己保身性。」その特質。
２－２．女性の本性。「自己保身性。」その欠陥。
３．女性の持つ本質的な本性。「自己中心性。」
４．女性の本性。女性の「姫君指向」。その発生。
５．女性の本性。自己中心性。自己保身性。それらの相互作用と両立。
６．女性。その「自己中心性」の実現。先進的な行動の必要性。その実行を可能にする条件。

７．女性たちの間の、上下関係、権力関係。女性の本性との関連。
８．女性の社会的保護。それが必要な理由
男性の本性。「捨て身。」「自己拡大性。」
「自己保身の性」。「捨て身の性」。－女らしさ、男らしさの検討－
「クリーム－パン図式」。生物学的貴重性に基づく、自己保身の傾向の強さ。および、性差について。
勢力拡張用の玉。勢力温存用の玉。男女の性差の根源。
性行為や結婚の相手。彼らに対する選好における、男女の性差。
粗雑な生物。vs. 精密な生物。精巧な生物。
女性にとっての男性。男性にとっての女性。男女の本性。
人間の命の重さの不平等性についての検討。－性別、年齢、地位の視点から－
（資料）webアンケート調査の結果数値。
人命における、優先的な救助順位について。
女性。男性。その空間分布。外部環境。
上位者。支配者。男女の性差。
理系女子が少ない理由。
学校で、女子の成績が、男子よりも良いこと。学校で、女子の学力が、男子よりも高いこと。その理由。
歴史を作る性としての男性。その劣位性。
歴史を作らない性としての女性。その優位性。

なぜ、女性は、社会的上位者ナンバーワンの地位に、就任したがらないのか？
何故、人々は、男性の責任者を、呼び出そうとするか？何故、人々は、女性の責任者の呼び出しを、避けるか？
女性の前例踏襲指向。女性の年功序列指向。
卵子。女性優位社会。精子。男性優位社会。既得権益の、獲得と、維持と、拡張と、防衛。
男性優位社会における、女性恐怖症。
女性と、社会的上下関係。専制支配の発生との関連。
女性や、女性優位社会における、矛盾の丸呑み行為の横行。
女性たち。定住生活様式者たち。女性優位社会の人々。彼らのアウトプットが抱える、根本的な欠陥。
個人性の優先。共同性の優先。男女の性差。
男性性。個人性の優先。論理性。理性性。自己判断の重視。
女性性。共存性の優先。共同性の優先。感情性。合意性。自己判断の回避。
生活の移動性。生活の定住性。男女の性差。
精子。卵子。双方の動きの相違。それがもたらす、男性性と女性性。移動生活様式と定住生活様式。その根本的な関連。
移動生活様式。定住生活様式。男女の遺伝的性差。その関連。
男性。女性。その行動様式。気体。液体。その分子運動パターン。その関連。
女性とセックスと権力。
総論。女性とセックスと権力。
各論。女性とセックスと権力。
女性の生殖細胞面での優位性

    - 女性の性器面での優位性
    - 女性による性的魅力の行使。男性が心理的に女性の奴隷になること。
    - 女のセックス中の優位性
    - 女性の性欲の強さ。人間が持つ、生物としての性欲の強さ。その社会的公認。それは必要である。
    - 女性たちの持つ、「生の女性器」至上主義。
    - 女性の持つ、性的な権力や権限。
    - 女性による、妊娠に関する機密情報の占有。
    - 男性による、セックスのやり捨て。本命女性の存在。女性のセックス面での権力。
    - 強姦される時の女性心理
    - 痴漢される時の女性心理
    - 男女の勢力面、権力面での対等化と、強姦。
    - 強姦による不本意な妊娠と、男女の性差製品としての遺伝的子孫。男女の結婚制度。
- 女性が持つ、性的誘引力の強さ。その文化的な表現美術。美少女コンテンツ。萌え絵の女性。
  - 女体カースト。
  - 女性の着衣。その魅力。その性的誘引力。
    - スカート。その魅力。その性的誘引力。
    - ブルマ。その魅力。その性的誘引力。
  - 女性が「性格が美人」であるための条件。
  - 美少女コンテンツ。
  - 「萌え絵の女性。」その意義。「女性優位社会」の特産品。
    - 「萌え」とは、何か？
    - 萌え絵の女性。美術としての特徴。
    - 萌え絵の女性。その魅力。概要。

萌え絵の女性。存在面での特徴。
萌え絵の女性。性的魅力。容姿の素晴らしさ。
萌え絵の女性。鑑賞者専用の視点。その評価基準のリスト。
萌え絵の女性。その評価基準のリスト。概要。
萌え絵の女性。顔と女体。共通の部品。
萌え絵の女性。萌え顔。評価基準のリスト。
萌え絵の女性。萌え女体。評価基準のリスト。
萌え絵の女性。女性の理想形。
萌え絵の女性。それへの問題意識。
萌え絵の女性。長所と短所。
萌え絵の女性。その欠陥。
萌え絵女性。性格や心理構造面での魅力。
萌え絵の女性。男性にとっての需要。
萌え絵の女性。女性にとっての需要。
萌え絵の女性。その生みの親。女性優位社会の女性絵師。
萌え絵の女性。女性優位男性の絵師。彼らの高い能力。
萌え絵の女性。現代の女性優位社会。その問題点。
萌え絵の女性。その社会的立場。その変化。
萌え絵の女性。それを叩く人々。その批判者。
人生投資家としての女性。その投資先の企業家としての男性。女性の社会的優位性。
前置き。女性による生殖設備の占有と、男性による、それらの借用。そうした借用者を募集

する広告手段としての、女体と、女性器。
総論。人生投資家としての女性。その投資先の企業家としての男性。女性の社会的優位性。
各論。 人生投資家としての女性。 その投資先の企業家としての男性。 女性の社会的優位性。
男女の社会的居場所と、家庭、企業との関係。
人生投資家としての女性。企業家としての男性。そうした女性の生活は、男性に比べて、とても恵まれている。
人生投資家としての女性。その女性は、人生における自由度が高い。
女性優位社会における母親主導の子育て。
人生投資家としての母親。
人生投資家としての女性。女性による企業における働きぶり。その働き方が家計補助的になる理由。
人生投資家になり損ねる女性。彼女が抱える社会的格差。
女性による人生投資家生活の持続。社会を取り巻く経済情勢の悪化。
女性優位社会における、性別役割分業の持つ意義。
人生投資家と企業家としての人生や結婚を指向する男女。彼らが、人生で抱えがちな根本的な問題。
女性による特権的な人生投資家生活の永続。女性による男性支配、男性差別の永続。
性的搾取。
性的搾取。その内容の分類。
女性による、男性からの経済的な性的搾取。その発生のメカニズム。

- 身体構造における、男女の性差。過重労働への適合性との関連。
- 女性による、男性に対する、性的搾取。それらの分類。
- セックスのやり捨て。托卵。それらの行為が持つ、共通性。

性的放縦。

- 性的放縦。それについての見方の分類。

追加内容。2023年5月中旬。男女の性差の物質的根源について。

私の書籍についての関連情報。

- 私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。
- 筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。
- 参考文献。
- 私が執筆した全ての書籍。その一覧。
- 私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。
- 私の略歴。